都城市文化財調査報告書　第７０集

TAKA　DA　－　SITE

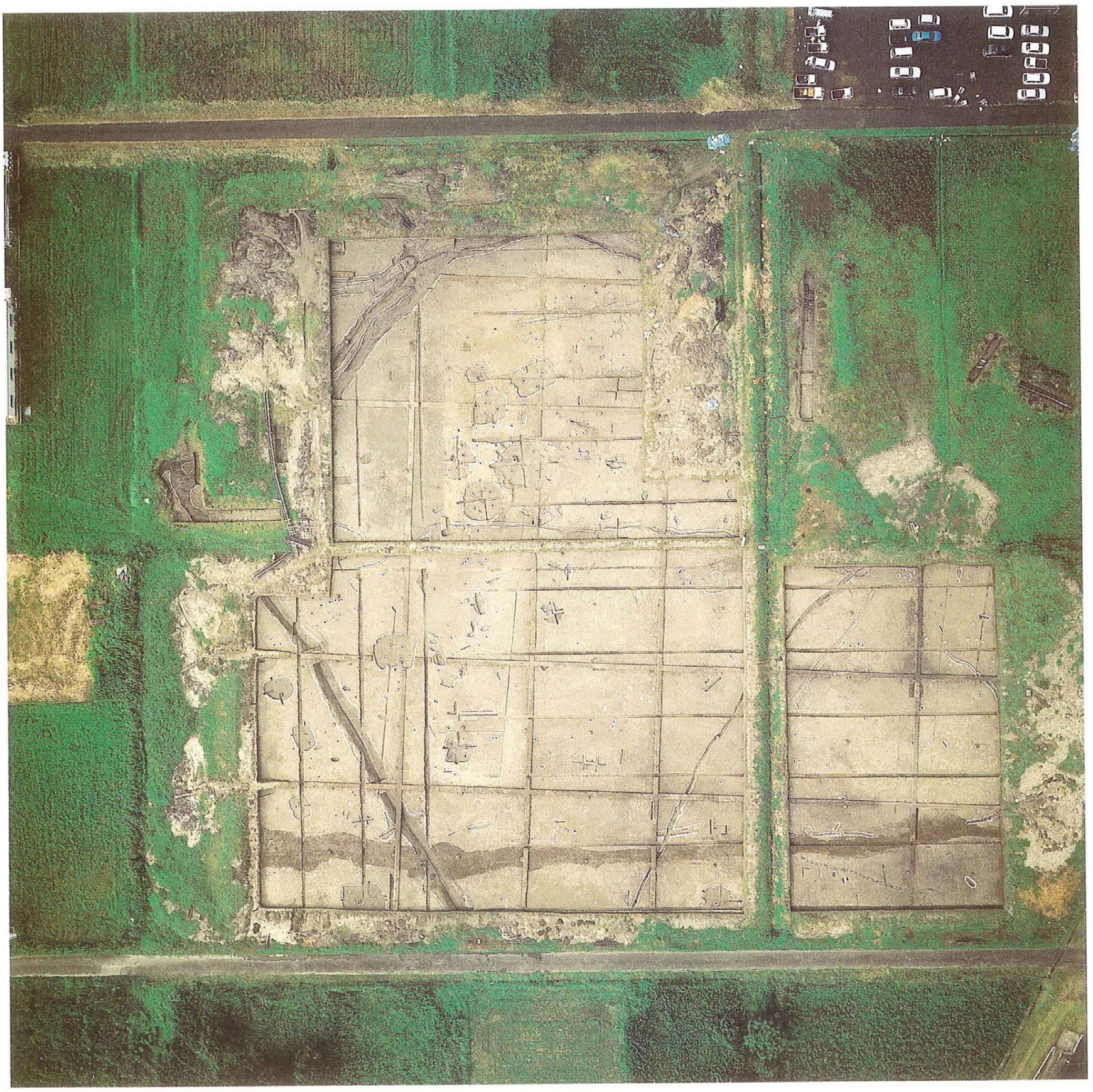
高田遺跡

－大規模店舗建設に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００５年３月

宮崎県都城市教育委員会

遺　跡　遠　景



遺　跡　全　景

序　　文

本書は、大規模店舗の建設に先立ち、受託事業として都城市教育委員会が発掘調査を実施した高田遺跡の調査報告書です。

この高田遺跡では、平成13年度から平成14年度にかけて発掘調査を行いました。その結果、凹凸痕の明瞭な中世の水田跡や、弥生時代の集落が確認されました。出土遺物においても、弥生時代の土器や木製品（農耕具など）、中世の陶磁器などが多数見つかり、貴重な歴史情報を提供してくれました。

本書の刊行が都城市の文化財に対する理解と認識を高めるとともに、今後の学術研究の発展にわずかでも寄与できれば幸いと存じます。

本遺跡の発掘調査に従事していただいた市民の皆様や周辺住民の皆様をはじめ、関係各機関等の方々には多大なご理解・ご協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

平成17年(2005)年３月

宮崎県都城市教育委員会
教育長 北　村　秀　秋

例　　言

1　本書は大規模店舗建設に先立つ埋蔵文化財（高田遺跡）発掘調査報告書である。

2　調査は都城市教育委員会が主体となり、同市文化課文化財担当主査松下述之、同主事米澤英昭が担当した。

3　現場における調査は平成14年1月10日から平成14年8月5日にかけて実施した。

4　遺構実測図・土層断面図の作成は松下・米澤が中心になって行い、黒木昌子・有馬昌子・抜迫清美・藤田和子・続山映子・続山美須子・中原忠良・立山君子・藤井修子・津曲節子・立野良子・馬籠恵子・庄屋幸子らの協力を得た。中世水田遺構図作成は、九州航空株式会社へ委託した。弥生遺構図作成については、その大部分を宮崎県文化財調査・サポート協同組合へ委託した。遺構分布図の作成、出土遺物の取上げにはコンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム“ＳＩＴＥ”を使用した。遺構の製図については、米澤で行った。

5　本書に関する遺物の実測は米澤・水光弘子・奥登根子・谷口和代・伊鹿倉康子が、製図は米澤が行った。

6　本書に関する遺構・遺物の写真撮影は松下・米澤が行った。又、遺構の空中写真撮影は九州航空株式会社へ委託した。

7　第Ⅳ章の自然科学分析については、株式会社古環境研究所に委託した。第Ｖ章樹種同定については、株式会社吉田生物研究所に委託した。第Ⅶ章付編については加覧淳一氏（都城市立図書館）より玉稿を賜った。

8　使用した基準方位は磁北であり、レベルは海抜絶対高である。

9　本書の執筆・編集は米澤が行った。

10　調査・本書の執筆にあたり、矢部喜多夫氏・桑畑光博氏・横山哲英氏・下田代清海氏・天野玄普氏（以上、都城市教育委員会）、大盛祐子氏、加覧淳一氏（都城市立図書館）よりご教示をいただいた。

11　本書に関する遺物・記録類（写真・図面等）は都城市教育委員会文化財課が収蔵・保管している。

12　本書では、下記の略号を用いている。
ＳＡ＝竪穴住居
ＳＢ＝掘立柱建物
ＳＣ＝土坑
ＳＤ＝溝状遺構

目　次

巻頭口絵　遺跡遠景
　　遺跡全景
例言
目次
Ⅰ　序説 …… 1
　1　調査に至る経緯 …… 1
　2　調査体制 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境 …… 3
Ⅲ　調査の記録 …… 10
　1　試掘調査 …… 10
　2　発掘調査の概要 …… 10
　3　基本土層 …… 10
　4　調査の成果 …… 18
Ⅳ　自然科学分析 …… 113
Ⅴ　樹種同定 …… 120
Ⅵ　まとめ …… 131
Ⅶ　付編 …… 134

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 5
第２図　調査区域図 …… 6
第３図　調査区域図及び試掘トレンチ配置図 …… 7
第４図　試掘トレンチ断面図（１）…… 8
第５図　試掘トレンチ断面図（２）…… 9
第６図　基本土層写真及び柱状図 …… 10
第７図　遺構配置図 …… 11
第８図　土層断面図（１） …… 13
第９図　土層断面図（２） …… 15
第10図　土層断面図（３） …… 16
第11図　土層断面図（４） …… 17
第12図　ＳＡ０１実測図 …… 19
第13図　ＳＡ０１内出土遺物実測図 …… 19
第14図　ＳＡ０２実測図 …… 20
第15図　ＳＡ０２内出土遺物実測図 …… 20
第16図　ＳＡ０３実測図 …… 21
第17図　ＳＡ０３内出土遺物実測図（１） …… 21
第18図　ＳＡ０３内出土遺物実測図（２） …… 22
第19図　ＳＡ０４実測図 …… 24
第20図　ＳＡ０４内出土遺物実測図（１） …… 24
第21図　ＳＡ０４内出土遺物実測図（２） …… 25

第22図　ＳＡ０５実測図 …… 26
第23図　ＳＡ０５内出土遺物実測図 …… 26
第24図　ＳＡ０６実測図 …… 27
第25図　ＳＡ０６内出土遺物実測図 …… 27
第26図　ＳＡ０７実測図 …… 28
第27図　ＳＡ０７内出土遺物実測図（１） …… 28
第28図　ＳＡ０７内出土遺物実測図（２） …… 29
第29図　ＳＡ０８実測図 …… 30
第30図　ＳＡ０８内出土遺物実測図（１） …… 30
第31図　ＳＡ０８内出土遺物実測図（２） …… 31
第32図　ＳＡ０９実測図 …… 32
第33図　ＳＡ０９内出土遺物実測図 …… 32
第34図　ＳＡ１０実測図 …… 33
第35図　ＳＡ１０内出土遺物実測図 …… 33
第36図　ＳＡ１１実測図 …… 34
第37図　ＳＡ１１内出土遺物実測図 …… 35
第38図　ＳＡ１２実測図 …… 36
第39図　ＳＡ１２内出土遺物実測図（１） …… 36
第40図　ＳＡ１２内出土遺物実測図（２） …… 37
第41図　ＳＡ１４・１５・１６実測図 …… 38
第42図　ＳＡ１６内出土遺物実測図 …… 39
第43図　ＳＡ１７実測図 …… 40
第44図　ＳＡ１７内出土遺物実測図 …… 40
第45図　ＳＡ１８実測図 …… 41
第46図　ＳＡ１８内出土遺物実測図 …… 41
第47図　ＳＢ０１・０２実測図 …… 42
第48図　ＳＣ０１・０２・０３実測図 …… 43
第49図　ＳＣ０１内出土遺物実測図 …… 43
第50図　ＳＣ０４・０５・０６・０７・０８・０９・１０実測図 …… 44
第51図　ＳＣ０２・０３・０４・０５内出土遺物実測図 …… 46
第52図　ＳＣ０６・０７・０８・０９・１０内出土遺物実測図 …… 47
第53図　ＳＣ１１・１２・１３・１６・１７・２０・２１・２２・２３実測図 …… 48
第54図　ＳＣ１２・１３・１７・１９・２０・２３内出土遺物実測図 …… 49
第55図　ＳＣ２７・３０・３１・３２・３３・３８・３９・４０・４３・４４・４６実測図 …… 50
第56図　ＳＣ２７・２８・２９・３０・３３・４３・４４・４５・４６内出土遺物実測図 …… 51
第57図　ＳＣ４７・４８・４９・５１・５２・５３・５４・５５・５６・５７・５８実測図 …… 52
第58図　ＳＣ５０・５１・５２・５３・５４・５５・５６・５７・５８内出土遺物実測図 …… 53
第59図　ＳＣ５９・６０・６１・６２・６３・６４・６５・６６・６７実測図 …… 54
第60図　ＳＣ６３内出土遺物実測図 …… 55
第61図　ＳＣ６８・７０・７２・７３・７５・７６・７７・７９・８０・８１・８２実測図 …… 56
第62図　ＳＣ５９・６０・６１・６２・６３・６４・６５・６７・７６内出土遺物実測図 …… 58
第63図　ＳＤ０１・０３・０４実測図及び土層断面図 …… 61
第64図　ＳＤ０５・０６・１２・１４実測図 …… 66

第65図　ＳＤ０１内出土遺物実測図 …… 67
第66図　ＳＤ０１・０３・０５・０６・１４内出土遺物実測図 …… 68
第67図　ＳＤ０８・０９・１０・１１・１３実測図 …… 69
第68図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（１）…… 74
第69図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（２）…… 75
第70図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（３）…… 76
第71図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（４）…… 77
第72図　ＳＤ０９内出土遺物実測図 …… 78
第73図　ＳＤ１０・１１・１３内出土遺物実測図 …… 80
第74図　中世水田跡実測図 …… 83
第75図　包含層内出土遺物実測図（１）…… 87
第76図　包含層内出土遺物実測図（２）…… 88
第77図　高田遺跡試掘調査におけるプラントオパール分析結果（１）…… 117
第78図　高田遺跡試掘調査におけるプラントオパール分析結果（２）…… 118

表　目　次

第１表　出土遺物観察表（１）…… 89
第２表　出土遺物観察表（２）…… 90
第３表　出土遺物観察表（３）…… 91
第４表　出土遺物観察表（４）…… 92
第５表　出土遺物観察表（５）…… 93
第６表　出土遺物観察表（６）…… 94
第７表　出土遺物観察表（７）…… 95
第８表　出土遺物観察表（８）…… 96
第９表　出土遺物観察表（９）…… 97
第10表　出土遺物観察表（10）…… 98
第11表　出土遺物観察表（11）…… 99
第12表　出土遺物観察表（12）…… 100
第13表　出土遺物観察表（13）…… 101
第14表　出土遺物観察表（14）…… 102
第15表　出土遺物観察表（15）…… 103
第16表　出土遺物観察表（16）…… 104
第17表　出土遺物観察表（17）…… 105
第18表　出土遺物観察表（18）…… 106
第19表　出土遺物観察表（19）…… 107
第20表　出土遺物観察表（20）…… 108
第21表　出土遺物観察表（21）…… 109
第22表　出土遺物観察表（22）…… 110
第23表　出土遺物観察表（23）…… 111
第24表　出土遺物観察表（24）…… 112
第25表　高田遺跡試掘調査におけるプラントオパール分析結果 …… 116
第26表　中世水田一覧表 …… 133

写　真　目　次

写真１　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 …… 119
写真２　木製品顕微鏡写真（１）…… 123
写真３　木製品顕微鏡写真（２）…… 124
写真４　木製品顕微鏡写真（３）…… 125
写真５　保存処理前後写真（１）…… 126
写真６　保存処理前後写真（２）…… 127
写真７　保存処理前後写真（３）…… 128
写真８　保存処理前後写真（４）…… 129
写真９　保存処理前後写真（５）…… 130

図　版　目　次

図版１　遺跡遠景（南から）遺跡遠景（北西から）…… 138
図版２　ＳＡ０１完掘状況（南から）ＳＡ０２完掘状況（南から）ＳＡ０３完掘状況（北から）
ＳＡ０３遺物出土状況　ＳＡ０３内出土遺物　ＳＡ０４完掘状況（北から）
ＳＡ０５完掘状況（北西から）…… 139
図版３　ＳＡ０６遺物出土状況（北から）ＳＡ０６内出土遺物　ＳＡ０７遺物出土状況（北から）
ＳＡ０７完掘状況（北から）ＳＡ０７内出土遺物　ＳＡ０８遺物出土状況（北東から）
ＳＡ０８内出土遺物 …… 140
図版４　ＳＡ０９完掘状況（北から）ＳＡ１０完掘状況（西から）ＳＡ１１遺物出土状況（南から）
ＳＡ１１完掘状況（南から）ＳＡ１２完掘状況（北から）ＳＡ１２遺物出土状況
ＳＡ１４完掘状況（西から）…… 141
図版５　ＳＡ１５完掘状況（南から）ＳＡ１６遺物出土状況（南東から）ＳＡ１８完掘状況（東から）
ＳＡ１８完掘状況（東から）ＳＢ０１完掘状況（東から）ＳＢ０２完掘状況（北から）
ＳＣ０３完掘状況（南から）…… 142
図版６　ＳＣ０５遺物出土状況（南から）ＳＣ０５内出土遺物　ＳＣ０８遺物出土状況（南から）
ＳＣ０５内出土遺物　ＳＣ２０内出土遺物 …… 143
図版７　ＳＣ２３内出土遺物　ＳＣ２９内出土遺物　ＳＣ５２内出土遺物　ＳＣ５７内出土遺物
ＳＣ６１遺物出土状況　ＳＣ６７遺物出土状況 …… 144
図版８　ＳＤ０１遺物出土状況（南東から）ＳＤ０３完掘状況（南西から）
ＳＤ０４完掘状況（東から）ＳＤ０８完掘状況（北西から）
ＳＤ０８遺物出土状況（南西から）ＳＤ０８遺物出土状況（南東から）…… 145
図版９　ＳＤ０８内出土遺物　ＳＤ０９遺物出土状況　ＳＤ０９・１０遺物出土状況（東から）
ＳＤ０９内出土遺物　ＳＤ１３完掘状況（北から）…… 146
図版10　中世水田跡全景（桜島起源軽石埋没状況）中世水田跡全景（Ｃ区：桜島起源軽石除去後）
中世水田跡凹凸状況（Ｃ区：北から）中世水田跡凹凸状況（Ｃ区：北から）…… 147

Ⅰ 序 説

1 調査の経緯

平成13年11月５日付けで、九州ジャスコ株式会社（現イオン九州株式会社。以下、イオン九州と略す。）より都城市教育委員会文化課（現都城市教育委員会文化財課。以下、市文化財課と略す。）へ都城市早鈴町1950番地外における埋蔵文化財の有無の照会がなされた。そこで、市文化財課では、遺跡の状態をより具体的に把握するために、諸手続きを経た後、平成13年11月27日から同年12月12日にかけて試掘調査を行った。調査は、対象地61,736㎡のうち発掘調査の承諾を得た44,867㎡において、２m×２mのトレンチを85ヶ所設けて行った（調査面積約340㎡。対称面積の約0.7％。）。

当該地は、昭和40年代に耕地整理が行われていたが、調査の結果、地表面から約10～30㎝の深度に遺構が確認された。検出した遺跡は、中世の火山灰に覆われた水田跡と弥生中期から古墳初頭にかかると思われる集落跡であった。また、土壌分析結果から、弥生前期に相当する水田が存在する可能性が導出された。これにもとづき、イオン九州と都城市の間で協議した結果、破壊を受ける店舗建設部分8,280㎡において記録保存のための発掘調査を実施することとなり、平成13年度から14年度にまたがって行うことで合意に至った。これにより、発掘調査を行う都城市とイオン九州との間において、平成14年１月８日、高田遺跡埋蔵文化財に関する協定、高田遺跡発掘調査業務委託契約が締結された。

途中、店舗面積の増加に伴い、両者間での協議の結果、調査面積を8,280㎡から8,507㎡に変更することになり、平成14年３月25日付けで変更協定・変更契約を締結した。また、その後、さらに面積が増えた（8,801㎡）ため、平成14年６月26日付けで、再び変更協定・変更契約を取り交わした。そしてまた、天候不順等により調査期間を８月15日までとして、再々度変更協定・変更契約を行った。

現場における発掘調査は平成14年１月10日から開始し、８月５日で終了した。その後、引き続き遺物の整理作業を行った。

当初の協定により、報告書作成は平成16年度に行うことになっていた。平成16年６月10日付けで協定・契約を締結した。

2 調査体制

調査は都城市教育委員会が実施し、経費運用は同市教育委員会文化課（現文化財課）が行った。調査組織は以下のとおりである。

【発掘調査体制】

〔調査責任者〕	都城市教育長	長 友 久 男	
	都城市教育部長	轟 木 保 紘	
	都城市文化課長	内 村 一 夫	（平成17年３月まで）
		井 尻 賢 治	（平成17年４月より）
	同文化課長補佐	坂 元 昭 夫	
	同文化財係長	奥 田 正 幸	（平成17年３月まで）
〔調査員〕	同主査	松 下 述 之	（試掘・発掘担当：平成17年４月より同課文化財係長）
	同主事	横 山 哲 英	（試掘担当）
	同主事	久 松 亮	（試掘担当）
	同主事	米 澤 英 昭	（発掘担当）

〔発掘作業員〕浅生幸一　有馬昌子　荒ヶ田安夫　猪ヶ倉重光　猪ヶ倉正子　池田智美　池田由美子
岩切数秋　岩切ユキ子　岩満敏男　岩満洋子　岩本　泉　上野和則　上原　勇

上原京子　植村准子　内田ハチ子　内村好子　榎木ツネ　榎木ハナ　海老原　実
海老原洋子　大山ミツ子　奥スズ子　奥　利治　落合輝雄　小野田融　小山田利丸
小山田ハツ子　小山田福子　蒲生サダ　蒲生ミツ子　川野春信　木村七郎
久寿米木吉作　久寿米木マキ子　久米村美知子　黒木昌子　児玉春男　小山久子
椎屋松子　下池麻里　庄屋幸子　新沢津清秀　新宮ゆみ子　新宮良二　曽原主吉
高野直昭　高野ムツ子　財部重男　竹中美代子　田代美穂子　立野良子　立山君子
田中育子　谷口和子　谷口ミツ子　続山映子　続山美須子　津曲節子　鴇　松雄
鴇　芳子　徳丸ヒサ子　年神真理乃　永田澄利　中原貞良　中原忠診　那須幸三郎
抜迫清美　野上トシ子　野田ツミ子　東　春雄　肥後洋文　平川千枝子　平山甲子郎
広畑雄二　広村ミキ　樋渡久美子　福岡悦雄　福島　厚　福留博志　福永律子
福丸貞行　福丸テル　福丸秀則　福丸フミ子　福丸正徳　福丸ミサ子　藤井修子
藤田和子　藤田フヂ子　二見義彦　坊地トミ　堀之内敬子　馬籠恵子　三浦光司
南スミ子　宮島すみ子　宮原民子　宮元孝子　宮元忠郎　森美佐子　来住サチ子
山口一夫　山下美佐子　山元　勝　横山照良　吉村　勉　渡辺一男　渡辺幸江
〔整理作業員〕雁野あつ子　水光弘子　奥登根子　谷口和代　伊鹿倉康子

【報告書作成体制】

〔調査責任者〕	都城市教育長	北　村　秀　秋
〔調査事務局〕	都城市教育部長	七牟礼　純　一
	都城市文化財課長	稲　丸　満　文
	同文化財課長補佐	坂　元　昭　夫
	同課埋蔵文化財担当副主幹	矢　部　喜多夫
〔担当〕	同課埋蔵文化財担当主事	米　澤　英　昭

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　歴史的環境

都城市内北東部の十三束遺跡では縄文早期にあたる連穴土坑が検出され、中央部にあたる白山原遺跡では早期の集石・配石遺構が確認されている。また縄文中後期には、肱穴遺跡の成果によって定住を始めていた痕跡がうかがえ、さらには坂元A遺跡の成果から、水田耕作を行い、穀物資源を得ていたこともわかってきた。

弥生時代においては定住率がいっそう高まり、土器類の在地性もますます強くなる。市内では現在まで中期以降の集落跡が多数見つかっており（向原遺跡・加治屋遺跡・高田遺跡等）、中後期になると「日向型」といわれる間仕切住居跡がみられる（向原遺跡・前畑遺跡）。土器類は大隅特有の山之口式系統と宮崎平野特有の中溝式系統をかけあわせたものがみられるが、これは当地が両者を結ぶ連結点にあり、その独自性を高めていることを示している。

古墳期には志和池村古墳の所在が示すように、文化の核が市北東部の志和池地域方面にあったと考えられる。特に築池地区では、宮崎県南部を中心に分布が確認される埋葬施設形態である地下式横穴墓が群的な広がりをみせている。その一方では、鶴喰遺跡の成果が示すように、市西部に集落の形成が見られるようになる。なお、鶴喰遺跡の後期住居には竈が敷設されるものが現れている。

古代・平安期には弥生期に成長した首長層が大和政権に臣従し、いわゆる地方豪族としてさらに勢力を伸張していくが、こうした層の居宅跡も確認されている。それが上ノ園第２遺跡・馬渡遺跡・大島畠田遺跡とみられる。そしてまた、この頃より文献資料にも当地方が掲載されるようになり、当時日向国でも郡制がしかれ、都城は諸県郡に属していたことがわかっている。「延喜式」諸国駅伝馬条に「日向国駅馬（中略）嶋津各五疋」とあり、当地域が「島津」と呼ばれていたことや、公的施設である「島津駅」が存在したことがわかる。11世紀代には、大宰府の官僚であった平季基の開発によって、のちに巨大荘園となる「島津荘」の基礎が築かれる。

鎌倉初期には惟宗忠久が島津荘の惣地頭職を任され、当初、都城に入ったと伝えられる。これにより忠久は姓を「島津」と改め、「島津家発祥の地」といわれる由縁をもたらした。

室町初期に至り、島津本宗家忠宗の子資忠が「北郷三百町」を与えられ、地名から北郷と名を改める。資忠の子義久は、中世城郭・都城を居城としたとされ、この名称が当市名の由来になったとされる。４代知久は1410年、本宗家の島津元久の上洛に同行して将軍に謁見し、礼物を進上している。

８代忠相は、周囲の脅威であった北原氏や伊東氏らと合戦を繰り返し、都城盆地一帯を統一した。また長子忠親が豊州家(飫肥)を継承し、忠親の子・時久が北郷家を継いで、南九州東部をおさえるその勢力は強大なものとなった。

豊臣政権による九州侵略によって島津家はその軍門に降る。北郷家は秀吉から直接朱印状を下付され「御朱印衆」となり、都城盆地の支配権を安堵されるが、太閤検地後の所替によって祁答院へ移された。文禄・慶長年間には秀吉の朝鮮侵略に召集された島津家に従い、北郷家に替わって都城領主となった伊集院忠棟、北郷忠虎らが出兵する。忠虎は戦地において病死し、忠能が家督を継承する。慶長４年（1599）には島津本宗家と家老伊集院家の戦いである「庄内の乱」が起こった。翌年までにわたる大激戦ののち伊集院家は降伏し、北郷家はその戦功によって都城へ復帰することとなった。

近世においては、鹿児島藩の私領として、引き続き北郷（都城島津）家による統治が行われた。都城島津家は藩主に継ぐ禄高や本藩同様の職制機構を有し、「五口六外城」制に基づき、各所に地頭を置いて支配した。支配機構は、藩とは別個な組織を形成しており、その行政は都城家老の合議によるもので、藩からは一定の自律性をも有していた。

戊辰の役に際しては本藩に従い、北郷資常率いる都城隊182名が参戦した。西南の役においては西郷軍

の一員として1,550名が参加しており、招魂塚が今も残っている。

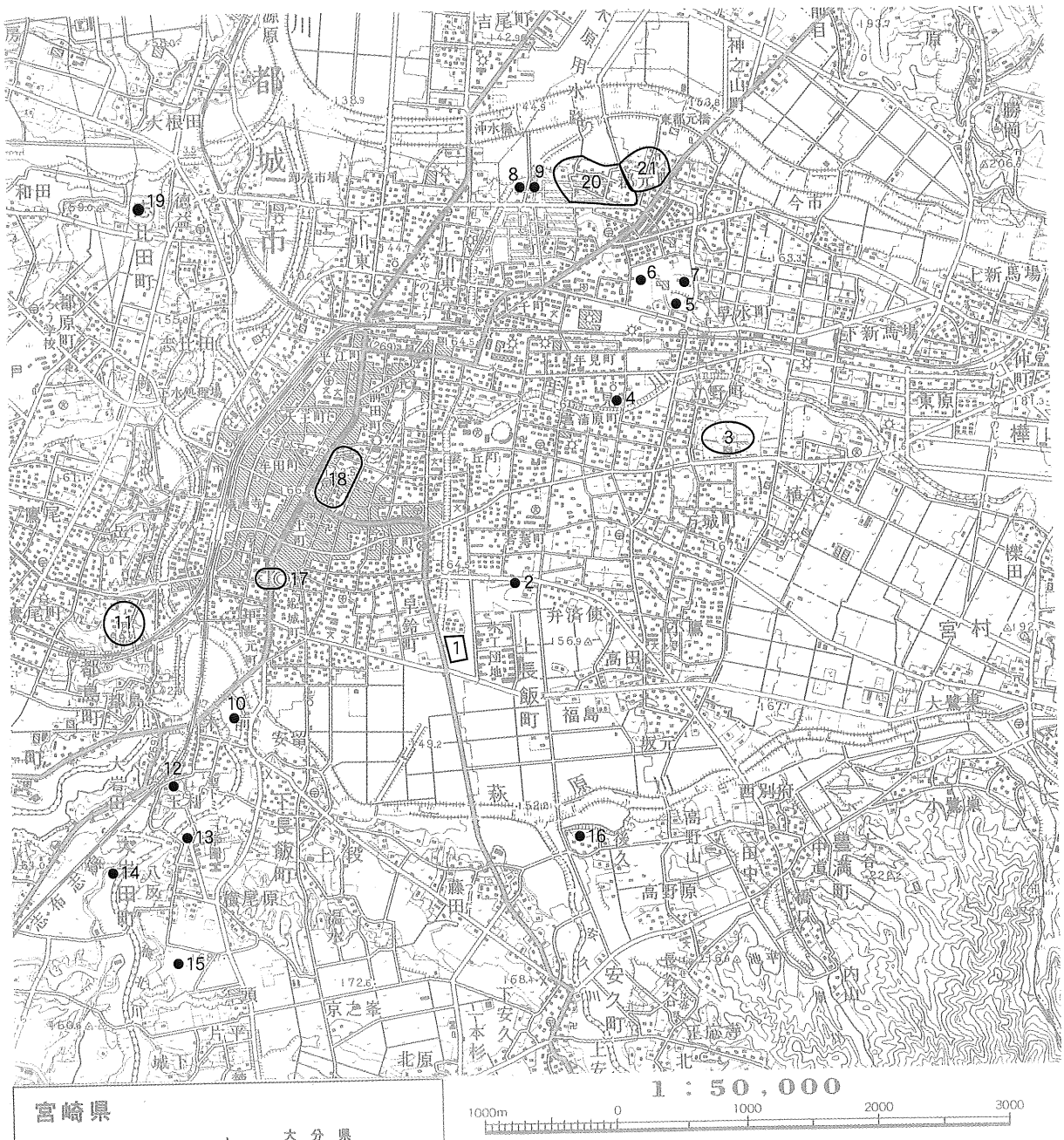
明治４年の廃藩置県に伴って、大隅半島・宮崎県南部域を県域とする都城県が設置された。同県は明治６年には廃止され、鹿児島県・宮崎県に統合されていくが、都城県の中心としての精神は現在も受け継がれている。明治22年には都城町が発足し、大正13年には市制が施行され、昭和11年の沖水・五十市をはじめとして、庄内・志和池・中郷の各村町を合併し、現在に至っている。

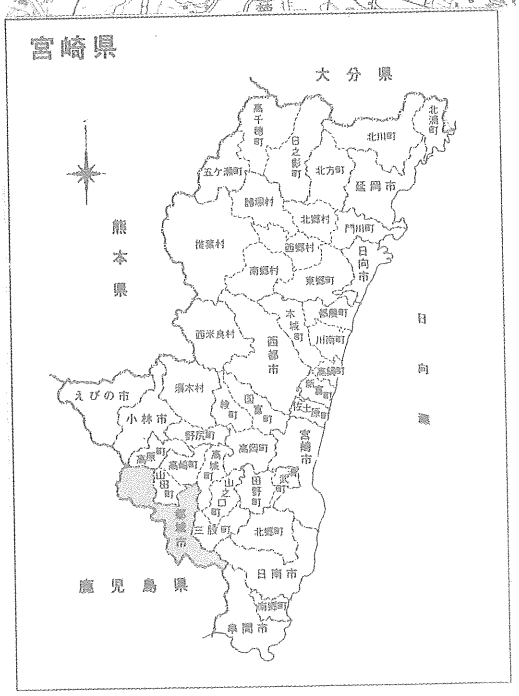
2　遺跡の位置と環境

高田遺跡は、都城市早鈴町字高田に所在する。当地は都城盆地のやや南側に位置し、大淀川の支流である姫城川がほぼ東接して、北東から南西方向へ貫流している。元来は、この姫城川が本遺跡の北側を西流しており、地形的には、この姫城川と、南側を西流する萩原川、それに附随する犯濫原に挟まれた開析扇状地上に立地している。当遺跡の現状は水田域である。一帯は以前より水田帯と化していたが、現状では付近に木工団地や宅地などが構築されている。周辺にも文化財が点在しており、北東側には弁済使薬師堂跡や古代官衙遺跡の可能性が大きい上ノ園第２遺跡、近世の街道である梶山街道・寺柱街道などがある。

【参考文献】

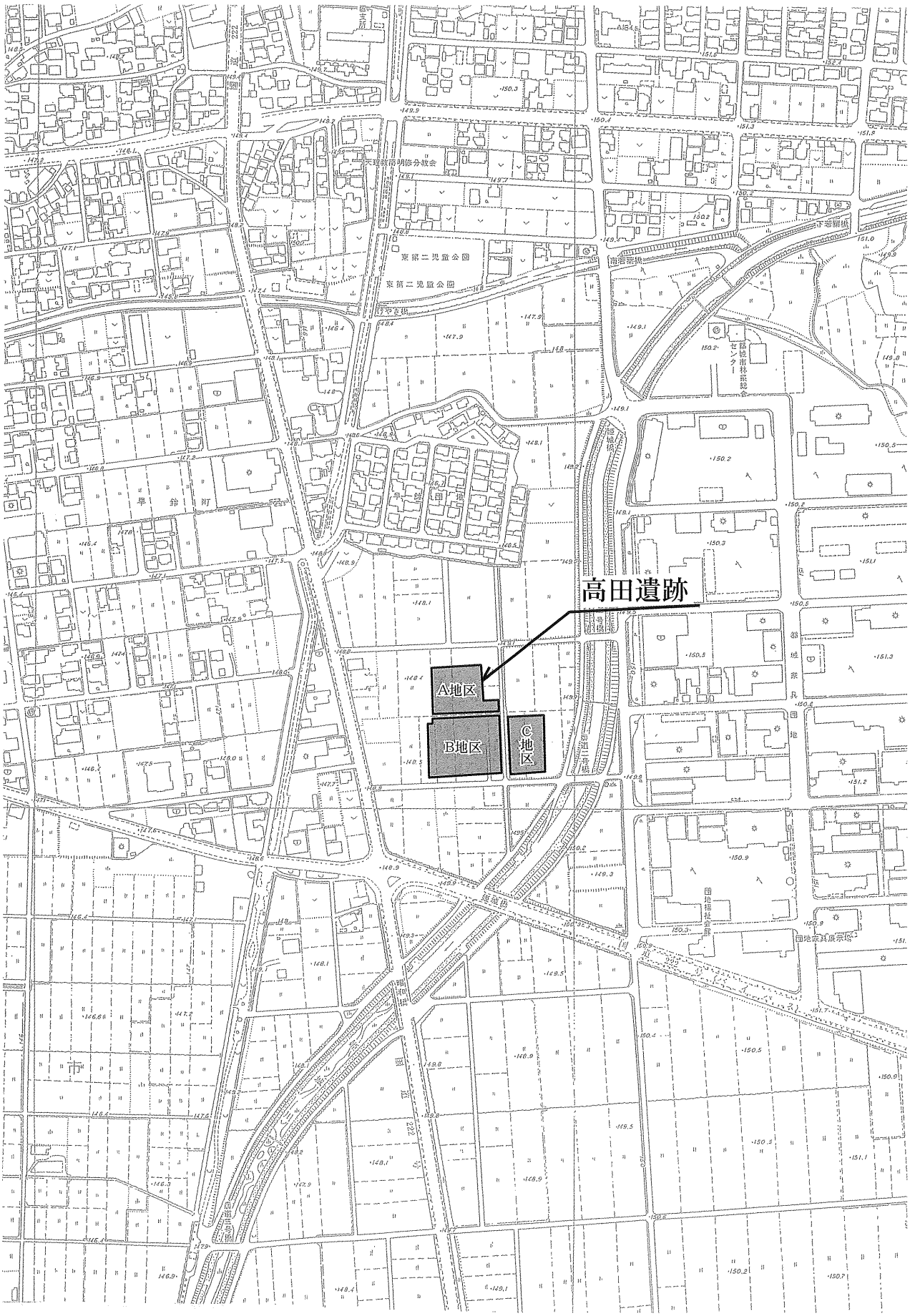
宮崎県　1980『土地分類基本調査　都城』
都城歴史資料館　1999『都城と島津氏』平成11年度都城歴史資料館特別企画展図録
都城市　1997『都城市史』通史編　原始古代
都城市教育委員会　2000『郡元地区遺跡』都城市文化財調査報告書　第51集
都城市教育委員会　2001『天神遺跡（２次)』都城市文化財調査報告書　第54集
宮崎県埋蔵文化財センター　2001『梅北佐土原遺跡・中尾遺跡・蓑原遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第42集
都城市教育委員会　2002『白山原遺跡』都城市文化財調査報告書　第57集
都城市教育委員会　2004『鶴喰遺跡（古墳時代編)』都城市文化財調査報告書第61集
都城市教育委員会　2004『馬渡遺跡』都城市文化財調査報告書　第62集
都城市教育委員会　2004『築池遺跡（1～4）・十三束第２遺跡（第２次)』
都城市文化財調査報告書　第67集
都城市教育委員会　2004『都城島津家領の唐人町周辺の遺跡
－柳川原（4・5次）・中町（4次）・天神（1・3・4・5次)』
都城市文化財調査報告書　第65集
都城市教育委員会　2004『木ノ前遺跡』都城市文化財調査報告書　第63集
新名一仁　2004「北郷氏の由緒に関する基礎的考察
－島津庄日向方北郷の拝領・都城築城の時期をめぐって－」
(『宮崎県地域史研究』17)
山下真一　2004「中近世移行期の島津氏権力編成と北郷氏」(『立正史学』95)
鹿児島県『鹿児島県史料（旧記雑録)』





1　高田遺跡
2　上ノ園第2遺跡
3　向原遺跡
4　年見川遺跡
5　池ノ友遺跡
6　牟田ノ上遺跡
7　白山原遺跡
8　祝吉第1遺跡
9　祝吉第2遺跡
10 木ノ前遺跡
11 都城跡
12 大岩田村ノ前遺跡
13 黒土遺跡
14 大岩田上村遺跡
15 横尾原遺跡
16 天ヶ渕遺跡
17 都城島津家領主館跡
18 中央東部地区遺跡群
19 正坂原遺跡
20 松原地区遺跡
21 久玉遺跡

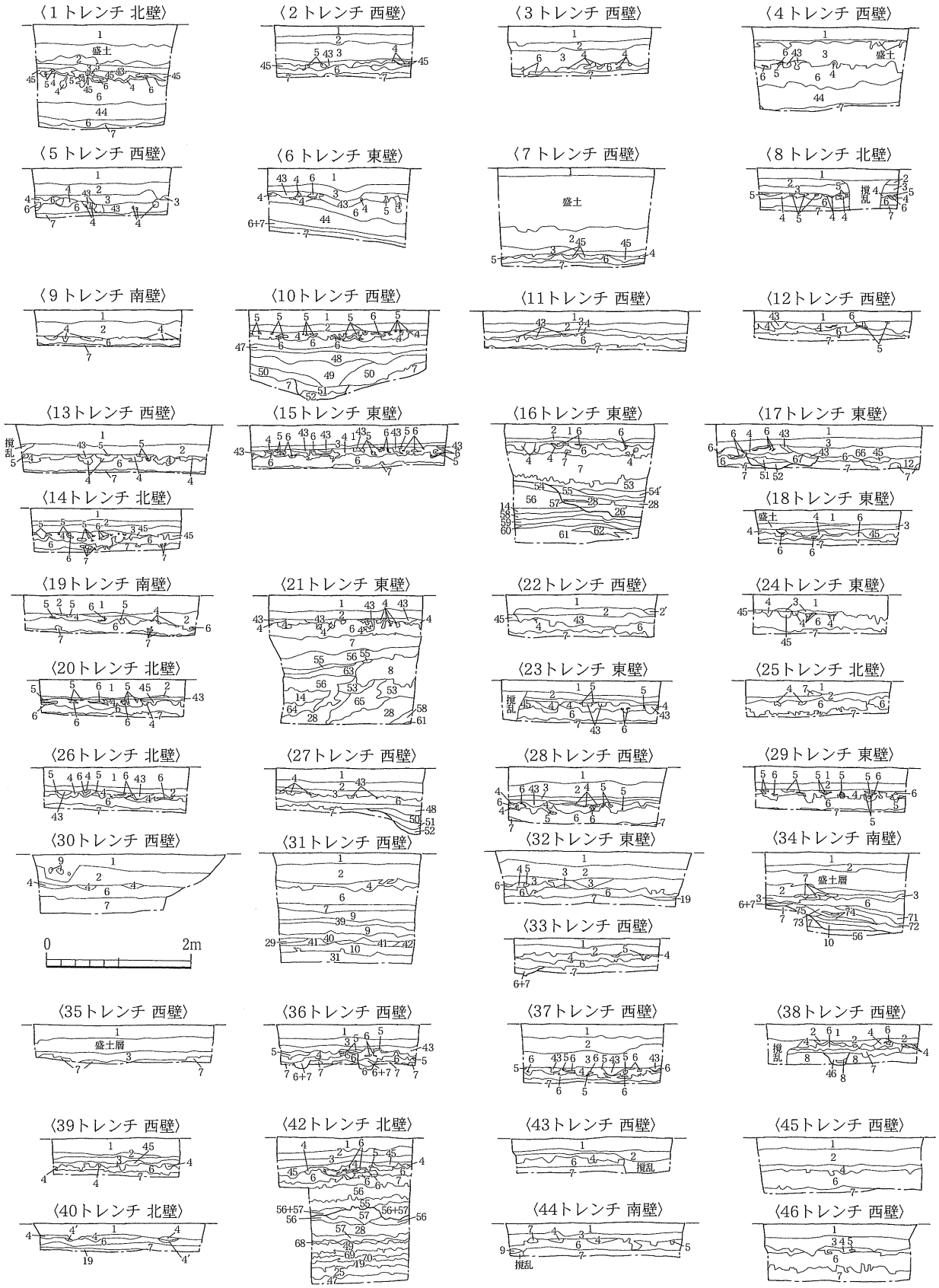
第１図　遺跡位置図



第２図　調査区域図

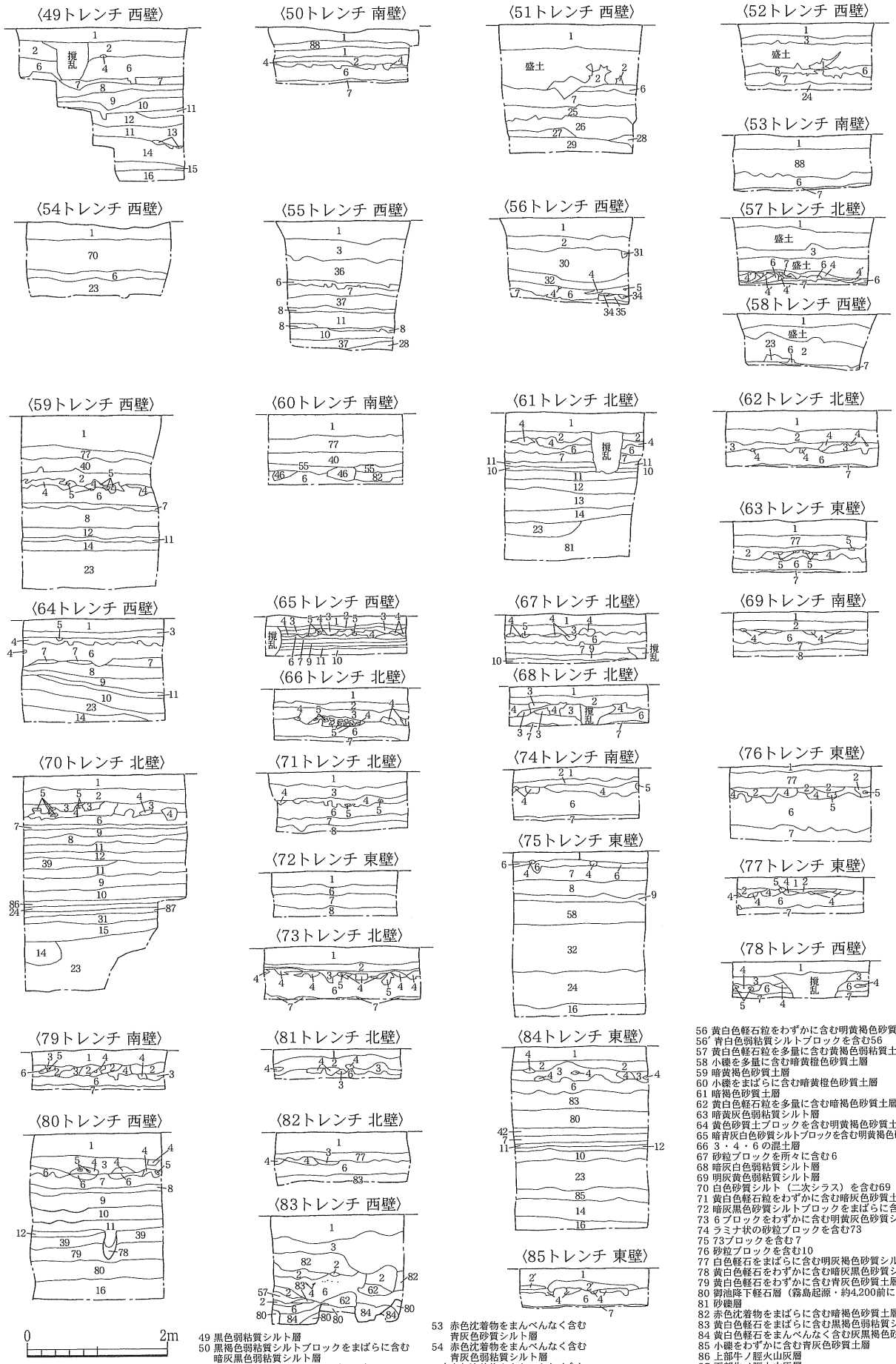
数字はトレンチ番号

第３図　調査区域図及び試掘トレンチ配置図



1 灰オリーブ色砂質シルト層　2 白色軽石をまんべんなく含む明褐灰色砂質シルト層　2′ 鉄分が沈着して赤化した2
3 白色軽石・黄白色軽石を多量に含む暗灰褐色シルト層　4 文明降下軽石層（桜島起源・15世紀後半頃噴出）
4′ 赤みがかった文明軽石層　5 文明降下軽石層に伴う組粒火山灰ブロック　6 赤色沈着物が所々にみとめられる
黒褐色弱粘質シルト層　7 暗黄灰色砂質シルト層　8 黄白色軽石をまばらに含む明黄灰色砂質シルト層
9 明灰色砂質シルト層　10 明灰黒色砂質シルト層　11 暗灰色砂質シルト層　12 明灰白色砂質シルト層
13 暗灰色砂質土層　14 小礫をわずかに含む黄色砂質土層　15 軽石をわずかに含む青灰色砂質土層
16 明青灰色砂質土層　17 灰色砂質シルトをまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層　18 黄灰色砂質土層
19 暗黄灰色粘質シルト層　20 きめの細かい暗黄灰色砂質シルト層　21 暗黄灰色砂質シルトブロックを多量に含む
黒褐色弱粘質シルト層　22 暗黄灰色砂質シルトをまばらに含む黒褐色弱粘質シルト層　23 黄白色軽石・礫を多量に
含む橙色シルト層　24 暗黒灰色シルト層　25 暗黒灰色粘質シルト層　26 緑灰色粘質シルト層　27 暗緑灰色粘質シ
ルト層　28 暗青灰色砂質シルト層　29 緑灰色砂質シルト層　30 粒子の細い軽石を含む明褐灰色砂質シルト層
31 黒灰色シルト層　32 礫・粒子の粗い軽石を多量に含む褐色砂質シルト層　33 明黒褐色砂質シルト層
34 黒灰色砂質シルト層　35 黒灰色粘質シルト層　36 白色・黄白色軽石を多量に、黒褐色弱粘質土・暗灰色シルト
ブロックをまんべんなく含む暗灰褐色シルト層　37 明黄灰色砂質シルト層　38 暗黄灰色砂質シルトブロック・白色
軽石をまんべんなく含む明褐灰色砂質シルト層　39 黄白色軽石を含む明灰色砂質シルト層　40 黄白色軽石を多量
に含む明灰色砂質シルト層　41 黄白色軽石を含む暗緑灰色砂質シルト層　42 黄白色軽石を多量に含む暗緑灰色砂質
シルト層　43 暗灰褐色シルトを多量に含む文明軽石ブロック　44 植物遺体を多量に含む明黒褐色弱粘質シルト層
45文明軽石を多量に含む黒褐色弱粘質シルト層　46 赤色沈着物を多量に含む暗黄灰色砂質シルト層
47 明灰黒色弱粘質シルト層　48 暗灰黒色弱粘質シルト層

第４図　試掘トレンチ断面図（１）



49 黒色弱粘質シルト層
50 黒褐色弱粘質シルトブロックをまばらに含む暗灰黒色弱粘質シルト層
51 砂粒ブロック・炭化粒をまばらに含む灰黒色砂質シルト層
52 暗黄灰色砂質土層
53 赤色沈着物をまんべんなく含む青灰色砂質シルト層
54 赤色沈着物をまんべんなく含む青灰色弱粘質シルト層
54′ 赤色沈着物をまんべんなく含む暗青灰色弱粘質シルト層
55 赤色沈着物をまばらに含む青白色弱粘質シルト層
56 黄白色軽石粒をわずかに含む明黄褐色砂質土層
56′ 青白色弱粘質シルトブロックを含む56
57 黄白色軽石粒を多量に含む黄褐色弱粘質土ブロック
58 小礫を多量に含む暗黄橙色砂質土層
59 暗黄褐色砂質土層
60 小礫をまばらに含む暗黄橙色砂質土層
61 暗褐色砂質土層
62 黄白色軽石粒を多量に含む暗褐色砂質土層
63 暗黄灰色弱粘質シルト層
64 黄色砂質土ブロックを含む明黄褐色砂質土層
65 暗青灰白色砂質シルトブロックを含む明黄褐色砂質土層
66 3・4・6の混土層
67 砂粒ブロックを所々に含む6
68 暗灰白色弱粘質シルト層
69 明灰黄色弱粘質シルト層
70 白色砂質シルト（二次シラス）を含む69
71 黄白色軽石粒をわずかに含む暗灰色砂質土層
72 暗灰黒色砂質シルトブロックをまばらに含む47
73 6ブロックをわずかに含む明黄灰色砂質シルト層
74 ラミナ状の砂粒ブロックを含む73
75 73ブロックを含む7
76 砂粒ブロックを含む10
77 白色軽石をまばらに含む明灰褐色砂質シルト層
78 黄白色軽石をわずかに含む暗灰黒色砂質シルト層
79 黄白色軽石をわずかに含む青灰色砂質土層
80 御池降下軽石層（霧島起源・約4,200前に噴出）
81 砂礫層
82 赤色沈着物をまばらに含む暗褐色砂質土層
83 黄白色軽石をまばらに含む黒褐色弱粘質シルト層
84 黄白色軽石をまんべんなく含む灰黒褐色砂質土層
85 小礫をわずかに含む青灰色砂質土層
86 上部牛ノ脛火山灰層
87 下部牛ノ脛火山灰層
88 白色砂質シルト層
（二次堆積の姶良丹沢火山灰層=シラス層）

第5図　試掘トレンチ断面図（2）

Ⅲ　調査の記録

1　試掘調査の概要

対象地61,736㎡のうち発掘の承諾を得た44,867㎡に対して、2m×2mのトレンチを85ヶ所設定して調査を実施した。期間は平成13年11月27日から同年12月12日である。

その結果、対象地ほぼ全てに桜島より文明年間に噴出したとされる軽石層（通称白ボラ）にパックされた水田跡を確認したほか、古代（平安か？）や弥生中期から古墳前期頃の集落跡（一部の時期には水田を伴う可能性あり）、弥生前期に遡及する可能性が高い水田跡が検出された。

文明年間（15世紀代）噴出軽石層でパックされた水田跡からは、人間や牛馬の足跡が確認されている。各トレンチからは、さほど磨耗していない古代と考えられる遺物片が散見され、当該地に隣接する上ノ園第２遺跡（平成5年度調査）で確認されている平安期集落跡との関連性が窺える。地表面からの深度は約30～35cmである。また、試掘調査で最も多く確認したのが弥生中期～古墳前期頃の集落跡である。特に店舗予定地付近には密集しており、溝や住居跡、柱穴と推定される遺構も見つかったことから、かなりの高密度で遺跡が残存していると予想された。また、対象地南側では発見事例の少ない木製品も出土が認められ、集落と水田が同時に見つかる可能性も想定された。地表面からの深度は約40～60cmである。以上のデータをもとに発掘調査を行った。

2　発掘調査の概要

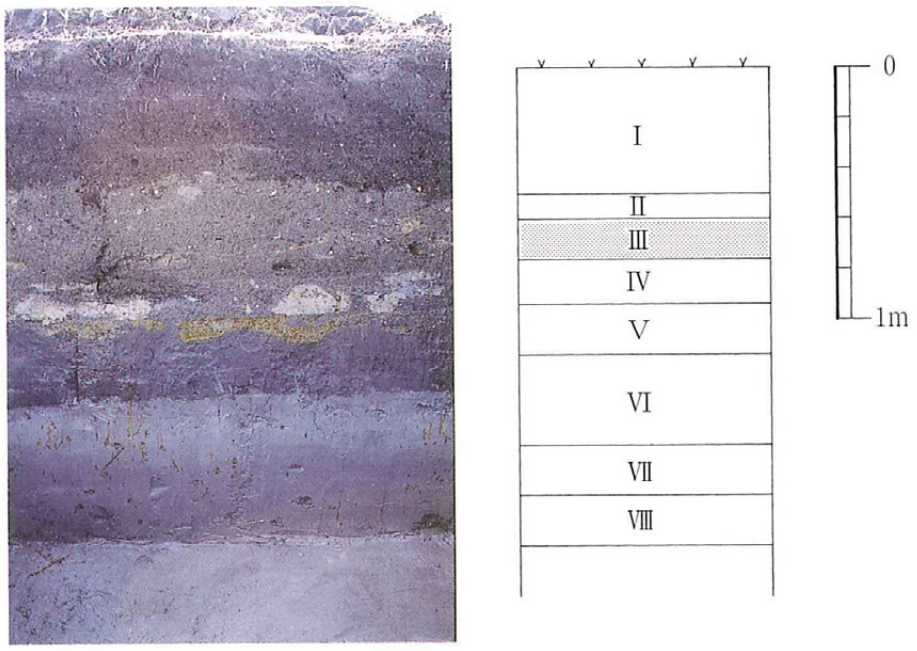
発掘調査は店舗建設部分の8,801㎡について実施した。南北に水路が敷設されていたことから、便宜上調査区を３つに分け（第２図）Ａ・Ｂ・Ｃ区とした。

試掘調査において確認された遺物包含層は、調査区内に断片的に堆積をみせる文明年間噴出とされる桜島起源軽石層（通称白ボラ：Ⅲ層）以下にあるため、調査は、まずⅢ層直上まで重機による表土剥ぎを行い、以下を手作業で掘り下げていき、Ⅲ層：文明軽石層直下で中世水田跡を、Ⅵ・Ⅶ層直上で弥生の集落跡を検出した。

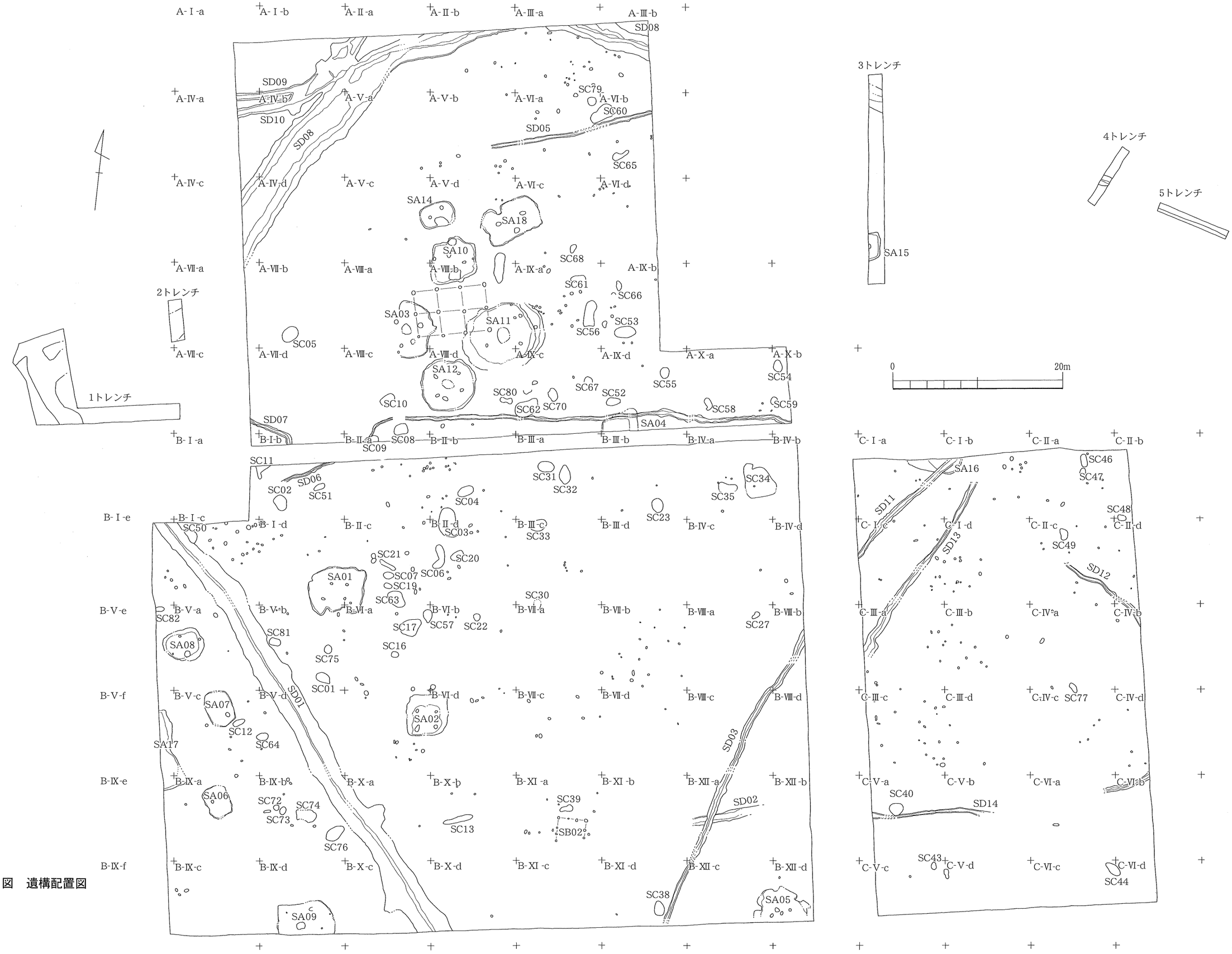
3　遺跡の層序

昭和40年代とされる該地耕地整理のため若干の撹乱がみえたが、遺跡の所在するⅢ層以下の状況は比較的良好であったといえる。Ⅲ層は15世紀後半頃に噴火した桜島より降下したとみられる灰白色軽石層（通称白ボラ）である。Ⅳ層黒褐色系土で、Ⅴ層はそれに炭が混在する層であり、この両層（主にⅤ）が遺物包含層である。以下、市内遺跡においては、通常霧島山系御池より噴出した火山灰（通称黄ボラ）、鬼界カルデラより噴出した火山灰（通称アカホヤ）の堆積が確認されるが、本遺跡では明確に確認されていない。よって検出面はⅥ層・Ⅶ層の灰褐色系土層となった。遺構は、Ⅱ層直下で水田跡、Ⅵ・Ⅶ層直上で弥生期集落を検出した。

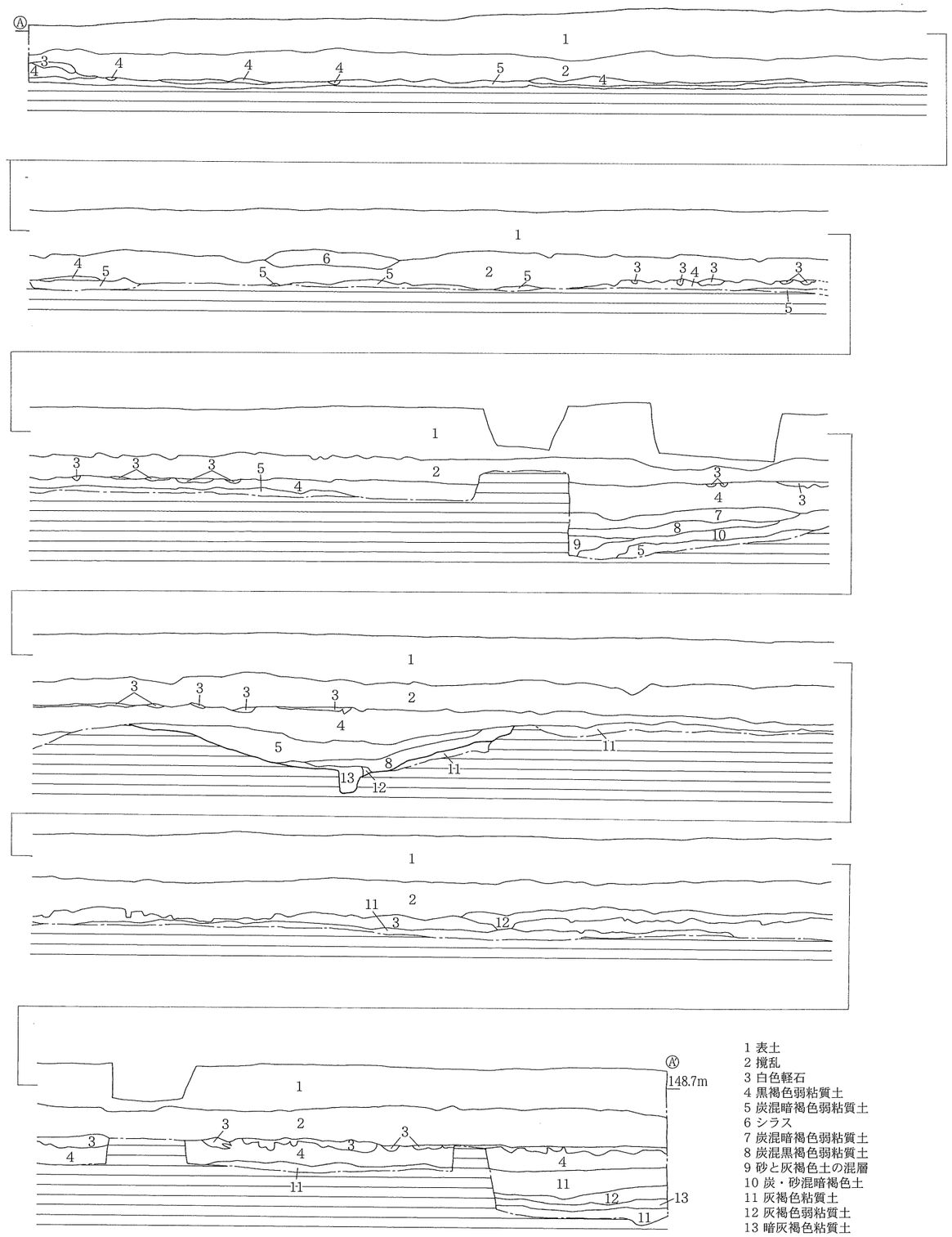
Ⅰ層：表土　Ⅱ層：灰褐色砂質土層
Ⅲ層：白色軽石層（文明期桜島噴出：白ボラ）
Ⅳ層：黒褐色弱粘質土層
Ⅴ層：炭混暗褐色弱粘質土層
Ⅵ層：灰褐色弱粘質土層
Ⅶ層：灰褐色粘質土層
Ⅷ層：灰褐色砂質土層

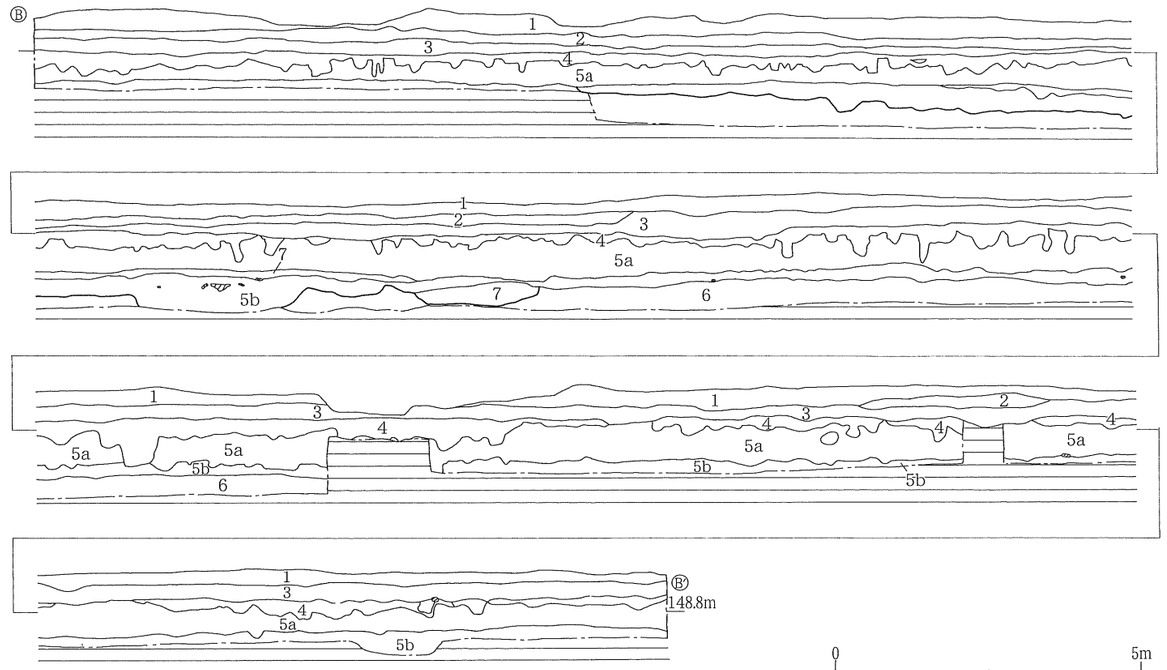


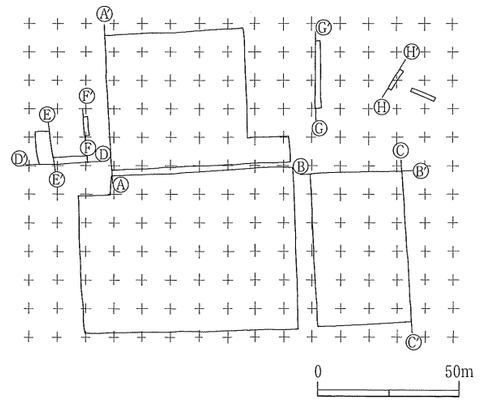
第６図　基本土層写真及び土層柱状図


A-Ⅰ-a
A-Ⅰ-b
A-Ⅱ-a
A-Ⅱ-b
A-Ⅲ-a
A-Ⅲ-b
SD08
SD09
A-Ⅳ-a
A-Ⅳ-b
A-Ⅴ-a
A-Ⅴ-b
A-Ⅵ-a
SC79
A-Ⅵ-b
SC60
SD10
SD05
SD08
SC65
A-Ⅳ-c
A-Ⅳ-d
A-Ⅴ-c
A-Ⅴ-d
A-Ⅵ-c
A-Ⅵ-d
SA14
SA18
SA10
A-Ⅶ-a
A-Ⅶ-b
A-Ⅷ-a
A-Ⅷ-b
A-Ⅸ-a
SC68
A-Ⅸ-b
SC61
SC66
2トレンチ
SA03
SA11
SC56
SC53
SC05
A-Ⅶ-c
A-Ⅶ-d
A-Ⅷ-c
A-Ⅷ-d
A-Ⅸ-c
A-Ⅸ-d
A-Ⅹ-a
A-Ⅹ-b
SC54
SA12
SC55
1トレンチ
SC10
SC80
SC62
SC70
SC67
SC52
SC58
SC59
SD07
SA04
B-Ⅰ-a
B-Ⅰ-b
B-Ⅱ-a
SC08
SC09
B-Ⅱ-b
B-Ⅲ-a
B-Ⅲ-b
B-Ⅳ-a
B-Ⅳ-b
SC11
SC31
SC32
SC34
SD06
SC02
SC51
SC04
SC35
B-Ⅰ-e
B-Ⅰ-c
SC50
B-Ⅰ-d
B-Ⅱ-c
B-Ⅱ-d
SC03
B-Ⅲ-c
SC33
B-Ⅲ-d
SC23
B-Ⅳ-c
B-Ⅳ-d
SC21
SC20
SA01
SC07
SC06
SC19
SC63
SC30
B-Ⅴ-e
B-Ⅴ-a
B-Ⅴ-b
B-Ⅵ-a
B-Ⅵ-b
B-Ⅶ-a
B-Ⅶ-b
B-Ⅷ-a
B-Ⅷ-b
SC82
SC17
SC57
SC22
SC27
SC81
SA08
SC16
SC75
B-Ⅴ-f
B-Ⅴ-c
B-Ⅴ-d
SD01
SC01
B-Ⅵ-d
B-Ⅶ-c
B-Ⅶ-d
B-Ⅷ-c
B-Ⅷ-d
SA07
SA02
SC12
SC64
SA17
SD03
B-Ⅸ-e
B-Ⅸ-a
B-Ⅸ-b
B-Ⅹ-a
B-Ⅹ-b
B-Ⅺ-a
B-Ⅺ-b
B-Ⅻ-a
B-Ⅻ-b
SA06
SC72
SC74
SC39
SD02
SC73
SC13
SB02
SC76
B-Ⅸ-f
B-Ⅸ-c
B-Ⅸ-d
B-Ⅹ-c
B-Ⅹ-d
B-Ⅺ-c
B-Ⅺ-d
B-Ⅻ-c
B-Ⅻ-d
SC38
SA05
SA09
3トレンチ
SA15
4トレンチ
5トレンチ
0
20m
C-Ⅰ-a
C-Ⅰ-b
C-Ⅱ-a
C-Ⅱ-b
SA16
SC46
SC47
SD11
SC48
C-Ⅰ-c
C-Ⅰ-d
C-Ⅱ-c
C-Ⅱ-d
SD13
SC49
SD12
C-Ⅲ-a
C-Ⅲ-b
C-Ⅳ-a
C-Ⅳ-b
C-Ⅲ-c
C-Ⅲ-d
C-Ⅳ-c
SC77
C-Ⅳ-d
C-Ⅴ-a
C-Ⅴ-b
C-Ⅵ-a
C-Ⅵ-b
SC40
SD14
SC43
C-Ⅴ-c
C-Ⅴ-d
C-Ⅵ-c
C-Ⅵ-d
SC44

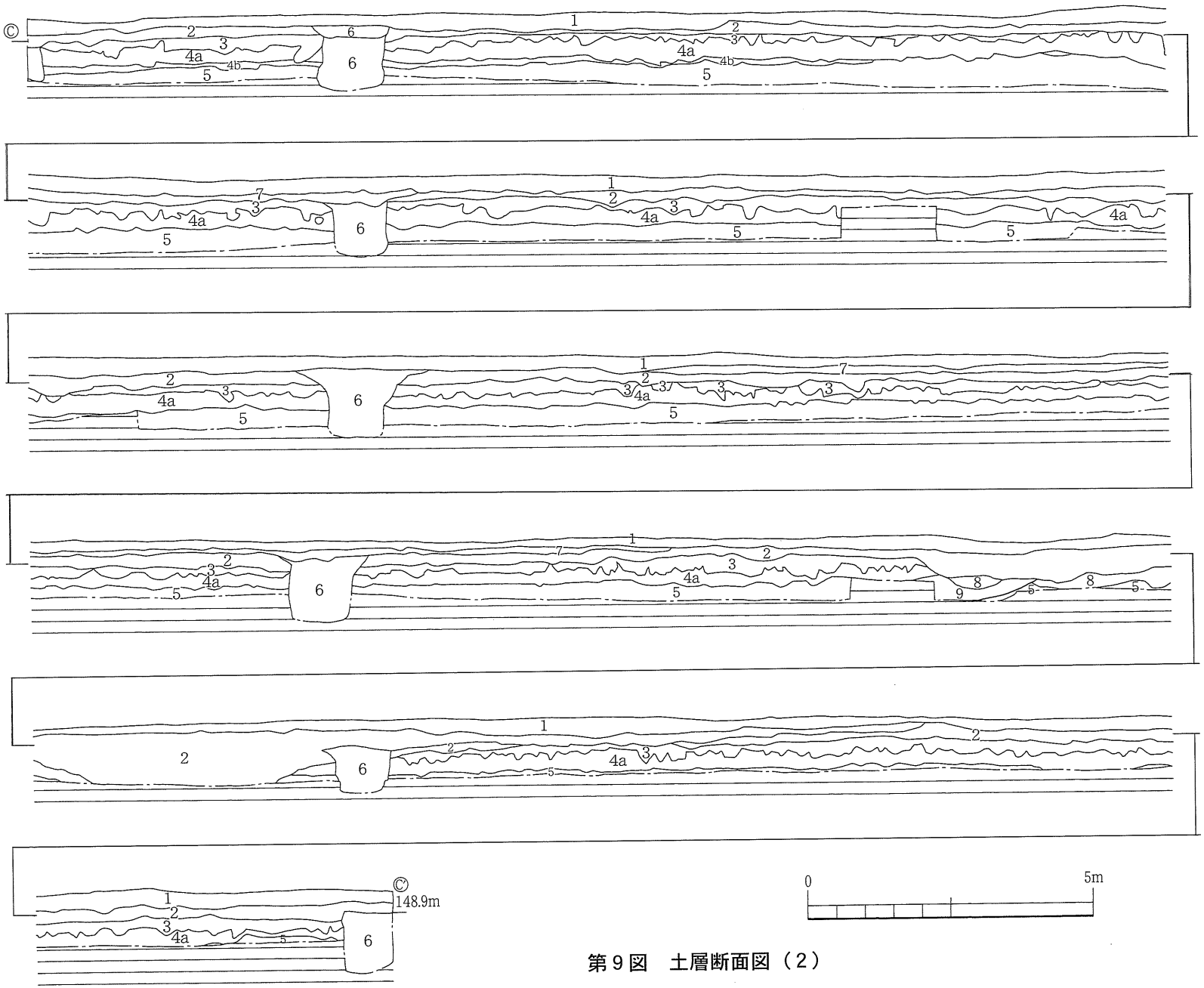
第７図　遺構配置図


Ⓐ
Ⓐ'
148.7m
1 表土
2 撹乱
3 白色軽石
4 黒褐色弱粘質土
5 炭混暗褐色弱粘質土
6 シラス
7 炭混暗褐色弱粘質土
8 炭混黒褐色弱粘質土
9 砂と灰褐色土の混層
10 炭・砂混暗褐色土
11 灰褐色粘質土
12 灰褐色弱粘質土
13 暗灰褐色粘質土


Ⓑ
Ⓑ'
148.8m
1 表土　2 灰褐色土　3 灰褐色砂質土　4 白色軽石　5a 黒褐色弱粘質土
5b 炭混黒色弱粘質土　6 灰褐色粘質土　7 黒色弱粘質土
0
5m

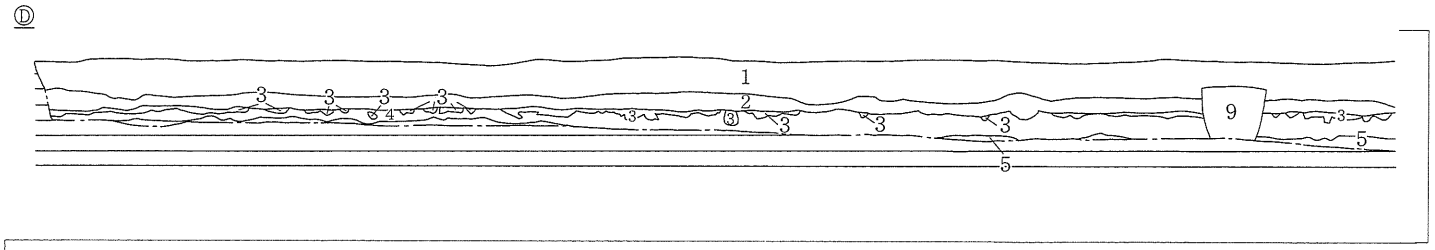

Ⓐ
Ⓐ'
Ⓑ
Ⓑ'
Ⓒ
Ⓒ'
Ⓓ
Ⓓ'
Ⓔ
Ⓔ'
Ⓕ
Ⓕ'
Ⓖ
Ⓗ
0
50m

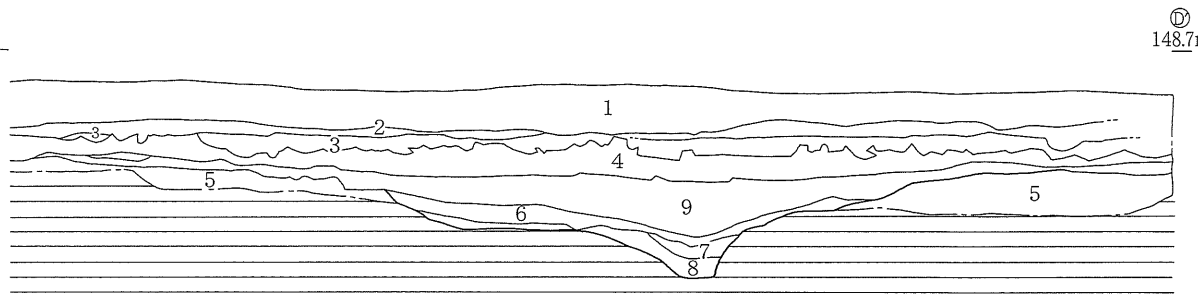
第８図　土層断面図（１）



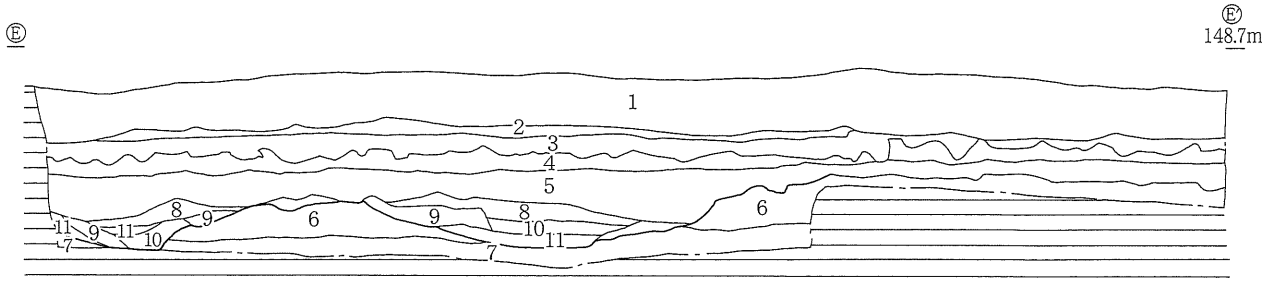
1　表土
2　灰褐色砂質土
3　白色軽石
4a 黒褐色弱粘質土
4b 炭混黒色弱粘質土
5　灰褐色粘質土
6　撹乱（排水溝）
7　灰褐色土
8　砂混灰褐色土
9　砂混黒褐色土

第９図　土層断面図（２）

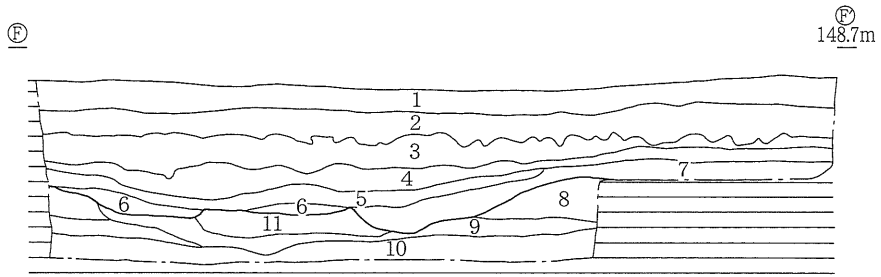




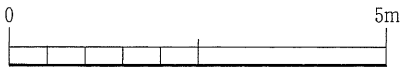
1 表土
2 灰褐色砂質土
3 白色軽石
4 黒褐色弱粘質土
5 灰褐色弱粘質土
6 炭混暗灰褐色弱粘質土
7 炭混黒褐色弱粘質土
8 砂
9 撹乱



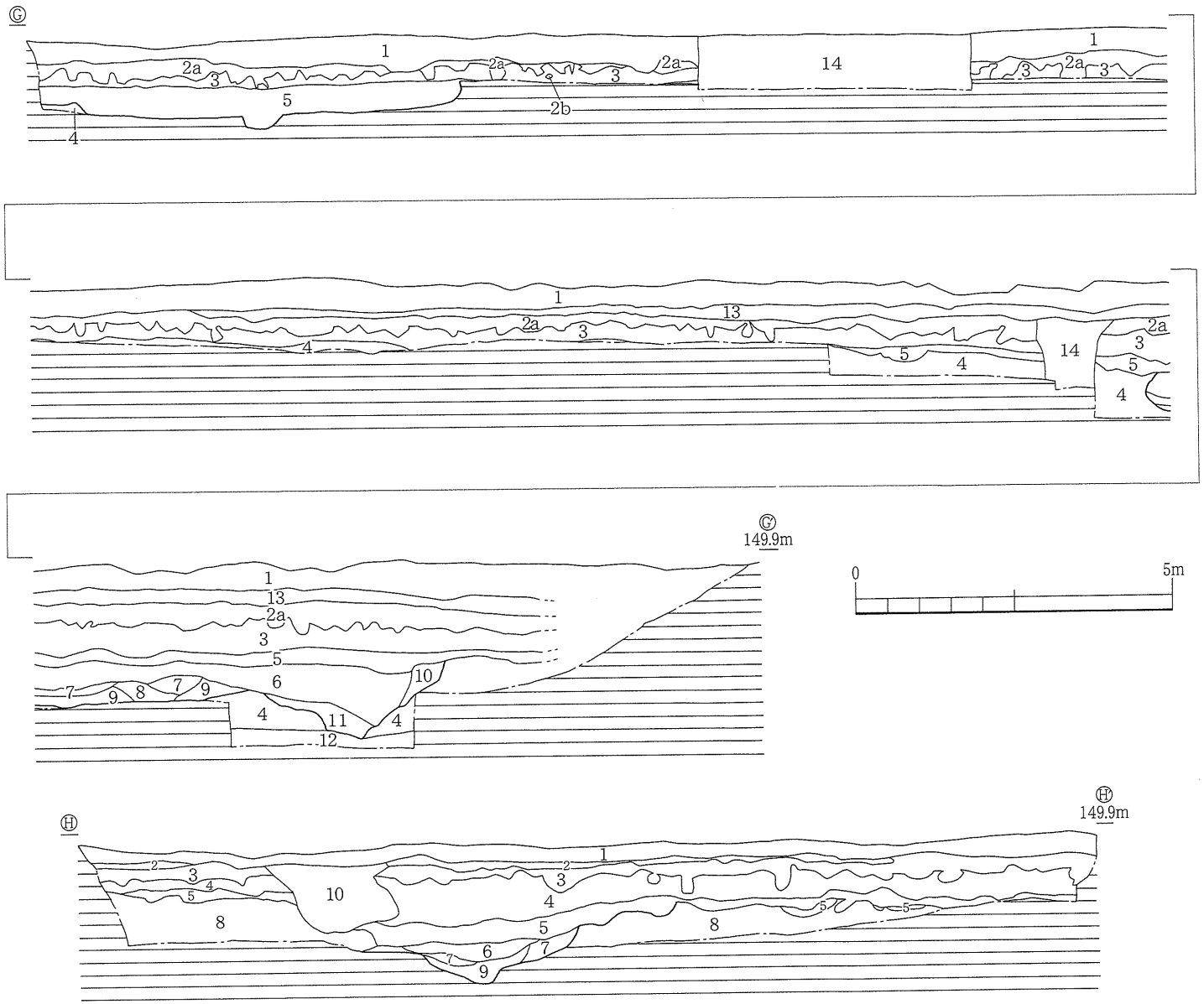
1 表土
2 灰褐色砂質土
3 白色軽石
4 黒褐色弱粘質土
5 炭混暗褐色弱粘質土
6 灰褐色弱粘質土
7 灰褐色粘質土
8 炭混暗灰褐色弱粘質土
9 炭・砂混暗褐色土
10 砂と灰褐色土の混層
11 砂



1 表土
2 灰褐色砂質土
3 黒褐色弱粘質土
4 炭混暗褐色弱粘質土
5 炭混暗灰褐色弱粘質土
6 炭・砂混暗褐色土
7 炭混暗灰褐色弱粘質土
8 灰褐色弱粘質土
9 炭混暗灰褐色弱粘質土
10 灰褐色砂質土
11 灰褐色砂



第10図　土層断面図（3）



1　表土
2a 白色軽石を多量に含む灰褐色土
2b 白色軽石
3　黒褐色弱粘質土
4　暗褐色弱粘質土
5　炭混暗褐色弱粘質土
6　炭混黒褐色弱粘質土
7　炭混暗褐色弱粘質土
8　炭混暗灰褐色弱粘質土
9　砂
10 炭混暗褐色弱粘質土
11 炭混暗灰褐色弱粘質土
12 灰褐色弱粘質土
13 灰褐色砂質土

1　表土
2　白色軽石混灰褐色砂質土
3　白色軽石
4　黒褐色弱粘質土
5　炭混暗褐色弱粘質土
6　炭混暗灰褐色弱粘質土
7　砂と灰褐色土の混層
8　灰褐色弱粘質土
9　砂
10 撹乱

第11図　土層断面図（4）

4　調査の成果

《調査の経緯》

調査は上から、中世水田跡、弥生集落跡と重複していたこともあって、中世水田を検出し、遺構図作成ののち、弥生集落跡の調査に着手した。包含層掘り下げは重機・人力にて行い、以下、遺構検出、遺構の調査については、全て手作業で行った。地表面からの土層観察のために畦を設けたことから、調査区が大きく３つに分かれたため、便宜上、Ａ・Ｂ・Ｃ区としている。また、遺構の走行確認としてA区の東西にトレンチを設定したため、これも便宜上トレンチNo.を付している。

まず、中世水田跡確認のため、Ⅲ層直上までを重機にて剥ぎ、同層が堆積している状態で水田の形状確認を行った。そしてC地区のみⅢ層を除去して水田面を確認した。その後、空中写真撮影と空中図化作業を行い、水田調査を終了した。水田面は全部で36面検出した。水田面の凹凸は激しく、横市地区遺跡群で調査されている中世水田と同様の状態にあるといってよい。

続いてⅣ層以下を人力にて掘り下げ、弥生遺構検出を行った。ここでは溝状遺構13条、掘立柱建物２棟、竪穴住居跡17軒、土坑70基余り、柱穴群多数を確認している。溝や住居跡からは比較的大破片の弥生土器や鋤・鍬などの木製品が出土した。

《遺構》

【竪穴住居】

１号竪穴住居跡（ＳＡ０１：第12・13図）

ＳＡ０１は調査区Ｂ、グリッドＢ－Ⅰ－ｄ・Ｂ－Ⅱ－ｃ・Ｂ－Ⅴ－ｂ・Ｂ－Ⅵ－aにかけて確認した。方形に近いプランだが、南側は若干間仕切り気味である。N－S5.1m、E－W6.5mを測る。検出面からの最深度は約20cm。柱穴は4穴かと思われるが、各々が浅い。

住居内から出土した遺物を第13図に掲げた。１は石製品である。青色でビーズ製と思われる。２は甕の口縁部である。３は口唇部。４は胴部。５は底部。６・７は擦石か。

２号竪穴住居跡（ＳＡ０２：第14・15図）

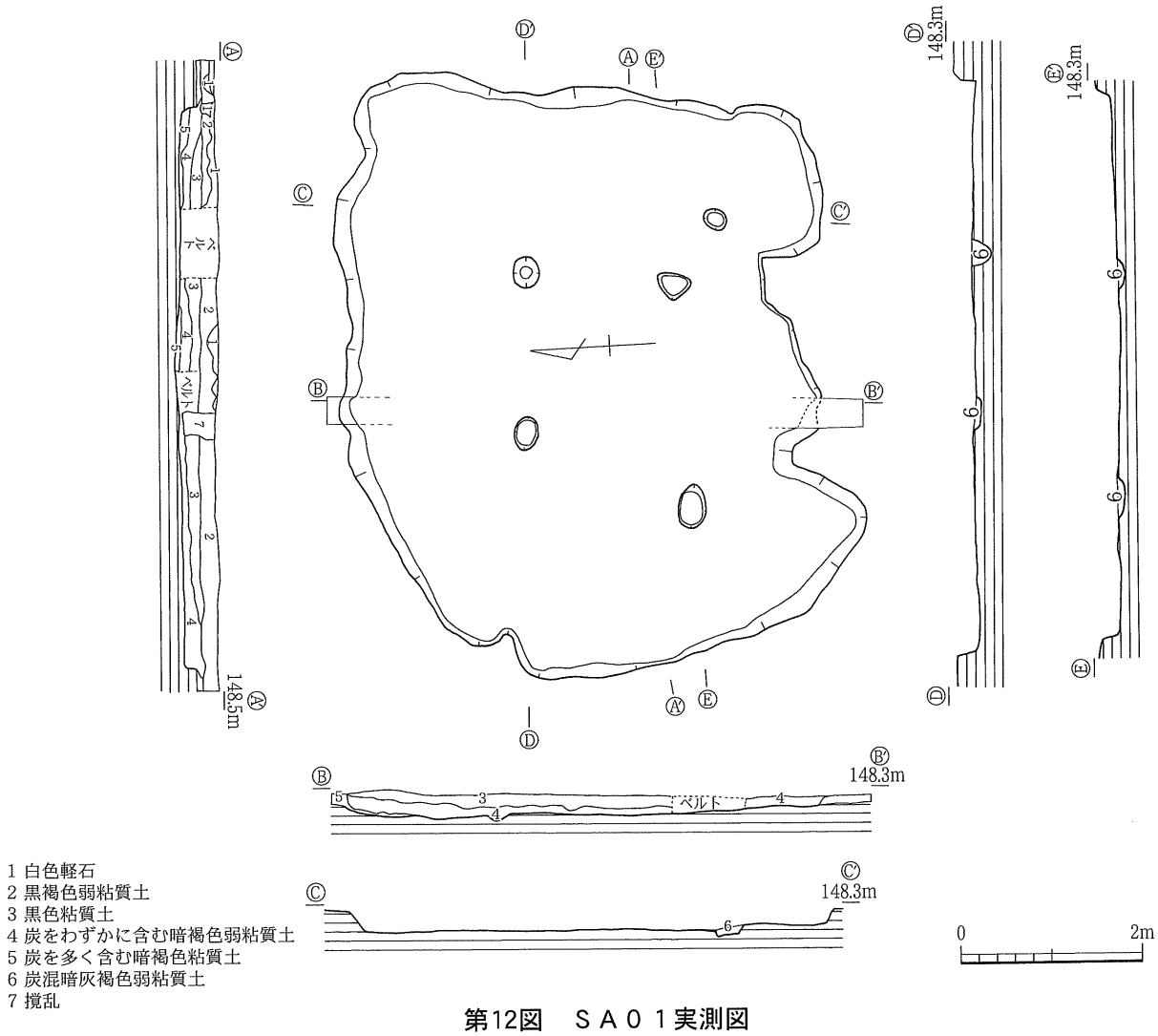
ＳＡ０２は調査区Ｂ、グリッドＢ－Ⅵ－ｃ～ｄ区で検出した。方形状を呈している。Ｎ－Ｓ4.7m、Ｅ－W4.7mを測る。柱穴は4穴確認できた。検出面からの深度は50cmほどである。

第15図に遺物を示した。８は甕口縁部である。口径22.4cm。９は胴部。突帯を付す。胎土にキンウンモを含む。10は甕の底部か。底径6.8cmを測る。

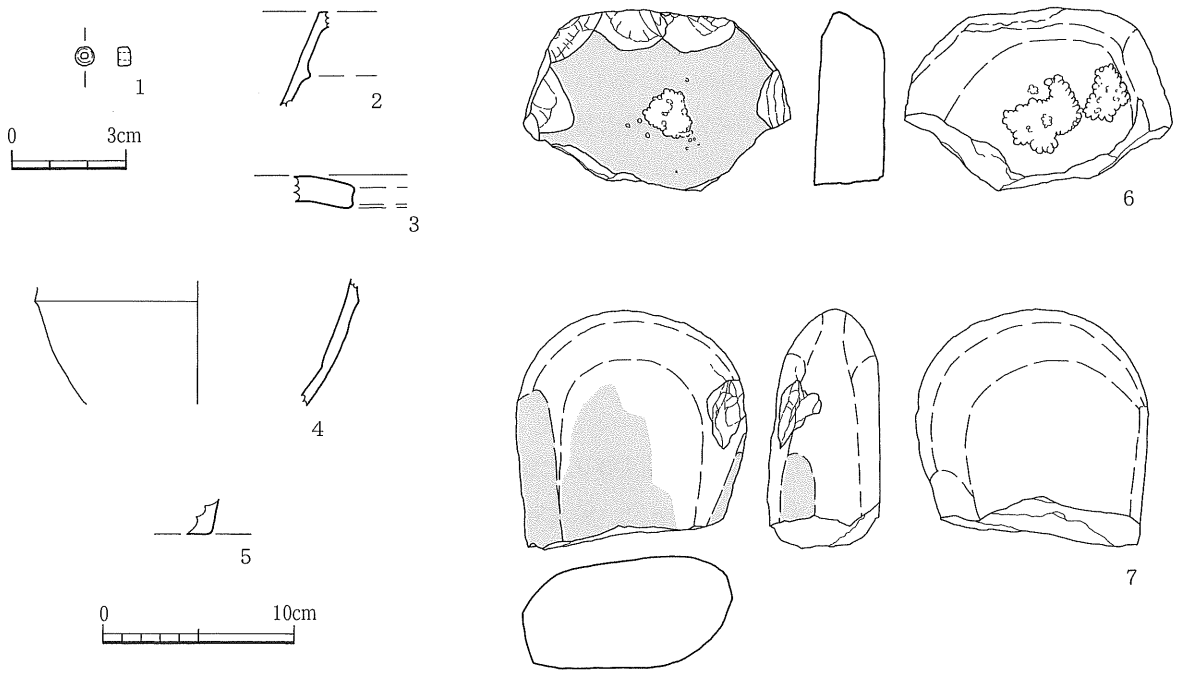
３号竪穴住居跡（ＳＡ０３：第16～18図）

Ａ－Ⅷ－a～c区に位置する。西側が区画整理時の造成によってか破壊を受けていた。N—S6.6mを測る不定形の住居跡である。検出面からの深度は約30cm。主柱穴は４穴確認できる。中央に土坑がある。床面では甕を倒れたような形で確認した。

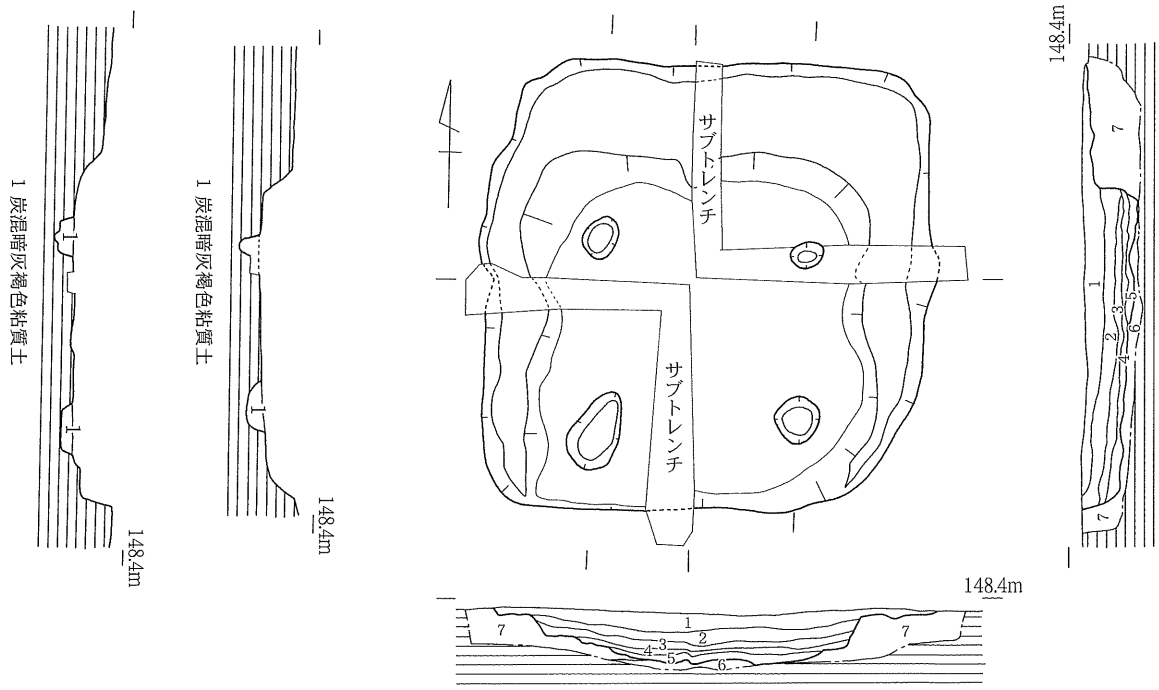
第17・18図が出土遺物である。11は甕の口縁部。胎土キンウンモを含む。12は庭径6.6cmを測る底部である。やはり胎土にはキンウンモがみられる。13は甕底部で、胎土にはやはりキンウンモを含む。底径は7.4cm。外器面にはハケ目がみられる。14もキンウンモを含む甕の底部。底径は6.9cm。15は胴部である。胎土にキンウンモを含む。16は甕の口縁部である。口唇部に2条の刻目をもつ。17は中央土坑から出土している。甕の口縁部で、口唇部に２条の刻目がある。18は甕の口縁～胴部である。口径は26.7～27.9cmで、歪みがある。胎土にキンウンモを含む。外器面にはわずかにミガキがみられる。19は甕口縁部。口径24.6cmを測る。胎土にキンウンモあり。20は甕の口縁部である。胎土にキンウンモを含み、口径29.4cmを測る。21は口径31cmを測る、甕の口縁部である。口唇部に２条の刻目がある。22



第12図　ＳＡ０１実測図

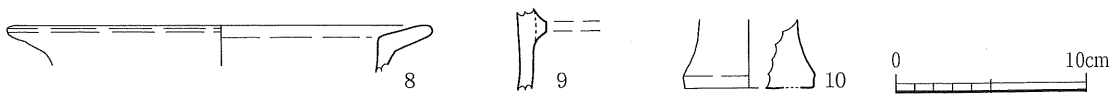


第13図　ＳＡ０１内出土遺物実測図



1 炭をわずかに含む暗褐色弱粘質土　2 炭をわずかに含む暗灰褐色弱粘質土　3 炭をわずかに含む灰褐色弱粘質土
4 炭をわずかに含む暗灰褐色弱粘質土　5 炭をわずかに含む灰褐色粘質土　6 暗褐色粘質土
7 灰褐色砂質土

第14図　ＳＡ０２実測図



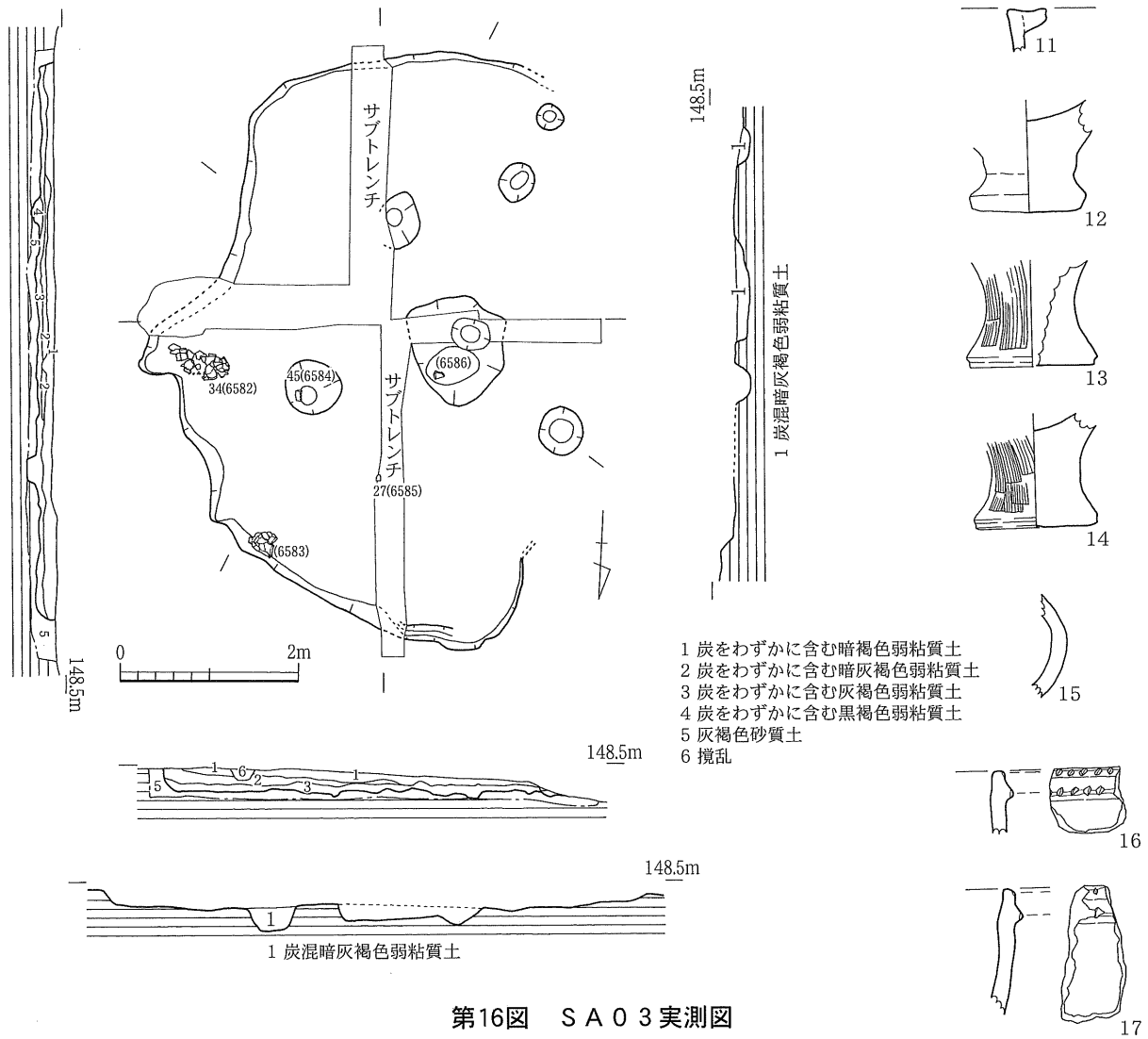
第15図　ＳＡ０２内出土遺物実測図

も口径31cmを測る、甕の口縁部で、口唇部に２条の刻目がある。23は甕の口縁部で、口唇部に刻目がある。口径は27cmを測る。24は口縁部で、刻目突帯をもつ。口径は20.9cm。25は甕の口縁部で、口径は28cm。外器面は磨耗が甚だしい。26は口径23.6cmの甕口縁部である。27は甕の口縁～胴部である。口径は29.5cm。突帯をもち、外器面にはススが付着している。ＳＣ０５出土遺物が接合している。28は甕の口縁部。外器面にススあり。口径は25.4cmを測る。29は甕の口縁部で、口径23.8cm。30は甕口縁部。口径25.4cm。31は甕の口縁部。口径25.2cmを測る。32は甕の口縁部。33は甕の口縁部で、口径が21.2cm。34は甕。口径26cm、底径5.8cm、器高30.5cmを測る。35は甕の底部。底径は7.3cm。36も甕底部。7.7cmの底径である。37は底径6.4cmを測る甕の底部である。38も甕底部で、底径は７cm。39も甕底部で6.4cmの底径。40も甕底部。底径6.2cmを測る。41は壷の口縁部である。口径は28.6cm。胎土は白っぽい。42は壷の肩部に相当するか。43は壷の底部か。底径は7.9cm。44は壷の底部か。底径９cm。45は底径7.6cmの壷底部。

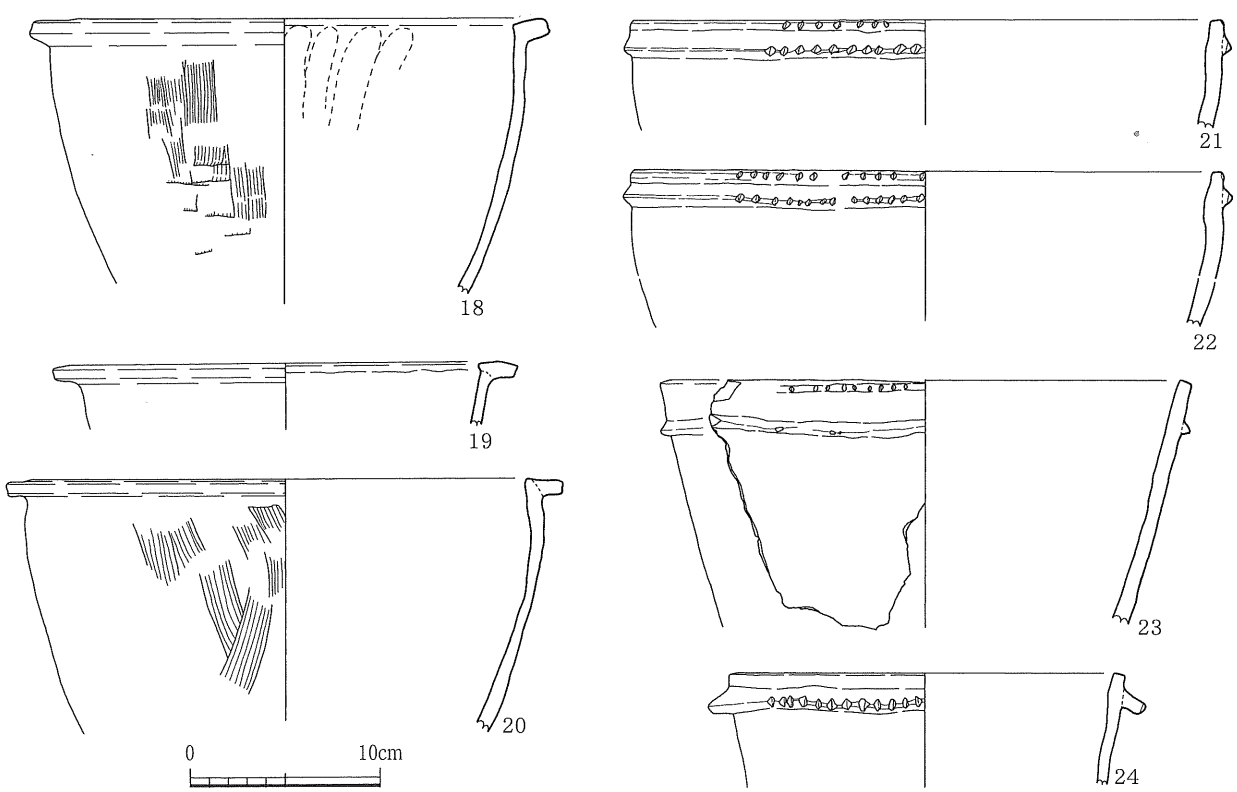
４号竪穴住居跡（ＳＡ０４：第19～21図）

Ａ－Ⅸ－d区に位置する。南側半分は調査区外であった。Ｅ－W4.2mを測る。検出面からの深度は約20cm。ＳＤ０４と切りあっているが、ＳＡ０４→ＳＤ０４の時期差がある。

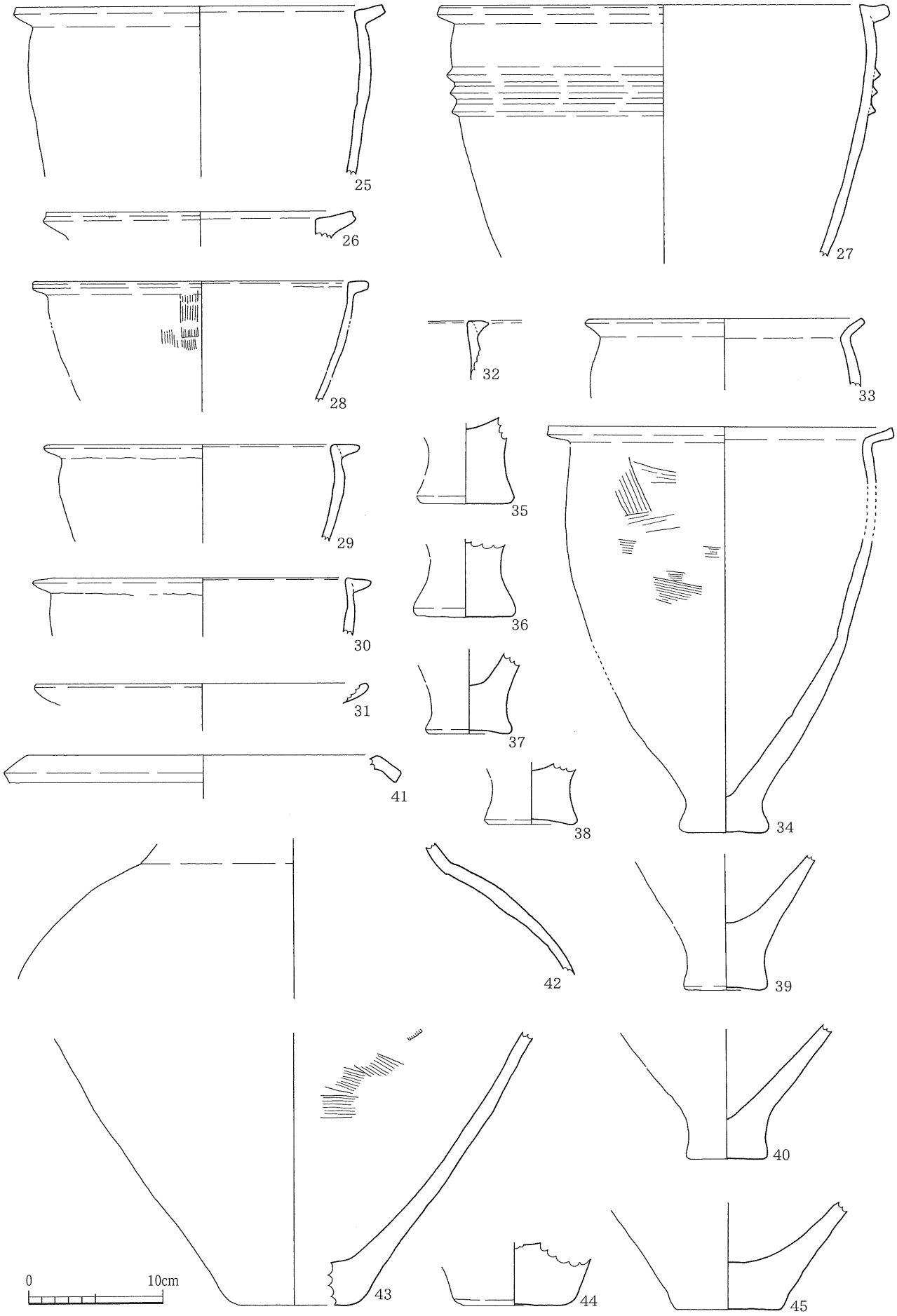
出土遺物は第20・21図のとおりである。46は甕の口縁部。口径25cmで、キンウンモを胎土に含む。47は甕の口縁部で、突帯をもつ。口径は25cmで、胎土にキンウンモあり。48は口径28.6cmを測る甕の口縁部。突帯がある。49も突帯をもつ甕の口縁部である。口径は20.3cmを測る。50・51は甕の口縁部。52・53・55は胎土にキンウンモを含む甕底部。口径は52が7.2cm、53が7.8cm、55が7.8cmである。54は口径7.4cmを測る甕底部。57～68は甕の口縁部。57・58は刻目突帯を伴い、58の口径は17.4cmを測る。59は内外ともに磨耗しており、25cmの口径。60は口径が25.8cm。61は刻目突帯をもち、外器面は磨耗している。口径は41.2cm。62の口径は22.3cm。63は23.6cmの口径がある。64は大甕の口縁部。



第16図　ＳＡ０３実測図



第17図　ＳＡ０３内出土遺物実測図（１）



第18図　ＳＡ０３内出土遺物実測図（３）

突帯をもつ。67は胎土にキンウンモを含む。69は把手状のもの。70は口径24.2cmを測る壷の口縁部。71は蓋か。口径21cmを測る。外器面にはミガキがみられる。72は甕の底部。底径8cm。73は壷の底部か。底径8.6cmで、内器面は磨耗している。74は甕の底部か。底径7.2cmで、外器面にはハケメもみられる。75は底径８cmの壷底部か。76の底部は径7.2cmで、胎土にキンウンモを含む。77の底部は径８cm。78は磨製石鏃。

５号竪穴住居跡（ＳＡ０５：第22・23図）

ＳＡ０５はＢ－XII－c～d区、調査区壁際にあり、南側半分は確認できていない。Ｅ－W6.2mを測り、検出面からの深度は約20cm。形状は不定で、花弁状のようにもみえる。主柱穴は明確ではない。

79は甕の口縁部。口径11.4cmを測る。80は瀬戸内系凹線文壷の口縁部。口径は10.3cm。81は甕底部で、5.3cmの底径。

６号竪穴住居跡（ＳＡ０６：第24・25図）

ＳＡ０６はＢ－IX－a区にある。Ｎ－Ｓ3.7m、Ｅ－W2.8mの小型住居である。方形状を呈し、検出面からの深度は20cm弱である。中央を現代の排水溝によって破壊されている。

82～86は甕の口縁部である。全ての胎土にキンウンモが含まれる。87は甕の底部か。底径６cmを測り、胎土にはキンウンモが含まれる。88は胴部片である。胎土にキンウンモを含み、突帯を有する。89は甕の口縁～胴部。外器面にはハケメがみられ、口径は26.8cmを測る。胎土にキンウンモあり。90～94は甕口縁部。90・92は胎土にキンウンモを含む。口径は90が20.8cm、93が19.2cmである。95は壷の口縁部である。口径は18.2cmを測る。96は壷肩部。97は壷頸部。98は甕底部。底径7.2cm。99は壷底部か。底径7.2cm。

７号竪穴住居跡（ＳＡ０７：第26～28図）

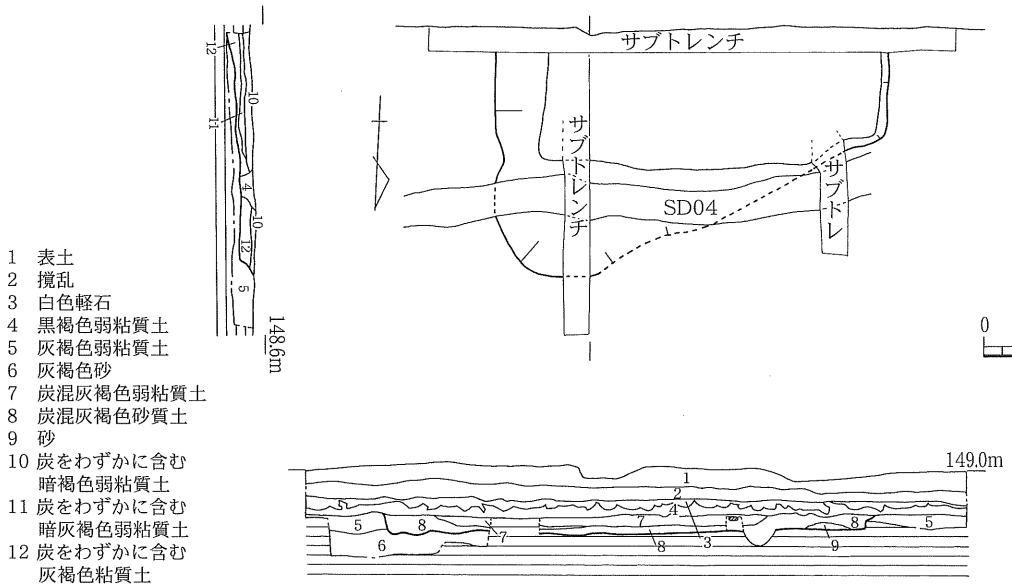
ＳＡ０７はＢ－Ｖ－c区で検出した。Ｎ－Ｓ4.36m、Ｅ－W3.12mを測る、方形の住居で、ＳＡ06と同様にやや小型のものである。中央部分を排水路によって破壊を受けているが、残存状態は良好といってよい。

第27・28図に出土遺物を掲載した。100～105、107・108は甕の口縁部である。100・105は胎土にキンウンモを含む。口径は107が20cm、108が24.8cmを測る。106は口縁部。109は甕の口縁～胴部。口径は30.2cmを測る。110は胴部。突帯をもつ。111は壷の頸部。112～114・116は甕底部。底径は112が7.5cm、113が５cm、114が8.8cm、116が6.2cmを測る。115は底部で、８cmの底径。117の底部は、底径8.1cmで、胎土にキンウンモを含む。118は擦石。119は壷の口縁～胴部。口径18.6cmを測り、突帯をもつ。120は壷の胴部。突帯を有する。121は壷口縁部。胎土にはキンウンモあり。122は敲石。123は擦石。

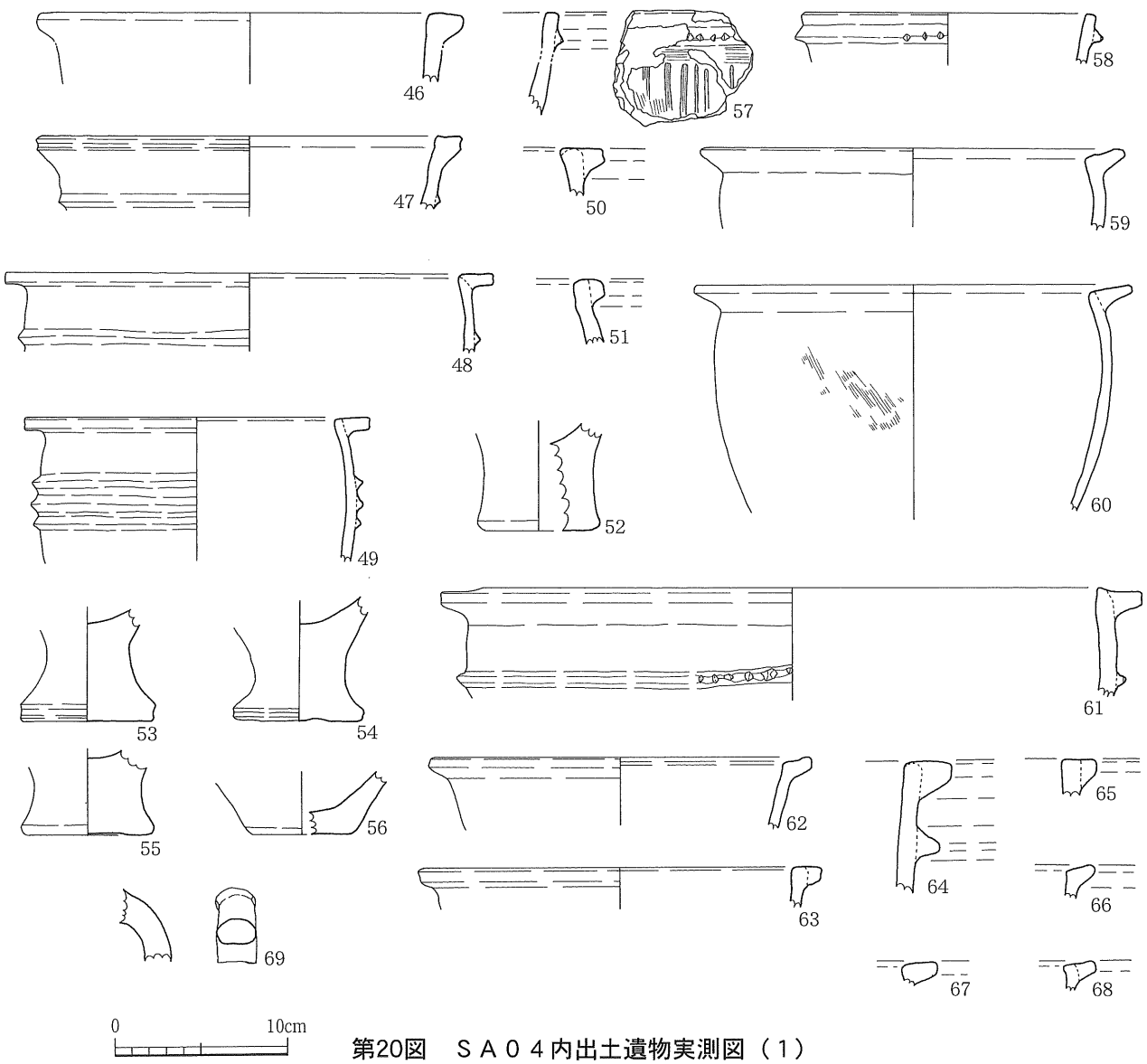
８号竪穴住居跡（ＳＡ０８：第29～31図）

ＳＡ０８は、Ｂ－Ｖ－a・e区で確認した。Ｎ－Ｓ3.5m、Ｅ－W4.9mを測る楕円状の住居である。検出面からの深度は20cm。主柱穴は不明瞭である。

出土遺物は第30・31図124～155である。124～127は胎土にキンウンモを含む甕の口縁部である。124は口径35.2cmである。128は胴部。突帯をもち、胎土にはキンウンモが含まれる。129は底部。底径は6.8cmで、胎土にはキンウンモがみられる。130は甕の底部。胎土にキンウンモあり。口径は7.7cm。131～136は甕の口縁部。132・134は胎土にキンウンモを含む。134は大甕か。136はススが付着している。137・138は壷の口縁部。139は甕口縁部。140～144は甕底部。底径は140が6.5cm、141が8.4cm、142が６cm、143が7.5cm、144が６cm。143は胎土にキンウンモが含まれる。145の底部は8.2cmの径。146は敲石か。147～153は甕口縁部。口径は147が32.4cm、148が28cm、149が24cm、150が



第19図　ＳＡ０４実測図



第20図　ＳＡ０４内出土遺物実測図（１）

22.6cm、151が27.8cm、152が27.4cm、153が26.8cmである。148の胎土にはキンウンモがある。152・153がともに突帯をもつ。154は壷。胴部から底部近くにかけての部位である。胴部のもっとも張り出したあたりかと思われるが、そこに突帯を施し、その下には丸状の突起を貼付している。外器面にはミガキが施され、内器面にはハケメがみられる。155は石器か。

9号竪穴住居跡（ＳＡ０９：第32・33図）

ＳＡ０９は、南側が調査区外。Ｂ－Ⅸ－d区にある。検出面から床面までの比高差は20cm弱を測る。住居の１辺は6.7m。主柱穴は確認できていない。方形状を呈すると思われる。中央部分では浅い土坑が確認された。

第33図162～171が出土遺物である。162・163は甕の口縁～胴部。口径は162が18.2cm、163が21.6cm。162には外器面にススの付着がみられる。164・165は甕の口縁部。166は口縁部。167は高坏の底部か。168は甕の胴部。突帯あり。169の胴部は刻目突帯をもつ。170・171は底部。170は甕。171は胎土にキンウンモあり。底径は170が8.2cm、171が6.5cmを測る。

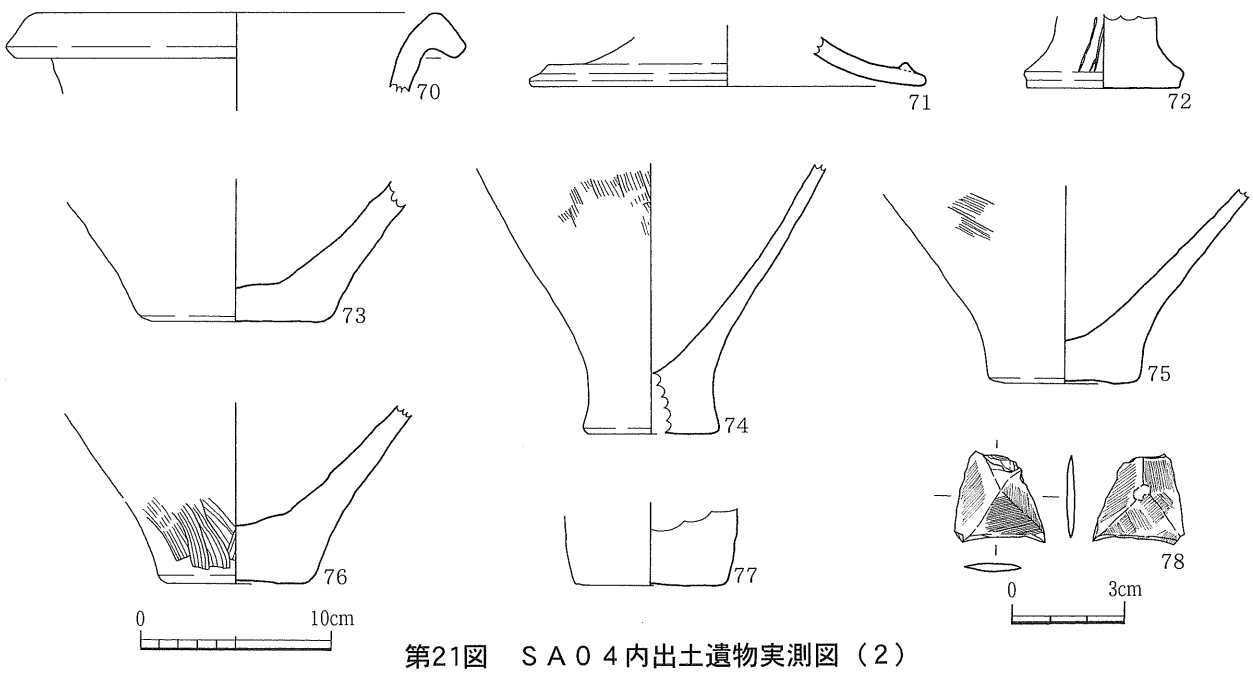
10号竪穴住居跡（ＳＡ10：第34・35図）

ＳＡ10はＡ－Ⅴ－d・Ａ－Ⅷ－b区で検出した。不定の方形状を呈し、Ｎ－Ｓ5.2m、Ｅ－W5.1mを測る。主柱穴は明確でない。３穴か。検出面から床面までの比高差は30cm強。

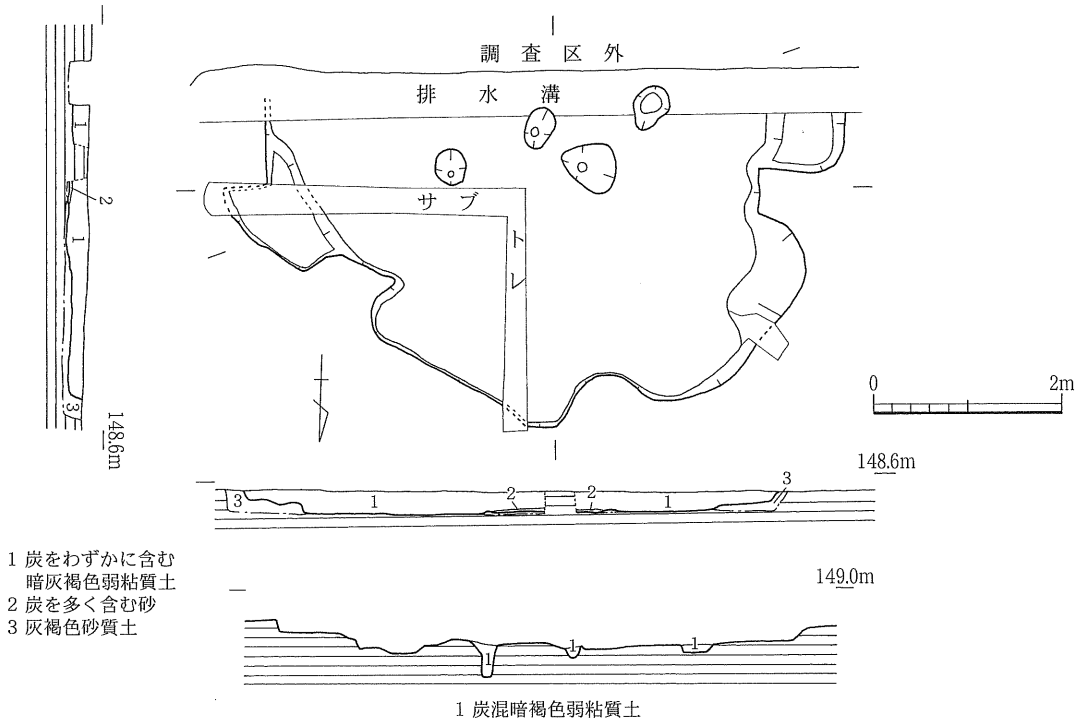
出土遺物は第35図172～181に示した。172～176は甕の口縁部である。口径は172が35.4cm、173が27cm、174が18.6cm、175が33.7cmを測る。172には突帯がある。175は胎土にキンウンモを含み、突帯がある。口唇部の突帯が剥落している。177・178は口縁部。179・180は甕の底部。底径は179が8.2cm、180が7.6cm。181は底部。径は6.4cm。

11号竪穴住居跡（ＳＡ11：第36・37図）

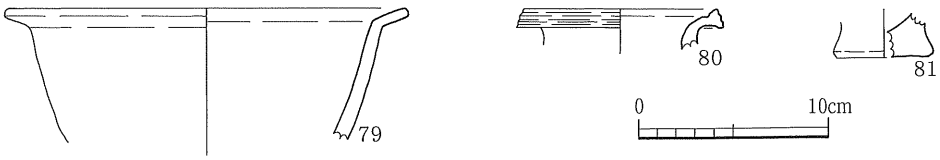
ＳＡ11はＡ－Ⅷ－b～d・Ａ－Ⅸ－a・c区で検出した。Ｎ－Ｓ約8.5m、Ｅ－W9.8mを測る、本調査区域内最大の住居跡である。検出面から床面までの比高差は50cmほどとやや深い。主柱穴は４穴か。楕円状のプラン。中央部分には土坑がある。



第21図　ＳＡ０４内出土遺物実測図（２）



第22図　ＳＡ０５実測図



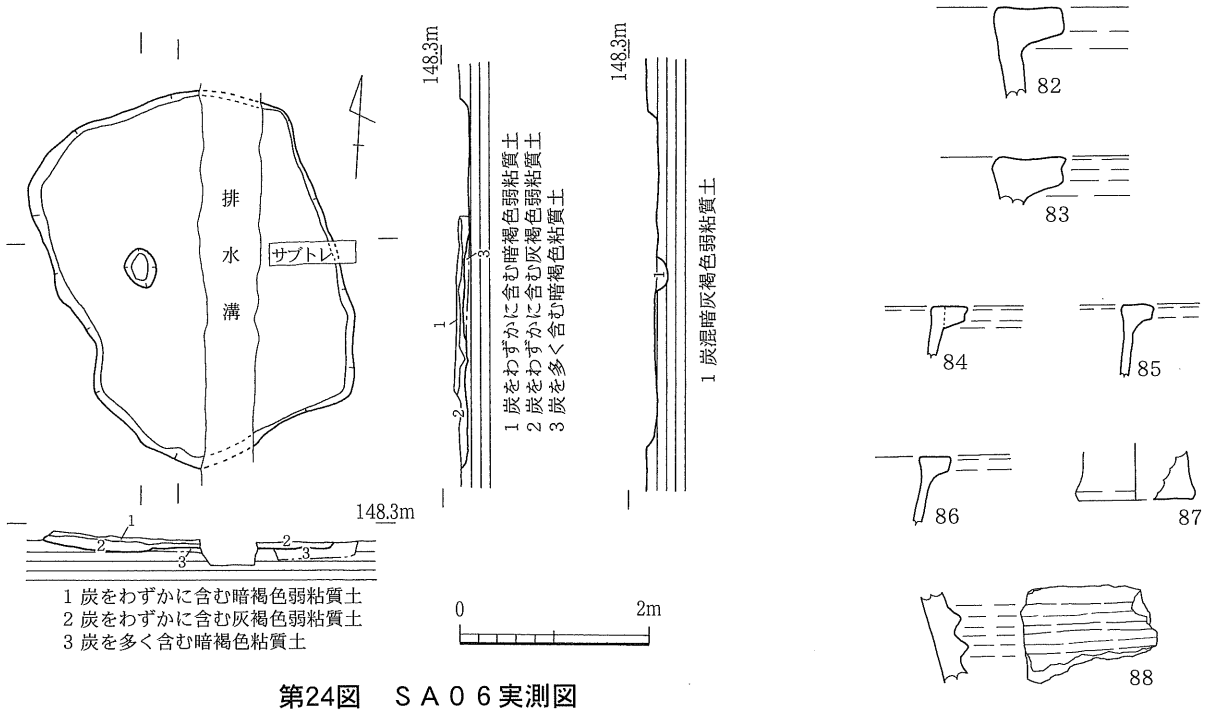
第23図　ＳＡ０５内出土遺物実測図

出土遺物は第37図182～210である。182～185は胎土にキンウンモを含む甕の口縁部である。185は突帯をもつ。186は口縁部。187は甕口縁部。188は高坏の底部か。189は甕口縁部。190は甕の口縁～胴部。口径29cmを測る。191・193は壷の口縁部。194は壷の口縁部。二叉状の口縁で、径は24.6cmを測る。刻目突帯をもつ。195は壷頸部か。突帯あり。196は突帯をもつ壷頸部。197は突帯のある壷胴部。198は高坏脚部か。199は高坏底部か。200は胎土にキンウンモを含む底部。201～203は甕底部。201は外器面にハケメあり。底径は201が6.8cm、202が6.5cm、203が4.5cm。204～206は底部。径は204・205がともに６cm、206が7.2cmを測る。207～210は石製品。207には擦痕がみられる。208・209は石包丁片。

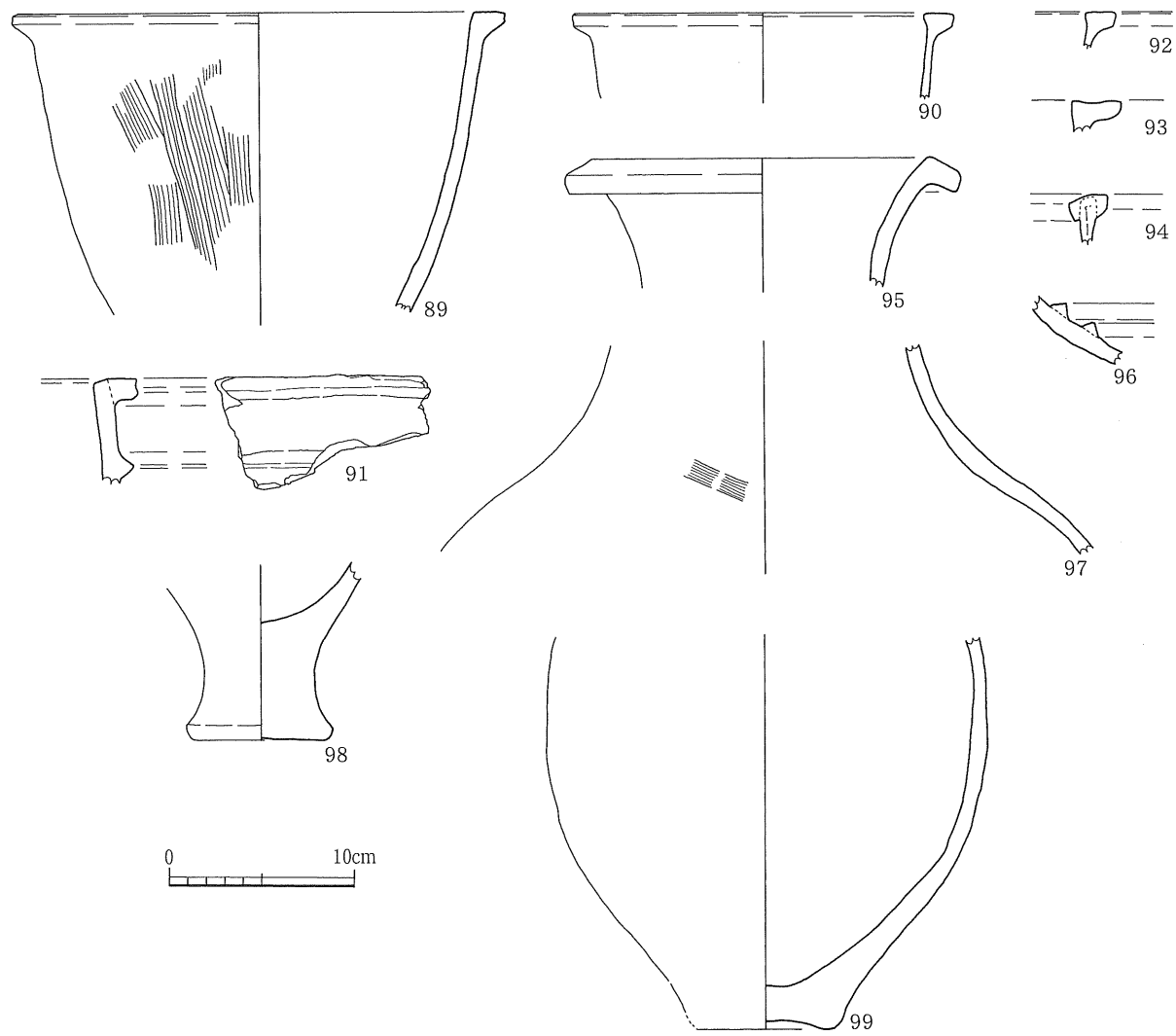
12号竪穴住居跡（ＳＡ12：第38～40図）

ＳＡ12はＳＡ11の西隣、Ａ－Ⅷ－a・c区で確認した。Ｎ－Ｓ6.2m、Ｅ－W6.3mを測り、楕円形状を呈する。主柱穴は4穴と思われる。検出面から床面までの比高差は約40cmと比較的深い。中央部分に土坑があった。

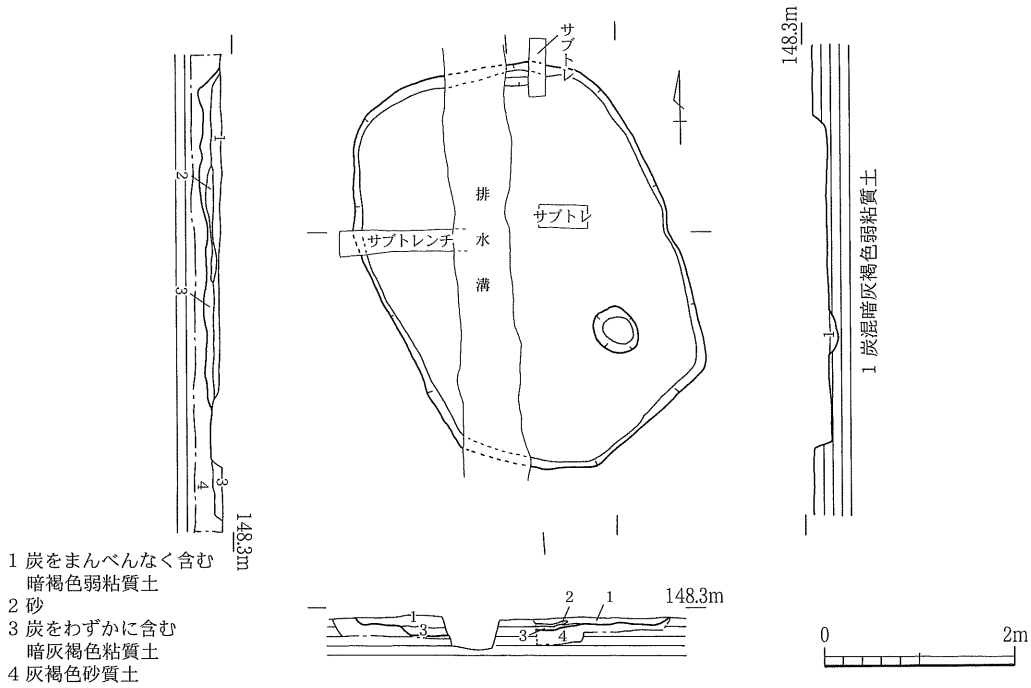
出土遺物は第39・40図の211～243である。211～213は壷の口縁部である。口径は211が29.8cm、212が18cm、213が18.6cmを測る。214は壷頸部。刻目突帯をもち、外器面にはススが付着する。215は突帯をもつ壷の胴部。216・217は壷の底部か。双方ともに胎土にキンウンモを含む。径は216が4.7cm、217が4.2cm。217～226は甕の口縁部である。227・230は口縁部。228は甕の口縁部か。刻目突帯がある。229は甕口縁部。突帯あり。231の胴部は刻目突帯をもち、外器面にススが付着している。232はミニチュア土器。233は擦石か。234は甕。口径28.6～33cm、底径11.7cm、器高31.8～32.2cmを測る。235は甕の口縁～胴部。胎土にキンウンモを含む。口径は22.9～26.7cm。236の甕口縁部は口径26.4cm。237～243は甕底部。径は237が6.7cm、238が7.2cm、239が6.8cm、240が6.1cm、241が



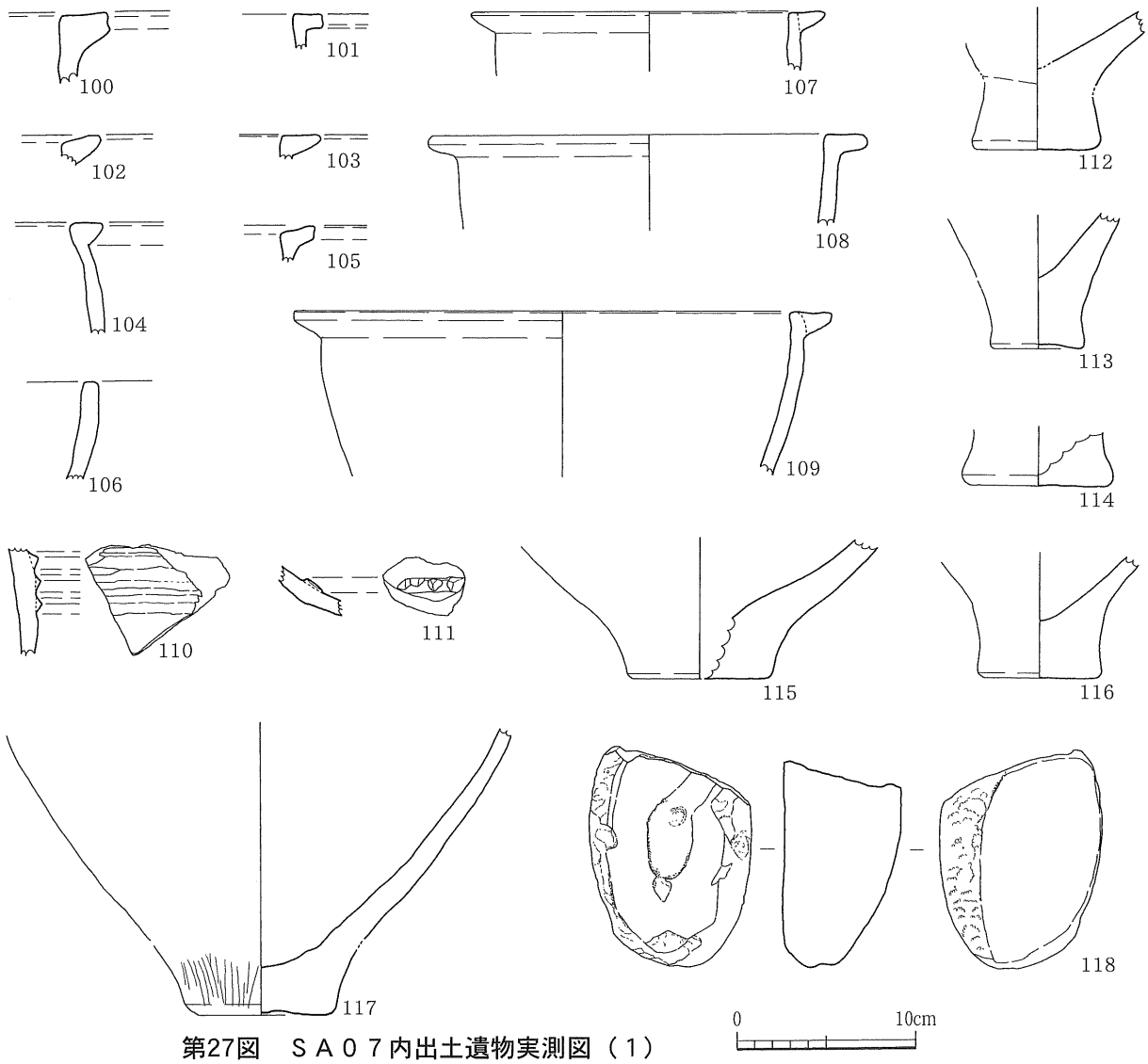
第24図　ＳＡ０６実測図



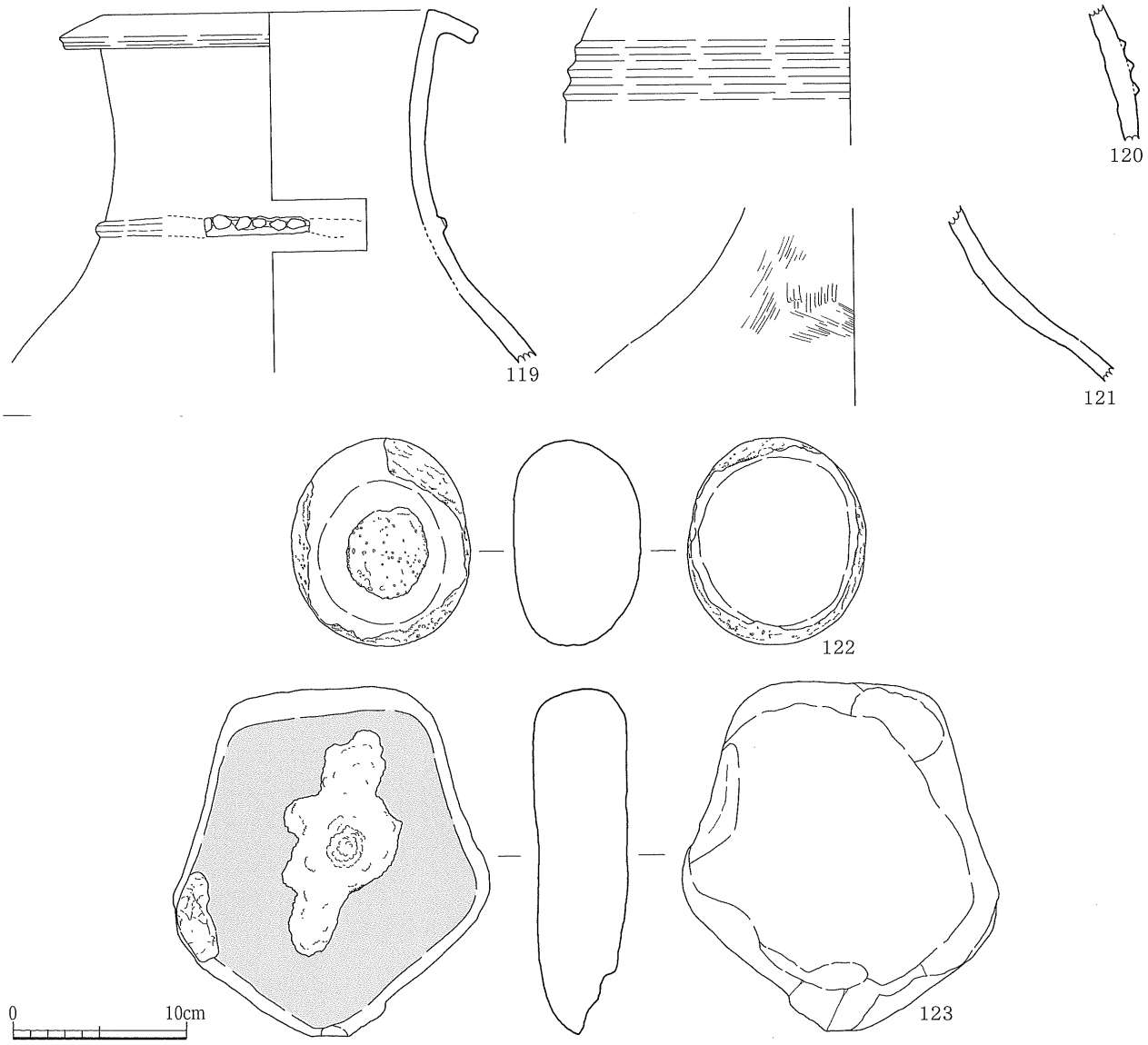
第25図　ＳＡ０６内出土遺物実測図



第26図　ＳＡ０７実測図



第27図　ＳＡ０７内出土遺物実測図（１）



第28図　ＳＡ０７内出土遺物実測図（２）

7.6cm、242が6.4cm、243が5cmを測る。238・239・243は胎土にキンウンモを含む。

14号竪穴住居跡（ＳＡ14：第41図）

ＳＡ14はＡ－Ｖ－c・d区、ＳＡ11の北側にある。Ｎ－Ｓ2.7m、Ｅ－W4.2mを測る、方形プランの住居跡である。検出面から床面までの比高差は25cm弱を測る。ＳＡ06・07と同様にやや小型の部類か。

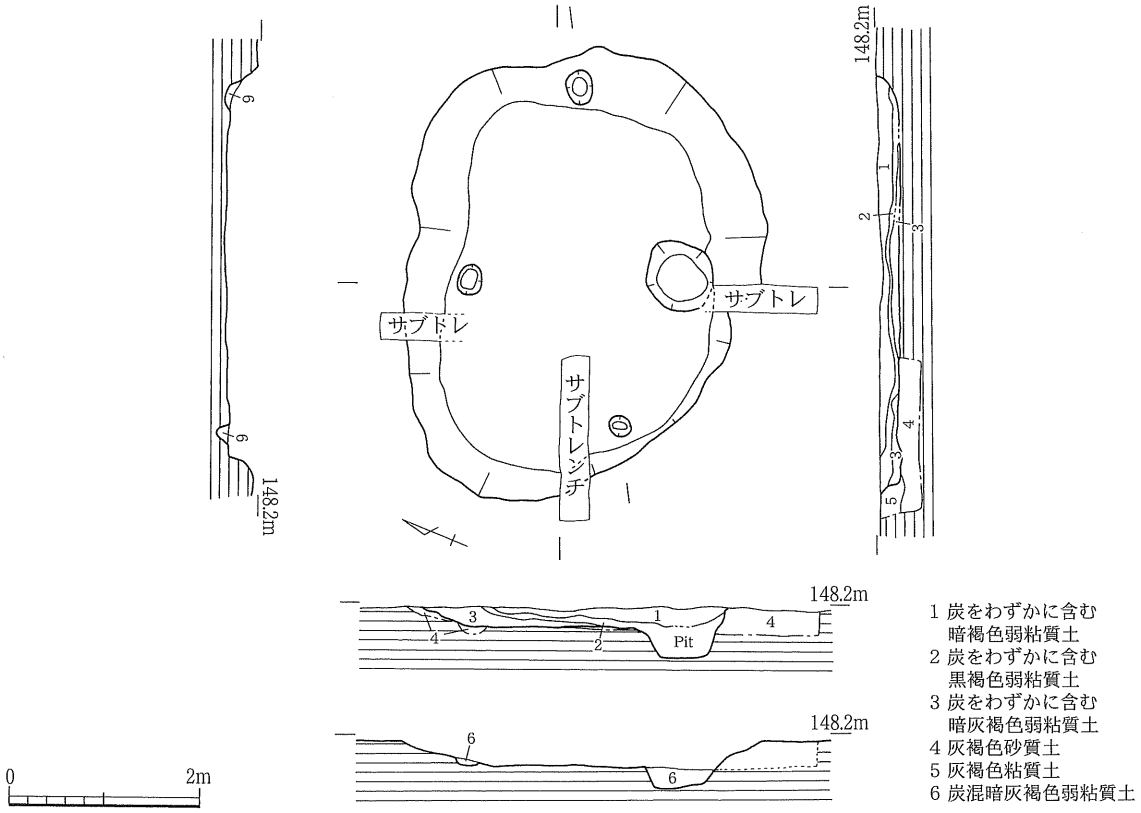
15号竪穴住居跡（ＳＡ15：第41図）

ＳＡ15は、Ａ調査区の東側に、南北に細長く設定した大型トレンチ（３トレンチ）の南側で確認した。西側半分は調査区外。１辺3.24m。検出面から床面までの比高差は25cmほど。

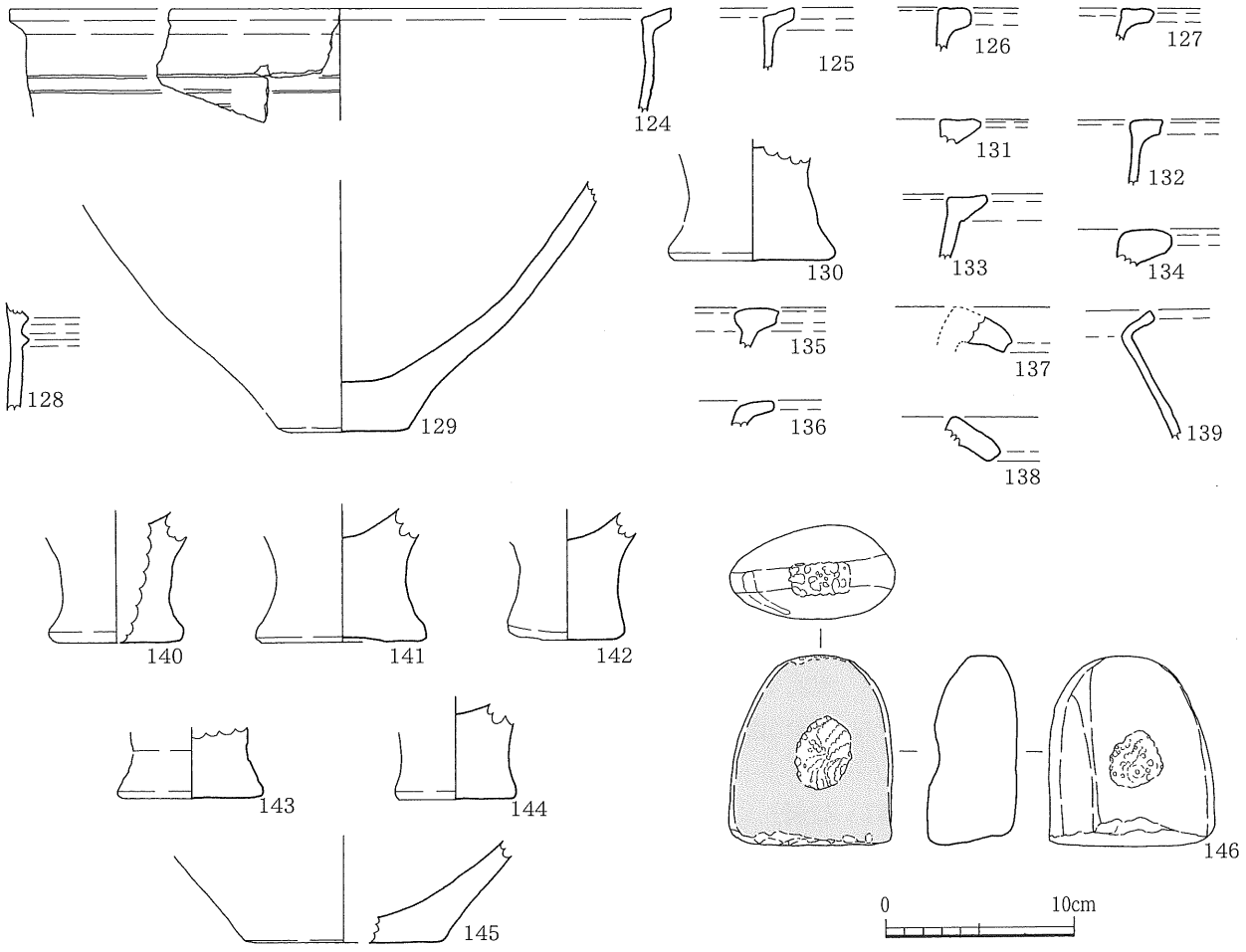
16号竪穴住居跡（ＳＡ16：第41・42図）

ＳＡ16は、Ｃ－Ｉ－a・b区、北壁際で確認した。大部分は調査区外。Ｅ－W4mか。検出面から床面までの比高差は約30cm。

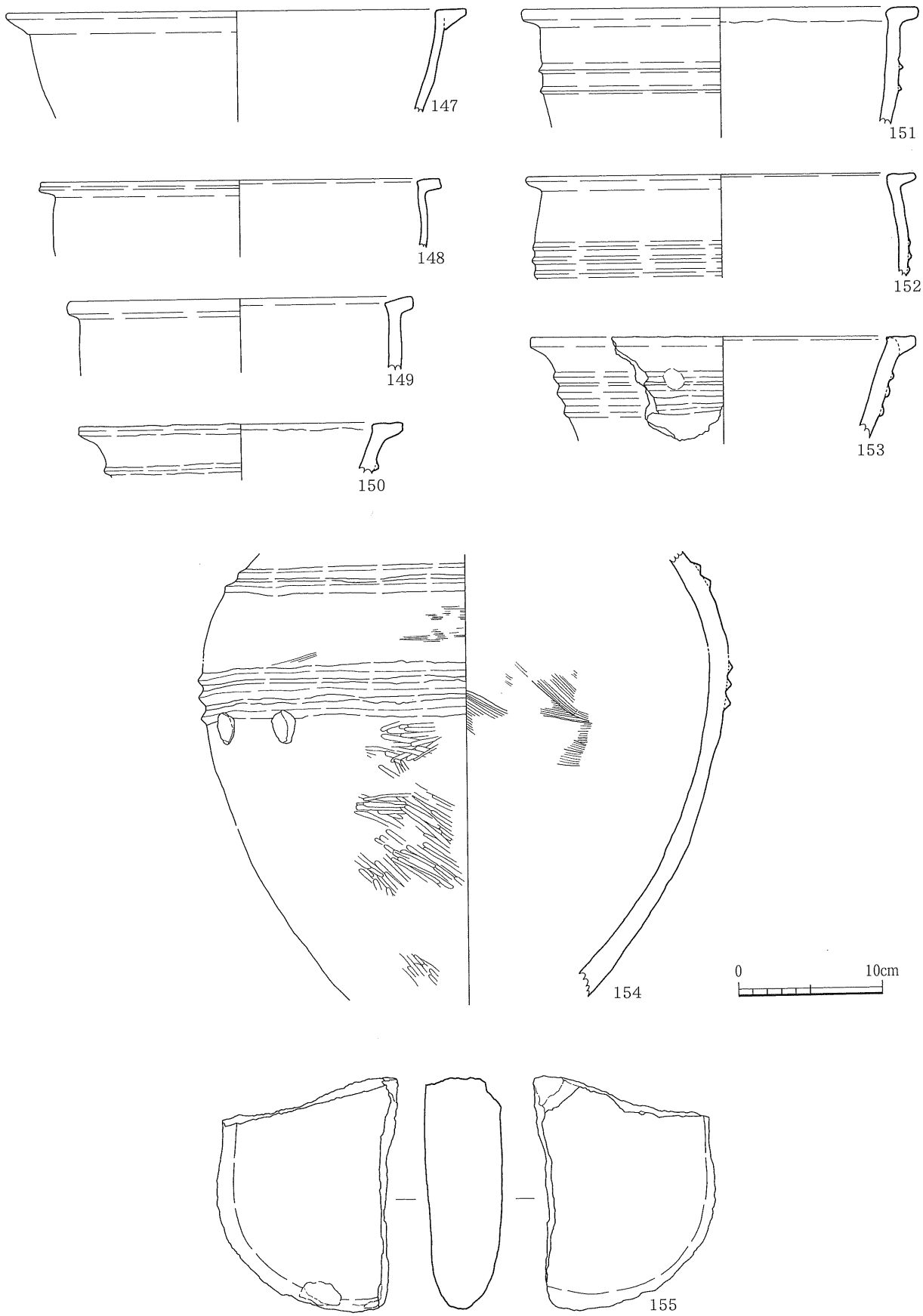
出土遺物を第42図に掲げた。244～246は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。突帯を有する。244の口径は29.9cm。247・248は甕底部。ともに胎土にキンウンモあり。径は247が6.8cm、248が6.7cmであ



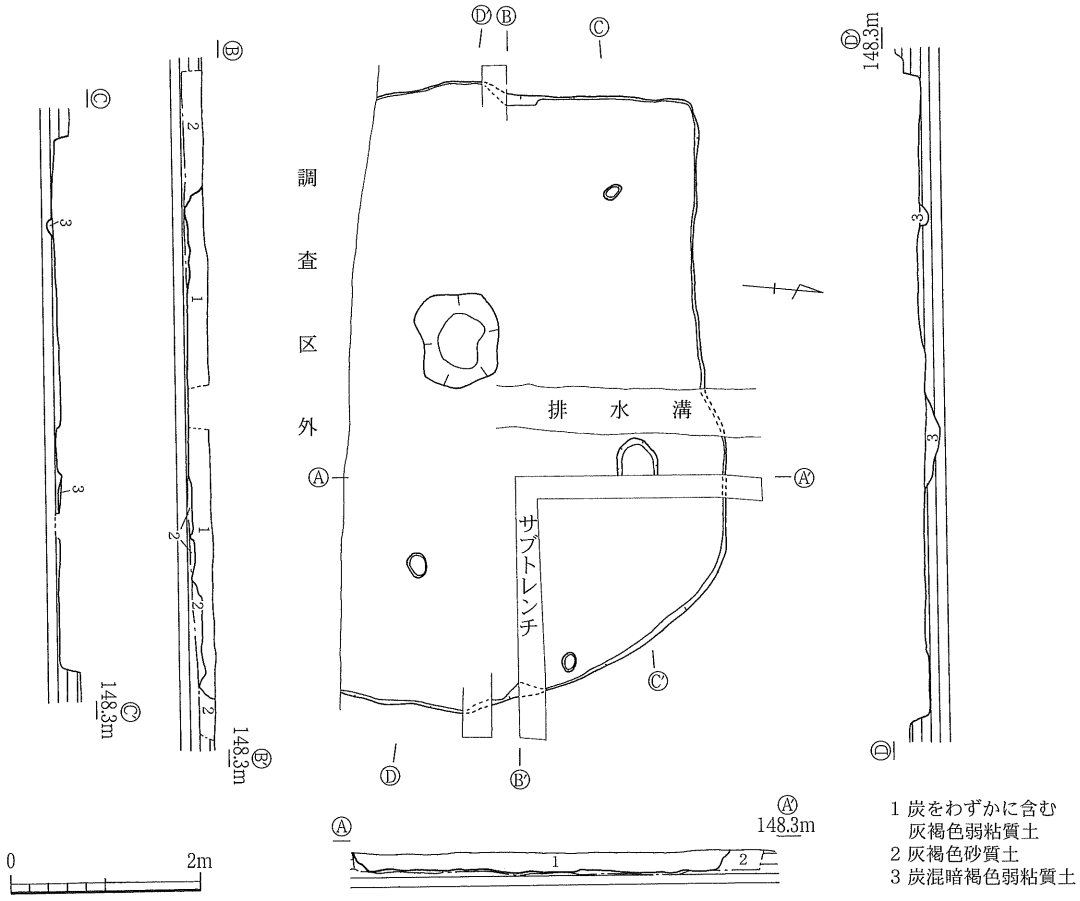
第29図　ＳＡ０８実測図



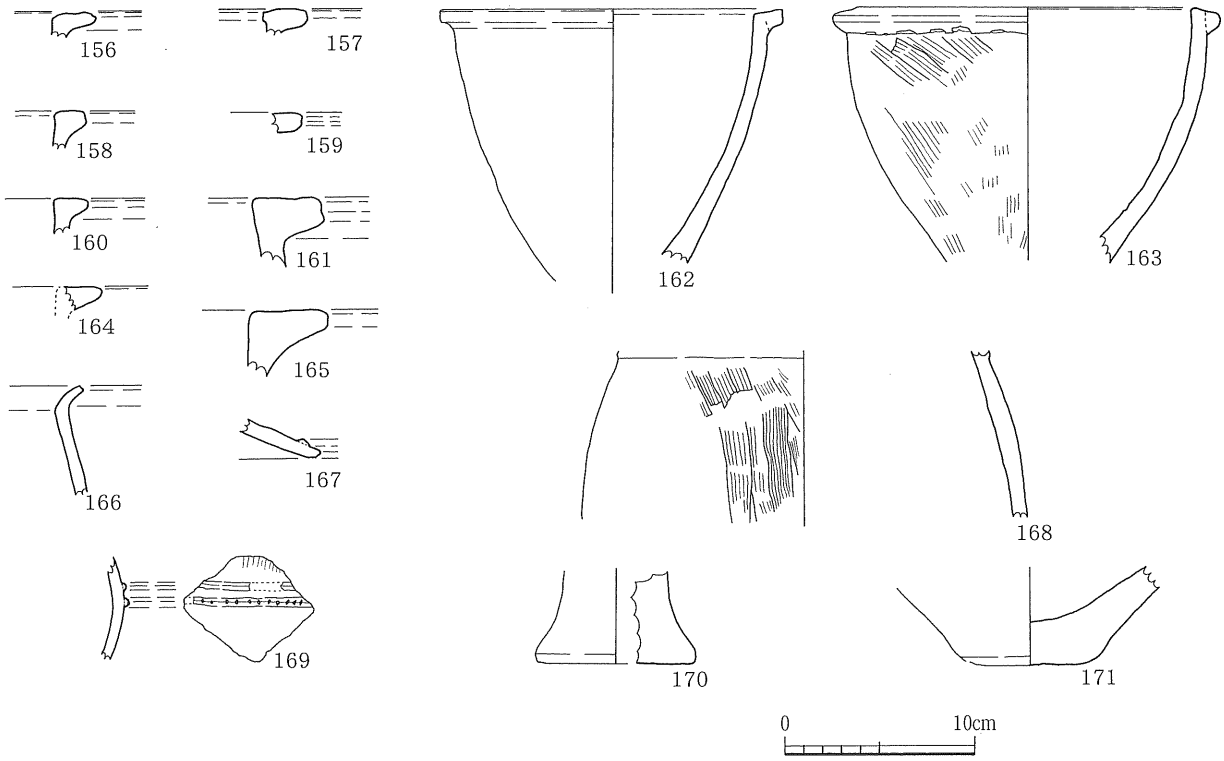
第30図　ＳＡ０８内出土遺物実測図（１）



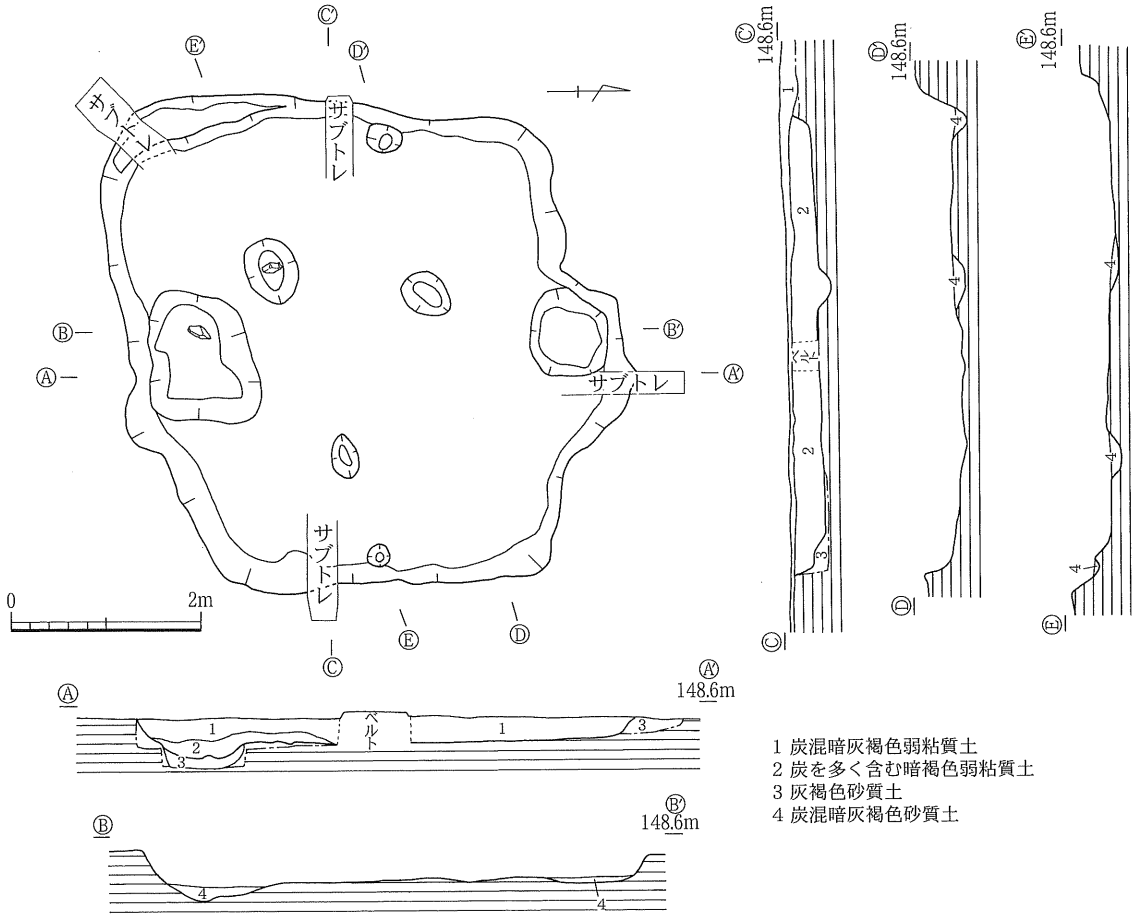
第31図　ＳＡ０８内出土遺物実測図（２）



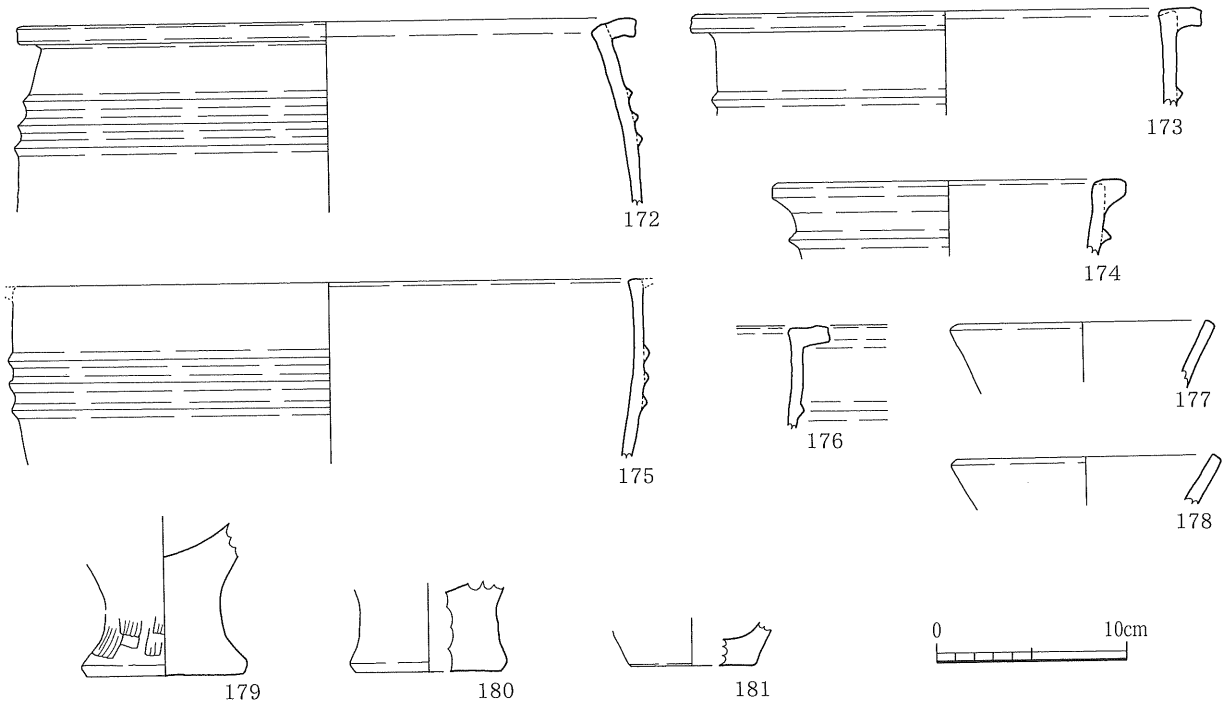
第32図　ＳＡ０９実測図



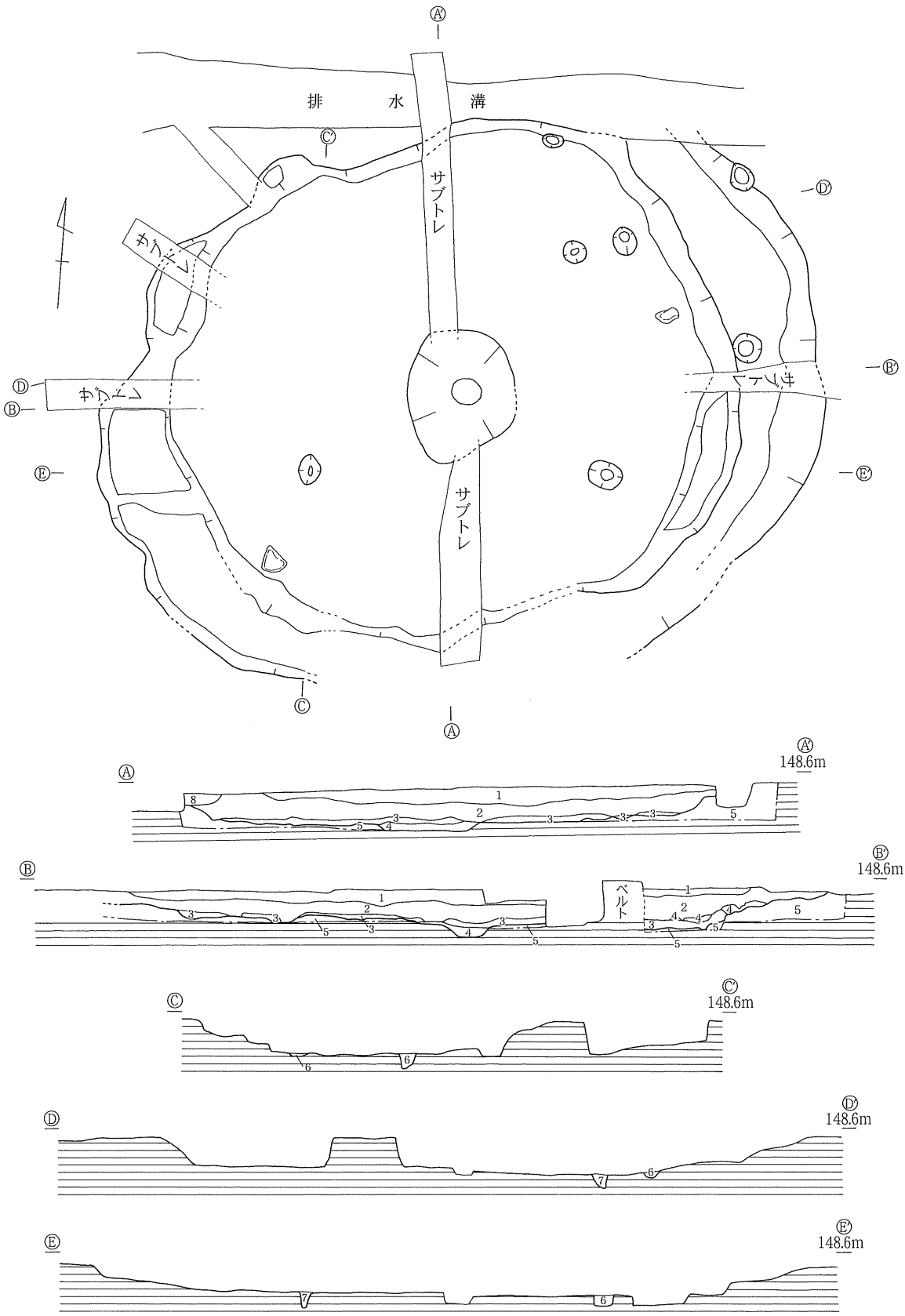
第33図　ＳＡ０９内出土遺物実測図



第34図　ＳＡ１０実測図

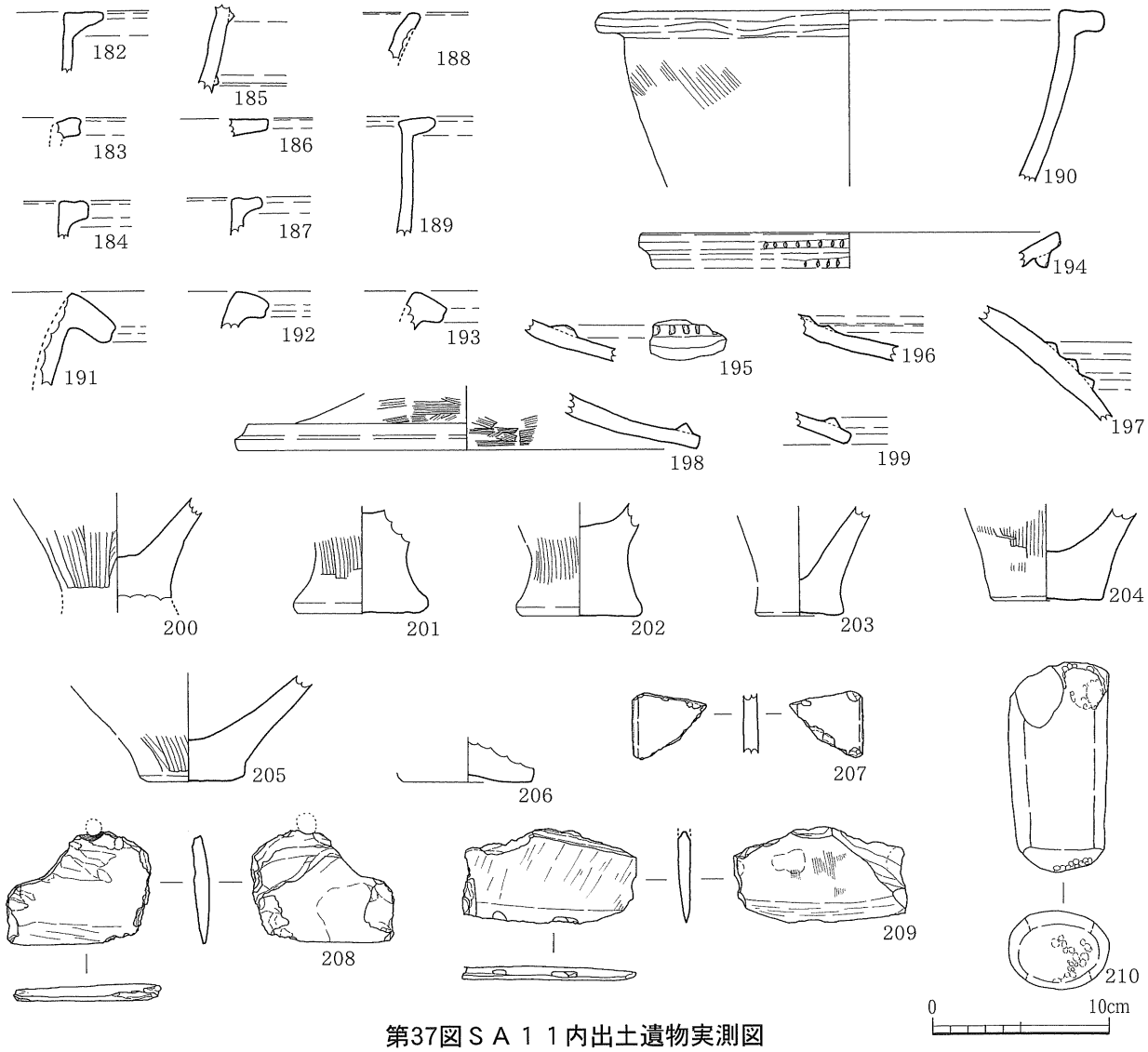


第35図　ＳＡ１０内出土遺物実測図



1 黒褐色粘質土
2 炭をわずかに含む暗褐色弱粘質土
3 炭をわずかに含む暗灰褐色弱粘質土
4 暗褐色弱粘質土
5 灰褐色砂質土
6 炭混暗褐色弱粘質土
7 炭混暗灰褐色弱粘質土
8 撹乱

第36図　ＳＡ１１実測図



第37図ＳＡ１１内出土遺物実測図

る。249は壷口縁部。胎土にはキンウンモがみられ、口唇部には据歯文が施されている。250は甕口縁部。251は大甕の胴部か。突帯がつく。252は甕の口縁～胴部である。口径46.8cm。253・254は底部。径は253が７cm、254が11cm。255は壷の口縁部。口径23cmを測る。256は壷頸部。257は壷胴部。258の底部は底径10.4cm。259は敲石か。

17号竪穴住居跡（ＳＡ17：第43・44図）

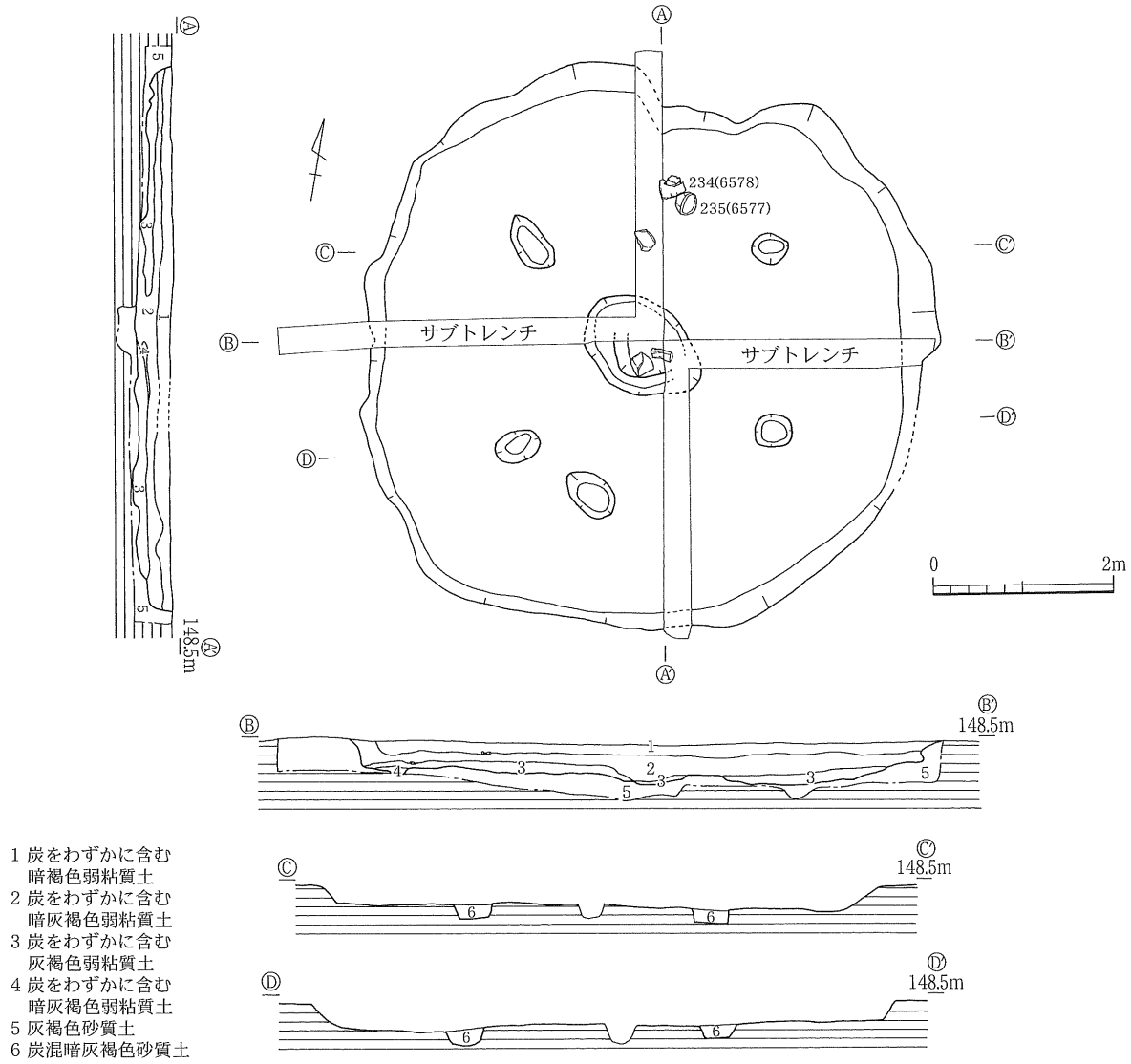
ＳＡ17はＢ区の西端、Ｂ－Ⅴ－c・f、Ｂ－Ⅸ－a・e区に位置する。大部分は調査区外。Ｎ－Ｓ9.6mを測る。主柱穴ははっきりしない。検出面から床面までの比高差は45cmほどある。

出土遺物を第44図に示した。260は底部。261は突帯をもつ壷の肩部。262は胴部か。突帯あり。263は壷の頸部であり、波状文がみられる。264は石鏃。

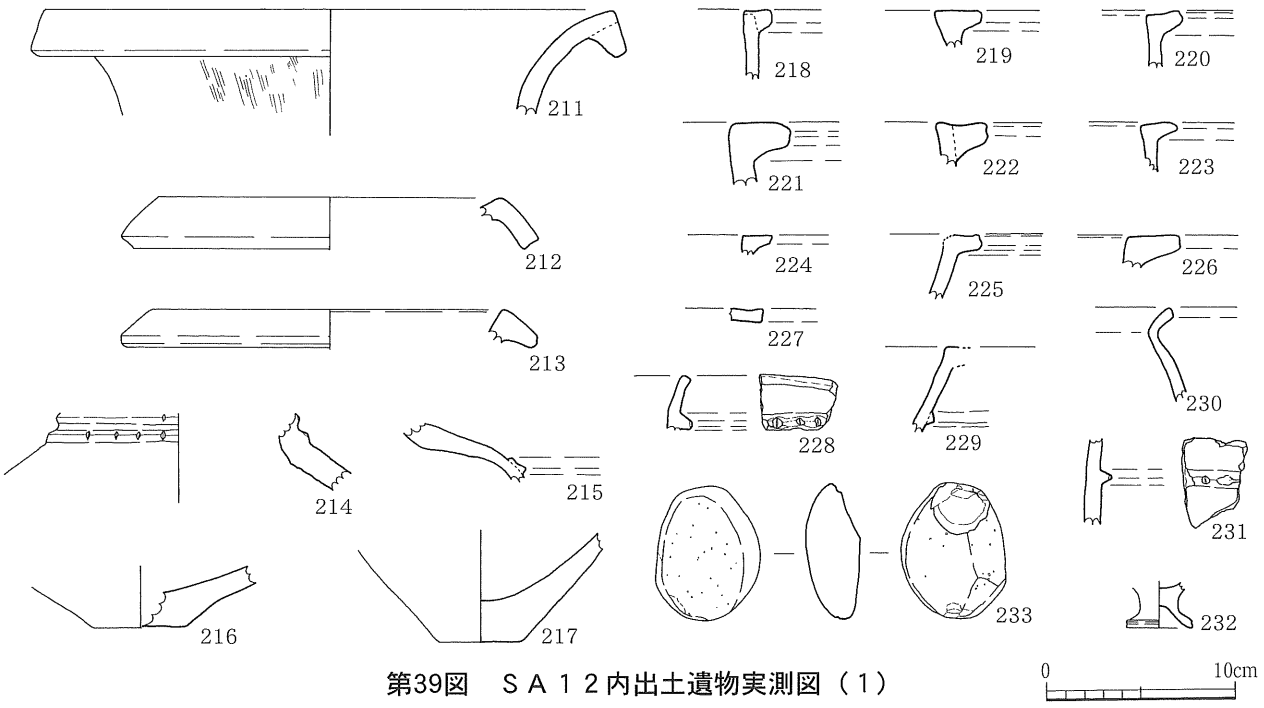
18号竪穴住居跡（ＳＡ18：第45・46図）

ＳＡ18はＡ－Ⅴ－d、Ａ－Ⅵ－c区、ＳＡ11の北側にある。Ｎ－Ｓ6.5m、Ｅ－W4.3mの不定方形（花弁か）状を呈し、検出面から床面までの比高差は20cmを測る。主柱穴は２か３かはっきりしない。中央部分を排水溝が破壊している。

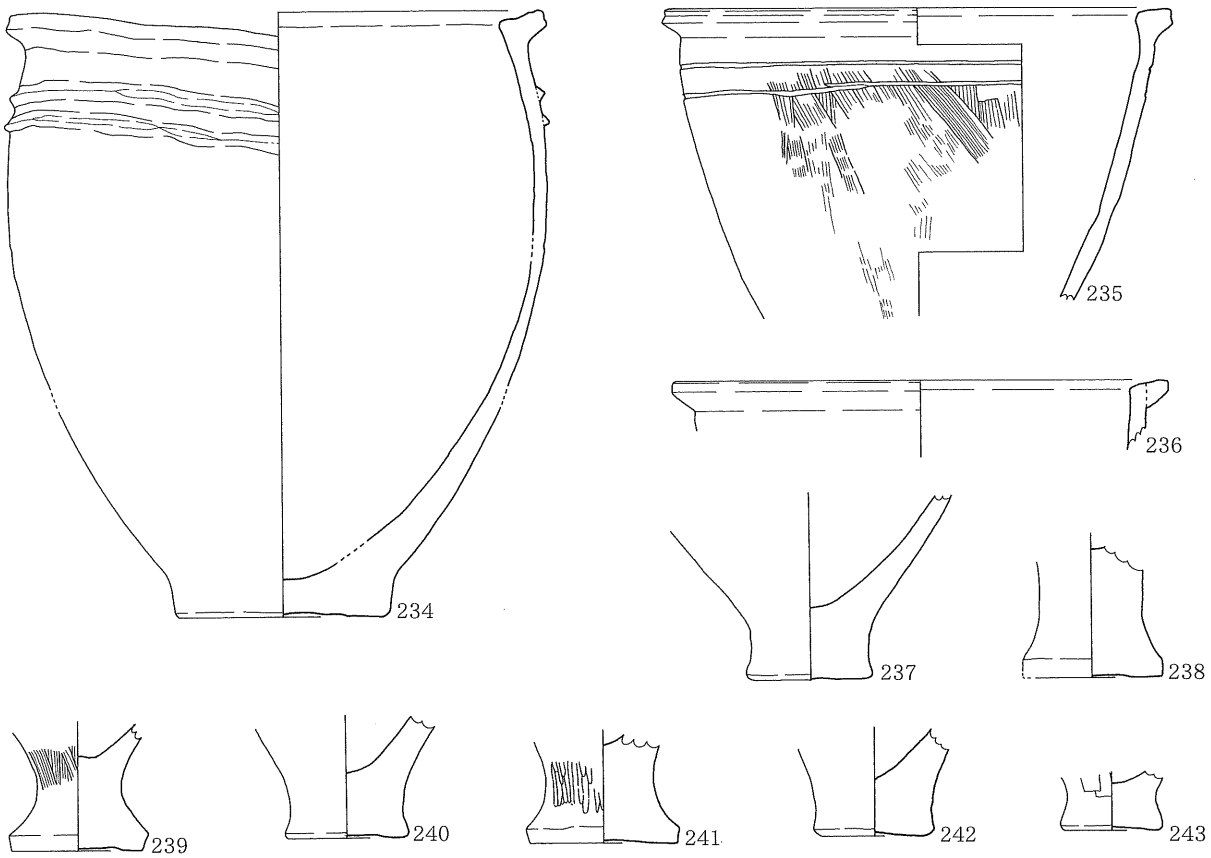
265は蓋である。胎土にはキンウンモが含まれる。口径は19.4cmを測る。266は底部。底径は5.7cm。



第38図　ＳＡ１２実測図



第39図　ＳＡ１２内出土遺物実測図（１）



第40図　ＳＡ１２内出土遺物実測図（２）　0　10cm

【掘立柱建物】

１号掘立柱建物（ＳＢ０１：第47図）

ＳＢ０１はＡ－Ⅷ－a・b区で検出した。ＳＡ０３・ＳＡ11の上に立地している。南北２間、東西３間の総柱状で、柱間隔は2.58m。柱穴の径は50cmで、検出面からの深さは40cmほどである。

２号掘立柱建物（ＳＢ０２：第47図）

ＳＢ０２はＢ－Ⅺ－a区で検出した。柱穴の径20cm、深さ30cmと大きくはないが、東西３間、南北４間以上（南側部分は後世の破壊によって明確ではない）と思われる。柱間は１m。北側には棟持柱と思われる柱穴が確認された。

【土坑】

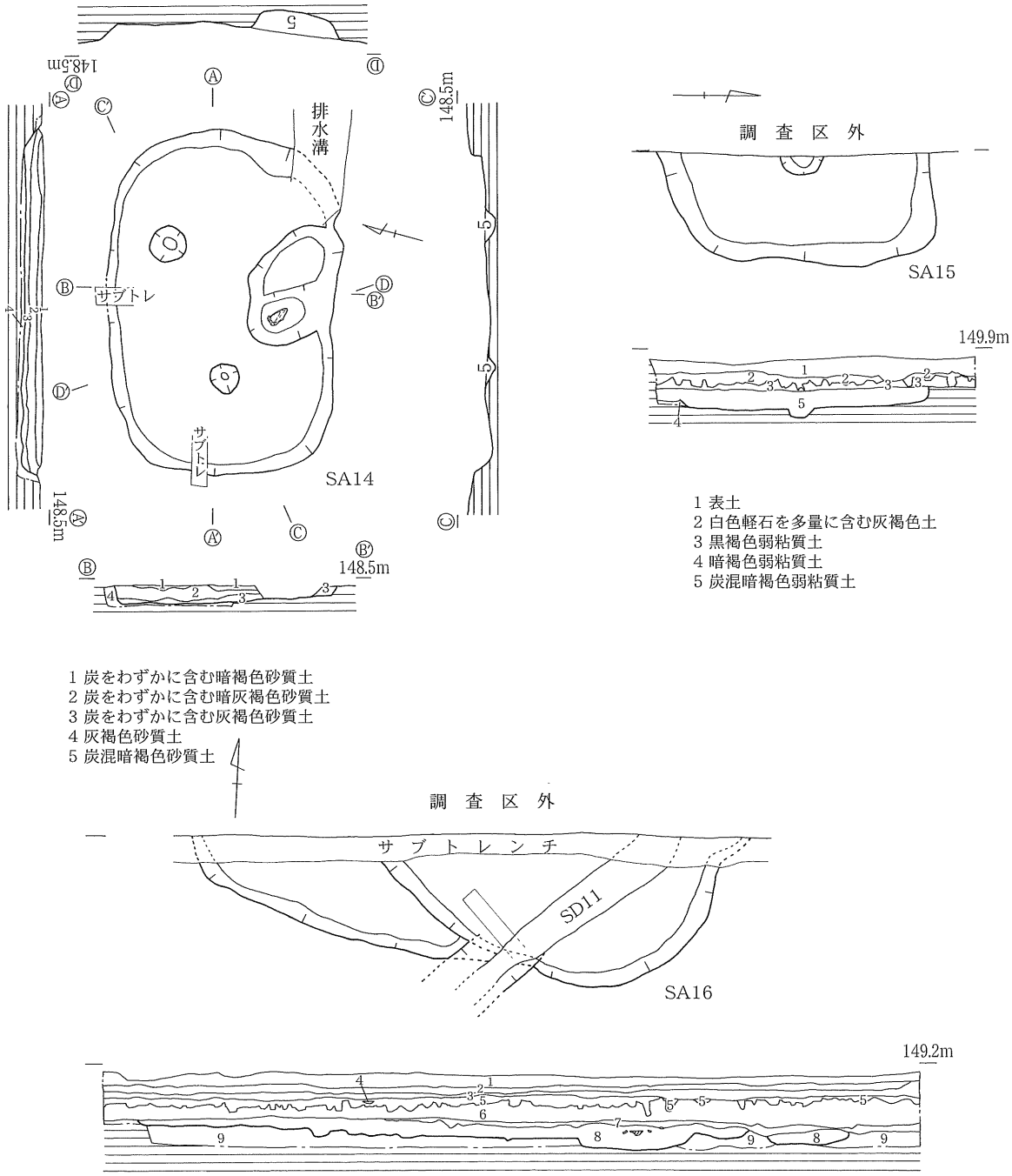
１号土坑（ＳＣ０１：第48・49図）

ＳＣ０１はＢ－Ⅴ－b区で検出した。方向軸はＳ70°Ｅで、長径1.73m、短径1.06mを測る。検出面から床面までの最大深度は５cmと浅い。楕円状を呈する。埋土は炭をわずかに含む暗褐色系土である。

第49図**267**～**270**が出土遺物である。**267**は甕の口縁～胴部である。口唇部はＬ字状を呈し、口唇はやや先細りする。３条の突帯をもつ。突帯下にはハケメがみられ、ススが付着している。口径は27.6cmである。**268**は胴部。２条の突帯あり。**269**は壷口縁部。口径28.5cmを測る。**270**は壷の頸部。外器面にはハケメがわずかにみられる。屈曲部には２条の刻目突帯を有する。

２号土坑（ＳＣ０２：第48・51図）

ＳＣ０２はＢ－Ⅰ－b区で検出した。方向軸はＮ10°Ｗで、長径1.78m、短径1.25mを測る。不定形であり、検出面から床面までの最大深度は12cmである。

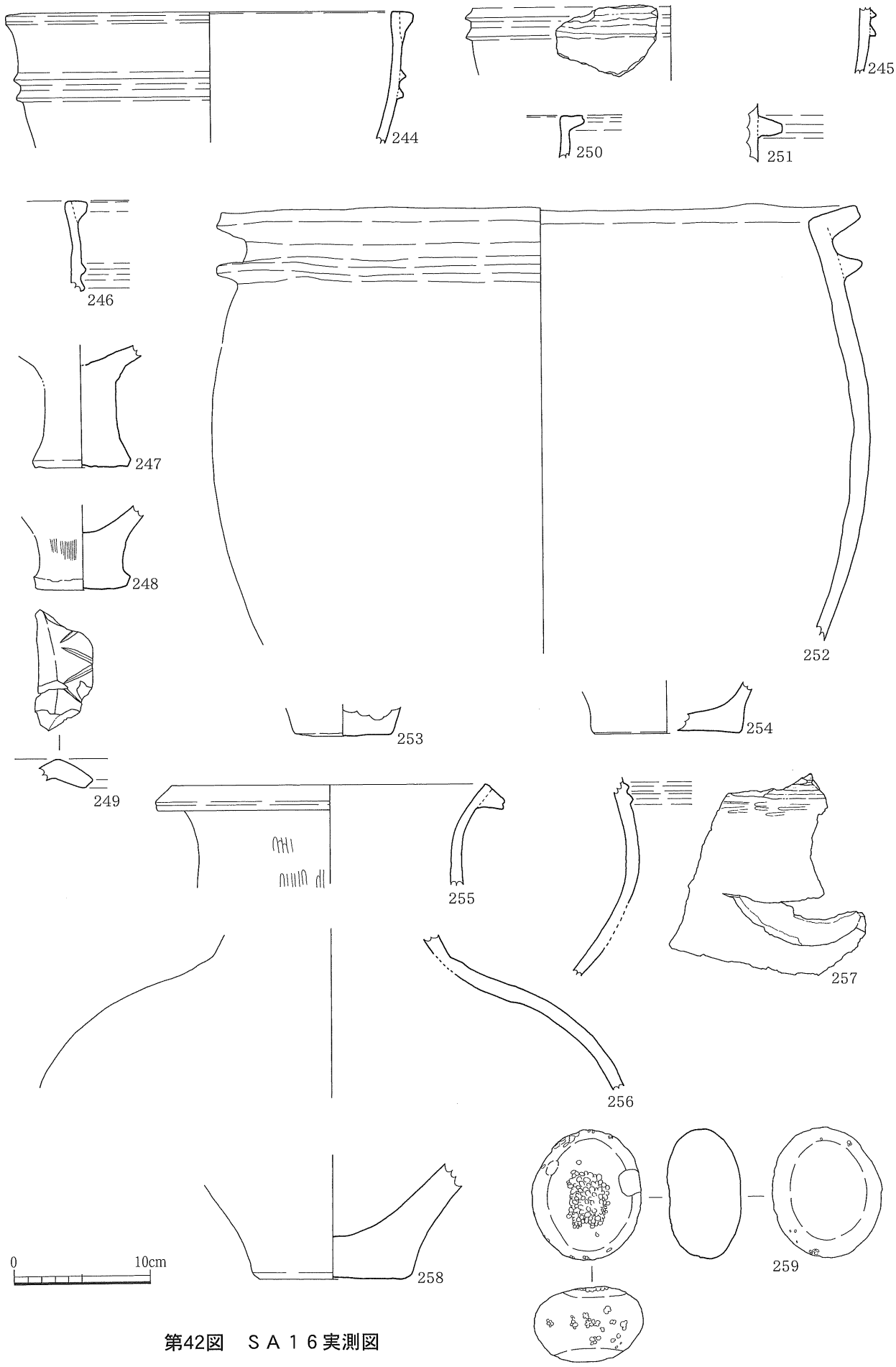


第41図　ＳＡ１４・１５・１６実測図

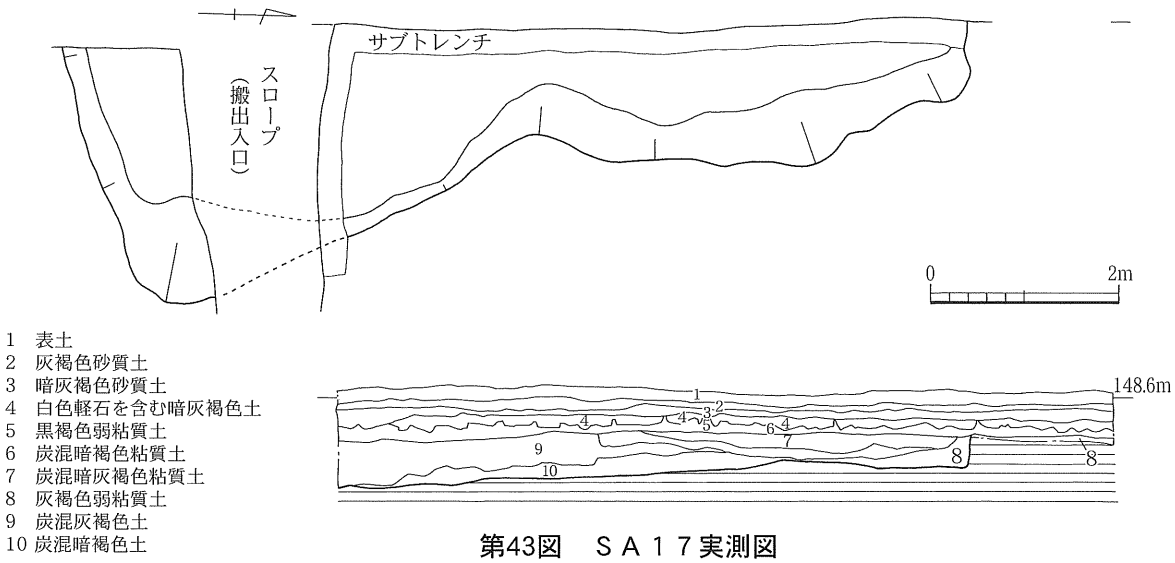
第51図271～283が出土遺物である。271～277は甕口縁部。272は口径28.9cmを測り、胎土にキンウンモを含む。275は３条の突帯がある。口縁部はやや内傾し、口唇部突帯はやや先細りする。276の口径は26.8cm。これも口縁部がやや内傾する。278は壷の口縁部か。剥落が多い。279は壷の口縁部。口唇部は垂れ下がる。胎土にはキンウンモを含む。280は甕口縁部。281は刻目突帯部。282は甕の口縁部で、胎土にキンウンモあり。283は甕底部。底径8.8cmを測り、胎土にキンウンモを含む。中実脚台。

３号土坑（ＳＣ０３：第48・51図）

ＳＣ０３はＢ－Ⅱ－b・d区で検出した。方向軸はN5°Wで、長径3.36m、短径1.92mとやや大きめで



第42図　ＳＡ１６実測図



第43図　ＳＡ１７実測図

第44図　ＳＡ１７内出土遺物実測図

ある。検出面から床面までの最大深度は55cmと深い。方円状を呈する。西側は段状になっており、テラスが形成されている。下部の埋土には灰白色の粘土質の層がみられた。

第51図284～295が出土遺物である。284・285は甕口縁部。ともに胎土にキンウンモがみられる。286は高坏底部か。底径24.8cm。胎土中にキンウンモあり。287は甕口縁部。288は甕。289は甕口縁部。290・291は甕底部か。292は甕口縁部。口径32cm。胎土にキンウンモを含み、３条の突帯がつく。口縁部はやや内傾し、口唇端部は肥厚している。293は壷口縁～頸部。口径は21cm。口唇部はやや垂れ下がる。外器面にはハケメがみられる。294は底径6.6cmの底部。295は甕の胴～底部。

４号土坑（ＳＣ０４：第50・51図）

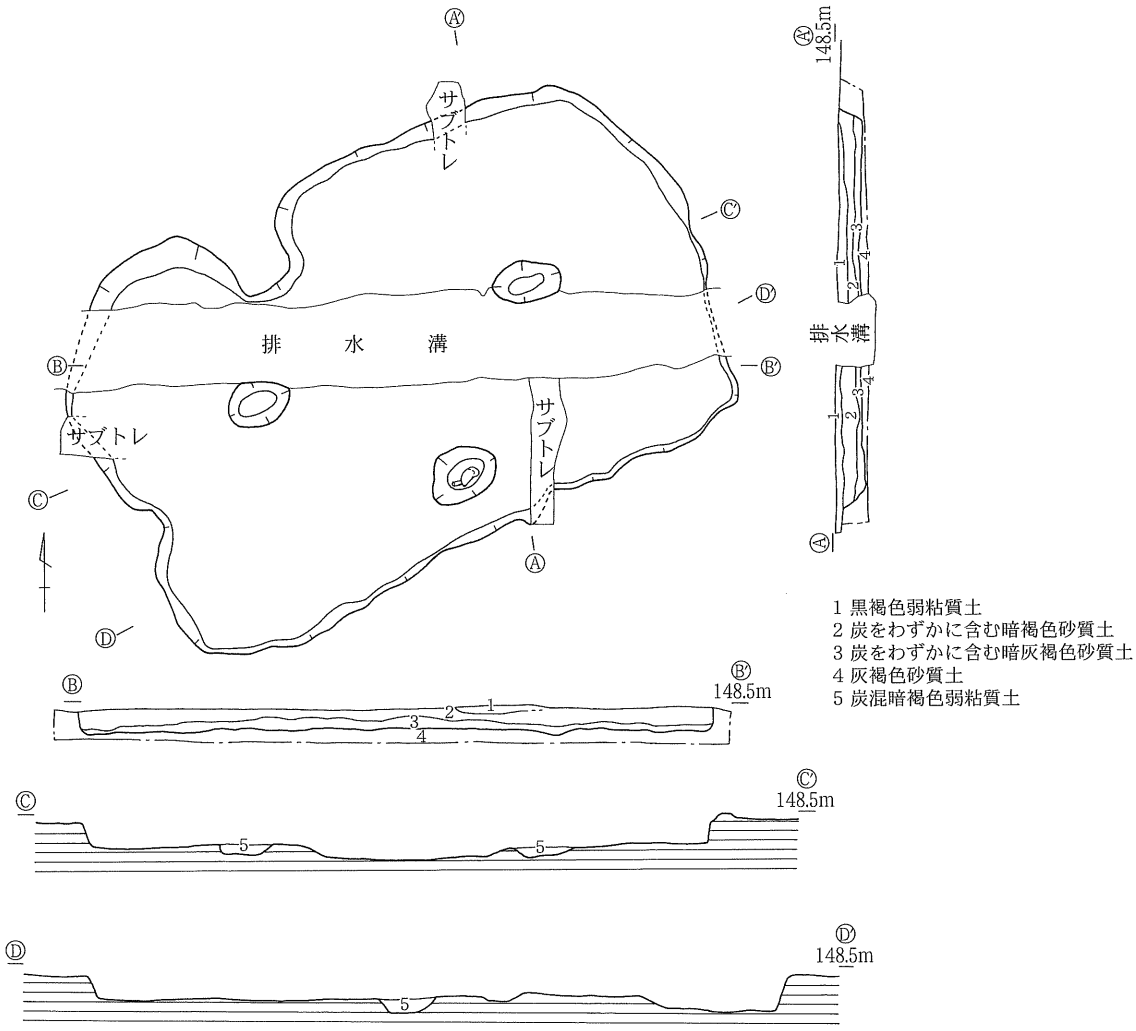
ＳＣ０４はＢ－Ⅱ－b区で検出した。方向軸はＳ70°Ｗで、長径1.91m、短径1mを測る。検出面から床面までの最大深度は12cm。方円状である。

出土遺物は第51図296～299である。296～298は甕底部か。296・297は胎土中にキンウンモを含む。径は296が７cm、297が4.8cm、298が6.6cm。299は甕の口縁部。

５号土坑（ＳＣ０５：第50・51図）

ＳＣ０５はＡ－Ⅶ－b区で検出した。方向軸はＮ50°Ｅで、長径2.07m、短径1.5mを測る。楕円状で、検出面から床面までの最大深度はわずか6cmと浅いが、遺物の出土状態は良好であった。

第51図300～305が出土遺物である。300は甕口縁部。口唇部直下の突帯には刻目があり、口唇端部にも同様に刻目がある。口径29.1cmを測る。胎土中にキンウンモを含む。301は壷口縁部。口唇部に刻目がある。302は甕底部。径は８cm。303は甕である。口径29.1cm、底径7.4cm、器高28.9～29.9cmを測る。全体的に歪みがある。口唇部の突帯はＬ字状だが小さく、ややダンゴ状を呈する。304は甕口縁部。口径24.3cm。口縁部はわずかに内傾している。口唇部の突帯はやや肥厚する。３条の突帯あり。305は甕。口径26.9cm、底径7.8cm、33.5～34.3cm。口縁部がやや内傾し、胴部が張り出す。口唇部突帯はやや小さめである。器壁は比較的薄い。接合のためか、穿孔が２穴ある。



第45図　ＳＡ１８実測図

第46図　ＳＡ１８内出土遺物実測図

６号土坑（ＳＣ０６：第50・52図）

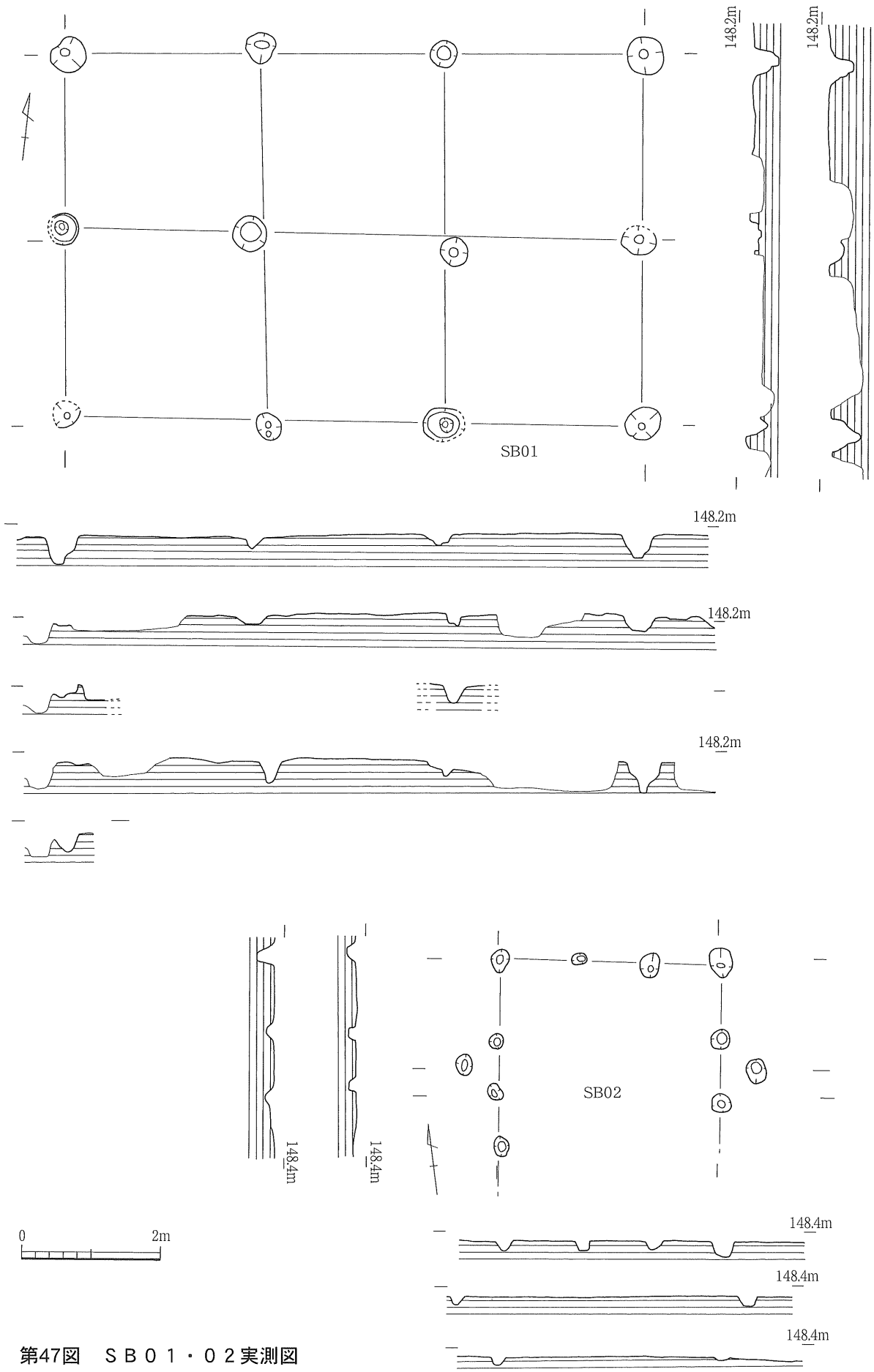
ＳＣ０６はＢ－Ⅱ－d区で検出した。方向軸はＮ5°Ｗで、長径2.57m、短径1.41mを測る。不定形であるが、検出面から床面までの最大深度は31cmと比較的深めである。

第52図306～317が出土遺物である。306・307は胎土中にキンウンモを含む甕の口縁部である。308は壷の口縁部で、胎土にキンウンモあり。309・310は甕底部。ともに胎土中にキンウンモあり。底径は309が6.8cm、310が7cmを測る。311・313は底部。312は口縁部と思われる。314・315・317は甕口縁部。314は断面Ｍ字状を呈する。外器面にはススがみられる。315は突帯をもつ。317は口唇部と口唇直下の突帯に刻目がある。下城式系か。口径は26.1cm。316は壷口縁部。口唇部は垂れ下がっている。

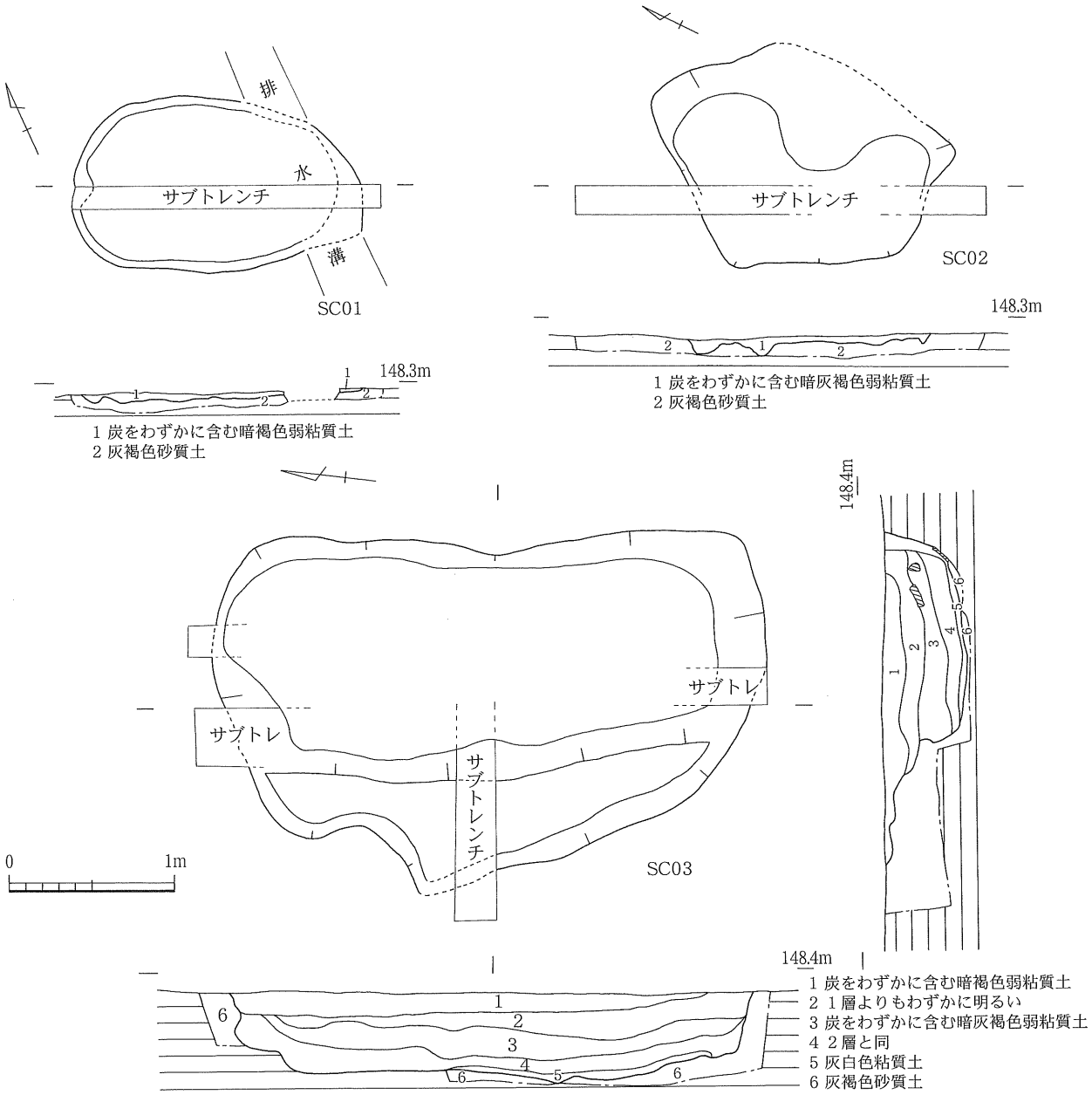
７号土坑（ＳＣ０７：第50・52図）

ＳＣ０７はＢ－Ⅱ－c区で検出した。方向軸はＳ85°Ｅで、長径1.2m、短径0.77mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。楕円形状を呈する。

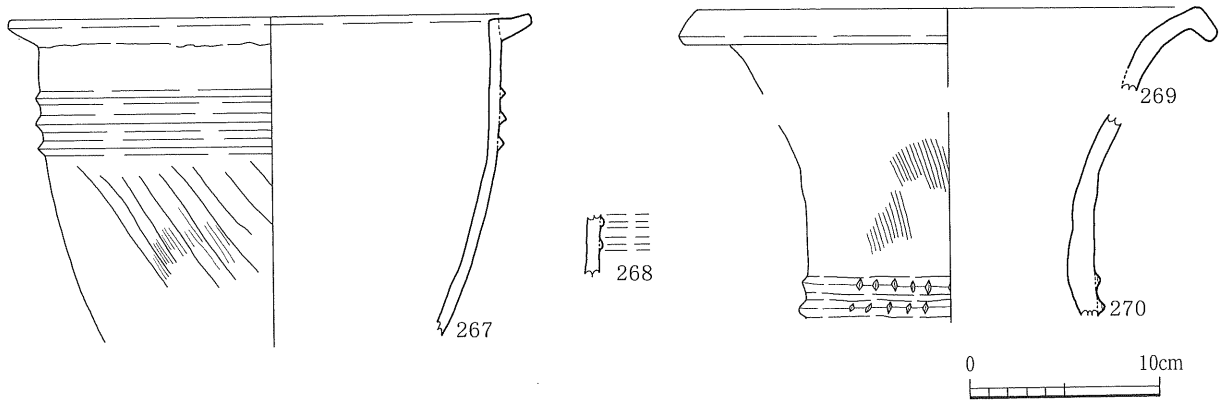
第52図に出土遺物を示した。318・319は甕の口縁部。ともに胎土中にキンウンモを含む。320は壷口縁部。口唇部は垂れ下がる。



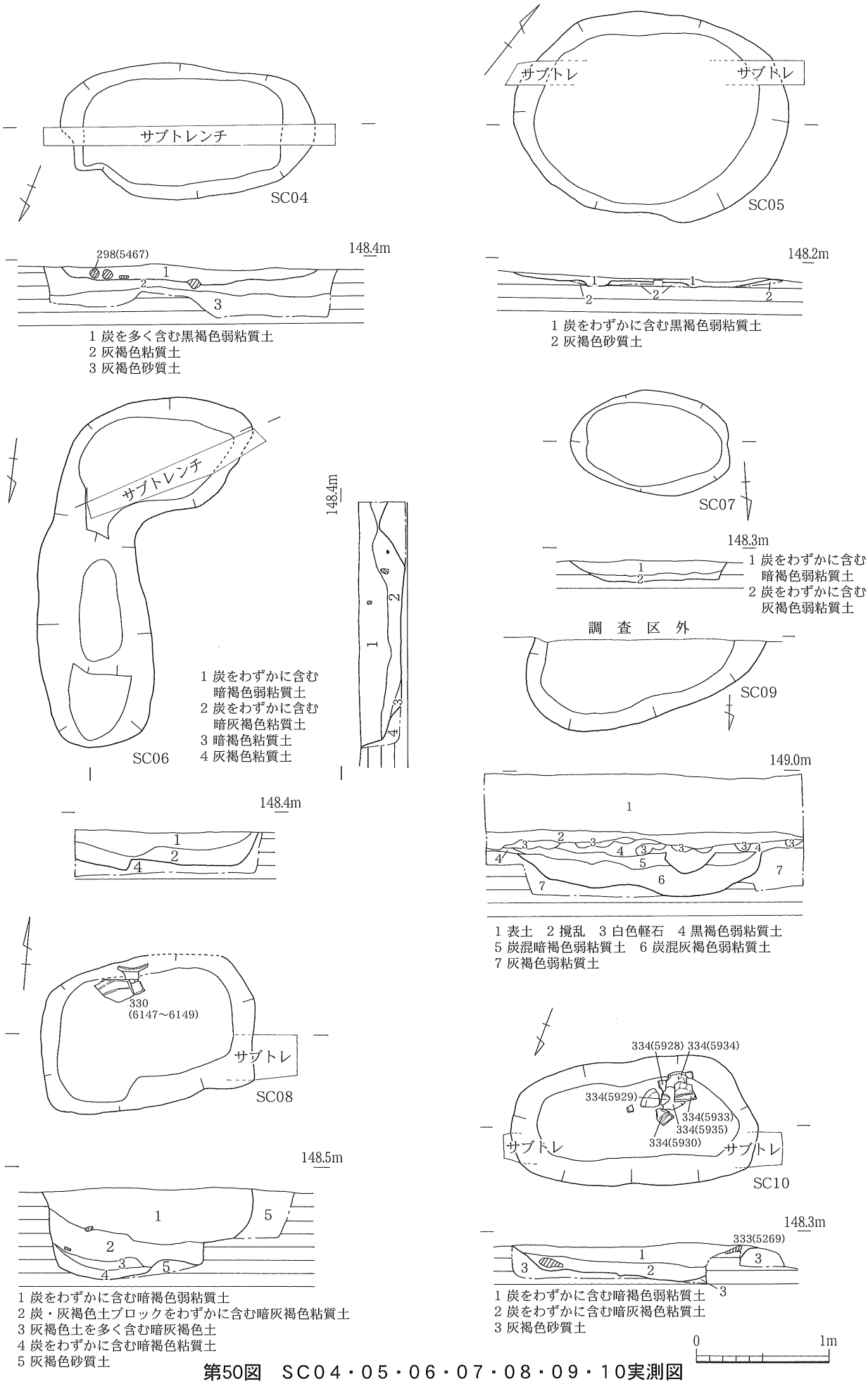
第47図　ＳＢ０１・０２実測図



第48図　ＳＣ０１・０２・０３実測図



第49図　ＳＣ０１内出土遺物実測図



第50図　SC04・05・06・07・08・09・10実測図

8号土坑（ＳＣ０８：第50・52図）

ＳＣ０８はＡ－Ⅷ－ｃ、Ｂ－Ⅱ－a区で検出した。方向軸はＮ10°Ｅで、長径1.64m、短径1.1mを測る。検出面から床面までの最大深度は69cmと、本遺跡では非常に深い。楕円形状である。

第52図**321**～**330**が出土遺物である。**321**は壷。胎土中にキンウンモを含む。**322**・**323**は甕口縁部。**322**は３条の突帯をもつ。口唇部は先細る。口径は28.2cm。**323**の口径は30.9cm。口唇端部の突帯は肥厚したままである。口唇上面は指押さえの影響で、やや窪みかかっている。**324**・**325**は甕口縁～胴部。ともに口縁下に刻目突帯があり、突帯下にはススが付着している。下城式系か。**326**は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。**327**・**328**は甕底部。底径は**327**が6.4cm、**328**が9cm。**329**は把手部分。**330**は壷の口縁～胴部。口径は23cmを測る。口唇部は垂れ下がり、頸部には2条の刻目突帯がある。肩部には2条、胴部には３条の突帯もある。

9号土坑（ＳＣ０９：第50図）

ＳＣ０９はＢ－Ⅱ－a区、Ａ区南壁際で検出した。南側半分は調査区外である。検出面から床面までの最大深度は約30cm。

10号土坑（ＳＣ10：第50・52図）

ＳＣ10はＡ－Ⅷ－c区で検出した。方向軸はＳ65°Ｗで、長径1.85m、短径0.91mを測り、方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は27cmほどである。埋土は炭をわずかに含む暗灰褐色粘質土。

出土遺物は第52図**331**～**334**に示した。**331**は口縁下に突帯のある甕口縁部。**332**は刻目突帯をもつ。**333**・**334**は甕の口縁～胴部。ともに胎土中にキンウンモを含む。口径は**333**が32cm、**334**が33.3cm。**333**は、３条の突帯をもち、内器面には指頭痕がある。口縁形態はＬ字状を呈し、口唇の突帯は肥厚している。**334**は、口縁がわずかに内傾し、胴部はあまり張り出さない。３条の突帯があり、口唇の突帯はやや肥厚している。

11号土坑（ＳＣ11：第53図）

ＳＣ11はＢ－Ⅰ－b区で検出した。Ｂ区北壁際にあり、南側半分は不明である。不定形であり、検出面から床面までの最大深度は20cmほどである。

12号土坑（ＳＣ１２：第53・54図）

ＳＣ12はＢ－Ⅴ－c区で検出した。ＳＡ０７の南にあり、東西にやや長めの形状を呈する。方向軸はＮ70°Ｅで、長径1.45m、短径0.65mを測る。検出面から床面までの最大深度は10cmと浅めで、方円状を呈する。

第54図**335**～**337**が出土遺物である。**335**は石器。**336**・**337**は甕の口縁部。Ｌ字状の口縁形態である。**336**は22cmの口径である。

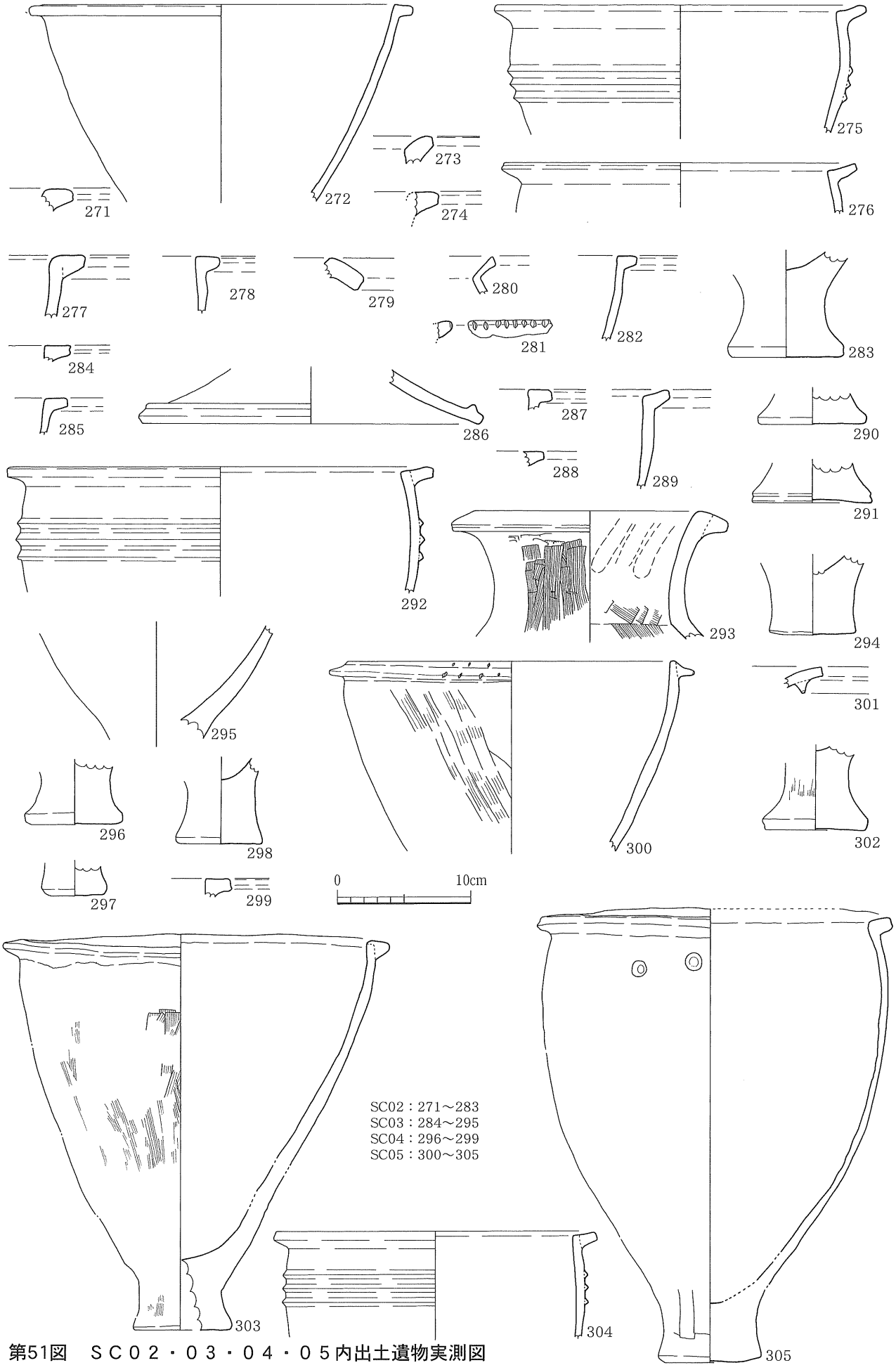
13号土坑（ＳＣ１３：第53・54図）

ＳＣ13はＢ－Ｘ－b区で検出した。方向軸はＳ75°Ｗで、長径3.5m、短径0.64mを測り、東西に細長い形状である。検出面から床面までの最大深度は10cmと浅い。

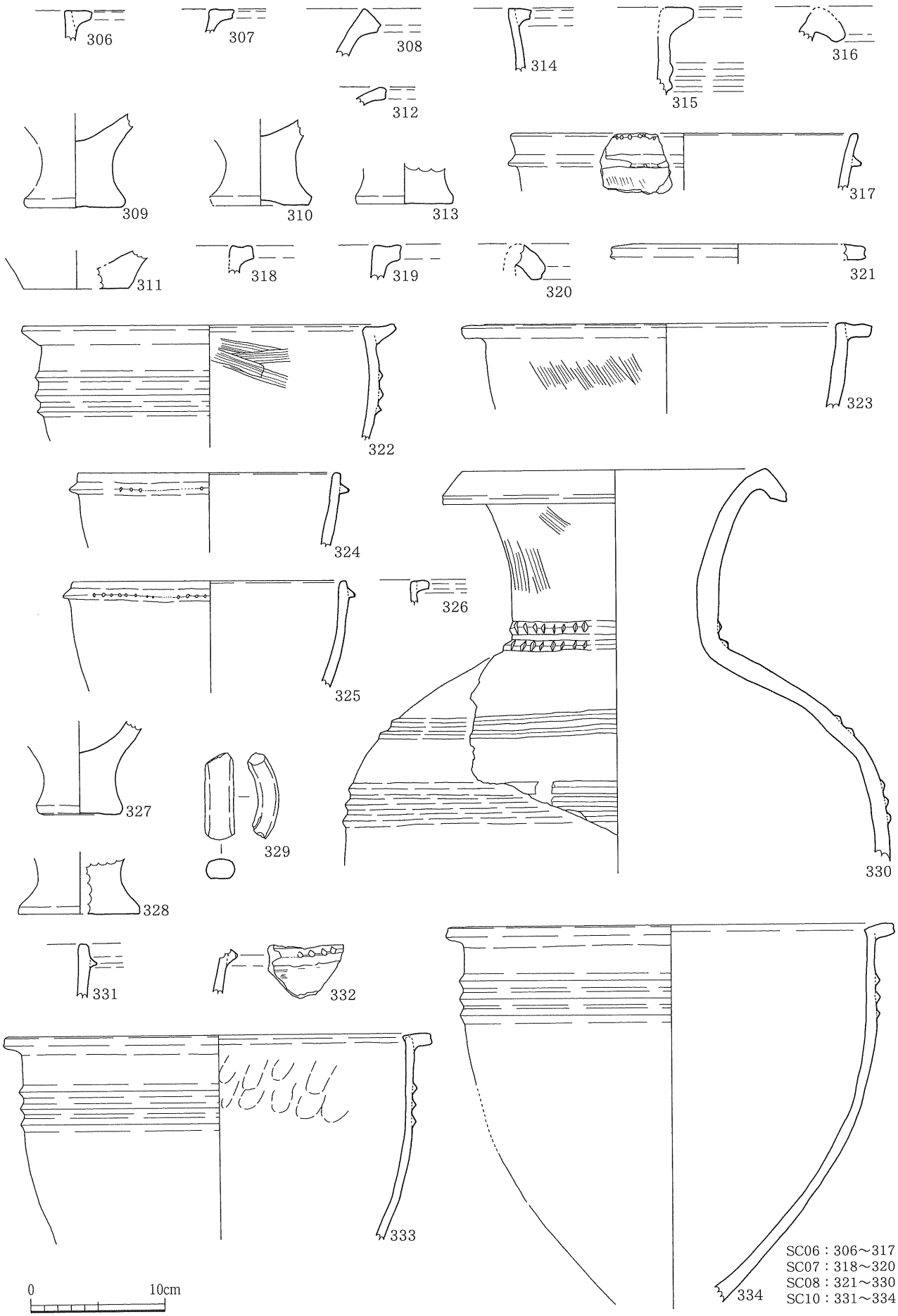
338・**339**は甕底部。底径は**338**が７cm、**339**が９cm。**338**には胎土中にキンウンモが含まれている。

16号土坑（ＳＣ１６：第53図）

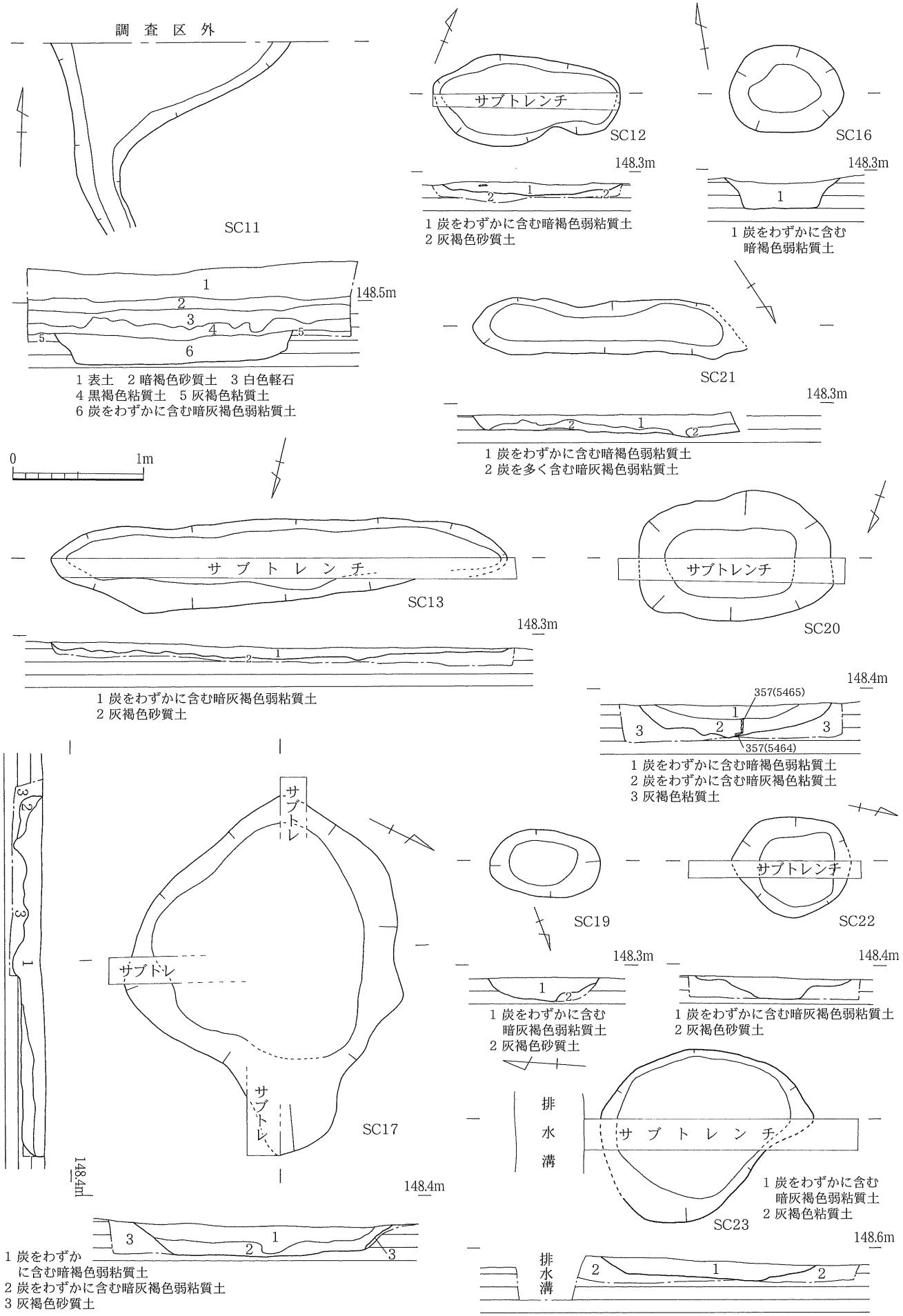
ＳＣ１６はＢ－Ⅵ－a区で検出した。方向軸はＳ80°Ｅで、長径0.87m、短径0.67mを測る。ほぼ円形状を呈する。検出面から床面までの最大深度は20cm。



第51図　ＳＣ０２・０３・０４・０５内出土遺物実測図



第52図　ＳＣ０６・０７・０８・１０内出土遺物実測図



第53図　ＳＣ１１・１２・１３・１６・１７・２０・２１・２２・２３実測図

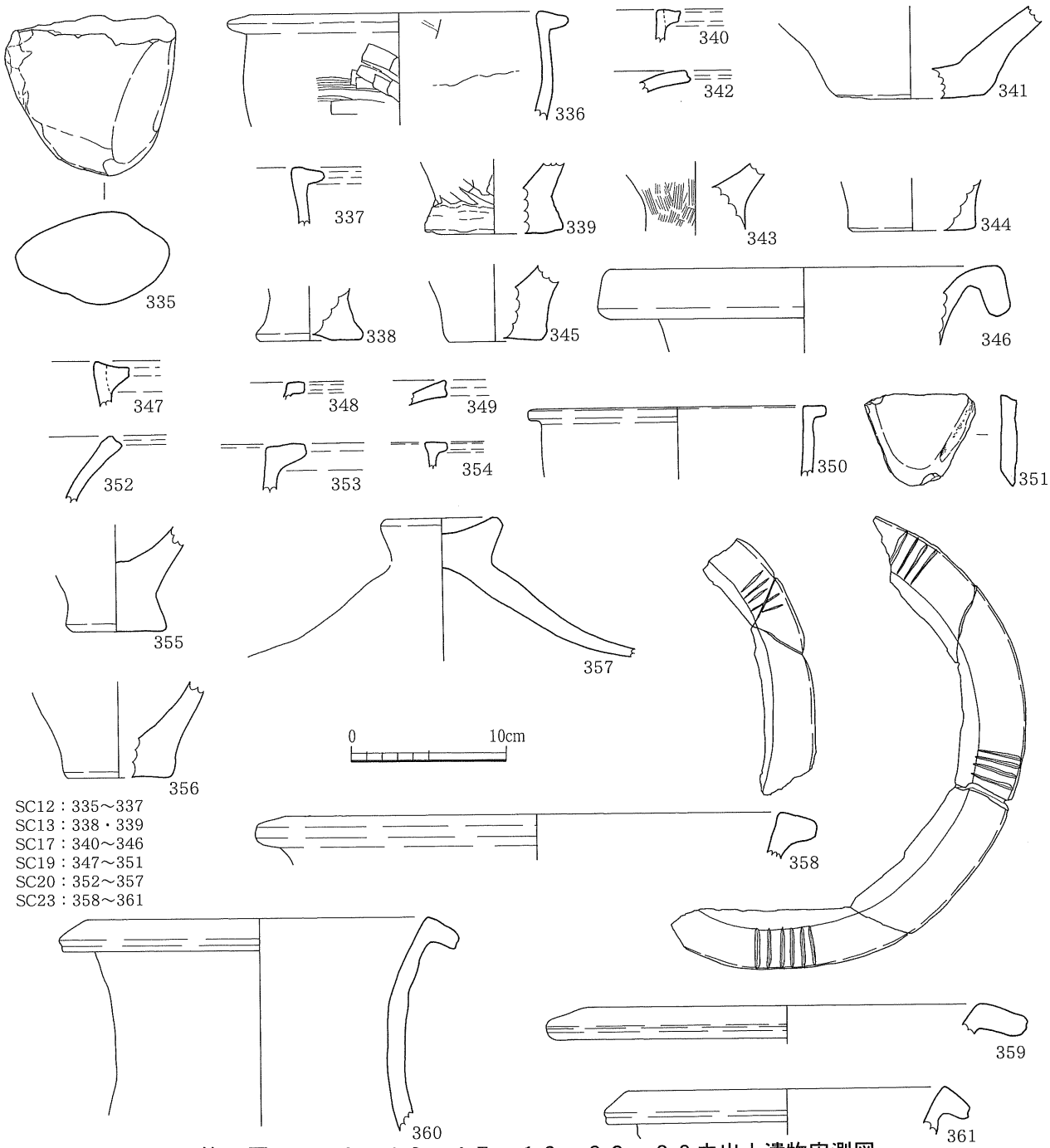
17号土坑（ＳＣ１７：第53・54図）

ＳＣ１７はＢ－Ⅵ－a区で検出した。方向軸はN65°Ｅで、長径2.75m、短径2.1mを測る。検出面から床面までの最大深度は23cmほどである。

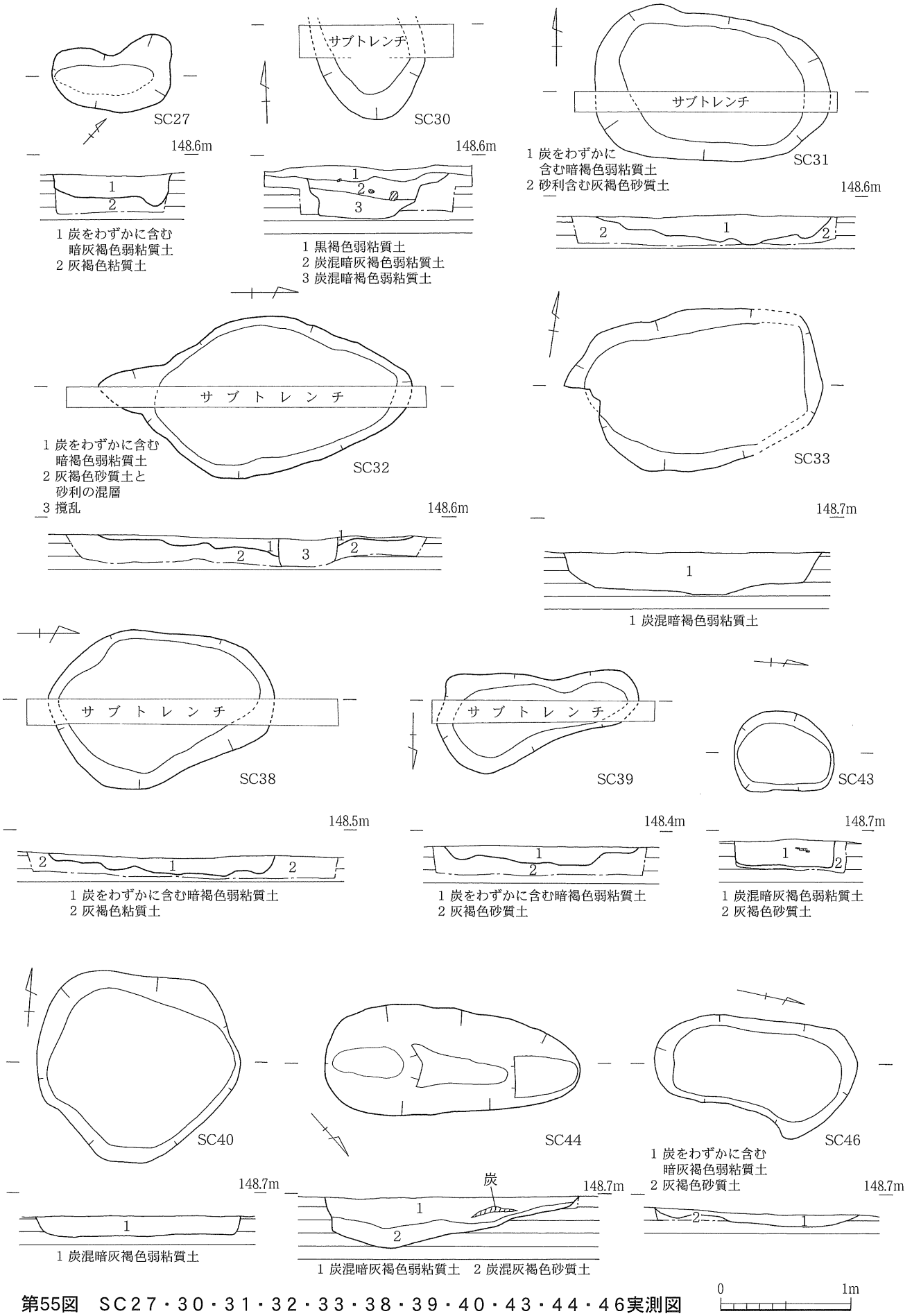
出土遺物は第54図**340**～**346**である。**340**は甕の口縁部で、胎土中にキンウンモを含む。**341**は胎土にキンウンモを含む壷の底部か。径は9.6cm。**342**は口縁部。**343**は底部付近。**344**・**345**は甕底部。径は**344**が8.2cm、**345**が６cmを測る。**346**は口径25cmを測る壷口縁部。口唇部は外方へ垂れ下がる。

19号土坑（ＳＣ１９：第54図）

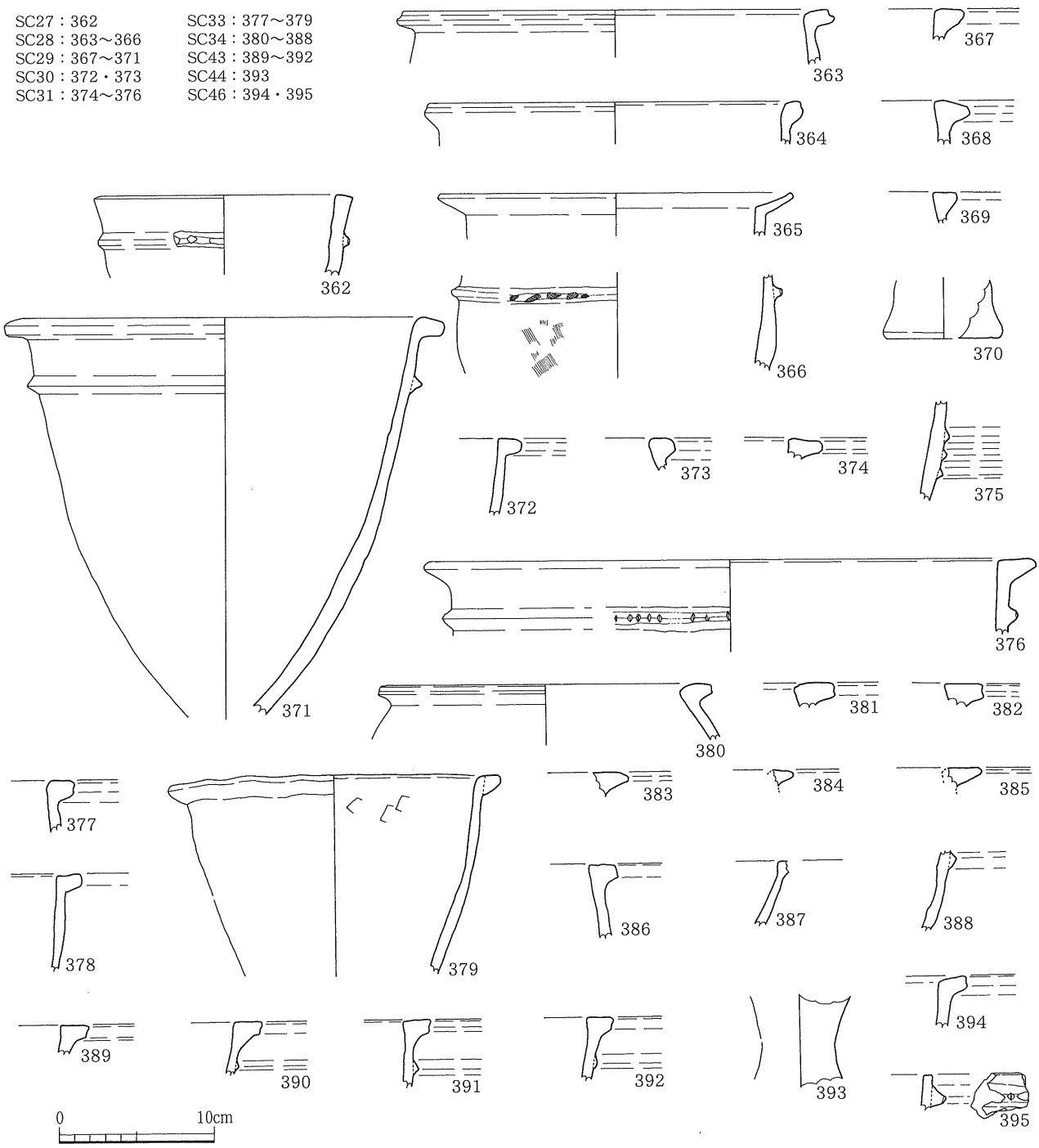
ＳＣ１９はＢ－Ⅱ－c区で検出した。方向軸はN60°Ｗで、長径0.85m、短径0.5mを測る。検出面から床面までの最大深度は18cmで、楕円状である。



第54図ＳＣ１２・１３・１７・１９・２０・２３内出土遺物実測図



第55図　SC27・30・31・32・33・38・39・40・43・44・46実測図



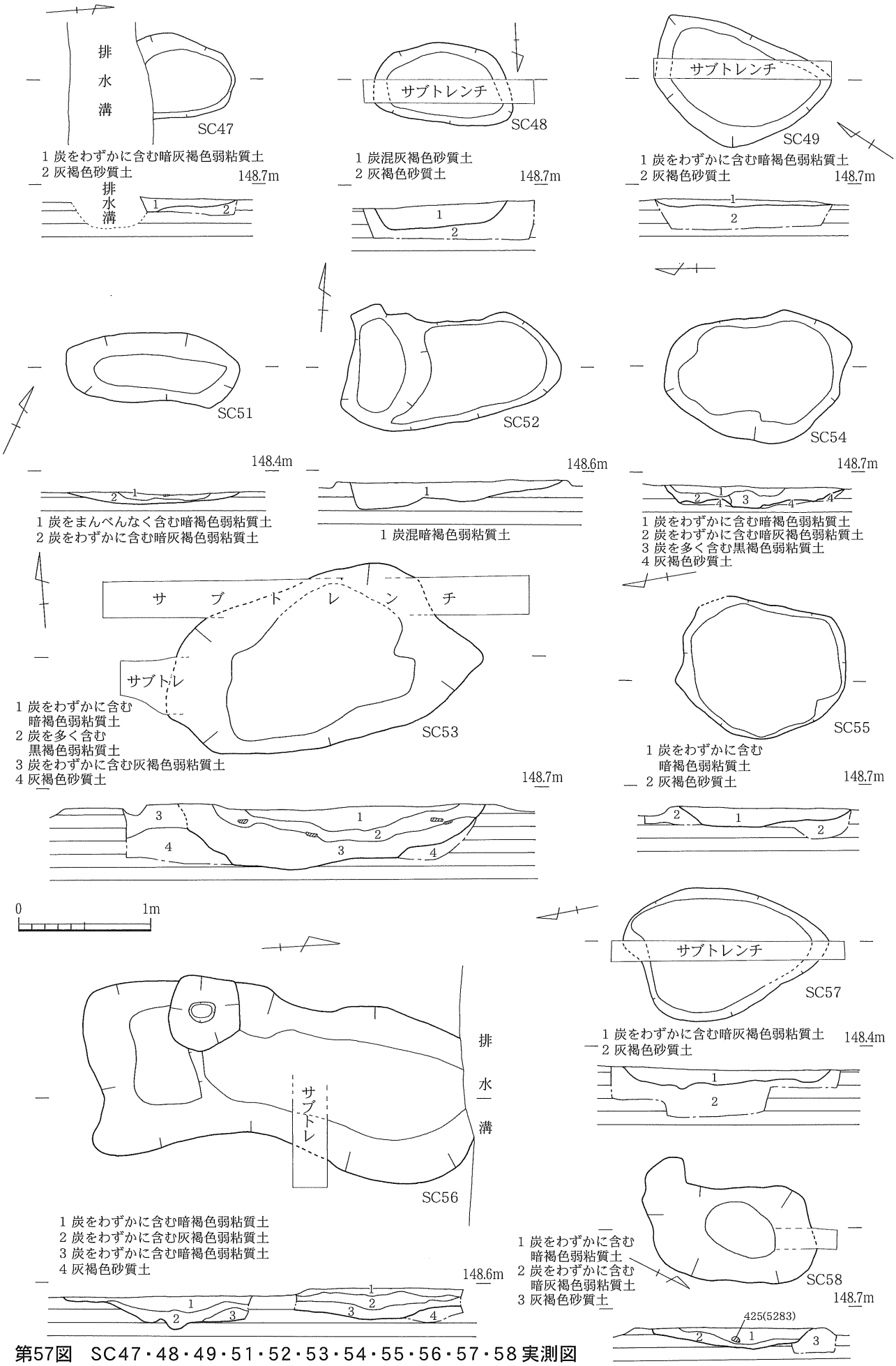
第56図　ＳＣ２４・２６・２７・２８・２９・３０・３１・３３・３４・４３・４４・４５・４６内出土遺物実測図

第54図**347**～**351**が出土遺物である。**347**・**348**は甕の口縁部である。**350**は甕口縁部で、口径は19.3cmを測る。口縁形態はＬ字状を呈する。**351**は石器。

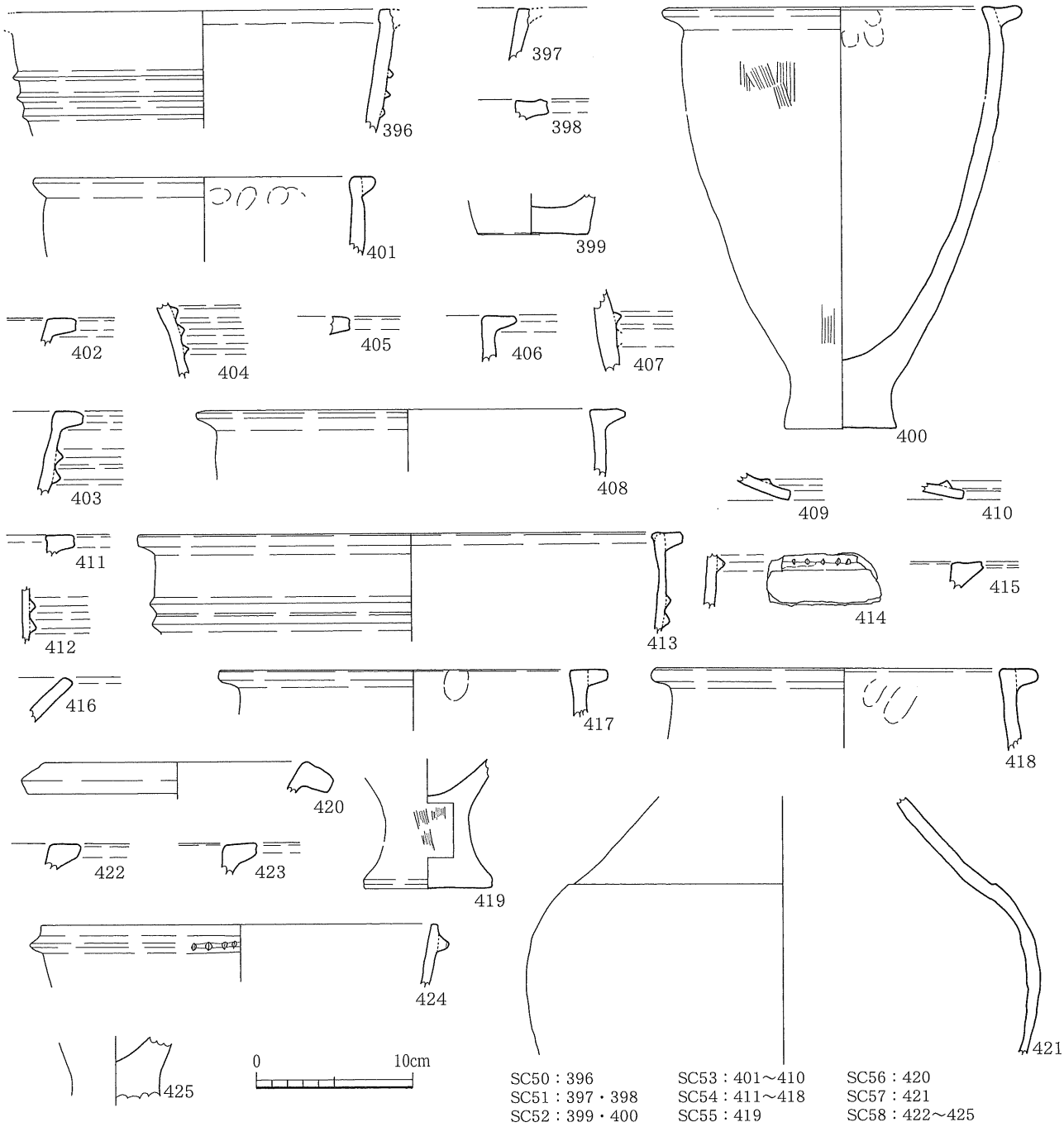
20号土坑（ＳＣ２０：第53・54図）

ＳＣ２０はＢ－Ⅱ－d区で検出した。方向軸はN75°Ｅで、長径1.48m、短径１mを測る。検出面から床面までの最大深度は25cmとやや深めである。やや細長めの方円状を呈する。

第54図**352**～**357**に出土遺物を示した。**353**・**354**は甕の口縁部である。**355**・**356**は底部。**355**はＳＣ０３出土片と接合する。底径は**355**・**356**ともに6.4cm。**357**は蓋か。外器面にはミガキもわずかにみられる。



第57図　SC47・48・49・51・52・53・54・55・56・57・58 実測図



第58図　ＳＣ５０・５１・５２・５３・５４・５５・５６・５７・５８内出土遺物実測図

21号土坑（ＳＣ２１：第53図）

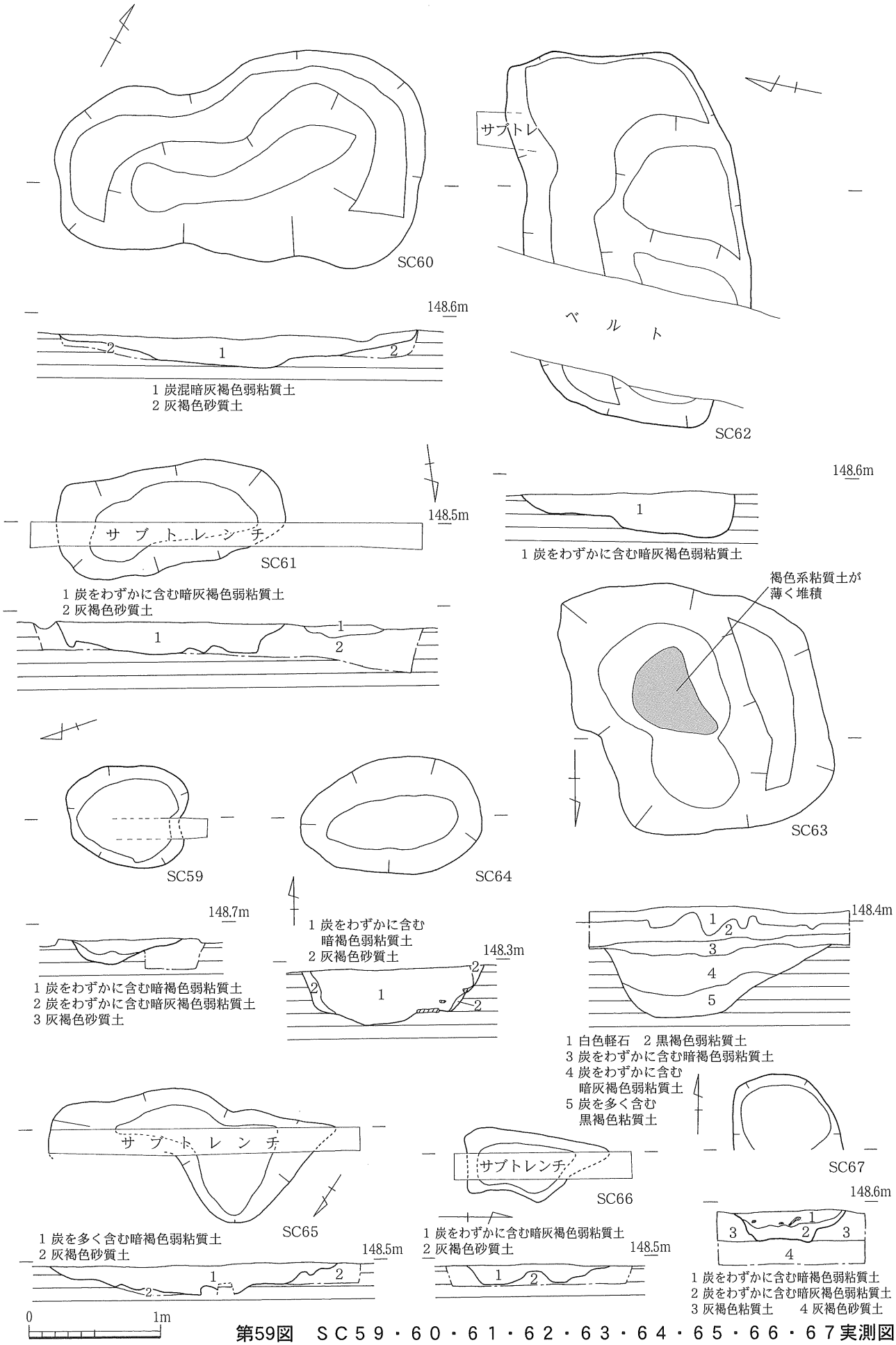
ＳＣ２１はＢ－Ⅱ－c区で検出した。方向軸はＮ50°Ｗであり、北西－南東に細長く、長径2.1m、短径0.4mを測る。検出面から床面までの最大深度は17cm。

22号土坑（ＳＣ２２：第53図）

ＳＣ２２はＢ－Ⅵ－b区で検出した。ほぼ円形状を呈する。長径0.93m、短径0.77mを測る。検出面から床面までの最大深度は16cm。

23号土坑（ＳＣ２３：第53・54図）

ＳＣ２３はＢ－Ⅲ－b区で検出した。方向軸はＮ30°Ｗで、長径1.53m、短径1.12mを測る。検出面から床面までの最大深度は13cm。形状は楕円形である。



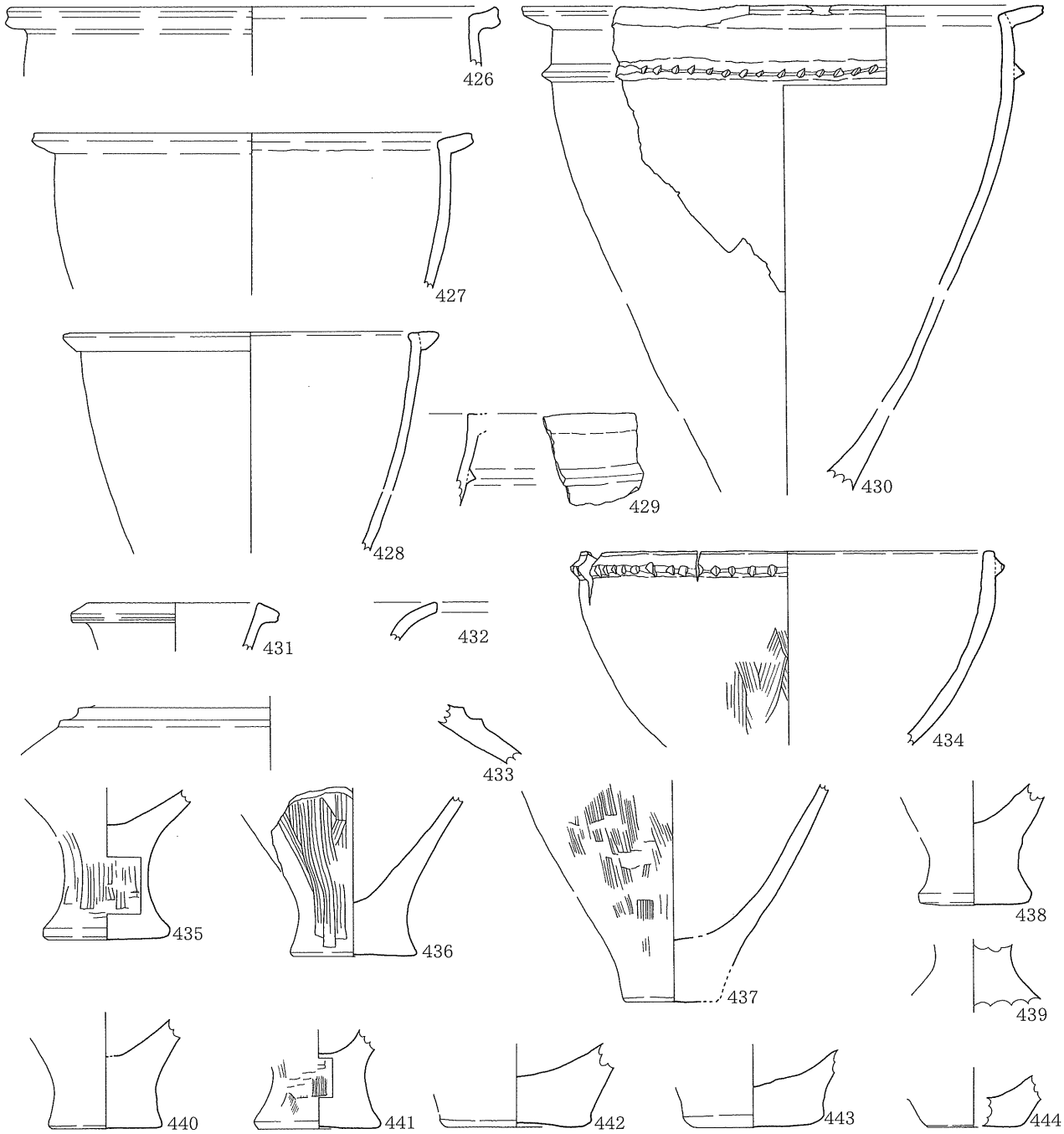
第59図　ＳＣ５９・６０・６１・６２・６３・６４・６５・６６・６７実測図

出土遺物を第54図358～361に示した。358は壷の口縁部か。口径は36.2cmで、胎土中にキンウンモを含んでいる。口唇部に沈線をもつ。359～361は壷の口縁部である。口唇部は外方に垂れ下がっている。359は胎土中にキンウンモを含む。口唇部上辺に4－4－6の沈線が等間隔に施されている。口径は359が31cm、360が25.7cm、361が23.6cmを測る。

27号土坑（ＳＣ２７：第55・56図）

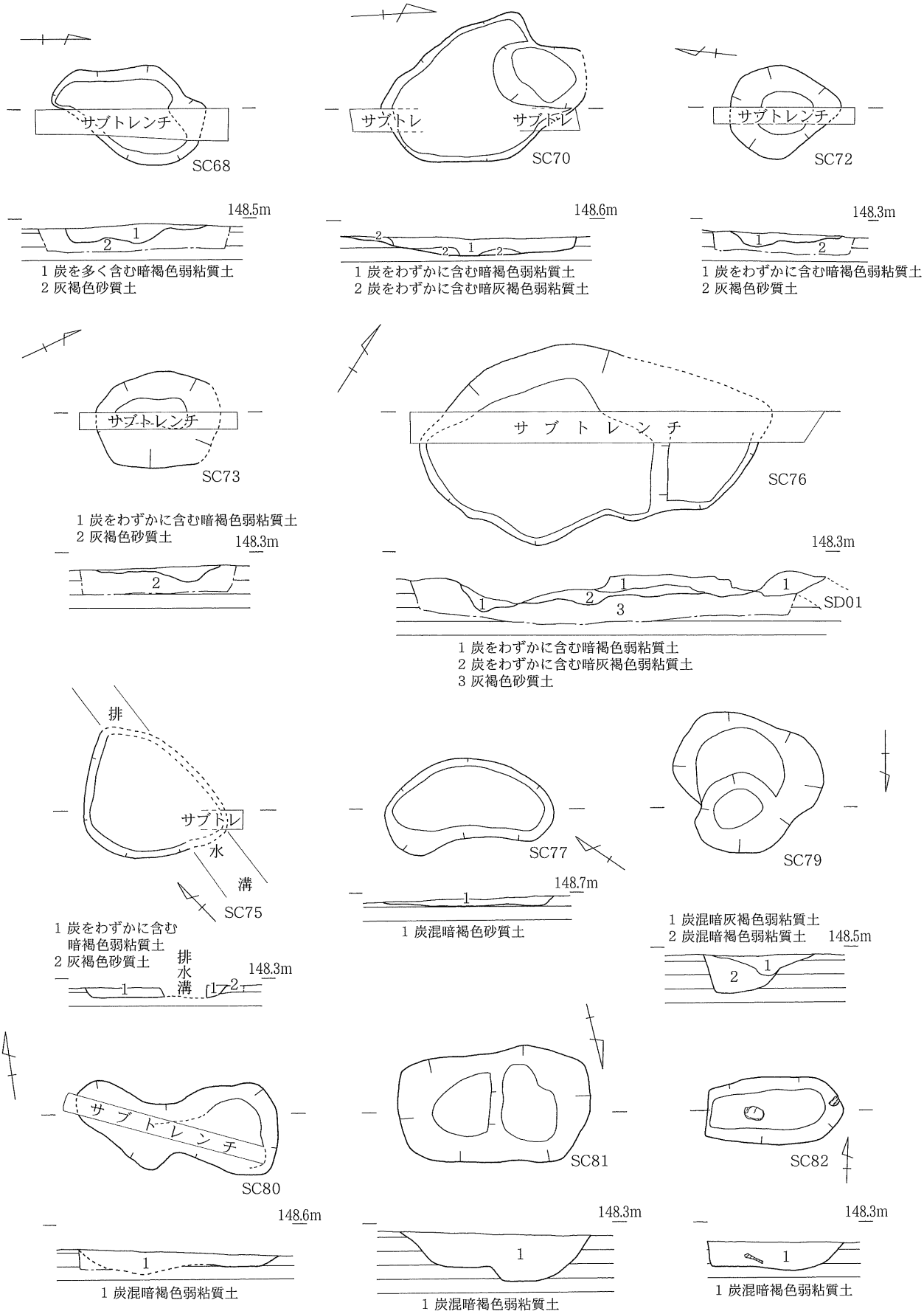
ＳＣ２７はＢ－Ⅷ－a区で検出した。方向軸はN45°Ｅで、長径0.9m、短径0.45mを測る。検出面から床面までの最大深度は24cm。

362は甕の口縁部。口径は16.8cm。口縁下に刻目突帯がめぐる。下城式系統か。



第60図　ＳＣ６３内出土遺物実測図

0　10cm



第61図　SC68・70・72・73・75・76・77・79・80・81・82実測図

28号土坑（ＳＣ２８：第56図）

ＳＣ２８はＢ－Ⅷ－a・b区で検出した。ＳＣ２７の東隣にあたる。配置図等に掲載していないが、現場で確認し、土坑としたものである。

第56図363～366が出土遺物である。363～365は甕の口縁部である。363・364は胎土中にキンウンモを含む。口径は363が28.4cm、364が24.6cm、365が23.1cmを測る。366は胴部か。絡縄の刻目突帯がめぐる。

29号土坑（ＳＣ２９：第56図）

ＳＣ２９はＢ－Ⅶ－a区で検出した。ＳＣ３０の南西に位置している。遺構図は掲載していない。

出土遺物は第55図367～371である。367・369は甕の口縁部。367は胎土中にキンウンモを含む。368は胎土中にキンウンモを含む口縁部。370は底径7.3cmを測る甕底部。371は甕口縁～胴部。胎土中にはキンウンモがみられる。口縁はＬ字状を呈し、口唇部突帯はわずかに垂れる。口径は28.7cmを測り、口縁下に１条の突帯をもつ。

30号土坑（ＳＣ３０：第55・56図）

ＳＣ３０はＢ－Ⅲ－c～Ｂ－Ⅶ－a区で検出した。北側半分は不明である。検出面から床面までの最大深度は40cmと比較的深い。

第56図に出土遺物を示した。372・373は甕の口縁部である。372は胎土中にキンウンモあり。

31号土坑（ＳＣ３１：第55・56図）

ＳＣ３１はＢ－Ⅲ－a区で検出した。方円状を呈し、方向軸はＳ85°Ｅで、長径1.8m、短径1.11mを測る。検出面から床面までの最大深度は24cmほど。

第56図374～376が出土遺物である。374・376は甕の口縁部。376は口径39.5cmを測り、口縁下の突帯には刻目がある。口唇部の突帯はやや先細る。375は胴部片。三角突帯が３条確認できる。

32号土坑（ＳＣ３２：第55図）

ＳＣ３２はＢ－Ⅲ－a区で検出した。ＳＣ３１の東側に位置する。Ｎ50°Ｅの方向軸で、長径は2.38m、短径は1.2mである。検出面から床面までの最大深度は14cmとやや浅い。

33号土坑（ＳＣ３３：第55・56図）

ＳＣ３３はＢ－Ⅲ－c区で検出した。方円状で、方向軸はＮ70°Ｅである。長径は1.96m、短径は1.22mを測る。検出面から床面までの最大深度は32cmとやや深い。

第56図377～379が出土遺物である。377・378は甕口縁部。ともに胎土にキンウンモが含まれている。379は甕の口縁～胴部。胎土中にキンウンモが混じり、外器面にはススが付着している。口径は21.5cmを測る。ＳＣ２３出土片と接合している。

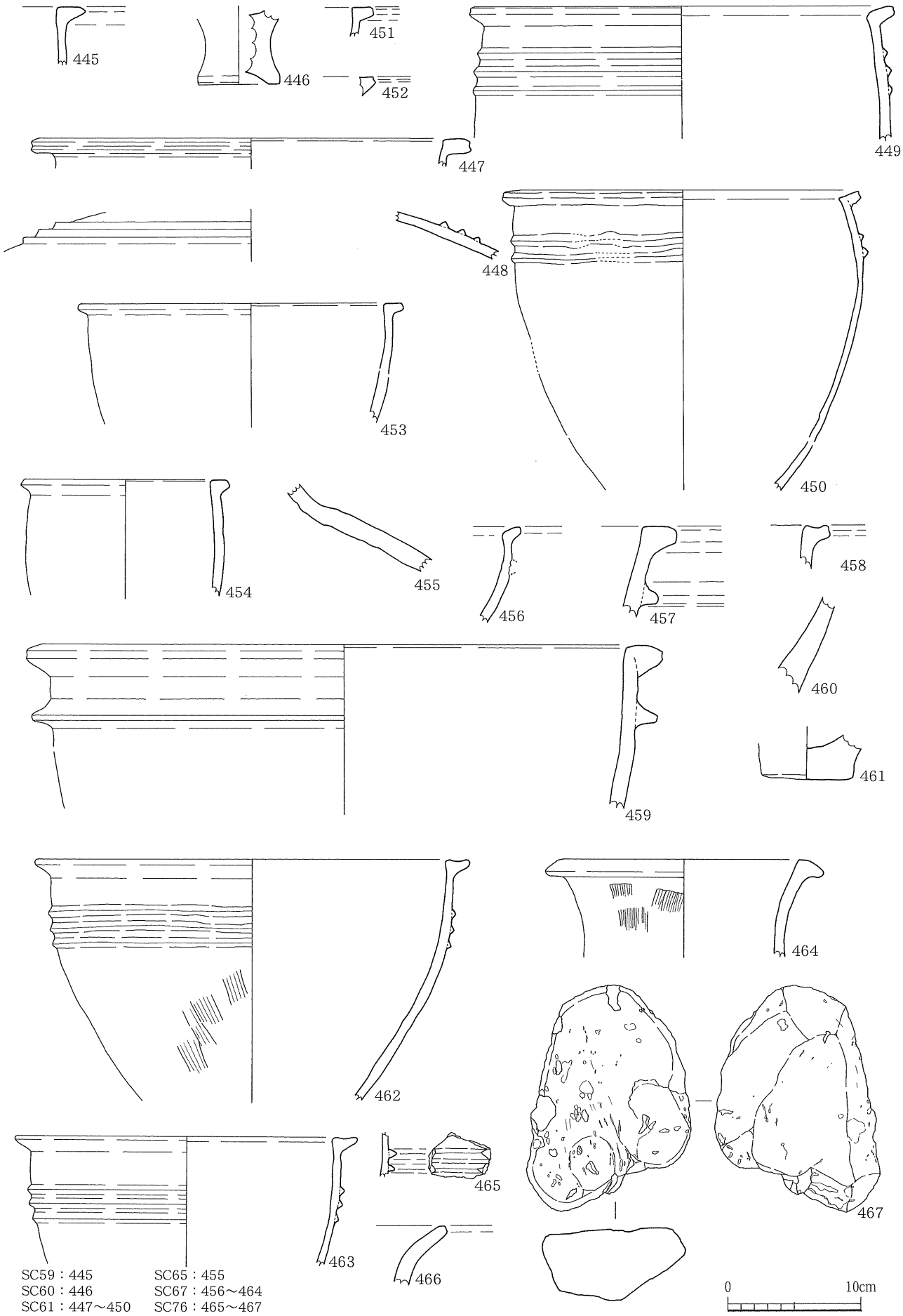
34号土坑（ＳＣ３４：第56図）

ＳＣ３４はＢ－Ⅳ－a・b区で検出した。大きく、浅めの土坑である。

出土遺物は第56図の380～388である。380は甕の口縁部か。口縁は内傾している。381～387は甕口縁部。388には突帯がある。

38号土坑（ＳＣ３８：第55図）

ＳＣ３８はＢ－XI－d区で検出した。ＳＤ０３の西側に位置する。方向軸はＮ5°Ｗで、長径1.71m、



SC59：445
SC60：446
SC61：447～450
SC62：451・452
SC64：453・454
SC65：455
SC67：456～464
SC76：465～467

第62図　ＳＣ５９・６０・６１・６２・６４・６５・６７・７６内出土遺物実測図

短径1.13mの楕円形状を呈する。検出面から床面までの最大深度は15cm。

39号土坑（ＳＣ３９：第55図）

ＳＣ３９はＢ－XI－a区で検出した。ＳＢ０２の北側にある。方向軸はＳ80°Ｗで、長径1.56m、短径0.54mを測る。検出面から床面までの最大深度は14cm。

40号土坑（ＳＣ４０：第55図）

ＳＣ４０はＳＤ１４の北側、Ｃ－Ｖ－a区で検出した。方向軸はＮ85°Ｅで、長径1.5m、短径1.44mの楕円形である。検出面から床面までの最大深度は16cm。

43号土坑（ＳＣ４３：第55・56図）

ＳＣ４３はＣ－Ｖ－c区で検出した。方向軸はＮ15°Ｅで、長径0.79m、短径0.64mを測る。検出面から床面までの最大深度は21cm。

第56図の**389**～**392**が出土遺物である。全て甕の口縁部で、胎土にキンウンモを含む。**390**～**392**は口縁下に１条の突帯がある。

44号土坑（ＳＣ４４：第55・56図）

ＳＣ４４はＣ－Ⅵ－c・d区で検出した。長方円状を呈し、方向軸はＮ45°Ｗで、長径1.95m、短径0.78mを測る。検出面から床面までの最大深度は38cmと深い。

393は、甕脚部で胎土にキンウンモあり。

46号土坑（ＳＣ４６：第55・56図）

ＳＣ４６はＣ－Ⅱ－a区で検出した。方向軸はＮ5°Ｗで、長径1.55m、短径0.7mを測り、方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は９cmと浅い。

394は甕の口縁部で、胎土中にキンウンモを含む。**395**は口縁部で口縁下に刻目突帯をもつ。下城式系と思われる。

47号土坑（ＳＣ４７：第57図）

ＳＣ４７はＣ－Ⅱ－a区で検出した。ＳＣ４６の南側に位置する。南側は排水路によって破壊されていた。検出面から床面までの最大深度は12cm。

48号土坑（ＳＣ４８：第57図）

ＳＣ４８はＣ－Ⅱ－b・d区で検出した。方円状を呈し、方向軸はＳ85°Ｅで、長径1.07m、短径0.6mを測る。検出面から床面までの最大深度は18cm。

49号土坑（ＳＣ４９：第57図）

ＳＣ４９はＣ－Ⅱ－c区で検出した。形状は不定形で、方向軸はＮ25°Ｗを図る。長径は1.34m、短径は0.85である。検出面から床面までの最大深度は６cmと浅い。

50号土坑（ＳＣ５０：第58図）

ＳＣ５０はＢ－Ⅰ－c区で検出した。ＳＤ０８と切り合っており、ＳＣ５０→ＳＤ０８との時期差があると思われる。

396は甕の口縁部で、口径24cmを測る。口唇部の突帯が剥落している。口縁下には３条の突帯がある。

51号土坑（ＳＣ５１：第57・58図）

ＳＣ５１はＢ－Ⅰ－b区で検出した。方向軸はＮ70°Ｅで、長径1.31m、短径0.52mを測り、方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は８cmと浅い。

397は胎土にキンウンモを含む口縁部。口唇部の突帯は剥落している。398は甕口縁部。

52号土坑（ＳＣ５２：第57・58図）

ＳＣ５２はＡ－Ⅸ－d区で検出した。方向軸はＮ80°Ｅで、長径1.61m、短径0.77mを測る。検出面から床面までの最大深度は19cm。

399は底部。胎土中にキンウンモを含む。底径は7cm。400は甕である。口径23cm、底径７cm、器高27.1cmを測る。口縁は内傾し、底部は脚状を呈する。脚部は中実。口唇部の突帯は肥厚ぎみである。

53号土坑（ＳＣ５３：第57・58図）

ＳＣ５３はＡ－Ⅸ－b区で検出した。方向軸はＮ80°Ｅで、長径2.4m、短径1.23mを測る。方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は44cmと深い。

出土遺物を第58図401～410に示した。401～403は甕の口縁部。胎土にはキンウンモがある。403は口縁下に２条の突帯をもつ。口径は401が22cm。404は胴部。突帯をもち、胎土にキンウンモがある。405・406は甕の口縁部。405は胎土にキンウンモあり。407は突帯をもつ壷の胴部。408は口径28cmを測る甕の口縁部。409、410は高坏底部か。

54号土坑（ＳＣ５４：第57・58図）

ＳＣ５４はＡ－Ⅹ－b区で検出した。方向軸はＳ10°Ｅで、長径1.45m、短径0.95mを測る。楕円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は17cm。

第58図411～418が出土遺物である。411は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。412は突帯を有する胴部。キンウンモが胎土中にみられる。413は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。口径34.5cmを測る。414は胴部。刻目突帯あり。415は甕の口縁部。ススが付着している。416は口縁部。417は口径25cmを測る甕の口縁部である。418は甕口縁部で、口径24.8cmを測る。

55号土坑（ＳＣ５５：第57・58図）

ＳＣ５５はＡ－Ⅸ－d区で検出した。方向軸はＳ10°Ｗで、長径1.3m、短径1.02mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。楕円状である。

第58図419は甕の底部。底径8.3cm。

56号土坑（ＳＣ５６：第57・58図）

ＳＣ５６はＡ－Ⅸ－a区で検出した。方向軸はＮ10°Ｅである。南北に長い方形状を呈する。長径が６m、短径が２mほどである。検出面から床面までの最大深度は34cm。

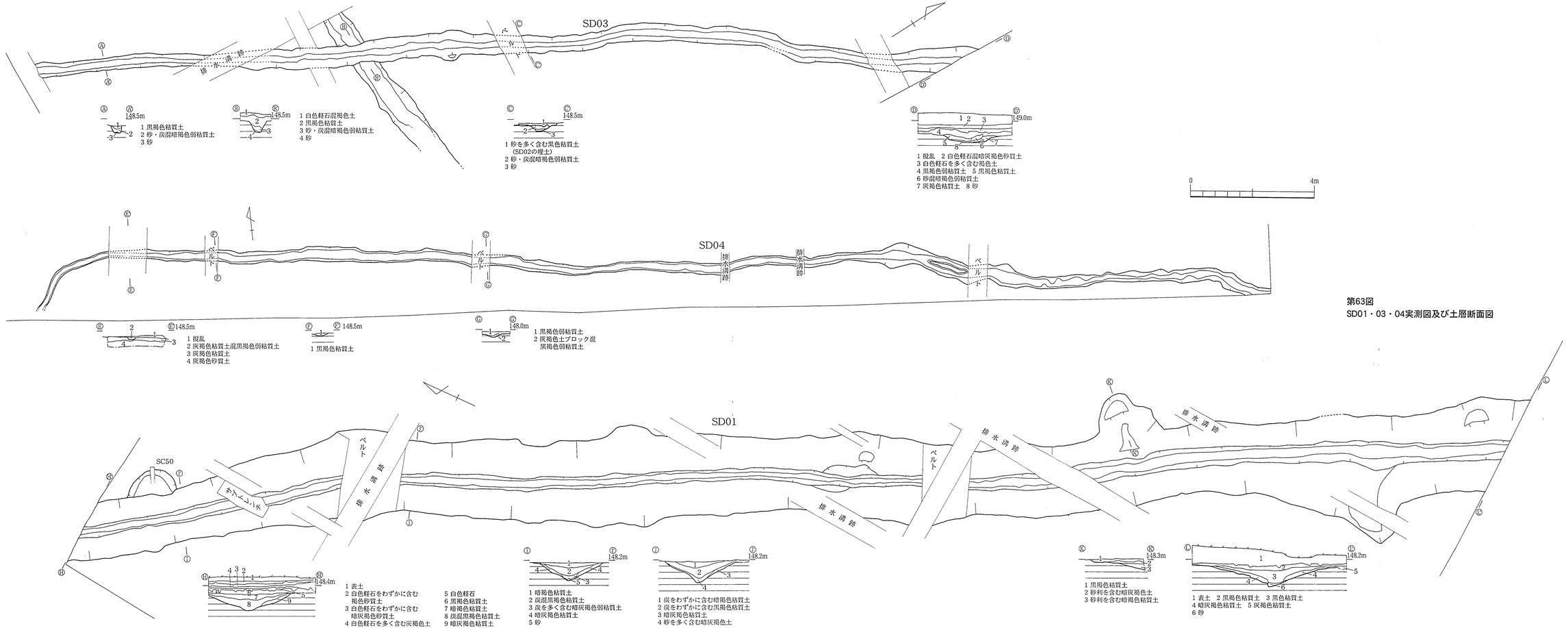
第58図420は壷の口縁部。口唇部が垂れ下がる。胎土中にキンウンモを含み、口径は20cmである。

57号土坑（ＳＣ５７：第57・58図）

ＳＣ５７はＢ－Ⅵ－a・b区で検出した。ＳＣ１７の東隣に位置する。方向軸はＮ50°Ｅで、長径2.9m、短径1.9mを測る。検出面から床面までの最大深度は22cm。

第58図421は壷の頸～胴部。頸部に強い稜をもつ。

58号土坑（ＳＣ５８：第57・58図）



第63図
SD01・03・04実測図及び土層断面図

ＳＣ５８はＡ－Ｘ－a区で検出した。ＳＤ０４の北側にある。方向軸はＮ20°Ｗで、長径2.76m、短径1.4mを測る。楕円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は30cm。

第58図**422**～**425**が出土遺物である。**422**～**424**は甕の口縁部。**422**・**423**は胎土中にキンウンモを含む。**424**は口径25.4cmを測り、口縁下に１条の刻目突帯をもつ。下城式系か。**425**は甕の脚部である。

59号土坑（ＳＣ５９：第59・62図）

ＳＣ５９はＡ－Ｘ－b区で検出した。ＳＤ０４の北側にあり、楕円状を呈する。方向軸はＮ20°Ｅで、長径0.85m、短径0.76mを測る。検出面から床面までの最大深度は18cm。

第62図**445**は甕の口縁部。

60号土坑（ＳＣ６０：第59・62図）

ＳＣ６０はＡ－Ⅵ－a・b区で検出した。ＳＤ０５の北側にある。方円状を呈し、方向軸はＮ60°Ｅで、長径2.82m、短径1.5mを測る。検出面から床面までの最大深度は28cmとやや深い。

第62図**446**は上げ底の甕底部で、底径は6.2cm。

61号土坑（ＳＣ６１：第59・62図）

ＳＣ６１はＡ－Ⅸ－a区で検出した。方向軸はＮ85°Ｅで、長径1.74m、短径0.75mを測る。検出面から床面までの最大深度は25cm。形状は方円状である。

第62図**447**～**450**が出土遺物である。**447**は甕の口縁部。口唇部の突帯は肥厚ぎみ。胎土中にキンウンモを含み、口径33.2cmを測る。**448**は壷の肩部。３条の突帯をもつ。**449**は甕の口縁部である。口縁はやや内傾し、３条の突帯がある。**450**は甕の口縁～胴部。２条の突帯がある。

62号土坑（ＳＣ６２：第59・62図）

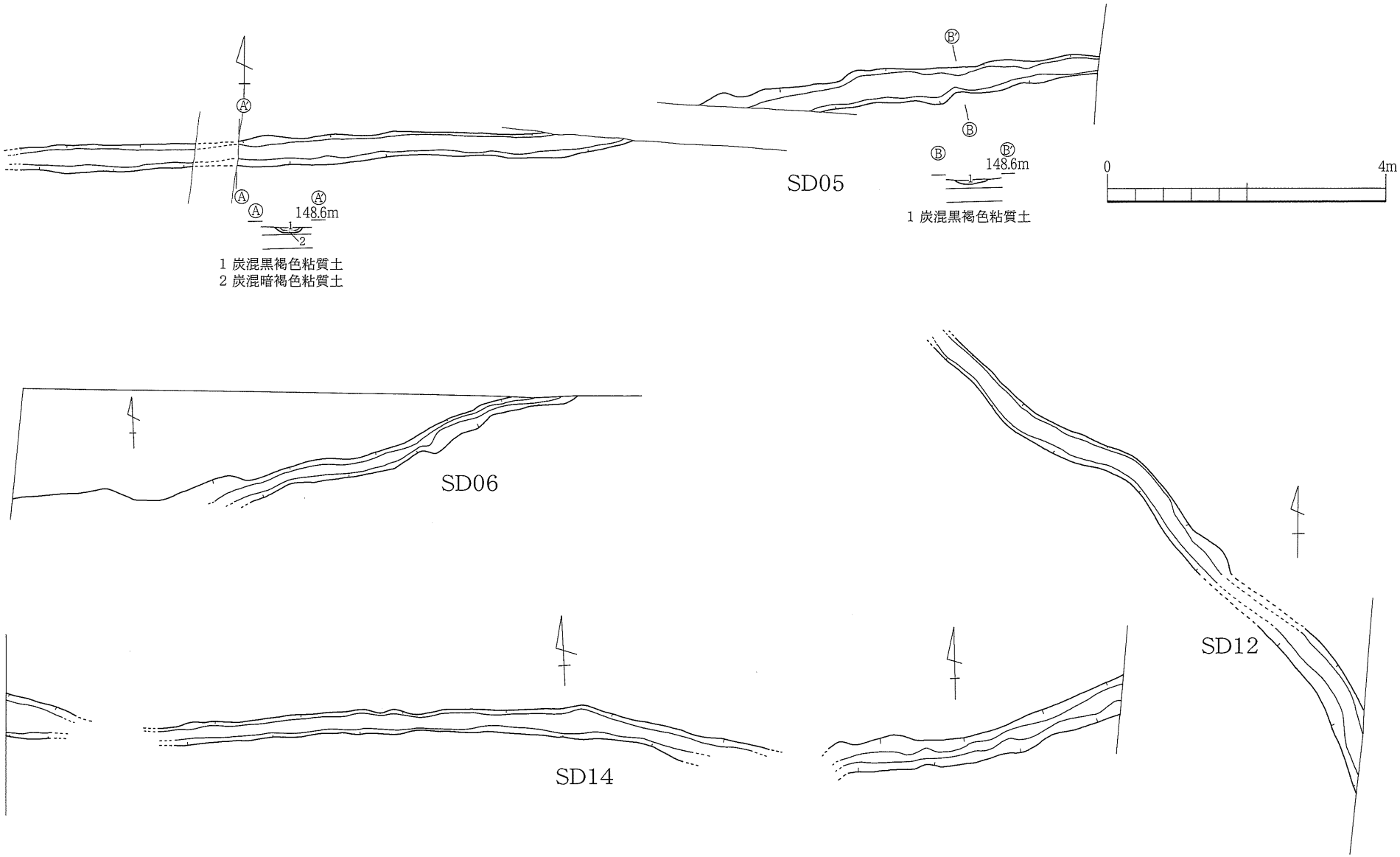
ＳＣ６２はＡ－Ⅸ－c区で検出した。ＳＤ０４に北接している。中央には土層観察用のベルトがある。方向軸はＮ70°Ｅで、長径2.8m、短径1.57mを測る。方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は35cmと深い。

第62図**451**・**452**は甕の口縁部。

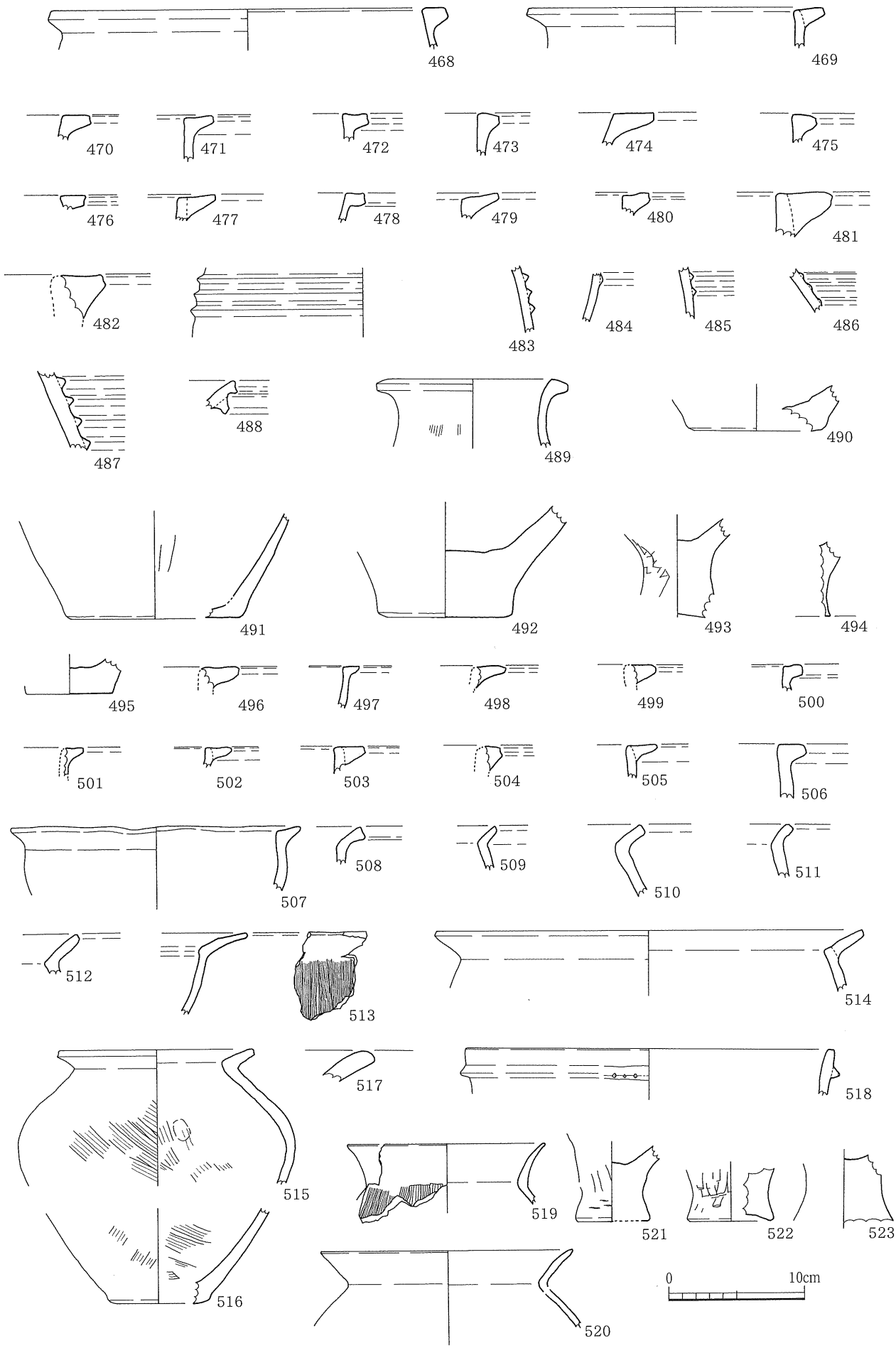
63号土坑（ＳＣ６３：第59・60図）

ＳＣ６３はＢ－Ⅱ－c区で検出した。楕円状を呈し、方向軸はＳ40°Ｅで、長径2.4m、短径1.72mを測る。検出面から床面までの最大深度は50cmと非常に深い。西側はテラス状を呈している。

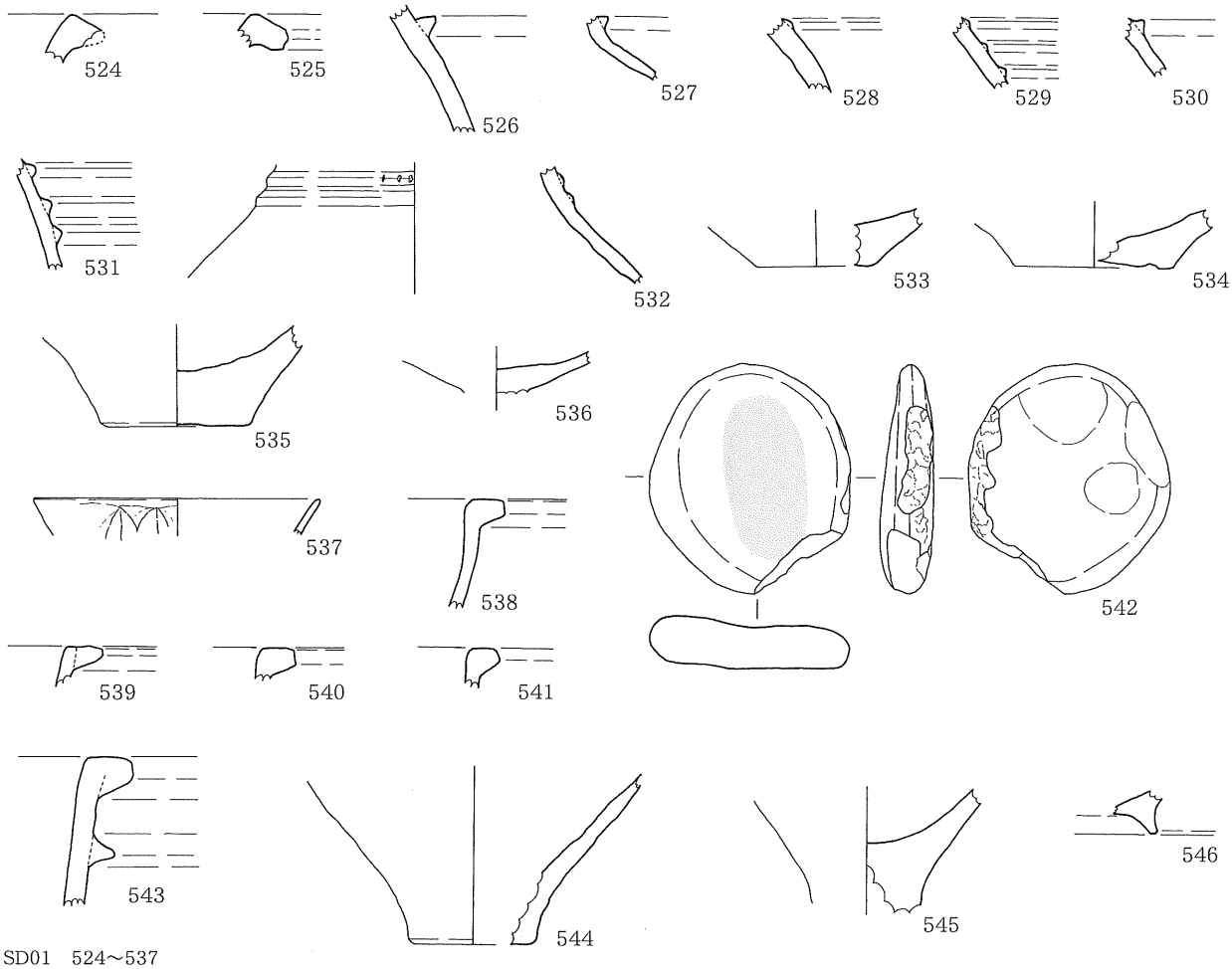
出土遺物は第60図**426**～**444**である。**426**は口径31.2cmを測る甕の口縁部で、胎土にキンウンモを含む。M字状の口唇部突帯は、肥厚している。**427**は甕の口縁～胴部。口縁がやや内傾している。口径28cm。**428**も甕口縁～胴部。口径は23.8cm。**429**は甕口縁部。**430**は甕口縁～胴部。口径は33cm。口唇部の突帯は器壁がやや薄い。口縁下に１条の刻目突帯をもち、ススがみられる。胴部は張り出しが弱い。**431**は胎土にキンウンモを含む壷の口縁部である。口径は13.2cmを測る。**432**は口縁部。**433**は壷の肩部で、突帯がある。**434**は鉢形か。口縁～胴部。口縁下に刻目突帯がある。外器面にはミガキがみられ、口径は26.2cmを測る。**435**・**436**は甕底部。**435**は胎土にキンウンモを含む。底径は**435**が８cm、**436**が7.9cm。**437**は底径6.4cmを測る底部。**438**は甕の底部。底径6.9cmを測り、内器面にはススが付着している。**439**は底部付近。**440**・**441**は甕の底部。底径は**440**が7.2cm、**441**が８cmを測る。**440**には内器面にススあり。**442**・**443**は壷の底部か。底径は**442**が9.7cm、**443**が8.9cmを測る。**444**は底径６cmを測る底部。



第64図　ＳＤ０５・０６・１２・１４実測図及び層断面図



第65図　ＳＤ０１内出土遺物実測図



SD01　524～537
SD03　538～542
SD05　543・544
SD06　545
SD14　546

0　10cm

第66図　ＳＤ０１・０３・０５・０６・１４内出土遺物実測図

64号土坑（ＳＣ６４：第59・62図）

ＳＣ６４はＢ－Ⅴ－d区で検出した。方向軸はＮ85°Ｅで、長径1.4m、短径0.9mを測る。検出面から床面までの最大深度は40cmと深い。楕円状を呈する。

第62図**453**・**454**は甕の口縁部。口径は**453**が24.6cm、**454**が15.6cm。

65号土坑（ＳＣ６５：第59・62図）

ＳＣ６５はＡ－Ⅵ－b区で検出した。方向軸がＮ65°Ｅの不定型である。長径2.15m、短径0.52mを測る。検出面から床面までの最大深度は22cm。

第62図**455**は壷の肩部か。

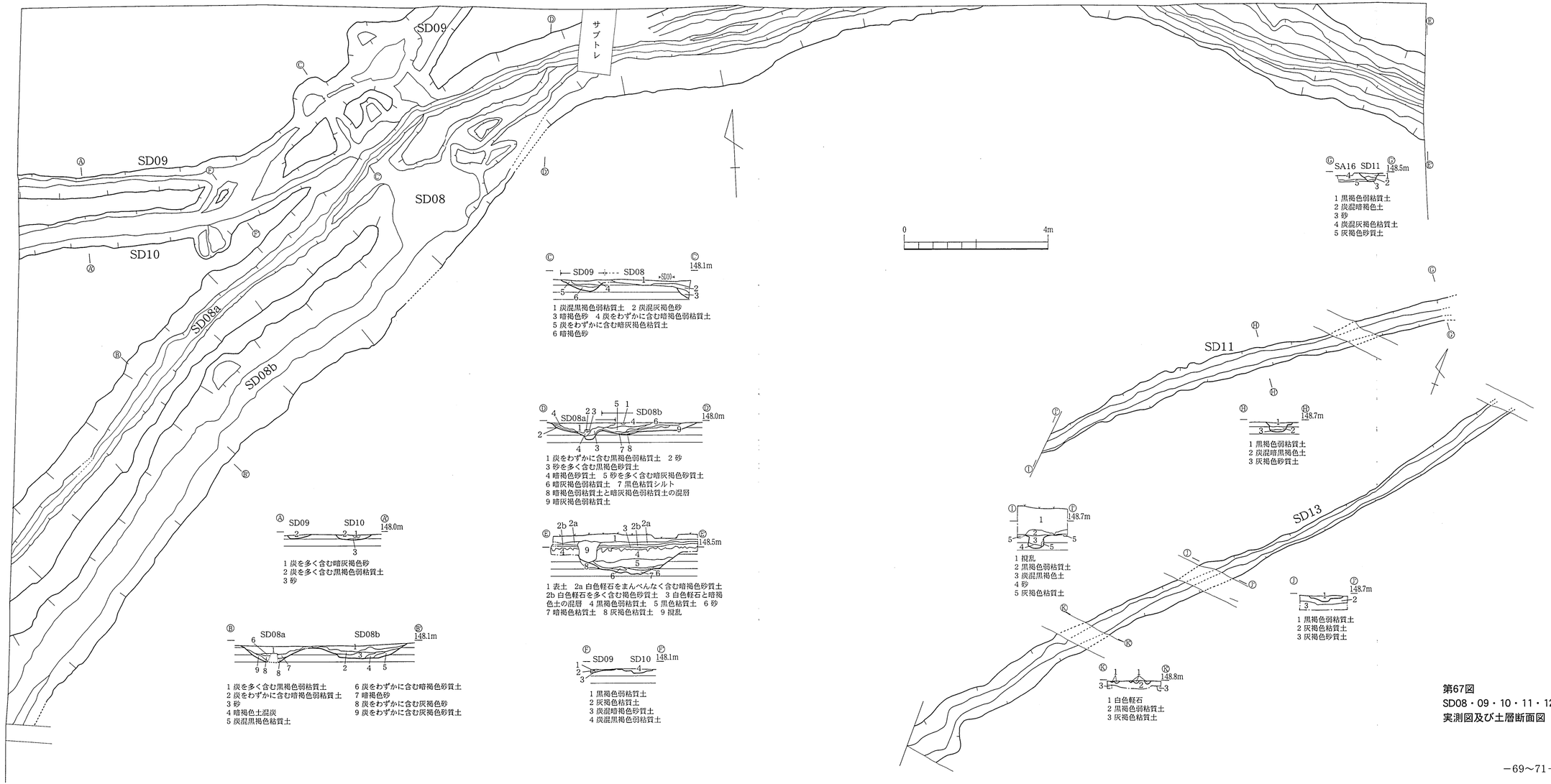
66号土坑（ＳＣ６６：第59図）

ＳＣ６６はＡ－Ⅸ－b区で検出した。方向軸はＮ5°Ｗで、長径1.1m、短径0.45mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。

67号土坑（ＳＣ６７：第59・62図）

ＳＣ６７はＡ－Ⅸ－c区で検出した。北側半分のみ検出した。南側は近年の排水溝によって破壊されている。方向軸はＮ10°Ｗで、検出面から床面までの最大深度は20cm。楕円状を呈する。

第62図**456**～**464**が出土遺物である。**456**～**459**は甕の口縁部。全て突帯をもち、胎土にキンウンモを含む。**457**・**459**は大甕か。**459**の口径は48cm。**460**は底部付近。**461**は胎土にキンウンモを含む底部。



第67図
SD08・09・10・11・12
実測図及び土層断面図

底径は6.8cm。**462**は甕の口縁～胴部。口縁下に３条の突帯をもち、口径は32.2cmを測る。**463**は突帯を付す甕の口縁部。形状は**462**と近似している。口径は25.8cm。**464**は壷の口縁部。胎土にキンウンモを含み、外器面にハケメがみられる。口径は21.1cm。

68号土坑（ＳＣ６８：第61図）

ＳＣ６８はＡ－Ⅵ－c区で検出した。方向軸はＮ15°Ｅで、長径1.1m、短径0.65mを測る。検出面から床面までの最大深度は14cm。

70号土坑（ＳＣ７０：第61図）

ＳＣ７０はＡ－Ⅸ－c区で検出した。方向軸はＮ10°Ｗで、長径1.5m、短径0.97mを測る。検出面から床面までの最大深度は12cm。

72号土坑（ＳＣ７２：第61図）

ＳＣ７２はＢ－Ⅸ－b区で検出した。方向軸はＮ10°Ｗで、長径0.8m、短径0.6mを測る。検出面から床面までの最大深度は10cm。

73号土坑（ＳＣ７３：第61図）

ＳＣ７３はＢ－Ⅸ－b区で検出した。ＳＣ７２の東側に位置する。方向軸はＮ20°Ｅで、長径0.9m、短径0.67mを測る。楕円状である。検出面から床面までの最大深度は10cmを測る。

75号土坑（ＳＣ７５：第61図）

ＳＣ７５はＢ－Ⅴ－b区で検出した。楕円状を呈し、方向軸はＮ5°Ｗで、長径1.14m、短径0.87mを測る。検出面から床面までの最大深度は６cmと浅い。

76号土坑（ＳＣ７６：第61・62図）

ＳＣ７６はＢ－Ⅸ－b区、ＳＤ０１の西側で検出した。方向軸はＮ55°Ｅで、長径2.55m、短径1.25mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。

第62図**465**～**467**が出土遺物である。**465**は胴部。胎土中にキンウンモを含み、突帯をもつ。**466**は口縁部。胎土にはキンウンモあり。**467**は軽石製。

77号土坑（ＳＣ７７：第61図）

ＳＣ７７はＣ－Ⅳ－a・c区で検出した。楕円形で方向軸はＮ35°Ｗである。長径が1.22m、短径が0.57mである。検出面から床面までの最大深度は７cmと浅い。

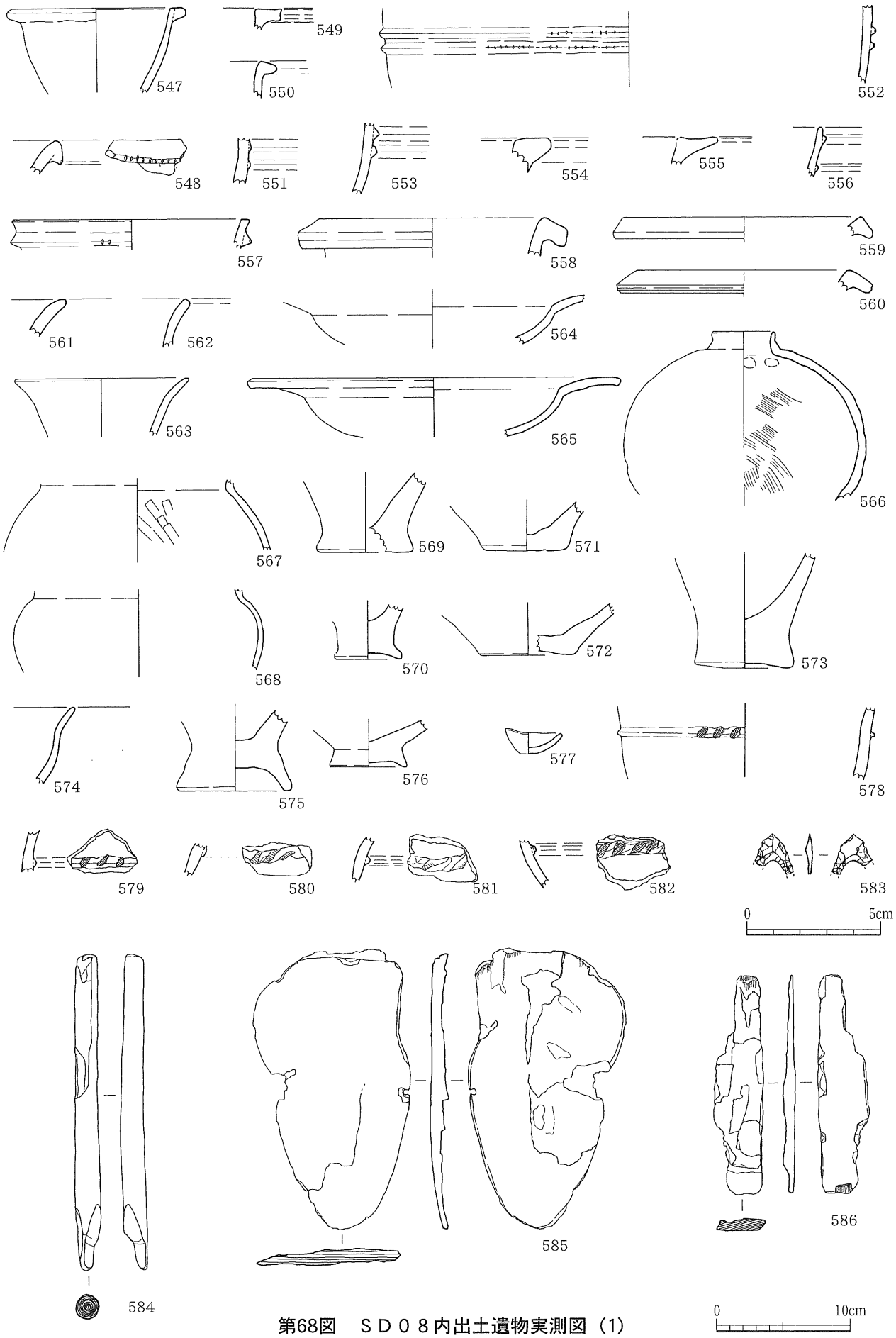
79号土坑（ＳＣ７９：第61図）

ＳＣ７９はＡ－Ⅵ－a区で検出した。ＳＣ６０の北側にある。ほぼ円形状を呈する。方向軸はＳ5°Ｅで、長径1.07m、短径0.98mを測る。検出面から床面までの最大深度は27cmとやや深い。

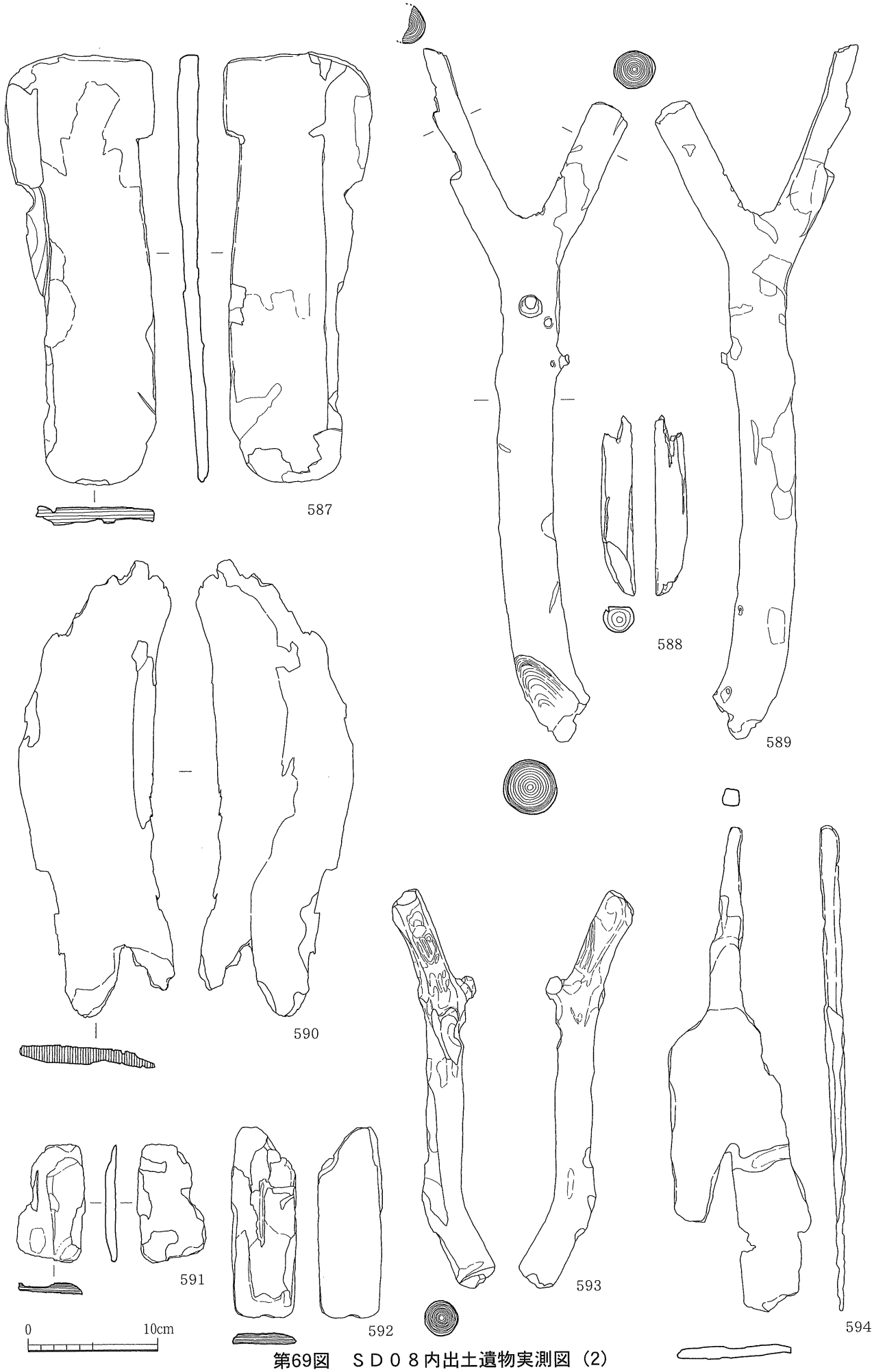
80号土坑（ＳＣ８０：第61図）

ＳＣ８０はＡ－Ⅷ－d区で検出した。ＳＣ６２の西側にあたる。方向軸はＮ65°Ｅで、長径1.47、短径0.35mを測る。検出面から床面までの最大深度は10cm。

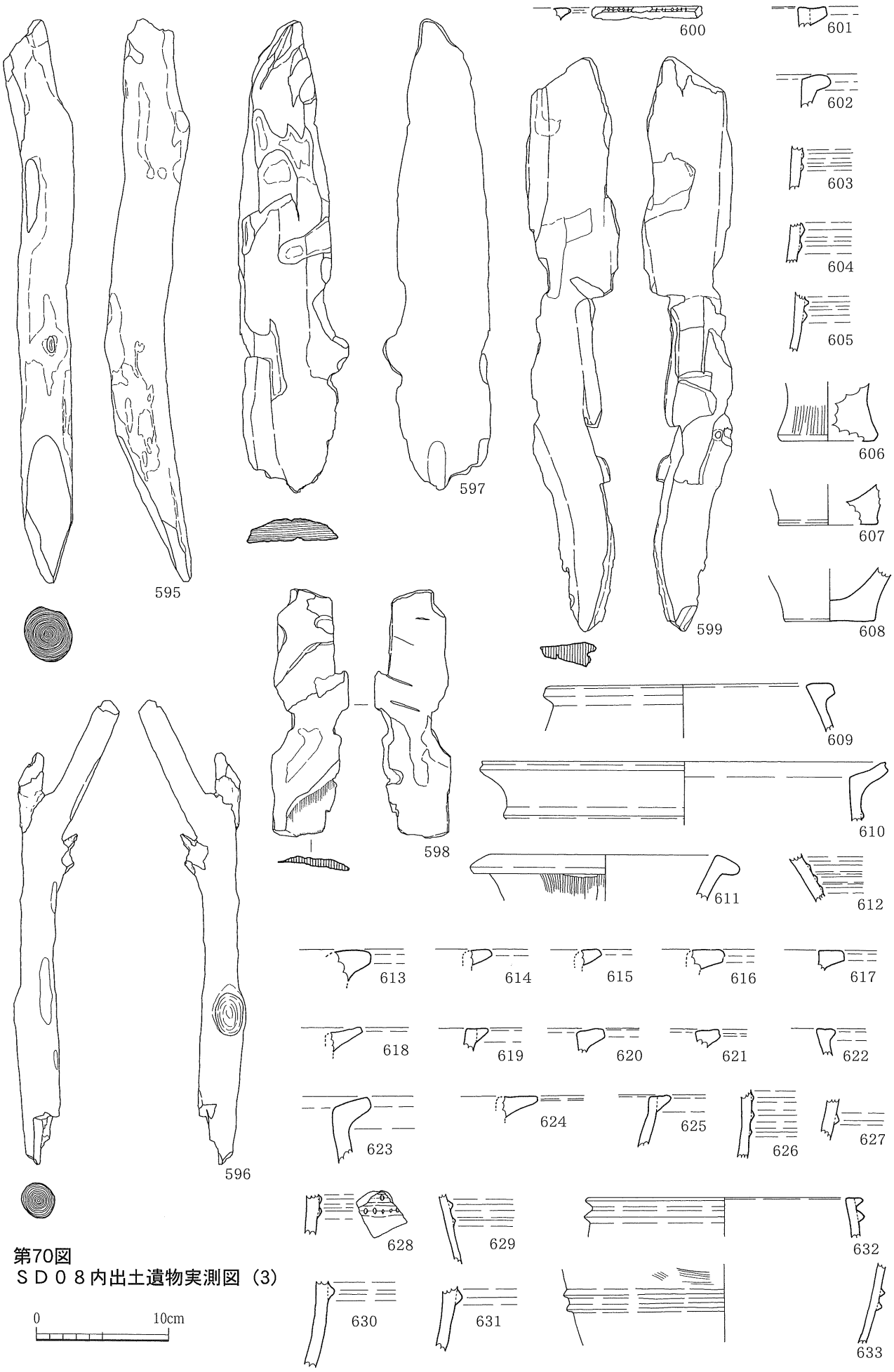
81号土坑（ＳＣ８１：第61図）



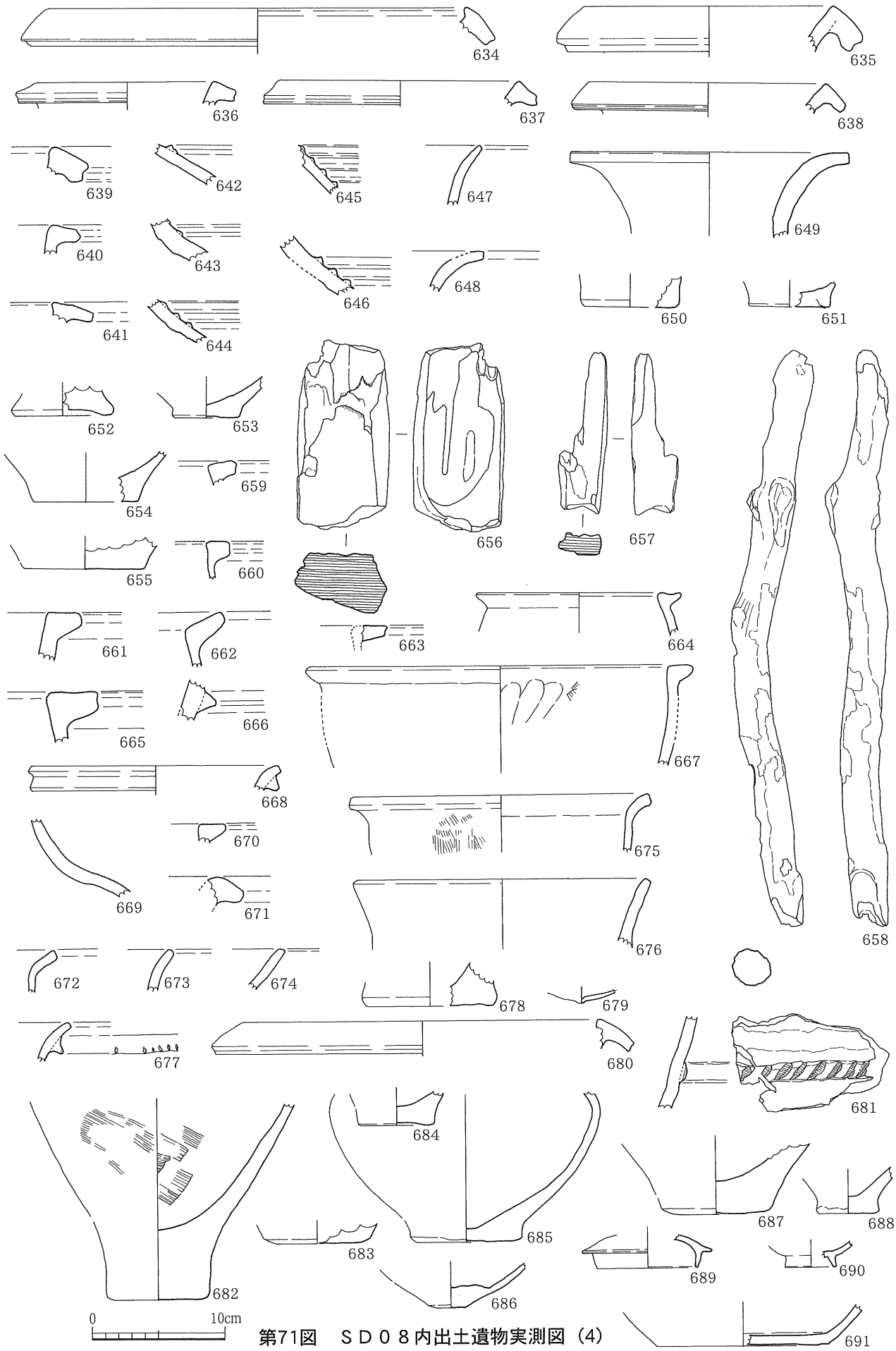
第68図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（1）



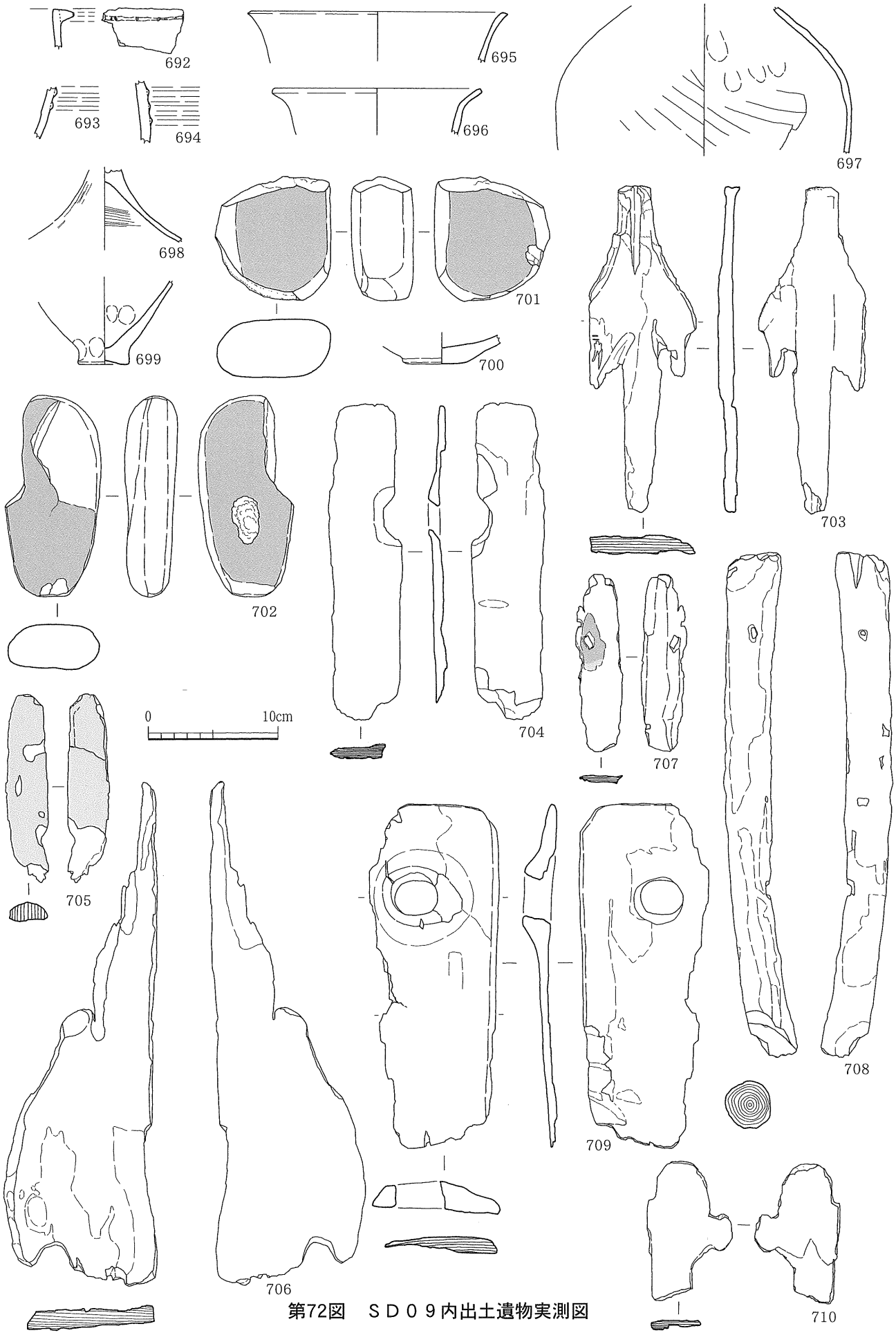
第69図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（2）



第70図
ＳＤ０８内出土遺物実測図（3）



第71図　ＳＤ０８内出土遺物実測図（4）



第72図　ＳＤ０９内出土遺物実測図

ＳＣ８１はＢ－Ｖ－b区で検出した。ＳＤ０１の東側にあたる。方形状を呈し、方向軸はN60°Ｅである。長径が1.38m、短径が0.78mである。検出面から床面までの最大深度は33cmを測る。

82号土坑（ＳＣ８２：第61図）

ＳＣ８２はＢ－Ｖ－e区で検出した。Ｂ区西壁際である。舟形を呈し、方向軸はN40°Ｅである。長径0.98m、短径0.48mを測る。検出面から床面までの最大深度は20cm。

【溝状遺構】

１号溝状遺構（ＳＤ０１：第63・65・66図）

ＳＤ０１はＢ調査区の西側を北西－南東の方向軸で延びる。Ｂ－Ｉ－e区からＢ－Ｘ－c・d区にかけて位置する。最大の幅員は約2.6m、検出面からの最大深度は0.7mを測る。断面形態はV字状を呈するが、最下部は若干箱形になっている。最下部には砂の堆積もみられ、水生作用のあった可能性を示唆している。方向や幅員の状況から、Ａ区北側を弓形状に走るＳＤ０８との関連性を想定し、Ａ区の西側に2つのトレンチを新たに設定し、走向確認を行ったところ、ＳＤ０１と０８は少なくとも重なり合っていることがわかる。

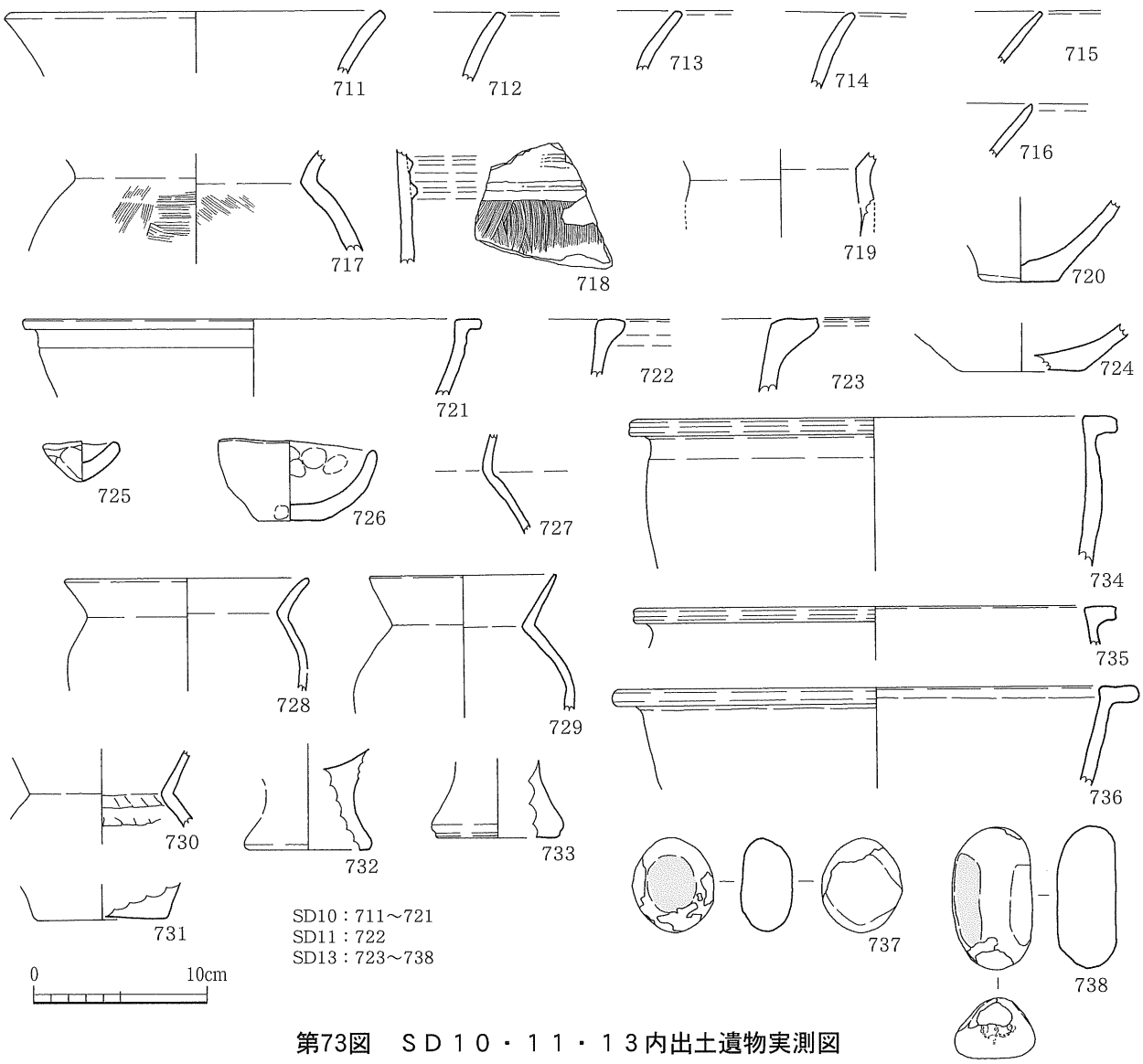
出土遺物を第65・66図468～537に示した。468～472は甕の口縁部。胎土にはキンウンモが含まれる。口径は468が29.8cm、469が22.2cmを測る。473は壷の口縁部か。キンウンモが胎土中にある。474は甕の口縁部。外器面にススが付着している。胎土にはキンウンモあり。475は壷の口縁部か。胎土にキンウンモあり。476～482は甕の口縁部。胎土中にはキンウンモあり。481・482は大甕か。483～486は胴部。突帯をもち、胎土にキンウンモを含む。483は外器面にススがみられる。487は大甕の胴部か。胎土にキンウンモを含み、突帯を付す。488は複合口縁壷の口縁部。胎土にキンウンモを含む。489は壷口縁部。口径14.4cmを測り、胎土にキンウンモあり。外器面にハケメ調整がみられる。490～495は底部。胎土中にはキンウンモが含まれる。底径は490が10cm、491が12.4cm、492が10cm、495が6.4cmを測る。493・494は甕。495は外器面にススあり。496～503、505～508、510～512、514は甕の口縁部である。500は外器面にススが付着している。505は内外の磨耗が激しい。508・511は外器面にススあり。口径は507が21.6cm、514が31.8cm。504は壷の口縁部か。509の口縁部は内外の磨耗が激しい。513の口縁部は器形が明確でない。515は壷の口縁部。内外ともにハケメがみられる。口径は14.7cmを測る。516の壷底部は底径7.4cm。515と同一か。517は口縁部。518は甕の口縁部で、口縁下に１条の刻目突帯を有する。口径は27.4cm。下城式系の型式と思われる。519・520は壷口縁部。口径は519が14.8cm、520が18.8cm。521・522は甕底部。底径は521が5.8cm、522が6.4cmを測る。523は甕脚部。524・525は壷口縁部。526は突帯をもつ胴部片。527は壷の頸部か。突帯あり。528～531は胴部。突帯をもつ。529は外器面にススあり。532は壷の頸部である。刻目突帯をもつ。内外ともに磨耗している。533～535は底部。533・534は磨耗している。底径は533が5.6cm、534が8.5cm、535が7.3cmを測る。536は高坏脚部。537は青磁碗の口縁部。口径15.3cmを測る鎬蓮弁文碗である。

２号溝状遺構（ＳＤ０２）

ＳＤ０２は、Ｂ調査区のやや南側を横断している。時期的には新しいものと思われ、少なくとも中世水田跡の形成より早いことはないであろう。ほとんど面的に捉えられない状況であり、Ｂ－Ⅶ－a区においてＳＤ０３と重なり合う部分のみが確認できている。

３号溝状遺構（ＳＤ０３：第63・66図）

ＳＤ０３はＢ調査区の南東部、Ｂ－Ⅷ－b区からＢ－XI－d区にかけて検出した。南西－北東方向に走向している。Ｃ調査区のＳＤ１１とつながっている。幅員は70cmほど、検出面からの深度は40cm弱を



第73図　ＳＤ１０・１１・１３内出土遺物実測図

測る。

第66図538～542が出土遺物である。538～541は甕の口縁部。538・540・541は胎土中にキンウンモを含む。542は擦石か。

４号溝状遺構（ＳＤ０４：第63図）

ＳＤ０４は、Ａ調査区の南側、Ａ－Ｘ－b区からＢ－Ⅱ－a区で確認した。東西に延びており、幅員は30cm、検出面からの深度は10cmを測る。Ｂ調査区のＳＤ０６とつながると思われる。ＳＡ０４とも切り合っているが、断面観察により、ＳＡ０４→ＳＤ０４の時期差があるものと思われる。

５号溝状遺構（ＳＤ０５：第64・66図）

Ａ－Ⅲ－b区からＡ－XI－a・b区で確認したＳＤ０５は、幅員が40cm、深度が約10cmである。一部排水溝によって破壊されている。

第66図543・544が出土遺物である。543は大甕の口縁部か。口縁下に１条突帯がある。胎土中にはキンウンモを含む。544は底径6.8cmを含む底部。

６号溝状遺構（ＳＤ０６：第64・66図）

ＳＤ０６はＢ調査区の北端、Ｂ－Ｉ－b区で検出した。Ａ調査区のＳＤ０４とつながると思われる。幅員は30cm強を測る。

第66図545は脚部。剥落が激しい。

８号溝状遺構（ＳＤ０８：第67～71図）

ＳＤ０８はＡ－Ⅲ－b区からＡ－Ⅳ－c区にかけて検出した。Ａ調査区の北側を弓形上に走向する。幅員は４m強ある。検出面からの最大深度は60cm。ＳＤ０９・１０とも切り合っている。断面観察から、ＳＤ０９→ＳＤ０８→ＳＤ１０の時期差をみることができる。ＳＤ０８の広がりは、東西に設定したトレンチで追うことができる。特に西側では、ＳＤ０１とつながる可能性がある。ＳＤ０８自体も２つの溝が重なり合ったものであり、ここで、北側をＳＤ０８a、南側をＳＤ０８bとすれば、断面観察から、ＳＤ０８b→ＳＤ０８aの時期差を見出せる。北東部分では重なりが大きく、ほぼ交錯したような状態となっている。

出土遺物は第68～71図547～691に示した。遺物の取り上げ時に確認した分類でいけば、０８aが547～599、０８bが600～658、659以降が０８となる。547は甕の口縁～胴部。胎土中にキンウンモを含む。口径は13.4cm。548は壷の口縁部。胎土中にキンウンモを含み、口唇部には刻目突帯をもつ。549・550は胎土にキンウンモが混じる甕の口縁部である。551・552は胴部。胎土中にキンウンモを含んでおり、551は突帯、552は刻目突帯を有する。553は突帯あり。554～557は口縁部である。554・555・557は甕。556は口唇下に２条の突帯を付す。557は口径17.8cmを測る。口縁下に刻目突帯があり、下城式系の特徴ととらえられる。558～560は壷の口縁部。口径は558が20.2cm、559が19.4cm、560が19.2cmを測る。559は口唇部が大きく垂れ下がる。561～563は口縁部。564は高坏坏部。565は高坏口縁部。口径28.2cmを測る。566は短頸の壷。口径4.8cm。567・568は胴部。567は外器面にススあり。569～573は底部。569・570. 573は甕か。570は上げ底状を呈する。底径は569が7.2cm、570が5.1cm、571が5.9cm、572が７cm、573が7.4cmを測る。574は高坏口縁部か。575・576は底部。底径は575が8.6cm、576が5.6cmを測る。577はミニチュア土器。口径4.1cm、底径１cm、器高1.55～1.9cmを測る。578～582には全て絡縄突帯がある。583は石鏃。584～599は木製品。584は杭か。585～593は不明。594は三ツ鍬。595は杭か。600～602は甕の口縁部。胎土中にキンウンモが含まれており、600には刻目突帯がある。603～605は突帯のある胴部。胎土中にキンウンモあり。606～608は底部。胎土中にキンウンモを含む。606は甕か。底径は606が6.8cm、607が7.2cm、608が6.6cmを測る。609・610は甕の口縁部。609は口縁が内傾している。胎土中にキンウンモあり。口径は609が22cm、610が30.6cmを測る。611は胎土中にキンウンモを含む壷の口縁部。外器面にハケメ調整あり。口径は20.3cm。612は突帯をもつ。613～625は甕の口縁部。619・625は外器面にススの付着がみられる。622は内外ともに磨耗が激しい。626～631・633は胴部。全て突帯をもつが、628は刻目である。632は口唇と口唇下に突帯をもち、口径は21cmを測る。634は壷の口縁部で、口径35.6cmである。635～641は壷の口縁部。口径は635が23cm、636が16.5cm、637が20.5cm、638が20.6cmを測る。642は壷の頸部か。643・645は突帯のある壷の肩部。645の胴部は突帯あり。646の壷肩部も突帯あり。647は口縁部。648・649は壷口縁部。650～655は底部。652は甕。底径は650が6.6cm、651が６cm、652が７cm、653が５cm、654が7.6cm、655が９cmを測る。656～658は木製品。659～665・667は甕の口縁部。胎土中にキンウンモを含む。666は突帯をもち、胎土にキンウンモあり。665は大甕。664は口縁が内傾している。口径は667が29cm、664が15.5cm。668は複合口縁壷の口縁部か。胎土中にキンウンモあり。口径19cm。669の壷頸部は胎土にキンウンモあり。670は甕口縁部。671は壷口縁部。672は口縁部。673は甕口縁部。674は口縁部。675は口径25.4cmを測る甕口縁部。676の甕口縁部は外器面にススの付着がみられる。口径は22.4cm。677の壷口縁部は口縁下に刻目突帯がある。678の底部は10.1cmを測り、外器面にススがみられる。679はミニチュア土器と思われる。680の壷口縁部は口径31.7cmを測る。

第74図
中世水田跡実測図

口唇部が外方へ垂れ下がる。681の胴部は絡縄突帯をもち、外器面にススが付着している。682～688は底部。底径は682・683が7.8cmを測る。684の底部は磨耗が激しい。胎土にキンウンモあり。底径は5.8cm。685は壷の底部。底径8.4cmで、外器面にススあり。底径は686が2.3cm、687が8.3cm、688が4.2cmを測る。689～691は陶器。サツマ系と思われる。689はチョカの蓋。690は碗の底部で、内器面には蛇ノ目釉剥ぎが残る。691は底部。

9号溝状遺構（ＳＤ０９：第67・72図）

ＳＤ０９はＡ－Ⅱ－a区からＡ－Ⅳ－a区にあり、ＳＤ０８・１０と切り合っている。断面観察から、ＳＤ０９→ＳＤ０８→ＳＤ１０の時期差が確認できる。幅員は60cm、検出面からの深度は10cmである。砂溜り状の土坑のような部分には、夥しい木片とともに、鍬片などの木製品もみられた。

第72図692～710が出土遺物である。692は甕の口縁部で、胎土中にキンウンモが含まれ、口唇部には刻目がある。693・694は突帯をもつ胴部。胎土にキンウンモがある。695は口縁部か。口径20cm。696は口縁部。口径16cm。697は壷胴部。698は高坏脚部。699・700は底部。底径は699が４cm、700が4.7cmを測る。701・702は擦石。703～710は木製品。703は三ッ鍬片。704は鍬片。708は杭か。709は鍬片。

10号溝状遺構（ＳＤ１０：第67・73図）

ＳＤ１０はＳＤ０９の南側にあり、ＳＤ０８・０９と切り合っている。ＳＤ０９→ＳＤ０８→ＳＤ１０の時期差あり。幅員は１m弱、検出面からの深度は40cmである。

出土遺物は第73図の711～721である。711～716は口縁部。717は壷頸部か。718の胴部は突帯をもち、胎土にはキンウンモがある。719は甕頸部か。720は底径4.7cmの底部。721はサツマ系と思われる甕の口縁部である。

11号溝状遺構（ＳＤ１１：第67・73図）

ＳＤ１１はＣ－Ⅰ－c区からＣ－Ⅰ－b区で確認している。走向はＳＤ０３と同じである。幅員は70cm、検出面からの深度は40cmを測る。

第73図722は胎土中にキンウンモを含む甕の口縁部である。

12号溝状遺構（ＳＤ１２：第64図）

ＳＤ１２はＣ－Ⅱ－c区からＣ－Ⅳ－b区で検出した。幅員は50cm。

13号溝状遺構（ＳＤ１３：第67・73図）

ＳＤ１３はＣ－Ⅰ－b区からＣ－Ⅲ－a区にかけて確認した。幅員90cm、深度20cm弱を測る。

出土遺物を第73図723～738に示した。724の底部は底径７cm。内外ともに磨耗している。723・734～736は甕の口縁部。734・735は胎土中にキンウンモを含む。口径は734が28.2cm、735が28cm、736が30.5cmを測る。725はミニチュア土器。口径4.5cm、器高2.2～2.3cmを測る。726は口径９cm、底径3.7cm、器高4.1～4.8cm。727は甕頸部。728は壷の口縁部か。口径14cm。729は壷の口縁部で、口径10.8cm。輪積痕が残る。730は壷頸部。輪積痕が残る。731は底部。底径7.5cm。732・733は甕底部。底径は732が7.5cm、733が6.8cm。737・738は擦石。

14号溝状遺構（ＳＤ１４：第64・66図）

ＳＤ１４はＣ－Ⅱ－a区からＣ－Ⅵ－b区で確認した。幅員が30cm強。

第66図546は底部で、内器面は磨耗している。

【中世水田】

１～36号水田跡（ＳＷ０１～３６：第74図）

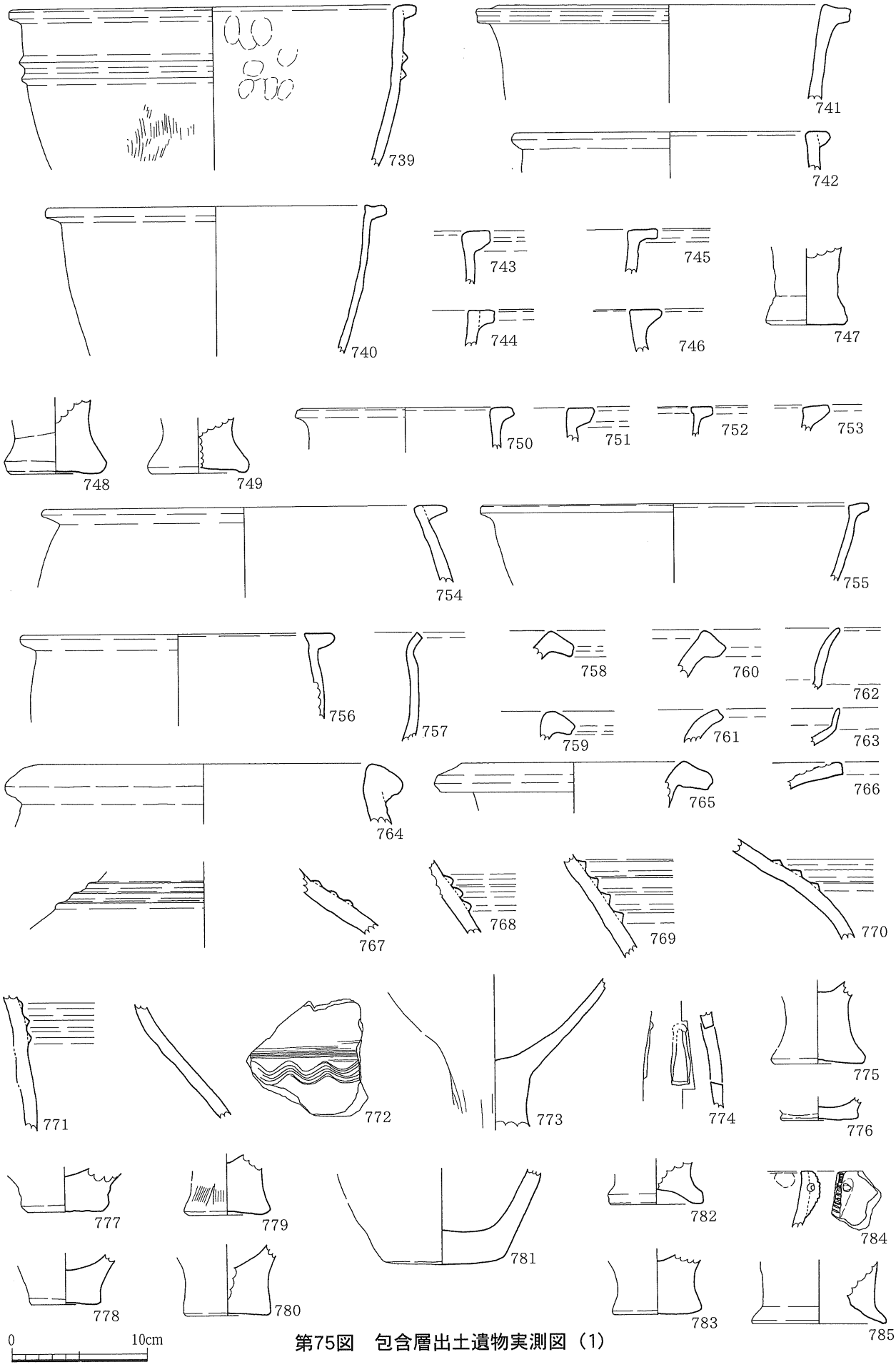
桜島噴出の軽石層上面において遺構確認を行ったところ、中世（約500～600年前）の水田を検出した。畦畔の幅は１m前後。水田の形状は南北に細長いものが多く、東側にいくほど区画面積が大きく、西側へは狭くなっている。地形的にも、東から西へ向けてわずかに傾斜しており、こうした区画構成は地形にも影響を受けていると考えられる。Ｃ区のＳW32～36において、水田直上に10cm程度堆積していた桜島噴出軽石を除去すると、水田面におびただしい凹凸がみられた。現場での所見では、この凹凸は①人間の足跡、②家畜の足跡、③農耕具（鋤もしくは鍬）の痕跡にグルーピングできるのではないかと考えられる。これは市内横市地区における調査（鶴喰遺跡・肱穴遺跡など）と同様の状況である。

【包含層内出土遺物（第75・76図）】

本遺跡内での遺物包含層は基本土層のⅣ・Ⅴ層である。特にはⅤ層からの出土が主といえる。

包含層内出土遺物を第75・76図739以降に示した。

739～746は甕の口縁部である。全ての胎土にキンウンモが含まれる。739には突帯がある。746は外器面にススが付着する。口縁径は、739が30.2cm、740が25.4cm、741が27.9cm、742が23.6cmを測る。747～749は甕の底部。胎土にキンウンモがある。底部径は、747が６cm、748が７cm、749が7.2cmを測る。750～757は甕の口縁部。750にはキンウンモが含まれる。口縁径は、754が30cm、755が28.8cm、756が23.4cmである。758～760は壷の口縁部。761～763は口縁部である。764・765は壷の口縁部。口径は764が39.5cmで、765が20.8cm。766は口縁部。767は壷の頸部。768は壷の肩部。突帯をもつ。769は胴部で、胎土にキンウンモを含む。突帯がある。770は壷の肩部で、突帯がある。771の胴部は突帯をもつ。772の壷肩部は波状文がみられる。外器面にススあり。773は甕の脚部で、キンウンモがある。774は矢羽透をもつ高坏脚部である。775～783は底部。775は甕でキンウンモあり。776は内外にススがみられる。778はキンウンモがある。779は甕で、上げ底を呈する。780は上げ底気味である。783は甕で、外器面は磨耗している。底径は、775が７cm、776が5.8cm、777が6.6cm、778が5.3cm、779が5.4cm、780が6cm、781が9.9cm、782が７cm、783が5.3cmを測る。784は口縁部。口唇部には斜縦位に突帯があり、刻目が施され、穿孔がなされている。785は底部か。786・787は石鏃。788は敲石か。789・790は石斧。789は刃部が欠落し、790は磨耗が夥しい。791は須恵器坏の口縁部。792は布痕土器。793は甕。口径は26.7cm。794は土師器坏底部。底面に線刻がある。底径6.9cm。795・796は坏底部。底面はヘラ切り離しである。底径はともに７cmを測る。797は内黒坏の高台部で、底径９cmである。798は埦の底部か。底径は7.4cm。799～811は青磁である。799は碗の底部付近。劃画文がある。Ⅰ類に相当。800は鎬蓮弁文碗の口縁部。Ⅱb類に相当する。801は小坏。口径10cm、底径3.2cm、器高3.6cmを測る。Ⅳ類、14世紀前半に比定される。802～804は碗の口縁部。Ⅳ類に相当。口径は802が15cm、803が16.3cm、804が13.4cmを測る。805は稜花皿の口縁部。15世紀後半頃か。口径11cm。806はⅣ類に相当する龍泉窯系碗の高台部。底径は6.5cm。807は稜花皿の口縁部。劃画文あり。15世紀後半頃か。808は鎬蓮弁文を施す坏の底部。底径は3.8cm。Ⅲ類に相当。809は龍泉窯系碗の底部である。Ⅳ期以降にあたる。底径は６cmを測る。810は香炉の底部。811は線描蓮弁文を施す碗の口縁部である。口径は17.6cmである。上田Ｂ類にあたる。812は白磁碗の口縁部。内器面口唇部は無釉で、いわゆる「口禿」である。口径は12.4cm。813～819は染付。813は景徳鎮系皿の底部。底径は８cm。814は景徳鎮系深皿の底部。底径は8.8cm。815は景徳鎮系碗の口縁部。口径は8.6cmを測る。816は景徳鎮系皿。口径12.4cm、底径7.8cm、器高2.75cmを測る。817は漳州窯系碗の底部。底径は4.6cm。見込みに「寿」あり。16世紀代の所産。818は漳州窯系の蓮子碗底部。16世紀代。底径は5.4cm。819は肥前系である。唐草文が施されている。18～19世紀か。



第75図　包含層出土遺物実測図（1）

第76図　包含層内出土遺物実測図（2）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
1	石製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6141	ビーズ　青色
2	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10Y8/2）	灰白（10Y8/2）	3mm以下の鉱物含	4100	甕口縁部
3	土器			—	—	—	ナデ	—	灰白（2.5Y8/1）	—	3mm以下の鉱物含	4104	口唇部
4	土器	ＳＡ０１		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR6/2）	灰褐（7.5YR5/2）	2mm以下の鉱物含	4102・4103	胴部
5	土器			—	—	—	ナデ	—	灰白（10Y7/1）	—	3mm以下の鉱物含	4093	底部
6	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4106	擦石
7	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4108	擦石
8	土器			22.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	にぶい黄橙（10ＹＲ7/2）	3mm以下の鉱物含	1307	甕口縁部
9	土器	ＳＡ０２		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5ＹＲ6/3）	にぶい褐（7.5ＹＲ6/3）	1mm以下の鉱物含	一括	胴部　突帯あり　キンウンモ
10	土器			—	6.8	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	—	3mm以下の鉱物含	4427	甕脚部
11	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐（10YR3/1）	褐（7.5YR4/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
12	土器			—	6.6	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	にぶい黄橙（10ＹＲ6/3）	3mm以下の鉱物含	3674	底部　キンウンモ
13	土器			—	7.4	—	ハケ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	3667	甕底部　キンウンモ
14	土器			—	6.9	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	黒褐（10YR5/2）	2mm以下の鉱物含	5131	甕底部　キンウンモ
15	土器			—	—	—	—	—	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい橙（5YR6/4）	1mm以下の鉱物含	445	胴部　キンウンモ
16	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	—	3671	甕口縁部　口唇部2条の刻目あり
17	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	—	SA03内中央土坑	甕口縁部　口唇部2条の刻目あり
18	土器			26.7～27.9	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい褐～灰褐（7.5YR5/4～4/2）	にぶい褐（7.5ＹＲ5/4）	5mm以下の鉱物含	3661・3662・3664 3669・3670・3728	甕口縁～胴部　キンウンモ　外わずかにミガキ
19	土器			24.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐（5YR4/3）	にぶい赤褐（5YR4/3）	—	一括	甕口縁部　キンウンモ
20	土器			29.4	—	—	ハケ	ナデ	にぶい褐（7.5ＹＲ5/4）	にぶい褐（7.5ＹＲ5/3）	4mm以下の鉱物含	3689	甕口縁部　キンウンモ
21	土器			31	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	—	3727	甕口縁部　口唇部2条の刻目あり
22	土器			31	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	—	3724	甕口縁部　口唇部2条の刻目あり
23	土器	ＳＡ０３		27	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	8mm以下の鉱物含	5134	甕口縁部　口唇部刻目　突帯あり
24	土器			20.9	—	—	ナデハケ	ナデ	灰白（7.5YR8/1）	灰白（7.5YR8/1）	1mm以下の鉱物含	3719	口縁部　刻目突帯あり
25	土器			28	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	4mm以下の鉱物含	6588	甕口縁部　外磨耗
26	土器			23.6	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR6/1）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	3705	甕口縁部
27	土器			29.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	4mm以下の鉱物含	3729・3840・6585	甕口縁～胴部　突帯あり　外スス　ＳＣ０５と接合
28	土器			25.4	—	—	ナデハケ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	0.5mm以下の砂粒含	438	甕口縁部　外スス
29	土器			23.8	—	—	ナデハケ	ナデ	派白（7.5YR8/2）	灰白（7.5YR8/1）	2mm以下の鉱物含	6584	甕口縁部
30	土器			25.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	灰褐（10YR6/1）	2mm以下の鉱物含	3707	甕口縁部
31	土器			25.2	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	—	—	3710	甕口縁部
32	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR5/1）	にぶい黄橙(10YR7/2)～灰褐(10YR6/1)	—	3700	甕口縁部
33	土器			21.2	—	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5YR8/2）	灰白（7.5YR8/2）	—	445	甕口縁部
34	土器			26	5.8	30.5	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	6582	甕
35	土器			—	7.3	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	455・3914	甕底部

第１表　出土遺物観察表（1）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
36	土器			—	7.7	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	—	1mm以下の鉱物含	3723	甕底部
37	土器			—	6.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/2）	浅黄橙（7.5YR8/3）	1mm以下の鉱物含	444	甕底部
38	土器			—	7	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰褐（7.5YR5/2）	0.5mm以下の砂粒含	6403	甕底部
39	土器			—	6.4	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR7/1）	浅黄橙（7.5YR8/4）	3mm以下の鉱物含	3673	甕底部
40	土器			—	6.2	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい黄橙（10ＹＲ7/4）	5mm以下の鉱物含	6583	甕底部
41	土器	ＳＡ０３		28.6	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/1）	灰白（10YR8/1）	—	3691	壷口縁部
42	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	459・462・463 3713・6584	壷肩部
43	土器			—	7.9	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	442・3693・3694 3701・3731・3680	壷底部
44	土器			—	9	—	ナデ	—	灰白（10YR7/1）	—	2mm以下の鉱物含	467	壷？底部
45	土器			—	7.6	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい橙（7.5YR7/3）	2mm以下の鉱物含	6584	壷底部
46	土器			25	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	—	23・25・26・28	甕口縁部　キンウンモ
47	土器			25	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（7.5YR6/2）	—	36・37	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
48	土器			28.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	2mm以下の鉱物含	4037	甕口縁部　突帯あり
49	土器			20.3	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	黄褐（2.5Y5/3）	2mm以下の鉱物含	2354・4035	甕口縁部　突帯あり
50	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	6191	甕口縁部
51	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	3mm以下の鉱物含	4045	甕口縁部
52	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	明灰褐（7.5YR7/2）	—	2994	甕底部　キンウンモ
53	土器			—	7.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	明灰褐（7.5YR7/2）	—	18	甕底部　キンウンモ
54	土器			—	7.4	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	4037	甕底部
55	土器			—	7.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	灰褐（7.5YR4/2）	—	17	甕底部　キンウンモ
56	土器			—	5.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	4077	底部　キンウンモ
57	土器			—	—	—	—	—	灰褐（7.5YR5/2）	灰褐（7.5YR6/2）	—	4059	甕口縁部　刻目突帯あり
58	土器	ＳＡ０４		17.4	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y8/3）	灰白（2.5Y7/1）	6mm以下の鉱物含	6186	甕口縁部　刻目突帯あり
59	土器			25	—	—	ナデ	ナデ	明灰褐（7.5YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	6218	甕口縁部　内外磨耗
60	土器			25.8	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	6193	甕口縁部
61	土器			41.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	5378	甕口縁部　刻目突帯あり　外磨耗
62	土器			22.3	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
63	土器			23.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	暗灰黄（2.5Y4/2）	3mm以下の鉱物含	4070	甕口縁部
64	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	19・20・5369	大甕口縁部　突帯あり
65	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
66	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の鉱物含	3051	甕口縁部
67	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR6/2）	灰褐（7.5YR6/2）	1mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
68	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	1cm以下の鉱物含	2958	甕口縁部
69	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	1mm以下の鉱物含	34	把手
70	土器			24.2	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	9mm以下の鉱物含	2970	壷口縁部

第２表　出土遺物観察表（2）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
71	土器	SA04		21	—	—	ナデミガキ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	4069	蓋？高坏底部？
72	土器			—	8	—	ナデ	—	浅黄（2.5Y7/3）	—	2mm以下の鉱物含	2966・2997	甕底部
73	土器			—	8.6	—	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	灰黄（2.5Y6/1）	3mm以下の鉱物含	2953	壷底部　内磨耗
74	土器			—	7.2	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	6190	甕底部
75	土器			—	8	—	ナデハケ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	6197	壷？底部
76	土器			—	7.2	—	ナデハケ	—	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	3417・2962・2964 2965・6189	底部　キンウンモ
77	土器			—	8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	5mm以下の鉱物含	2957	底部
78	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	6184	磨製石鏃
79	土器	SA05		11.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	—	5415	甕口縁部
80	土器			10.3	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	4838	壷口縁部
81	土器			—	5.3	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR7/1）	灰白（10YR7/1）	—	4839	甕底部
82	土器	SA06		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	3mm以下の鉱物含	4138	甕口縁部　キンウンモ
83	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	3mm以下の鉱物含	4194	甕口縁部　キンウンモ
84	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/4）	1mm以下の鉱物含	4844	甕口縁部　キンウンモ
85	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	1mm以下の鉱物含	4847	甕口縁部　キンウンモ
86	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	橙(5YR6/6)～にぶい褐(7.5YR5/3)	2mm以下の鉱物含	4845	甕口縁部　キンウンモ
87	土器			—	6	—	ナデ	—	にぶい赤褐（5YR5/4）	—	4mm以下の鉱物含	4117	甕底部　キンウンモ
88	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	1059	胴部　突帯あり　キンウンモ
89	土器			26.8	—	—	ハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	1049・1050 4176・4185	甕口縁～胴部　キンウンモ
90	土器			20.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄褐（10YR5/4）	2mm以下の鉱物含	4133	甕口縁部　キンウンモ
91	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	ごく微小の砂粒含	4116	甕口縁部
92	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	5455	甕口縁部　キンウンモ
93	土器			19.2	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	5mm以下の鉱物含	4112	甕口縁部
94	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	4144	甕口縁部
95	土器			18.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	4155・4154・4145・4152 4150・4137・4153	壷口縁部
96	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	4192	壷肩部　突帯あり
97	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	4134・4136・4137・4140・4141 4142・4143・4148・4149	壷頸部
98	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	4159・4167・4249	甕底部
99	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	4100・4112・4170・4176・4177 4178・4181・4182・4183・4188	壷底部
100	土器	SA07		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	3mm以下の鉱物含	4305	甕口縁部　キンウンモ
101	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2mm以下の鉱物含	940	甕口縁部
102	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	2816	甕口縁部
103	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
104	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	浅黄橙（10YR8/4）	2mm以下の鉱物含	4296	甕口縁部
105	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	灰褐（7.5YR4/2）	3mm以下の鉱物含	939	甕口縁部　キンウンモ

第３表　出土遺物観察表（3）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法量			調整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
106	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	6mm以下の奥物含	2308	口縁部
107	土器			20	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	ごく微小の砂粒含	4318	甕口縁部
108	土器			24.8	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/3）	2mm以下の鉱物含	4273	甕口縁部
109	土器			30.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	4278	甕口縁～胴部
110	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	920	胴部　突帯あり
111	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	5509	壷頸部　突帯あり
112	土器			—	7.5	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	4292	甕底部
113	土器			—	5	—	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)～橙(5YR7/2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	3mm以下の鉱物含	4283	甕底部
114	土器			—	8.8	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	3mm以下の鉱物含	4281・4333	甕底部
115	土器	ＳＡ０７		—	8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄（2.5Y6/3）	2mm以下の鉱物含	2307	底部
116	土器			—	6.2	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい橙（7.5YR7/3）	3mm以下の鉱物含	5510	甕底部
117	土器			—	8.1	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR5/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）	3mm以下の鉱物含	2313・4357・一括	底部　キンウンモ
118	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	934	擦石
119	土器			18.6	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	4320・4321 4322・4336	壷口縁～頸部　突帯あり
120	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	4303	壷胴部　突帯あり
121	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	5mm以下の鉱物含	4325・4326	壷口縁部　キンウンモ
122	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	2312	敲石
123	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4329	擦石
124	土器			35.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/3）	ごく微小の砂粒含	4757・5514	甕口縁部　キンウンモ
125	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	にぶい褐（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	4729	甕口縁部　キンウンモ
126	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
127	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
128	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/1）	にぶい褐（7.5YR5/3）	4mm以下の奥物含	4764	胴部　突帯あり　キンウンモ
129	土器			—	6.8	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR5/4）	ごく微小の砂粒含	5540・5541	底部　キンウンモ
130	土器			—	7.7	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	4728	甕底部　キンウンモ
131	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	2mm以下の鉱物含	4761	甕口縁部
132	土器	ＳＡ０８		—	—	—	ナデ	ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（5YR6/6）	ごく微小の砂粒含	4763	甕口縁部　キンウンモ
133	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5YR）	灰白（7.5YR）	ごく微小の砂粒含	4748	甕口縁部
134	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄橙（10YR4/3）	4mm以下の奥物含	4733	大甕口縁部　キンウンモ
135	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y8/2）	浅黄（2.5Y8/3）	3mm以下の鉱物含	2353	甕口縁部
136	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	暗灰黄（2.5Y5/2）	灰黄褐（10YR6/2）	ごく微小の砂粒含	2320	甕口縁部　スス
137	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	3mm以下の鉱物含	2359	壷口縁部
138	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/3）	—	4mm以下の奥物含	4715	壷口縁部
139	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	4743・4750	甕口縁部
140	土器			—	6.5	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5Y8/2）	—	2mm以下の鉱物含	2334	甕底部

第４表　出土遺物観察表（4）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量 口径(廂径)	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	色 外面	色 内面	胎土	取上げNo.	備考
141	土器	SA08		—	8.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰褐（7.5YR6/2）	3mm以下の鉱物含	4723	甕底部
142	土器			—	6	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5Y8/2）	—	2mm以下の鉱物含	2342	甕底部
143	土器			—	7.5	—	ナデ	—	にぶい赤褐(5YR5/4)～にぶい褐(7.5YR6/3)	—	3mm以下の鉱物含	4711・5513・6384	甕底部　キンウンモ
144	土器			—	6	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	4730	甕底部
145	土器			—	8.2	—	ナデ	ナデ	灰白(10YR8/2)～灰黄(2.5Y5/1)	浅黄橙（10YR8/3）	6mm以下の奥物含	4759	底部
146	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	5445	敲石
147	土器			32.4	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	灰黄褐（10YR6/2）	ごく微小の砂粒含	4745	甕口縁部
148	土器			28	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい橙（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	359・4716	甕口縁部　キンウンモ
149	土器			24	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	ごく微小の砂粒含	2345	甕口縁部
150	土器			22.6	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	2330	甕口縁部
151	土器			27.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	ごく微小の砂粒含	2339・4744・5519	甕口縁部
152	土器			27.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	ごく微小の砂粒含	4724	甕口縁部　突帯あり
153	土器			26.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（5YR7/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2341・5127	甕口縁部　突帯あり
154	土器			—	—	—	ナデハケ ミガキ	ハケ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	4mm以下の奥物含	4713・4746・4760・4767・4768 5436・5438・5439・5443・5447 5518・5526・5527・5528・5529 5530・5532・5538・5539・6364	壷胴部　突帯下に突起あり
155	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	5452	
156	土器	SA09		—	—	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	1096	甕口縁部　キンウンモ
157	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい褐（7.5YR5/3）	—	3mm以下の鉱物含	1077	甕口縁部　キンウンモ
158	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
159	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい褐（7.5YR5/3）	—	2mm以下の鉱物含	1099	甕口縁部　キンウンモ
160	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	2mm以下の鉱物含	4201	甕口縁部　キンウンモ
161	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	灰黄褐（10YR5/2）	3mm以下の鉱物含	1094	大甕口縁部　キンウンモ
162	土器			18.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	2mm以下の鉱物含	4229・4230・4232 4253・4257・4381	甕口縁～胴部　外スス多
163	土器			21.6	—	—	ハケ	ナデ	灰白(7.5YR8/2)～にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	4236・4233 4237・4240	甕口縁～胴部
164	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	3mm以下の鉱物含	1106	甕口縁部
165	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	3mm以下の鉱物含	1110	甕口縁部
166	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	ごく微小の砂粒含	4251	口縁部
167	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）	ごく微小の砂粒含	1079	高坏底部
168	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	灰白（10YR8/2）	1mm以下の鉱物含	4213	甕胴部　突帯あり
169	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	1082	胴部　刻目突帯あり
170	土器			—	8.2	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	—	1mm以下の鉱物含	6000	甕底部
171	土器			—	6.5	—	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR6/3)～灰褐(7.5YR4/2)	にぶい褐（7.5YR6/3）	3mm以下の鉱物含	4776	底部　キンウンモ
172	土器	SA10		35.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	5266・6081	甕口縁部　突帯あり
173	土器			27	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
174	土器			18.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
175	土器			33.7	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/3）	ごく微小の砂粒含	一括	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ　口唇突帯剥落

第５表　出土遺物観察表（5）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
176	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	1mm以下の鉱物含	5255	甕口縁部
177	土器			14	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	5351	口縁部
178	土器			14.3	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	一括	口縁部
179	土器	ＳＡ１０		—	8.2	—	ハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	灰褐（10YR4/1）	3mm以下の鉱物含	6114	甕底部
180	土器			—	7.6	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	黒	3mm以下の鉱物含	一括	甕底部
181	土器			—	6.4	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y8/1）	灰白（2.5Y8/1）	3mm以下の鉱物含	6116	底部
182	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	4566	甕口縁部　キンウンモ
183	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	1mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
184	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（10YR4/1）	2mm以下の奥物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
185	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の奥物含	486	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
186	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	2mm以下の鉱物含	一括	口縁部
187	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の奥物含	一括	甕口縁部
188	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	ごく微小の砂粒含	4620	高坏底部？
189	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/3）	2mm以下の鉱物含	4549	甕口縁部
190	土器			29	—	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	2mm以下の鉱物含	4539・5865	甕口縁～胴部
191	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	4563	壷口縁部
192	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	4mm以下の鉱物含	5339	口縁部
193	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	2mm以下の奥物含	一括	壷口縁部
194	土器			24.6	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	4564	口縁部　二叉状口縁　刻目突帯あり
195	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	4578	壷？頸部　突帯あり
196	土器	ＳＡ１１		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	490	壷頸部　突帯あり
197	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（5Y6/1）	4mm以下の鉱物含	4529	壷胴部　突帯あり
198	土器			26.5	—	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR6/3）	—	4561・5260	高坏脚部？
199	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の奥物含	一括	高坏底部？
200	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	黒	4mm以下の鉱物含	4565・4572・4585	底部　キンウンモ
201	土器			—	6.8	—	ハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	黒	3mm以下の鉱物含	5340	甕底部
202	土器			—	6.5	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	4522	甕底部
203	土器			—	4.5	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰黄褐（10YR4/2）	2mm以下の奥物含	6333	甕底部
204	土器			—	6	—	ハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	4597	底部
205	土器			—	6	—	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	4535	底部
206	土器			—	7.2	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	2mm以下の奥物含	492	底部
207	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	一括	擦痕あり
208	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4614	石包丁
209	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	6574	石包丁
210	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4541	石斧？

第６表　出土遺物観察表（6）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
211	土器			29.8	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	5319	壷口縁部
212	土器			18	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	3930	壷口縁部
213	土器			18.6	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y8/2）	3mm以下の鉱物含	3963	壷口縁部
214	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR7/3）	—	3mm以下の鉱物含	4004	壷頸部　刻目突帯あり　外スス
215	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙(7.5YR7/4)～(10YR7/3)	3mm以下の鉱物含	4014	壷胴部　突帯あり
216	土器			—	4.8	—	ナデ	ナデ	灰褐(7.5YR5/2)～にぶい褐(7.5YR6/3)	灰褐(7.5YR6/2)～にぶい褐(7.5YR6/3)	3mm以下の鉱物含	5317・5322・518	壷底部　キンウンモ
217	土器			—	4.2	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	3995・4001	壷？底部　キンウンモ
218	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（7.5YR5/2）	2mm以下の鉱物含	3933	甕口縁部
219	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR6/2）	にぶい橙（7.5YR7/3）	2mm以下の鉱物含	3937	甕口縁部
220	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
221	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	橙（5YR6/6）	ごく微小の砂粒含	4013	甕口縁部
222	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐(10YR5/1)～灰白(10YR8/2)	灰褐(10YR5/1)～灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物含	3943	甕口縁部
223	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	5318	甕口縁部
224	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	ごく微小の砂粒含	3991	甕口縁部
225	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	ごく微小の砂粒含	4020	甕口縁部
226	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	ごく微小の砂粒含	514	甕口縁部
227	土器	ＳＡ１２		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	1.5mm以下の鉱物含	3919	口縁部
228	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	灰褐（7.5YR6/2）	5mm以下の鉱物含	3991	甕？口縁部　刻目突帯あり
229	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　突帯あり
230	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰白（7.5YR8/2）	ごく微小の砂粒含	3924	口縁部
231	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	5mm以下の鉱物含	4003	胴部　刻目突帯あり　外スス？
232	土器			—	3.4	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	1.5mm以下の鉱物含	3964	ミニチュア土器　底部
233	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4009	擦石
234	土器			28.6～33	11.7	31.8～32.2	ナデ	ナデ	灰白(10YR8/2)～(10YR7/1)	灰白（10YR7/1）	4mm以下の鉱物含	6578	甕
235	土器			22.9～26.7	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい赤褐（5YR5/3）	にぶい赤褐（5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	6577	甕口縁部～胴部　キンウンモ
236	土器			26.4	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	3917	甕口縁部
237	土器			—	6.7	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	明灰褐（7.5YR7/2）	3mm以下の鉱物含	505・506・3949 3951・3953・4092	甕底部
238	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	灰黄（2.5Y4/1）	4mm以下の鉱物含	509	甕底部　キンウンモ
239	土器			—	6.8	—	ナデハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	6320	甕底部　キンウンモ
240	土器			—	6.1	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y8/1）	灰褐（7.5YR6/2）	3mm以下の鉱物含	4006	甕底部
241	土器			—	7.6	—	ナデミガキ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	4015	甕底部
242	土器			—	6.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄褐（10YR6/2）	3mm以下の鉱物含	515	甕底部
243	土器			—	5	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰褐（10YR6/1）	2mm以下の鉱物含	4011	甕底部　キンウンモ
244	土器	ＳＡ１６		29.9	—	—	ナデハケ	ナデ	褐（7.5YR4/6）	明褐（7.5YR5/6）	6mm以下の鉱物含	5667・5732	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
245	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR5/4）	暗灰黄（2.5Y5/2）	2mm以下の鉱物含	5677	甕胴部　突帯あり　キンウンモ

第７表　出土遺物観察表（7）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法量			調整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
246	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	褐（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）	3mm以下の鉱物含	2030・5739	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
247	土器			—	6.8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	4mm以下の鉱物含	2022	甕底部　キンウンモ
248	土器			—	6.7	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	5623	甕底部　キンウンモ
249	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR5/3）	—	3mm以下の鉱物含	2026	壷口縁部　口唇部鋸歯文　キンウンモ
250	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5YR7/2）	灰黄（2.5YR7/2）	2mm以下の鉱物含	5734	甕口縁部
251	土器			—	—	—	ナデ	—	灰白（7.5YR8/2）	—	2mm以下の鉱物含	6138	大甕胴部か　突帯あり
252	土器			46.8	—	—	ナデ	ナデ	淡橙(5YR8/4)～灰白(10YR8/2)	浅黄橙（7.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	5622・5683・5685・5690 5693・5694・6138	甕口縁～胴部
253	土器	ＳＡ１６		—	7	—	ナデ	—	灰黄（2.5YR7/2）	—	4mm以下の鉱物含	2028	底部
254	土器			—	11	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	5750	底部
255	土器			23	—	—	ナデミガキ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	5599・5614	壷口縁部
256	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2040・5733 5735・5736	壷頸部
257	土器			—	—	—	ナデミガキ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	5761・5762・5779	壷胴部
258	土器			—	10.4	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	3mm以下の鉱物含	5749	底部
259	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	5681	敲石
260	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	5949	底部
261	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	黒	2mm以下の鉱物含	5942	壷肩部　突帯あり
262	土器	ＳＡ１７		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/3）	5mm以下の鉱物含	5951	突帯あり
263	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰白（2.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	5952	壷頸部？波状文あり
264	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	5948	石鏃
265	土器	ＳＡ１８		19.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5ＹＲ6/3）	灰褐（10ＹＲ4/1）	2mm以下の鉱物含	5357	蓋　キンウンモ
266	土器			—	5.7	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/3）	黒	3mm以下の鉱物含	一括	底部
267	土器			27.6	—	—	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	5mm以下の鉱物含	4352・4354・4355 4358・6003～6005	甕口縁～胴部　3条突帯　スス
268	土器	ＳＣ０１		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10ＹＲ7/2）	灰白（2.5YR7/1）	2mm以下の鉱物含	4339	胴部　突帯あり
269	土器			28.5	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	4mm以下の鉱物含	4345・4346	壷口縁部
270	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	4mm以下の鉱物含	4340・4341 4417・4418	壷頸部　刻目突帯あり
271	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	4mm以下の鉱物含	3646・819	甕口縁部
272	土器			28.9	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	3587～3590	甕口縁部　キンウンモ
273	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/2）	5mm以下の鉱物含	5885	甕口縁部
274	土器			—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/2）	—	3mm以下の鉱物含	807	甕口縁部　口唇部突帯あり
275	土器	ＳＣ０２		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	800・3586	甕口縁部　3条突帯
276	土器			26.8	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3594	甕口縁部
277	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5YR8/2）	灰白（7.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	5402	甕口縁部
278	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	6mm以下の鉱物含	5120	壷口縁部　剥落激
279	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	2mm以下の鉱物含	794	壷口縁部　キンウンモ
280	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	ごく微小の砂粒含	807	甕口縁部

第８表　出土遺物観察表（8）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量 口径(廂径)	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	色 外面	色 内面	胎土	取上げNo.	備考
281	土器	SC02		—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/2）	—	2mm以下の鉱物含	806	刻目突帯あり
282	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR6/3）	4mm以下の鉱物含	3598・3599	甕口縁部　キンウンモ
283	土器			—	8.8	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR7 /4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	2mm以下の鉱物含	791	甕底部　キンウンモ
284	土器	SC03		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	2mm以下の鉱物含	1556	甕口縁部　キンウンモ
285	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	5mm以下の鉱物含	1554	甕口縁部　キンウンモ
286	土器			—	24.8	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	3mm以下の鉱物含	5492	底部　キンウンモ
287	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5YR8/2）	灰白（7.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
288	土器			—	—	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	—	2mm以下の鉱物含	一括	壷口縁部
289	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	5483	甕口縁部
290	土器			—	8.2	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	—	3mm以下の鉱物含	3	甕底部
291	土器			—	9	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	—	3mm以下の鉱物含	4383	甕底部
292	土器			32	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	4372～4373・4376 4368・5401	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
293	土器			21	—	—	ナデハケ	ナデハケ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	5477	壷口縁～頸部
294	土器			—	6.6	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰褐（10YR5/1）	4mm以下の鉱物含	5480	底部
295	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	5487	甕胴～底部
296	土器	SC04		—	7	—	ナデ	—	にぶい褐（7.5YR5/4）	—	4mm以下の鉱物含	4364	甕底部　キンウンモ
297	土器			—	4.8	—	ナデ	—	橙（5YR6/6）	—	3mm以下の鉱物含	1567	甕底部　キンウンモ
298	土器			—	6.6	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	5467	甕底部
299	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	1565	甕口縁部
300	土器	SC05		27.6	—	—	ハケ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい橙（7.5YR6/4）	5mm以下の鉱物含	3746・3748・3749	甕口縁部　刻目突帯あり　キンウンモ
301	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	5873	壷口縁部　口唇部刻み
302	土器			—	8	—	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	3733	甕底部
303	土器			29.1	7.4	28.9～29.9	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	7mm以下の鉱物含	554・555・558・559・560・562 3738～3740・3742・3743	甕
304	土器			24.3	—	—	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	3805・3812 3813・3815	甕口縁部
305	土器			26.9	7.8	33.5～34.3	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	4mm以下の鉱物含	568・3806・3817・3818・3822 3823・3825・3827・3831	甕
306	土器	SC06		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい黄橙（10YR6/4）	2mm以下の鉱物含	5457	甕口縁部　キンウンモ
307	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR4/1）	灰黄褐（10YR6/2）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
308	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	1544	壷口縁部　キンウンモ
309	土器			—	6.8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	5mm以下の鉱物含	6014	甕底部　キンウンモ
310	土器			—	7	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	3mm以下の鉱物含	6015	甕底部　キンウンモ
311	土器			—	7.8	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	5mm以下の鉱物含	5458	底部
312	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR5/4）	にぶい黄橙（10YR5/4）	3mm以下の鉱物含	一括	口縁部?
313	土器			—	7	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5YR8/2）	灰褐（7.5YR6・1）	3mm以下の鉱物含	5460	底部
314	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	5mm以下の鉱物含	6144	甕口縁部　M字突帯　外スス
315	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	明灰褐（7.5YR7/2）	5mm以下の鉱物含	1541	甕口縁部　突帯あり

第９表　出土遺物観察表（9）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
316	土器	SC06		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	4402	壷口縁部
317	土器			26.1	—	—	ナデハケ	ナデ	灰黒	灰黒	5mm以下の鉱物含	4401	甕口縁部　口唇部刻目突帯
318	土器	SC07		—	—	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
319	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	4mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
320	土器			—	—	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	—	5mm以下の鉱物含	一括	壷口縁部
321	土器	SC08		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	4mm以下の鉱物含	89	甕口縁部　キンウンモ
322	土器			28.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	1mm以下の鉱物含	4913～4915・5140 5143・5152・5248	甕口縁部　突帯あり
323	土器			30.9	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	6158	甕口縁部
324	土器			19.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の鉱物含	5245・5246	甕口縁～胴部　口縁下に刻目突帯　突帯下にスス
325	土器			20.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の鉱物含	5247・6146	甕口縁～胴部　口縁下に刻目突帯　突帯下にスス
326	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	灰黄褐（10YR4/2）	1mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
327	土器			—	6.4	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	4912	甕底部
328	土器			—	9	—	ナデ	—	灰白（5YR8/2）	—	3mm以下の鉱物含	4918	甕底部
329	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい褐（7.5YR6/3）	—	1mm以下の鉱物含	92	把手部
330	土器			23	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)～にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)～浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物含	6147～6149	壷口縁～胴部
331	土器	SC10		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の鉱物含	5272	甕口縁部　口縁下に突帯
332	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	5938	壷頸部　刻目突帯あり
333	土器			32	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	1mm以下の鉱物含	4907・5269・5270	甕口縁～胴部　突帯あり　キンウンモ
334	土器			33.3	—	—	ナデ	ナデ		にぶい橙（7.5YR6/4）	4mm以下の鉱物含	4910・5928～5930 5933～5935	甕口縁～胴部　突帯あり　キンウンモ
335	石器	SC12		—	—	—	—	—	—	—	—	945	砥石？
336	土器			22	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR6/1）	にぶい黄橙（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	5978・5448	甕口縁部
337	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	5979	甕口縁部
338	土器	SC13		—	7	—	ナデ	—	にぶい橙（5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	1171	甕底部　キンウンモ
339	土器			—	9	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	灰褐（10YR6/1）	5mm以下の鉱物含	2061	甕底部
340	土器	SC17		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	黒褐（10YR3/2）	2mm以下の鉱物含	1414	甕口縁部　キンウンモ
341	土器			—	9.6	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	1424・1457	底部　キンウンモ
342	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい褐［7.5YR6/3）	1mm以下の鉱物含	1435	口縁部
343	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰褐（10YR6/1）	0.5mm以下の砂粒含	5501	底部付近
344	土器			—	8.2	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	1mm以下の鉱物含	1423	甕底部
345	土器			—	6	—	ナデ	ナデ	灰白（7.5YR8/1）	灰白（7.5YR8/2）	2mm以下の鉱物含	1439	甕底部
346	土器			25	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	2mm以下の鉱物含	1437	壷口縁部
347	土器	SC19		—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	4446	甕口縁部
348	土器			—	—	—	ナデ	—	灰褐（10YR5/1）	—	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
349	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい褐（7.5YR6/3）	ごく微小の砂粒含	一括	高坏底部？
350	土器			19.3	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（10YR8/2）	5mm以下の鉱物含	4438	甕口縁部

第10表　出土遺物観察表（10）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量 口径(廂径)	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	色 外面	色 内面	胎土	取上げNo.	備考
351	石器	ＳＣ１９		—	—	—	—	—	—	—	—	4440	砥石？
352	土器	ＳＣ２０		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	4499・5466	高坏底部？
353	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	明灰褐（7.5YR7/2）	灰白（10YR8/1）	ごく微小の砂粒含	1549	甕口縁部
354	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	灰黄（2.5Y6/1）	2mm以下の鉱物含	4397	甕口縁部
355	土器	SC03･20		—	6.4	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	明灰褐（7.5YR7/2）	4mm以下の鉱物含	5410・6009	底部
356	土器	ＳＣ２０		—	6.4	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	1.2cm以下の鉱物含	4398	底部
357	土器			—	—	—	ナデミガキ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい黄橙（10YR6/3）	ごく微小の砂粒含	5464・5465	蓋
358	土器	ＳＣ２３		36.2	—	—	ナデ	ナデ	明褐（7.5YR5/6）	にぶい黄褐（10YR5/3）	5mm以下の鉱物含	6034・6035	甕口縁部　口唇部沈線あり　キンウンモ
359	土器			31	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/4）	にぶい黄褐（10YR5/4）	4mm以下の鉱物含	6031・6032 6034・6037	壷口縁部　口唇部沈線あり　キンウンモ
360	土器			25.7	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	1596・1781	壷口縁部
361	土器			23.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	4mm以下の鉱物含	1782	壷口縁部
362	土器	ＳＣ２７		16.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	3mm以下の鉱物含	1871	甕口縁部　口縁下に刻目突帯
363	土器	ＳＣ２８		28.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	1872	甕口縁部　キンウンモ
364	土器			24.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	灰黄褐（10YR5/2）	3mm以下の鉱物含	1915	甕口縁部　キンウンモ
365	土器			23.1	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	1877	甕口縁部
366	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	3mm以下の鉱物含	1878	胴部？　刻目突帯あり
367	土器	ＳＣ２９		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	1mm以下の鉱物含	1629	甕口縁部　キンウンモ
368	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR6/2）	灰褐（7.5YR6/2）	2mm以下の鉱物含	一括	口縁部　キンウンモ
369	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	1mm以下の鉱物含	1629	甕口縁部
370	土器			—	7.3	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	1mm以下の鉱物含	1628	甕底部
371	土器			28.7	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	ごく微小の砂粒含	1627・1629～1631	甕口縁～胴部　突帯あり　キンウンモ
372	土器	ＳＣ３０		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	灰褐（10YR4/1）	3mm以下の鉱物含	1634	甕口縁部　キンウンモ
373	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR7/1）	灰白（2.5YR7/1）	3mm以下の鉱物含	1822	甕口縁部
374	土器	ＳＣ３１		—	—	—	ナデ	ナデ	浅棄橙（7.5YR8/3）	浅棄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	1791	甕口縁部
375	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅棄橙(7.5YR8/3)～橙(5YR7/6)	浅棄橙（7.5YR8/4）	2mm以下の鉱物含	5408	胴部　三角突帯3条
376	土器			39.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅棄橙（7.5YR8/4）	3mm以下の鉱物含	5407	甕口縁部　刻目突帯
377	土器	ＳＣ３３		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	1mm以下の鉱物含	5203	甕口縁部　キンウンモ
378	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	灰褐（7.5YR5/2）	1mm以下の鉱物含	6010	甕口縁部　キンウンモ
379	土器			21.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（7.5YR5/2）	2mm以下の鉱物含	5213～5217・5219 6017・6019	甕口縁～胴部　SC２３一括と接合　スス　キンウンモ
380	土器	ＳＣ３４		21.7	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい橙（7.5YR６/4）	2mm以下の鉱物含	1903	甕口縁部　内外磨耗　キンウンモ
381	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	3mm以下の鉱物含	1902	甕口縁部　キンウンモ
382	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	1903	甕口縁部　キンウンモ
383	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	2mm以下の鉱物含	1902	甕口縁部
384	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	2mm以下の鉱物含	1906	甕口縁部
385	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい褐（7.5YR5/3）	—	5mm以下の鉱物含	1908	甕口縁部

第11表　出土遺物観察表（11）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法量			調整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
386	土器	ＳＣ３４		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5ＹＲ5/3）	にぶい黄褐（10ＹＲ5/3）	2mm以下の鉱物含	4806	甕口縁部
387	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10ＹＲ5/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	1907	甕口縁部　口唇部突帯剥落
388	土器			—	—	—	ナデ	—	灰白（10YR8/2）	灰褐（10ＹＲ6/1）	3mm以下の鉱物含	1905	胴部　突帯あり
389	土器	ＳＣ４３		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	橙（5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	5107	甕口縁部　キンウンモ
390	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	6418	甕口縁部　キンウンモ
391	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	4mm以下の鉱物含	2108	甕口縁部　キンウンモ
392	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	橙（5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	6417・6422	甕口縁部　キンウンモ
393	土器	ＳＣ４４		—	—	—	ナデ	—	にぶい褐（7.5YR6/3）	—	2mm以下の鉱物含	2136・2139・2140	キンウンモ
394	土器	ＳＣ４６		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR5/1）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	2278	甕口縁部　キンウンモ
395	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2279	口縁部　口縁下に刻目突帯
396	土器	ＳＣ５０		24	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	2380	甕口縁部　口唇部突帯剥落
397	土器	ＳＣ５１		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	ごく微小の砂粒含	3580	口縁部　キンウンモ
398	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	3579	甕口縁部
399	土器	ＳＣ５２		—	7	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい橙（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	4469	底部　キンウンモ
400	土器			23	7	27.1	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2911・4451・4454・4460・4463～4468 4471・4472・4476・4477・4480・4483	甕
401	土器	ＳＣ５３		22	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4 /2）	にぶい黄褐（10YR5/4）	ごく微小の砂粒含	3900	甕口縁部　キンウンモ
402	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4 /2）	にぶい黄褐（10YR5/3）	ごく微小の砂粒含	3883	甕口縁部　キンウンモ
403	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/4）	ごく微小の砂粒含	3887・3905	甕口縁部　キンウンモ
404	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰黄褐（10YR6 /2）	ごく微小の砂粒含	3882・5832	胴部　突帯あり　キンウンモ
405	土器			—	—	—	ナデ		灰黄褐（10YR4 /2）	—	ごく微小の砂粒含	一括	甕口唇部　キンウンモ
406	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰白（10YR8/2）	ごく微小の砂粒含	3897	甕口縁部
407	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	2mm以下の鉱物含	3881	壷胴部　突帯あり
408	土器			28	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	4mm以下の鉱物含	3878	甕口縁部
409	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6 /2）	灰黄褐（10YR6 /2）	ごく微小の砂粒含	一括	高坏底部？
410	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	3873	口縁部
411	土器	ＳＣ５４		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄褐（10YR5/4）	ごく微小の砂粒含	4507	甕口縁部　キンウンモ
412	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい橙（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	5294	胴部　突帯あり　キンウンモ
413	土器			34.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	ごく微小の砂粒含	5304・5308・5311	甕口縁部　キンウンモ
414	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5 /2）	にぶい黄橙（10YR6/3）	ごく微小の砂粒含	4512	胴部　刻目突帯あり
415	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5 /2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	ごく微小の砂粒含	5309	甕口縁部　スス
416	土器			—	—	—	ナデ	ナデミガキ	灰褐（7.5YR4 /1）	にぶい黄橙（10YR7/2）	ごく微小の砂粒含	5306	口縁部
417	土器			25	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5 /2）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	5295	甕口縁部
418	土器			24.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR4/3）	灰黄褐（10YR6 /2）	3mm以下の鉱物含	5310	甕口縁部
419	土器	ＳＣ５５		—	8.3	—	ナデハケ	ナデ	灰白（7.5YR8/2）	明灰褐（7.5YR7/2）	4mm以下の鉱物含	4492・4493・4497	甕底部
420	土器	ＳＣ５６		20	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	5279	壷口縁部　キンウンモ

第12表　出土遺物観察表（12）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量 口径(胴径)	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	色 外面	色 内面	胎土	取上げNo.	備考
421	土器	SC57		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	淡黄（2.5Y8/3）	4mm以下の鉱物含	5497～5499・6008	壷頸～胴部
422	土器	SC58		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	4499	甕口縁部　キンウンモ
423	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4 /2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	ごく微小の砂粒含	4500	甕口縁部　キンウンモ
424	土器			25.4	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10Yr6/1）	灰褐（10YR5/1）	3mm以下の鉱物含	5282	甕口縁部　口縁下に突帯あり
425	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	5283	甕頸部
426	土器	SC63		31.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	6306	甕口縁部　キンウンモ
427	土器			28	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR6/2）	にぶい橙（7.5YR7/3）	2mm以下の鉱物含	6294・6321	甕口縁～胴部
428	土器			23.8	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（5YR5/2）	明灰褐（7.5YR7/2）	3mm以下の鉱物含	5165・6291 6299・6300	甕口縁～胴部
429	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白(7.5YR8/2)～にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙（7.5YR7/3）	2mm以下の鉱物含	6304	甕口縁部
430	土器			33	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰褐（7.5YR6/2）	1mm以下の鉱物含	5242・6314・6316 6317・6348	甕口縁～胴部　口縁下に刻目突帯あり　スス
	土器			—	—	—	—	—	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	1mm以下の鉱物含	5187・6294 6320・6312	甕胴部
431	土器			13.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい橙（5YR6/4）	1mm以下の鉱物含	6175	壷口縁部　キンウンモ
432	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	ごく微小の砂粒含	5201	口縁部
433	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	6325	壷肩部　突帯あり
434	土器			26.2	—	—	ナデハケミガキ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	5164・5241・6318・6352 6360・6361・6362	鉢？口縁～胴部　口縁下に刻目突帯　下城系
435	土器			—	8	—	ハケ	ナデ	にぶい黄（2.5Y6/3）	灰褐（7.5YR4/2）	ごく微小の砂粒含	5237	甕底部　キンウンモ
436	土器			—	7.9	—	ハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	ごく微小の砂粒含	5243・6355	甕底部
437	土器			—	6.4	—	ハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR6/4）	ごく微小の砂粒含	5178・5189・6327	底部
438	土器			—	6.9	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	6328	甕底部　内スス
439	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい橙(7.5YR7/4)～灰白(7.5YR8/2)	—	3mm以下の鉱物含	6359	底部付近
440	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	黒（炭化物付着か）	3mm以下の鉱物含	6349	甕底部　内スス
441	土器			—	8	—	ナデ	ナデ	浅黄（2.5YR7/3）	にぶい黄褐（10YR5/4）	ごく微小の砂粒含	6353	甕底部
442	土器			—	9.7	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	6310	壷？底部
443	土器			—	8.9	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	6307	壷？底部
444	土器			—	6	—	—	—	灰黄褐（10YR5/2）	灰褐（10YR5/1）	ごく微小の砂粒含	5183	底部
445	土器	SC59		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
446	土器	SC60		—	6.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	6082	甕底部
447	土器	SC61		33.2	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	5829・5830・5833	甕口縁部　キンウンモ
448	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/1）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	5834	壷胴部　突帯あり　キンウンモ
449	土器			30	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい橙（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	91・119・89・90・4634 5827・5834・5838	甕口縁部
450	土器			27	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	4636・4638～4655・5839 5841・5842・5845・5846・5878	甕口縁～胴部　キンウンモ
451	土器	SC62		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
452	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
453	土器	SC64		24.6	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	灰褐（7.5YR4/2）	2mm以下の鉱物含	5988・5989	甕口縁部
454	土器			15.6	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	灰褐（7.5YR4/2）	2mm以下の鉱物含	5990	甕口縁部
455	土器	SC65		—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	3mm以下の鉱物含	5905	壷肩部

第13表　出土遺物観察表（13）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法量			調整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
456	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	橙（5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	4660	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
457	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	4mm以下の鉱物含	4675	大甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
458	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	4656	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
459	土器			48	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	522・4685 4690・4707	大甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
460	土器	ＳＣ６７		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	3mm以下の鉱物含	5358	底部付近　キンウンモ
461	土器			—	6.8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	3mm以下の鉱物含	5374	底部　キンウンモ
462	土器			32.2	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	4606・5369～5371	甕口縁～胴部　突帯あり
463	土器			25.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	4681・4683・4684	甕口縁部　突帯あり
464	土器			21.1	—	—	ハケ	ナデ	暗灰黄（2.5Y4/2）	にぶい黄褐（10YR5/3）	4mm以下の鉱物含	5360～5361	壷口縁部　キンウンモ
465	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	にぶい黄橙（10YR6/4）	2mm以下の鉱物含	6057	胴部　突帯あり　キンウンモ
466	土器	ＳＣ７６		—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	1cm以下の鉱物含	6059	口縁部　キンウンモ
467	石			—	—	—	—	—	—	—	—	6063	軽石
468	土器			29.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	2404	甕口縁部　キンウンモ
469	土器			22.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	3mm以下の鉱物含	3418	甕口縁部　キンウンモ
470	土器		B10d	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
471	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい橙(7.5YR7/3)～橙(2.5YR6/6)	2mm以下の鉱物含	3489	甕口縁部　キンウンモ
472	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	3462	甕口縁部　キンウンモ
473	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	5554	壷？口縁部　キンウンモ
474	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2mm以下の鉱物含	3249	甕口縁部　キンウンモ　外スス
475	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	3455	壷？口縁部　キンウンモ
476	土器		B5b	—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
477	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	3476	甕口縁部　キンウンモ
478	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	2mm以下の鉱物含	3345	甕口縁部　キンウンモ
479	土器	ＳＤ０１		—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	3538	甕口縁部　キンウンモ
480	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	灰褐（10YR5/1）	2mm以下の鉱物含	3440	甕口縁部　キンウンモ
481	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR7/6）	ごく微小の砂粒含	960	大甕口縁部　キンウンモ
482	土器			—	—	—	ナデ	—	橙（7.5YR7/6）	灰黄（2.5Y6/1）	2mm以下の鉱物含	3491	大甕口縁部　キンウンモ
483	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	2364	胴部　突帯あり　キンウンモ　外スス
484	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	4mm以下の鉱物含	3290	胴部　突帯あり　キンウンモ
485	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	3385	胴部　突帯あり　キンウンモ
486	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄褐（10YR6/3）	4mm以下の鉱物含	4406	胴部　突帯あり　キンウンモ
487	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄褐（10YR6/3）	4mm以下の鉱物含	3303	大甕？胴部　突帯あり　キンウンモ
488	土器		B5a･b	—	22.8	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（7.5YR5/2）	3mm以下の鉱物含	一括	複合口淵壷口淵部　キンウンモ
489	土器			14.4	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	一括	壷口縁部　キンウンモ
490	土器			—	10	—	摩耗	摩耗	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	4mm以下の鉱物含	3419＋3421	底部　キンウンモ

第14表　出土遺物観察表（14）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
491	土器			—	12.4	—	—	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	3487	底部　キンウンモ
492	土器			—	10	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	4mm以下の鉱物含	3454	底部　キンウンモ
493	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	黒勝	2mm以下の鉱物含	3509	甕底部　キンウンモ
494	土器			—	—	—	摩耗	—	橙（7.5YR6/6）	明褐（7.5YR5/6）	4mm以下の鉱物含	3507	甕底部　キンウンモ
495	土器			—	6.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR6/4）	灰黄褐（10YR4/2）	ごく微小の砂粒含	3361	底部　外スス　キンウンモ
496	土器			—	—	—	ナデ	—	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄褐（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	4408	甕口縁部
497	土器		B5b·d	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR6/3）	にぶい黄褐（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
498	土器		B5b	—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/1）	にぶい黄褐（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
499	土器		A2a	—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/2）	—	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
500	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR6/2）	にぶい黄褐（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	3317	甕口縁部　外スス
501	土器			—	—	—	ナデ	摩耗	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2406	甕口縁部
502	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	ごく微小の砂粒含	3273	甕口縁部
503	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	6052	甕口縁部
504	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	—	2mm以下の鉱物含	2398	壷？口縁部
505	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	橙（2.5YR7/6）	3mm以下の鉱物含	3526	甕口縁部　内外磨耗
506	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/2）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	3243	甕口縁部
507	土器			21.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/2）	にぶい黄褐（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	3291・3292	甕口縁部
508	土器	SD01		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	ごく微小の砂粒含	3494	甕口縁部　外スス
509	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	淡橙（5YR8/4）	淡橙（5YR8/4）	2mm以下の鉱物含	2391	口縁部　内外磨耗
510	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR 7 /3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2mm以下の鉱物含	3386	甕口縁部
511	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3370	甕口縁部　外スス
512	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR8/1）	灰褐（10YR8/1）	ごく微小の砂粒含	4407	甕口縁部
513	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	3mm以下の鉱物含	959	口縁部
514	土器			31.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/2）	ごく微小の砂粒含	3478	甕口縁部
515	土器			14.7	—	—	ナデハケ	ナデハケ	灰黄褐（10YR6/2）	灰褐（10YR6/1）	3mm以下の鉱物含	3395・4413	壷口縁部
516	土器			—	7.4	—	ナデハケ	ハケ	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	にぶい黄橙（10YR 7 /2）	3mm以下の鉱物含	3341・3393	壷底部
517	土器		B10c	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	一括	口縁部
518	土器			27.4	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	3296	甕口縁部　刻目突帯あり　下城系？
519	土器			14.8	—	—	ナデハケ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	959＋B9b	壷口縁部
520	土器			18.8	—	—	ナデハケ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	959	壷口縁部
521	土器			—	5.8	—	ナデ	—	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい赤褐（5YR5/4）	ごく微小の砂粒含	3350	甕底部
522	土器			—	6.4	—	ナデ	剥落	にぶい橙（7.5YR7/4）	—	2mm以下の鉱物含	3397	甕底部
523	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/2）	にぶい黄褐（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	3394	甕底部
524	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	3mm以下の鉱物含	829	壷口縁部
525	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3289	壷口縁部

第15表　出土遺物観察表（15）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法量			調整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
526	土器	ＳＤ０１		—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	3490	胴部　突帯あり
527	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	2mm以下の鉱物含	3347	壷頸部？　突帯あり
528	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	3514	胴部　突帯あり
529	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR6/3）	5mm以下の鉱物含	3297	胴部　突帯あり　外スス
530	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	3413	胴部　突帯あり
531	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3378	胴部　突帯あり
532	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3300	壷頸部　刻目突帯あり　内外磨耗
533	土器			—	5.6	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	4mm以下の鉱物含	2372	底部　磨耗
534	土器			—	8.5	—	ナデ	剥落	にぶい橙（7.5YR7/4）	—	2mm以下の鉱物含	3548	底部　磨耗
535	土器			—	7.3	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	にぶい黄褐（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	875・3367	底部
536	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰白（2.5Y8/2）	1mm以下の鉱物含	1153	高坏脚部
537	磁器(青磁)			15.3	—	—	—	—	—	—	—	896	碗口縁部　鎬蓮弁文
538	土器	ＳＤ０３		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	3551	甕口縁部　キンウンモ
539	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	3556	甕口縁部
540	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい橙（5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	4832	甕口縁部　キンウンモ
541	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	4mm以下の鉱物含	3550	甕口縁部　キンウンモ
542	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	5095	擦石
543	土器	ＳＤ０５		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	175	大甕口縁部　キンウンモ
544	土器			—	6.8	—	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR6/6）	5mm以下の鉱物含	174	底部
545	土器	ＳＤ０６		—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰白（10YR7/1）	3mm以下の鉱物含	4403	底部　剥落多
546	土器	ＳＤ１４		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	橙（5YR7/6）	ごく微小の鉱物含	423	底部　内磨耗
547	土器	ＳＤ０８		13.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	3mm以下の鉱物含	2790	甕口縁～胴部　キンウンモ
548	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	3169	壷口縁部　口唇部刻目突帯　キンウンモ
549	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（7.5YR5/2）	1mm以下の鉱物含	2840	甕口縁部　キンウンモ
550	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	4954	甕口縁部　キンウンモ
551	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR5/3）	3mm以下の鉱物含	2801	胴部　突帯あり　キンウンモ
552	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	3mm以下の鉱物含	2852・6437	胴部　刻目突帯あり　キンウンモ
553	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	2598	突帯　キンウンモ
554	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	3mm以下の鉱物含	2595	甕口縁部
555	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2798	甕口縁部
556	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	黒	暗灰黄（2.5YR4/2）	ごく微小の砂粒含	2800	口縁部
557	土器			17.8	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	3158	甕口縁部　口縁下刻目突帯　下城系
558	土器			20.2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	3mm以下の鉱物含	2864	壷口縁部
559	土器			19.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	3113	壷口縁部
560	土器			19.2	—	—	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	3mm以下の鉱物含	6154	壷口縁部

第16表　出土遺物観察表（16）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
561	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2843	口縁部
562	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（2.5YR7/1）	3mm以下の鉱物含	5806	口縁部
563	土器			13.5	—	—	—	—	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	2mm以下の鉱物含	3093	口縁部
564	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	2589	高坏坏部
565	土器			28.2	—	—	ナデ	—	にぶい黄褐（10YR5/4）	—	2mm以下の鉱物含	4958・4960	高坏口縁部
566	土器			4.8	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR7/8）	にぶい黄橙（10YR7/3）	4mm以下の鉱物含	2582・2583	壷
567	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	3105	胴部　外スス
568	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2804	胴部
569	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	黒褐	3mm以下の鉱物含	3075	甕底部
570	土器			—	5.1	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄褐（10YR6/2）	4mm以下の鉱物含	2541	甕底部
571	土器			—	5.9	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰白（10YR8/2）	4mm以下の鉱物含	2834	底部
572	土器			—	7	—	ナデ		にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	2mm以下の鉱物含	3125	底部
573	土器			—	7.4	—	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	3137・3142	甕底部
574	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	ごく微小の砂粒含	3114	高坏口縁部？
575	土器			—	8.6	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい褐（7.5YR6/3）	3mm以下の鉱物含	3107	底部
576	土器			—	5.6	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3079	底部
577	土器			4.1	1	1.55～1.9	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	6429	ミニチュア土器
578	土器	ＳＤ０８		—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	7mm以下の鉱物含	3123	胴部　絡縄突帯
579	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	3081	胴部　絡縄突帯
580	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	橙（5YR7/6）	4mm以下の鉱物含	3118	絡縄突帯
581	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（5YR7/8）	3mm以下の鉱物含	3116	絡縄突帯
582	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2831	絡縄突帯
583	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	2791	石鏃
584	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5817	
585	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	
586	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	
587	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	
588	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6113	写真14
589	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	杭　写真3
590	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	2574	
591	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	
592	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6113	鍬？　写真14
593	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	杭　写真3
594	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5817	鋤
595	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5850	杭

第17表　出土遺物観察表（17）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法　量			調　整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
596	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5821	杭　写真3
597	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6113	用材？　写真14
598	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5789	
599	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	5790	写真12
600	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR6/3）	—	3mm以下の鉱物含	2638	甕口縁部　刻目突帯　キンウンモ
601	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	6465	甕口縁部　キンウンモ
602	土器			—	—	—	ハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	黒褐	3mm以下の鉱物含	3203	甕口縁部　キンウンモ
603	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	2860	胴部　突帯あり　キンウンモ
604	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/2）	5mm以下の鉱物含	2620	胴部　突帯あり　キンウンモ
605	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR4/1）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	2855	胴部　突帯あり　キンウンモ
606	土器			—	6.8	—	ハケ	—	にぶい黄褐（10YR5/3）	—	4mm以下の鉱物含	2744	甕底部　キンウンモ
607	土器			—	7.2	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	2754	底部　キンウンモ
608	土器			—	6.6	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐（5YR5/4）	にぶい黄褐（10YR5/3）	4mm以下の鉱物含	3173	底部　キンウンモ
609	土器			22	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	2608	甕口縁部　キンウンモ
610	土器			30.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	720・5802	甕口縁部　キンウンモ
611	土器			20.3	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	黒褐	3mm以下の鉱物含	6162	壷口縁部　キンウンモ
612	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	灰黄褐（10YR5/2）	2mm以下の鉱物含	5909	突帯あり　キンウンモ
613	土器	ＳＤ０８		—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（7.5YR8/4）	—	3mm以下の鉱物含	2847	甕口唇部
614	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	3mm以下の鉱物含	6467	甕口縁部
615	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR7/3）	—	2mm以下の鉱物含	6441	甕口縁部
616	土器			—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/3）	—	4mm以下の鉱物含	2758	甕口縁部
617	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	2mm以下の鉱物含	2609	甕口縁部
618	土器			—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/3）	—	3mm以下の鉱物含	6476	甕口縁部
619	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2466	甕口縁部　外スス
620	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2749	甕口縁部
621	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2736	甕口縁部
622	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	2733	甕口縁部　内外磨耗
623	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	3195	甕口縁部
624	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2503	甕口縁部
625	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2474	甕口縁部　外スス
626	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2740	胴部　突帯あり
627	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	3mm以下の鉱物含	6163	胴部　突帯あり
628	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	黒褐	3mm以下の鉱物含	2767	刻目突帯あり
629	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	灰褐（10YR4/1）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	6447・6554	胴部　突帯あり
630	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰白（2.5YR7/1）	1mm以下の鉱物含	2507・6455	胴部　突帯あり

第18表　出土遺物観察表（18）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
631	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2746	胴部　突帯
632	土器			21	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	灰黄褐（10YR6/2）	5mm以下の鉱物含	2722	甕口縁部　突帯あり
633	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	灰黄褐（10YR4/2）	3mm以下の鉱物含	6500	胴部　突帯あり
634	土器			35.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	636・2512・2536	壷口縁部
635	土器			23	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（10YR8/3）	4mm以下の鉱物含	6439	壷口縁部
636	土器			16.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2711	壷口縁部
637	土器			20.5	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2460	壷口縁部
638	土器			20.6	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR6/1）	灰褐（10YR6/1）	3mm以下の鉱物含	2753	壷口縁部
639	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2523	壷口縁部
640	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2468	壷口縁部
641	土器			—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	6434	壷口縁部
642	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	4mm以下の鉱物含	2471	壷頸部？
643	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	5825	壷肩部　突帯あり
644	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰黄（2.5Y7/2）	3mm以下の鉱物含	6278	壷肩部　突帯あり
645	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	492	胴部　突帯あり
646	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	2491	壷肩部　突帯あり
647	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	6287	口縁部
648	土器	SD08		—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	2725	壷口縁部
649	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	3mm以下の鉱物含	6501	壷口縁部
650	土器			—	6.6	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	3mm以下の鉱物含	2629	底部
651	土器			—	6	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰黄褐（10YR6/2）	3mm以下の鉱物含	6087	底部
652	土器			—	7	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	5mm以下の鉱物含	6445	甕底部
653	土器			—	5	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	7mm以下の鉱物含	6282	底部
654	土器			—	7.6	—	ナデ	—	灰黄褐（10YR6/2）	—	2mm以下の鉱物含	3201	底部
655	土器			—	9	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/3）	—	5mm以下の鉱物含	2580	底部
656	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6113	
657	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6113	
658	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6259	杭
659	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
660	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2418	甕口縁部　キンウンモ
661	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR6/3）	にぶい黄褐（10YR6/3）	ごく微小の砂粒含	2427	甕口縁部　キンウンモ
662	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	2mm以下の鉱物含	2414	甕口縁部　キンウンモ
663	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	4943	甕口縁部　キンウンモ
664	土器			15.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	713	甕口縁部　キンウンモ
665	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	4mm以下の鉱物含	627	甕口縁部　キンウンモ

第19表　出土遺物観察表（19）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
666	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄褐（10YR5/3）	ごく微小の砂粒含	2423	突帯あり　キンウンモ
667	土器			29	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰褐（7.5YR5/2）	2mm以下の鉱物含	718	甕口縁部　キンウンモ
668	土器			19	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2mm以下の鉱物含	4T	壷？口縁部　キンウンモ
669	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	2600・2716 3136・3139	壷頸部　キンウンモ
670	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	383	甕口縁部
671	土器			—	—	—	ナデ	—	浅黄橙（7.5YR8/3）	—	3mm以下の鉱物含	4916	壷口縁部
672	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR7/1）	灰白（10YR7/1）	3mm以下の鉱物含	4951	口縁部
673	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	4mm以下の鉱物含	630	甕口縁部
674	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2.5mm以下の好物含	662	口縁部
675	土器			25.4	—	—	ハケナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	703	甕口縁部
676	土器			22.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	5mm以下の鉱物含	642・643・648・649	甕口縁部　外スス
677	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	一括	壷口縁部　口縁下に刻目突帯あり
678	土器	SD08		—	10.1	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄褐（10YR6/2）	2mm以下の鉱物含	3072	底部　外スス
679	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	一括	底部　ミニチュア？
680	土器			31.7	—	—	ナデ	—	浅黄橙（10YR8/3）	—	2mm以下の鉱物含	383	壷口縁部
681	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄（2.5Y5/1）	3mm以下の鉱物含	668	胴部　絡縄突帯　外スス
682	土器			—	7.8	—	ナデハケ	ナデハケ	灰白(10YR8/2)～にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙（7.5YR7/3）	2mm以下の鉱物含	547・548・566・543 4867・4870・一括	底部
683	土器			—	7.8	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/2）	—	2mm以下の鉱物含	702	底部
684	土器			—	5.8	—	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR6/3)～灰褐(10YR4/1)	にぶい褐（7.5YR6/3）	5mm以下の鉱物含	344	底部　磨耗　キンウンモ
685	土器			—	8.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄褐（10YR6/2）	6mm以下の鉱物含	358・633・635・645 646・650・655	壷底部　外スス
686	土器			—	2.3	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	345・350	底部
687	土器			—	8.3	—	—	—	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	386・396	底部　磨耗
688	土器			—	4.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	一括	底部
689	陶器			7.5	—	—	—	—	—	—	—	700	チョカ蓋
690	陶器			—	3.8	—	—	—	—	—	—	426	碗底部　内蛇ノ目釉剥
691	陶器			—	12.8	—	—	—	—	—	—	700	底部　サツマ系
692	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR4/1）	灰黄褐（10YR4/2）	ごく微小の砂粒含	6170	甕口縁部　口唇に刻目　キンウンモ
693	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	黒	3mm以下のm鉱物含	2893	胴部　突帯あり　キンウンモ
694	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR5/4）	ごく微小の砂粒含	359	胴部　突帯あり　キンウンモ
695	土器			20	—	—	ナデハケ	ハケ	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	2698	甕？口縁部
696	土器	SD09		16	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰黄褐（10YR6/2）	2mm以下の鉱物含	2703	甕口縁部
697	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	2902・6396・6409・6419・6423 6424・6448・6449・6172	壷胴部
698	土器			—	—	—	ナデハケ	ハケ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	ごく微小の砂粒含	773	高坏脚部
699	土器			—	4	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/6）	灰黄（2.5Y7/2）	2mm以下の鉱物含	6405	底部
700	土器			—	4.7	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	3mm以下の鉱物含	2699	底部

第20表　出土遺物観察表（20）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
701	石器	SD09		—	—	—	—	—	—	—	—	6174	擦石
702	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	6176	擦石
703	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6239	
704	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6178	
705	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	2705	
706	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6178	用材？　写真5
707	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6228	
708	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6411	杭？　市内3
709	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6411	
710	木製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6459	
711	土器	SD10		22	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）	4mm以下の鉱物含	2567	口縁部
712	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	淡橙（5YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	256	口縁部
713	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄（7.5YR8/4）	にぶい橙（7.5YR7/3）	3mm以下の鉱物含	2564	口縁部
714	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	763	口縁部
715	土器			—	—	—	ミガキ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	ごく微小の鉱物含	5887	口縁部
716	土器			—	—	—	ミガキ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄褐（10YR6/2）	1mm以下の鉱物含	766	口縁部
717	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	7mm以下の鉱物含	735・2562・一括	壷頸部
718	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR6/3）	2mm以下の鉱物含	2879	胴部　突帯あり　キンウンモ
719	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（10YR6/1）	灰褐（10YR6/1）	1mm以下の鉱物含	5881・5902	甕頸部
720	土器			—	4.7	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	3mm以下の鉱物含	759	底部
721	陶器			26.6	—	—	—	—	—	—	—	一括	甕口縁部　サツマ系
722	土器	SD11		—	—	—	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	3mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部　キンウンモ
723	土器	SD13		31	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	5065	甕口縁部
724	土器			—	7	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の鉱物含	2168	底部　内外磨耗
725	土器			4.5	—	2.2～2.3	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	4mm以下の鉱物含	2181	ミニチュア　完形
726	土器			—	6.8	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	5025	甕底部
727	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR7/1）	3mm以下の鉱物含	2065・4980	甕頸部
728	土器			14	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	4mm以下の鉱物含	2182・5071・5073 5079・一括	壷口縁部
729	土器			10.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	ごく微小の砂粒含	2177・2178	壷　輪積痕・指頭痕あり
730	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/2）	ごく微小の鉱物含	2178	壷頸部　輪積痕あり
731	土器			—	7.5	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	5008	底部
732	土器			—	7.5	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰褐（10YR6/1）	2mm以下の鉱物含	5030	甕底部
733	土器			9	3.7	4.1～4.8	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	5032	指頭痕あり
734	土器			28.2	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	4mm以下の鉱物含	5029・5040	甕口縁部　キンウンモ
735	土器			28	—	—	ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR4/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	2mm以下の鉱物含	5035	甕口縁部　キンウンモ

第21表　出土遺物観察表（21）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
736	土器	SD13		30.5	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	2186	甕口縁部
737	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	2187	擦石
738	石器			—	—	—	—	—	—	—	—	4982	擦石
739	土器			30.2	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	6573	甕口縁部　突帯あり　キンウンモ
740	土器	A9d	V	25.4	—	—	ナデ	ナデ	褐（7.5YR4/3）	にぶい赤褐（5YR5/4）	4mm以下の鉱物含	13	甕口縁～胴部　キンウンモ
741	土器	A6c	V	27.9	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	4mm以下の鉱物含	124・125	甕口縁部　キンウンモ
742	土器	A9c	V	23.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	4632・4633	甕口縁部　キンウンモ
743	土器	C1b	V	—	—	—	ナデハケ	ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	ごく微小の砂粒含	2242	甕口縁部　キンウンモ
744	土器	B6a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	5mm以下の鉱物含	1369	甕口縁部　キンウンモ
745	土器	B6a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の鉱物含	1363	甕口縁部　キンウンモ
746	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	1186	甕口縁部　キンウンモ　外スス
747	土器	B3b	V	—	6	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	1594	甕底部　キンウンモ
748	土器	B3a	V	—	7	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR6/4）	—	2mm以下の鉱物含	1788	甕底部　キンウンモ　磨耗
749	土器	B8a	V	—	7.2	—	ナデ	—	にぶい橙（7.5YR6/4）	—	3mm以下の鉱物含	1847	甕底部　キンウンモ
750	土器			16	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	3mm以下の鉱物含	1537	甕口縁部　キンウンモ
751	土器	C1b	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	2mm以下の鉱物含	2244	甕口縁部
752	土器	A8a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	435	甕口縁部　外スス
753	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	2mm以下の鉱物含	一括	甕口縁部
754	土器	A6b	V	30	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	3mm以下の鉱物含	165	甕口縁部　胎土粗
755	土器	A8a	V	28.8	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR7/1）	明灰褐（7.5YR7/2）	3mm以下の鉱物含	435・436	甕口縁部　外スス
756	土器			23.4	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	2mm以下の鉱物含	140	甕口縁部
757	土器			—	—	—	ナデハケ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	ごく微小の砂粒含	526	甕口縁部
758	土器	B4c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の鉱物含	1944	壺口縁部
759	土器			28	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	3mm以下の鉱物含	1534	壺口縁部
760	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰黄褐（10YR6/2）	ごく微小の砂粒含	1061	壺口縁部
761	土器	B6a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	2mm以下の鉱物含	1447	口縁部
762	土器	C3d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰白（10YR7/1）	4mm以下の鉱物含	2147	口縁部
763	土器		V	—	—	—	ナデ	ナデ	橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）	ごく微小の砂粒含	2280	口縁部
764	土器	B10a	V	39.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰黄褐（10YR6/2）	4mm以下の鉱物含	1127・1130	壺口縁部
765	土器	B11c	V	20.8	—	—	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	3mm以下の鉱物含	2007	壺口縁部　垂れ下がり
766	土器	C1b	V	—	—	—	ナデ	—	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	3mm以下の鉱物含	2251	口縁部
767	土器			—	—	—	ナデ	ナデ？	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/1）	2mm以下の鉱物含	1258	壺頸部
768	土器	C1b	V	—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰褐（10YR6/1）	2mm以下の鉱物含	2235	壺肩部　突帯あり
769	土器	B10a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰黄褐（10YR6/2）	5mm以下の鉱物含	1128	胴部　突帯あり　キンウンモ
770	土器	A9c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	2mm以下の鉱物含	15	壺肩部　突帯あり

第22表　出土遺物観察表（22）

図No.	種別	地区(遺構)	地層	法量			調整		色		胎土	取上げNo.	備考
				口径(廂径)	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
771	土器	B4c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄 (2.5Y7/3)	3mm以下の鉱物含	1948	胴部　突帯あり
772	土器	B8d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	2mm以下の鉱物含	1837・1839	壷肩部か　波状文　外スス
773	土器			—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	ごく微小の砂粒含	6573	甕脚部　キンウンモ
774	土器	C3d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	ごく微小の砂粒含	2153	高坏脚部　矢羽透あり
775	土器	A9d	V	—	7	—	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	3mm以下の鉱物含	8	甕底部　キンウンモ
776	土器	B1d	V	—	5.8	—	—	—	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	1mm以下の鉱物含	832	底部　内外スス
777	土器	A9c	V	—	6.6	—	ナデ	ナデ	灰褐 (10YR6/1)	灰白 (10YR8/2)	4mm以下の鉱物含	39	底部
778	土器	A9c	V	—	5.3	—	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	2mm以下の鉱物含	15	底部　キンウンモ
779	土器	A8b	V	—	5.4	—	ナデハケ	—	にぶい橙 (7.5YR7/3)	—	2mm以下の鉱物含	476	甕底部　上底
780	土器			—	6	—	ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	3mm以下の鉱物含	1188	底部　上底気味
781	土器			—	9.9	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	4mm以下の鉱物含	2159	底部
782	土器	B5b	V	—	7	—	ナデ	—	灰黄褐 (10YR6/2)	—	ごく微小の砂粒含	851	底部
783	土器	A8d	V	—	5.3	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	明灰褐 (7.5YR7/2)	3mm以下の鉱物含	495	甕底部　外磨耗
784	土器	B6c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	6mm以下の鉱物含	1327	口縁部　口唇部刻目・飾り孔あり
785	土器	C1b	V	—	10	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	3mm以下の鉱物含	2239	底部？
786	石器	C5c	V	—	—	—	—	—	—	—	—	2104	石鏃
787	石器	B9a	V	—	—	—	—	—	—	—	—	一括	石鏃
788	石製品			—	—	—	—	—	—	—	—	6392	敲石
789	石器	B9c	Ⅳ	—	—	—	—	—	—	—	—	1065	石斧　刃部欠落
790	石器	A3a	V	—	—	—	—	—	—	—	—	271	石斧　磨耗
791	須恵器				—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	54	坏口縁部
792	土器	B7c	V	—	—	—	ナデ	—	橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8)	8mm以下の鉱物含	1642	布痕
793	土師器	B10d	V	26.7	—	—	ハケナデ	ナデケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	6mm以下の鉱物含	1233・1245	甕口縁～胴部
794	土師器	C3b	V	—	6.9	—	ナデ	ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	ごく微小の砂粒含	2202～2204	底部　底面線刻あり
795	土師器	C2a	V	—	7	—	ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	3mm以下の鉱物含	2269・2274	坏底部　ヘラ切り
796	土師器		V	—	7	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	ごく微小の砂粒含	6266	底部　ヘラ切り
797	土師器	C1d	V	—	9	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	黒	ごく微小の砂粒含	2246	坏高台部　内黒
798	土師器	B6b	V	—	7.4	—	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	4mm以下の鉱物含	1466・1498	埦底部
799	磁器(青磁)	B1d	Ⅳ	—	—	—	—	—	—	—	—	833	碗底部付近　劃画文　Ⅰ類　12c
800	磁器(青磁)	A3a	V	—	—	—	—	—	—	—	—	269	碗口縁部　鎬蓮弁文　Ⅱb類　13c
801	磁器(青磁)	C6	Ⅳ	10	3.2	3.6	—	—	—	—	—	一括	小坏　Ⅳ類か　14c前半
802	磁器(青磁)	C3b	V	15	—	—	—	—	—	—	—	2197	碗口縁部　Ⅳ類
803	磁器(青磁)	B1	Ⅳ	16.3	—	—	—	—	—	—	—	一括	碗口縁部　Ⅳ類
804	磁器(青磁)	A3	Ⅳ	13.4	—	—	—	—	—	—	—	一括	碗口縁部　Ⅳ類
805	磁器(青磁)	A6d	Ⅳ	11	—	—	—	—	—	—	—	145	稜花皿口縁部　15c後半

第23表　出土遺物観察表（23）

図No.	種　別	地区(遺構)	地 層	法量			調整		色		胎　土	取上げNo.	備　考
				口径(廂径)	底　径	器　高	外　面	内　面	外　面	内　面			
806	磁器（青磁）	C3	Ⅳ	—	6.5	—	—	—	—	—	—	一括	碗高台部　龍泉窯系　Ⅳ類　14～15c
807	磁器（青磁）	B6d	Ⅲ	—	—	—	—	—	—	—	—	1274	稜花皿口縁部　劃花文　15c後半
808	磁器（青磁）	A9c	Ⅴ	—	3.8	—	—	—	—	—	—	一括	坏底部　鎬蓮弁文　Ⅲ類
809	磁器（青磁）	B9	Ⅳ	—	6	—	—	—	—	—	—	一括	碗底部　Ⅳ類以降　龍泉窯系　14～15c
810	磁器（青磁）	B6a	Ⅳ	—	—	—	—	—	—	—	—	1294	香炉底部
811	磁器（青磁）	A6	Ⅳ	17.6	—	—	—	—	—	—	—	一括	碗口縁部　線描蓮弁文　上田B類　15c後半
812	磁器（白磁）	A6a	Ⅴ	12.4	—	—	—	—	—	—	—	180	碗口縁部　口禿　13c
813	染付	A7	Ⅴ	—	8	—	—	—	—	—	—	一括	皿底部　景徳鎮系
814	染付	B11	Ⅳ	—	8.8	—	—	—	—	—	—	3	深皿底部　景徳鎮系
815	染付	B11	Ⅳ	8.6	—	—	—	—	—	—	—	3	碗口縁部　景徳鎮系
816	染付	C3	Ⅳ	12.4	7.8	2.75	—	—	—	—	—	一括	皿　景徳鎮系
817	染付	A4	Ⅳ	—	4.6	—	—	—	—	—	—	一括	碗底部　見込みに「寿」　漳州窯系
818	染付	C3	Ⅳ	—	5.4	—	—	—	—	—	—	一括	碗底部　蓮子碗　漳州窯系　16c
819	染付			—	—	—	—	—	—	—	—	一括	底部　肥前系　唐草文　18～19c

第24表　出土遺物観察表（24）

Ⅳ　自然科学分析

株式会社　古環境研究所

1．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（杉山,2000）。

2．試料

試料は、70Tおよび80Tの2地点から採取された計28点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3．分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法（藤原,1976）を用いて、次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
2）試料約1ｇに対し直径約40μｍのガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により0.1ｍｇの精度で秤量）
3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
4）超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
5）沈底法による20μｍ以下の微粒子除去
6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
7）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10ｇ）をかけて、単位面積で層厚１㎝あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実量は1.03）、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、タケ亜科（ネザサ節）は0.48である。

4．分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な５分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5．考察

（1）水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料１ｇあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山,2000）。ただし、密度が3,000個/ｇ程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/ｇとして検討を行った。

1）70Ｔ

桜島文明軽石直下の黒褐色土層（試料１）から灰褐色土層（試料16）までの層準について検討を行った。その結果、黒褐色土層（試料１）および弥生時代とされる暗褐色土層（試料２、３）からイネが検出された。このうち、黒褐色土層（試料１）では密度が800～1,500個/ｇと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2）80Ｔ

桜島文明軽石直下の暗褐色土層（試料１）から霧島御池軽石直下の灰褐色土層（試料12）までの層準について分析を行った。その結果、暗褐色土層（試料１）からイネが検出された。密度は5,300個/ｇと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

（2）イネ科栽培植物の推定

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類やヒエ属型（ヒエが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

（3）堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。

おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、部分的にタケ亜科も多くなっていることが分かる。また、定量は行わなかったが、弥生時代以前の層準ではブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）も多く検出された。

以上のことから、稲作が開始される以前の調査区周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、弥生時代とされる暗褐色土層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。また、当時の遺跡周辺にはタケ亜科やススキ属などのイネ科植生が分布していたと考えられ、弥生時代以前にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林も分布していたと推定される。

6．まとめ

プラント・オパール分析の結果、桜島文明軽石（1471年）直下層からはイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、弥生時代とされる暗褐色土層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、弥生時代とされる暗褐色土層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。当時の遺跡周辺にはタケ亜科やス

スキ属などのイネ科植生が分布していたと考えられ、弥生時代以前にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林も分布していたと推定される。

【文献】

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社, p.189－213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学, 9, p.15－29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学, 17, p.73－85.

第25表　高田遺跡試掘調査におけるプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	70T															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		68	8	15													
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		68	23	22	45	38	45	8	8	22	164	129	15	30	30	15	38
ススキ属型	*Miscanthus* type		38		7	15	8	37	8	15		15				15	61	23
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		98	60	37	30	38	45	23	75	75	82	23	45	22	105	197	30

推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	2.00	0.22	0.44													
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	4.30	1.42	1.42	2.83	2.38	2.83	0.48	0.48	1.42	10.34	8.16	0.95	1.89	1.89	0.96	2.37
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.47		0.09	0.19	0.09	0.46	0.09	0.19		0.18				0.19	0.75	0.28
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.47	0.29	0.18	0.14	0.18	0.22	0.11	0.36	0.36	0.39	0.11	0.22	0.11	0.50	0.94	0.14

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

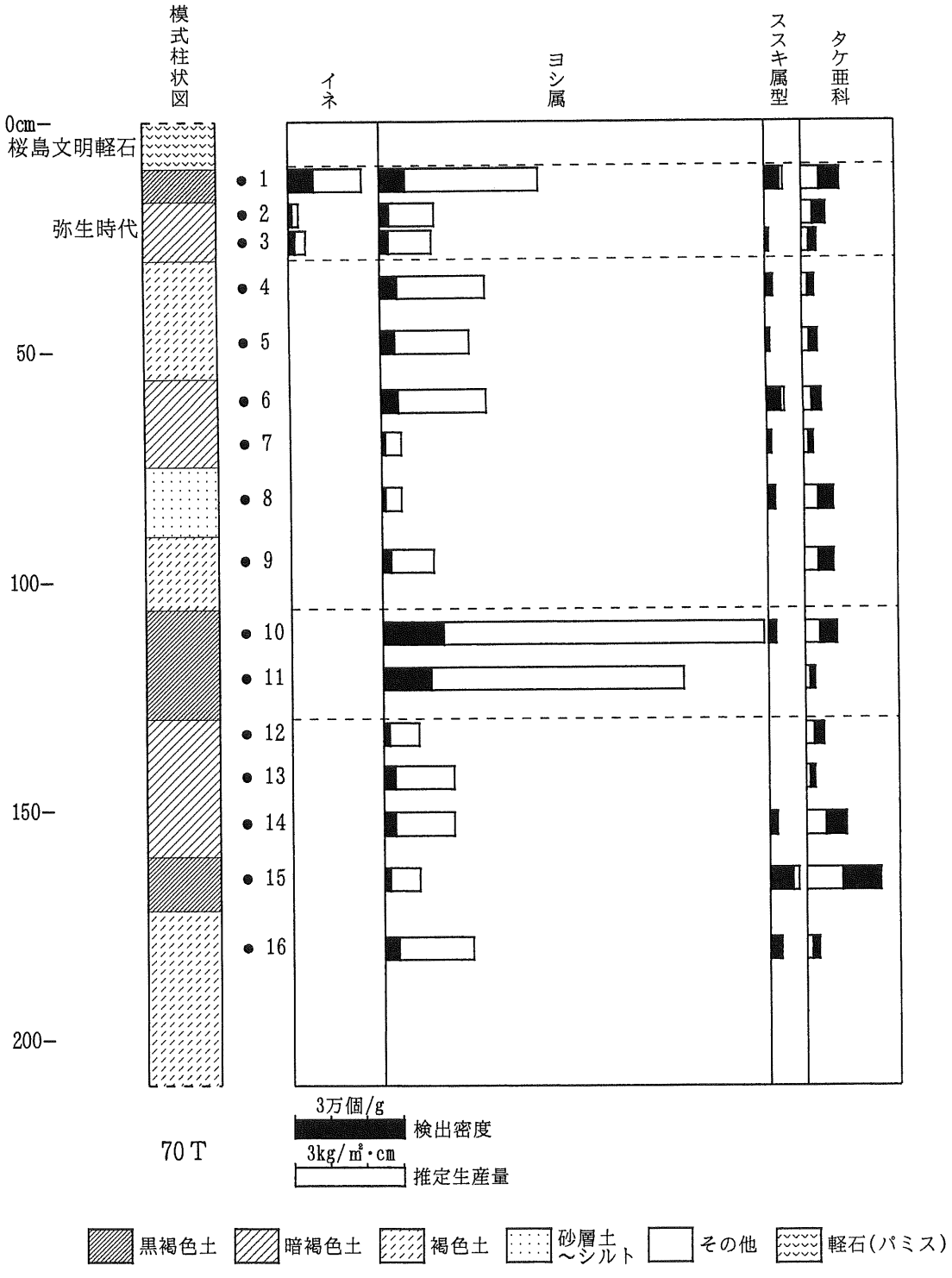
検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	80T											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		53											
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		15	22	30	8	30	15	37	30	60	45	22	45
ススキ属型	*Miscanthus* type		53	30	7	8	38	15	52	8		15		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		105	97	30		90	89	112	98	264	106	52	68

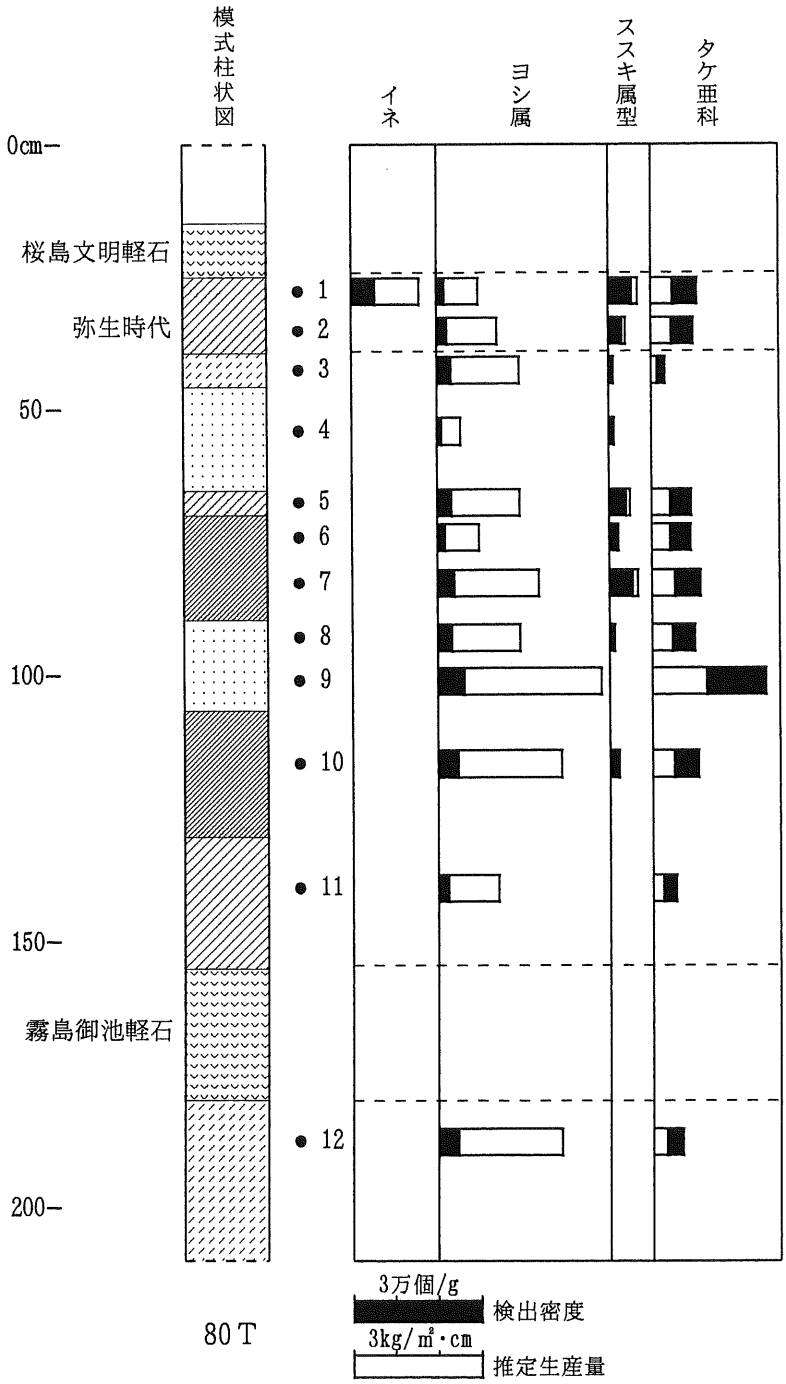
推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.55											
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	0.95	1.42	1.89	0.47	1.90	0.94	2.37	1.90	3.81	2.86	1.41	2.85
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.65	0.37	0.09	0.09	0.47	0.18	0.65	0.09		0.19		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.51	0.47	0.14		0.43	0.43	0.54	0.47	1.27	0.51	0.25	0.33

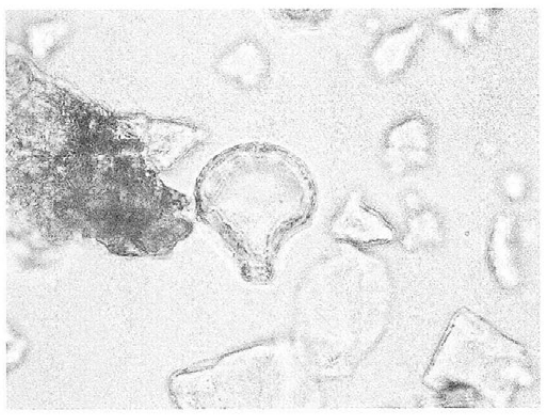
※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



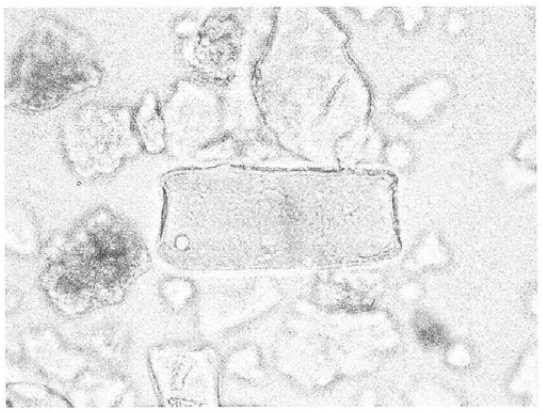
第77図　高田遺跡試掘調査におけるプラント・オパール分析結果（1）



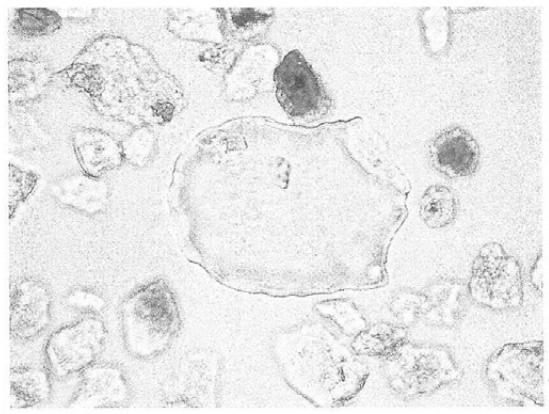
第78図　高田遺跡試掘調査におけるプラント・オパール分析結果（2）



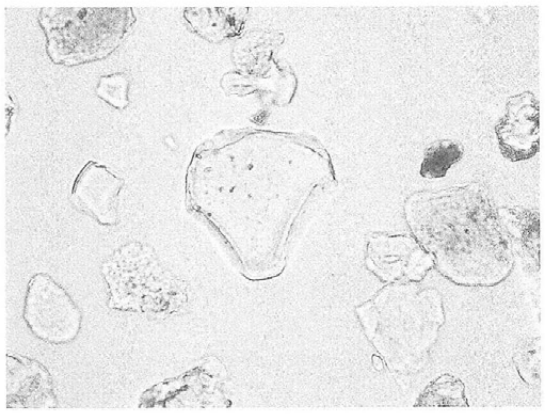
イネ
70T　1



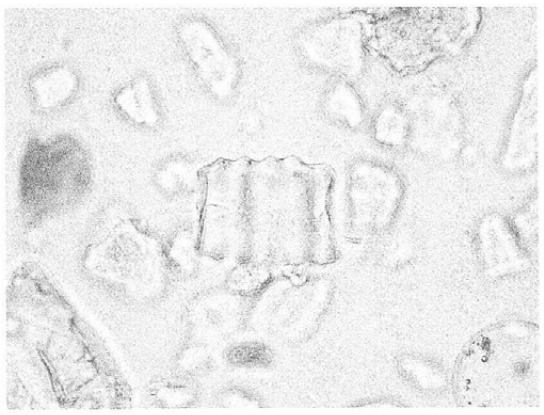
キビ族型
70T　2



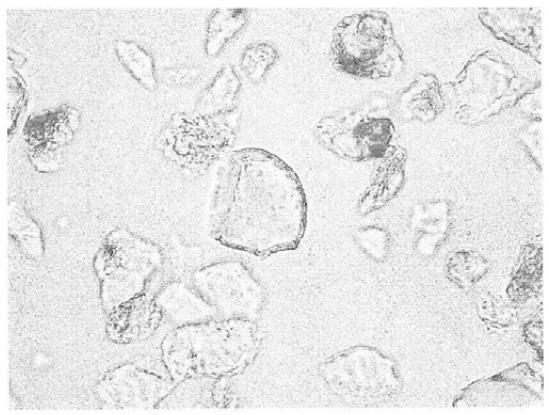
ヨシ属
70T　6



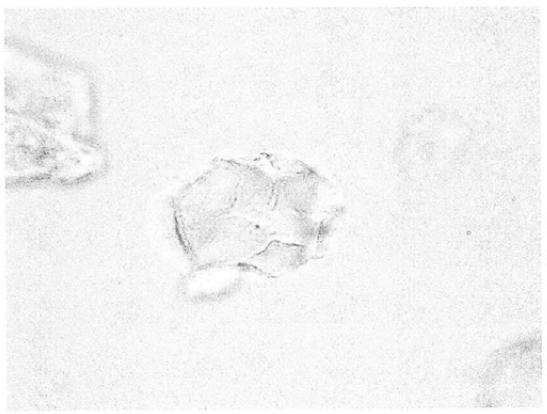
ススキ属型
70T　1



ネザサ節型
70T　1

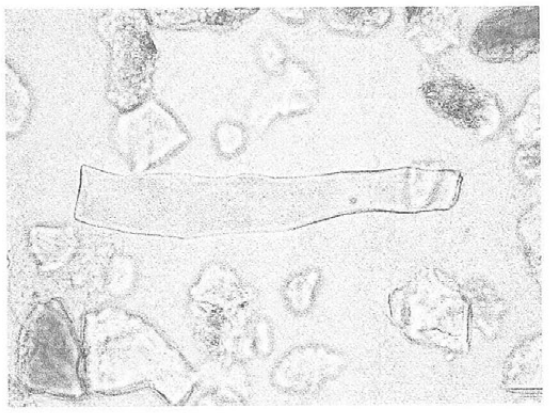


ミヤコザサ節型
70T　6



ブナ科（シイ属）
70T　9

クスノキ科
70T　16



マンサク科（イスノキ属）
70T　6

50 μm

写真１　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

V　樹種同定

株式会社　吉田生物研究所

1．試料

試料は都城市高田遺跡から出土した木製品15点である。

2．観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3．結果

樹種同定結果（広葉樹８種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.）

（遺物No.4, 6, 7, 10, 11, 13(小), 14(小), 17, 19）

（写真No.4, 6, 7, 10, 11, 13(小), 14(小), 17, 19）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に１～３細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵伏の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

2）ブナ科クリ属クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）

（遺物No.8, 9, 12, 14（大））

（写真No.8, 9, 12, 14（大））

環孔材である。木口は円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

3）クワ科クワ属（Morus sp.）

（遺物No.3）

（写真No.3）

環孔材である。木口では大道管（～280μm）が年輪界にそって1～5列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が２～６個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は１～６列細胞列、高さ～1.1cm

からなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

4）クスノキ科タブノキ属（Machilus sp.）

（遺物No.14（棒）,19）

（写真No.14（棒）,19）

散孔材である。木口では中庸で厚壁の道管（～130μm）が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。柾目では道管は単穿孔とまれに階段穿孔、側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管と放射組織間壁孔は円形、レンズ状、篩状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～600μmからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳油貯蔵細胞）となったものが見られる。タブノキ属はタブノキ、ホソバタブがあり、本州(日本海側は青森、太平洋側は岩手中部以南)、四国、九州、琉球に分布する。

5）マンサク科イスノキ属イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.）

（遺物No.13（大））

（写真No.13（大））

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～50μm）がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1～2列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～2細胞列、高さ～1mmで多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

6）センダン科センダン属センダン（Melia azedarach L. var. subtripinnata Miquel）

（遺物No.5）

（写真No.5）

環孔材である。木口ではきわめて大きい道管（～350μm）が幅の広い孔圏部を形成している。孔圏外小道管は多数が団塊状に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には充填物（チロース）が見られる。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～400μmからなる。センダンは四国、九州に分布する。

7）ツバキ科ツバキ属（Camellia sp.）

（遺物No.1,16）

（写真No.1,16）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～40μm）が、単独ないし2～3個接合して均等に分布する。放射組織は1～3細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～1mm以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

8）ツバキ科ヒサカキ属（Eurya sp.）

（遺物No.2,15）

（写真No.2,15）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～50μm）が単独ないし２～４個複合して平等に分布する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は１～４細胞列で、高さ～５mmからなる。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ヒサカキ属はヒサカキ、ハマヒサカキがあり、本州（岩手、秋田以南）、四国、九州、琉球に分布する。

◆参考文献◆

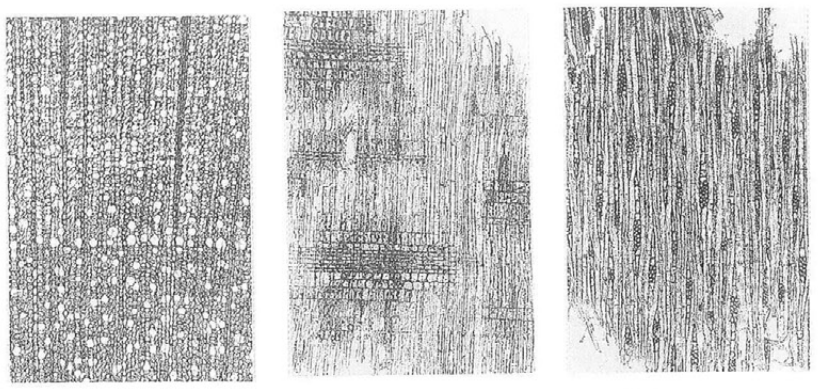
島地謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
島地謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

◆使用顕微鏡◆

Nikon
MICROFLEX UFX-DX Type 115

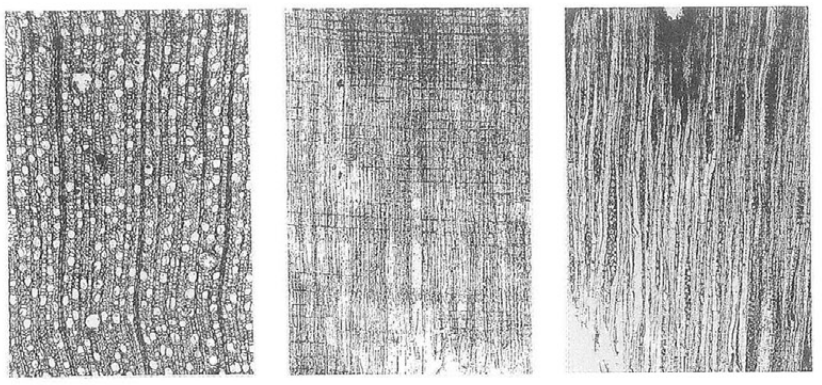
都城市高田遺跡出土木製品同定表

No.	資料No.	品　名	樹　種
1	6102	木製品	ツバキ科ツバキ属
2	6259	木製品	ツバキ科ヒサカキ属
3	5821	木製品	クワ科クワ属
4	5817	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
5	6178	木製品	センダン科センダン属センダン
6	6228	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
7	6459	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
8	5789	木製品	ブナ科クリ属クリ
9	6407	木製品	ブナ科クリ属クリ
10	6430	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
11	5794	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
12	5790	木製品	ブナ科クリ属クリ
13	2574	木製品（大） （小）	マンサク科イスノキ属イスノキ ブナ科コナラ属アカガシ亜属
14	6113	木製品（大） （小） （棒）	ブナ科クリ属クリ ブナ科コナラ属アカガシ亜属 クスノキ科タブノキ属タブノキ
15	5850	木製品	ツバキ科ヒサカキ属
16	2705	木製品	ツバキ科ツバキ属
17	6239	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
18	6411	木製品	クスノキ科タブノキ属
19	2573	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属



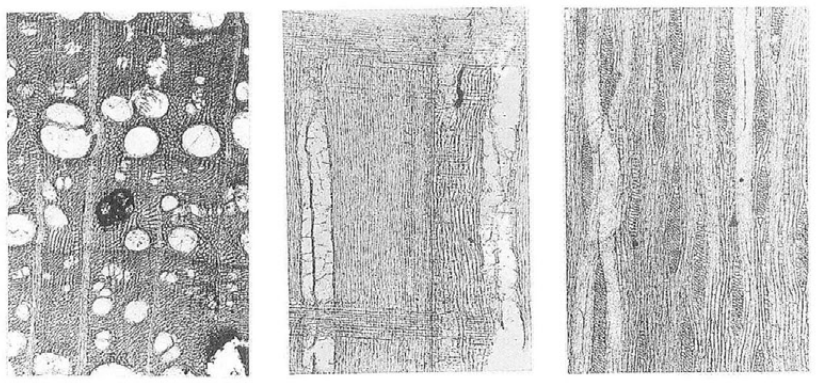
木口×40　柾目×40　板目×40

No. 1　ツバキ科ツバキ属



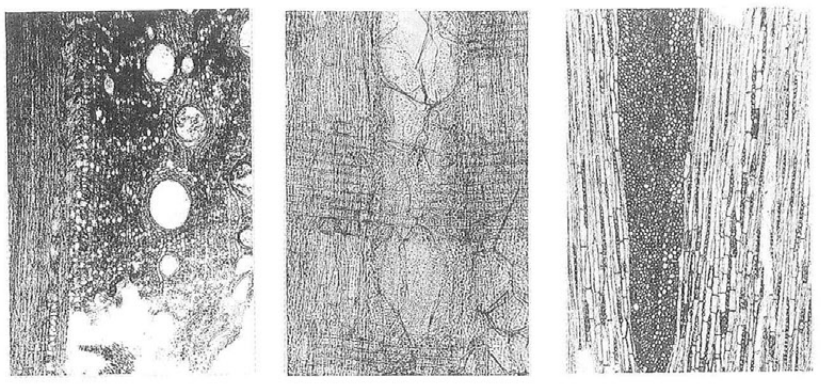
木口×40　柾目×40　板目×40

No. 2　ツバキ科ヒサカキ属



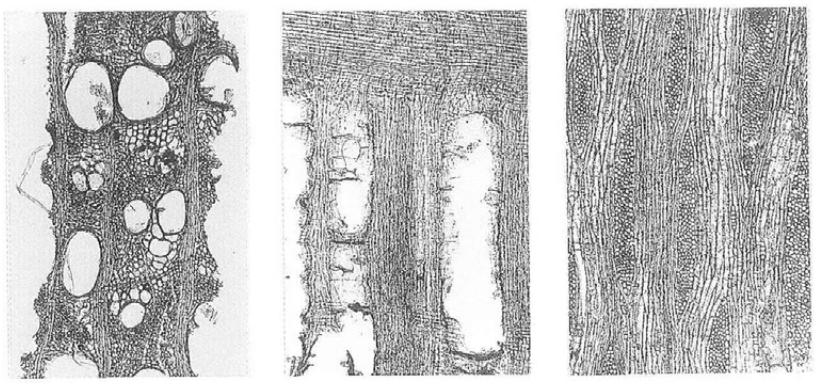
木口×40　柾目×40　板目×40

No. 3　クワ科クワ属



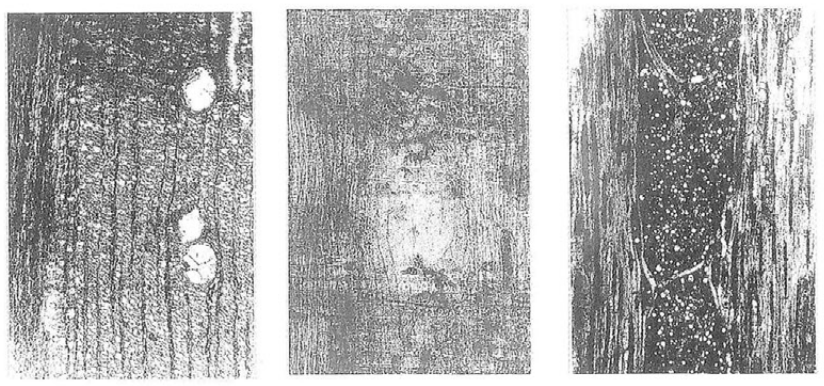
木口×40　柾目×100　板目×40

No. 4　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



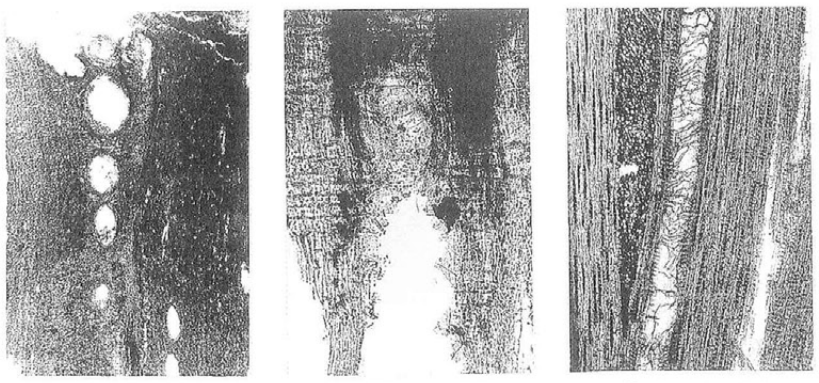
木口×40　柾目×40　板目×40

No. 5　センダン科センダン属センダン



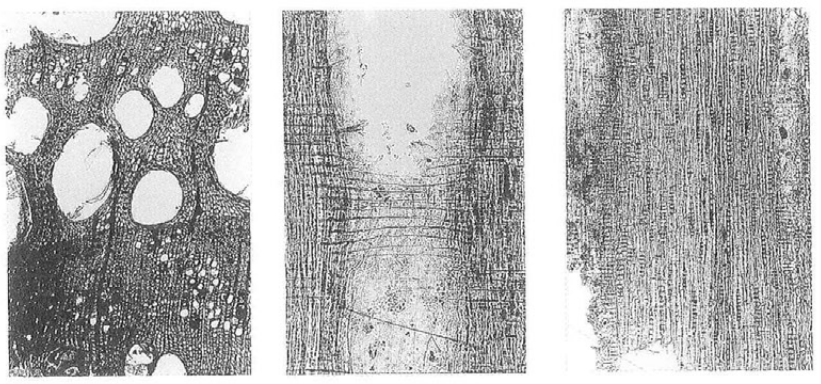
木口×40　柾目×100　板目×40

No. 6　ブナ科ブナ属アカガシ亜属



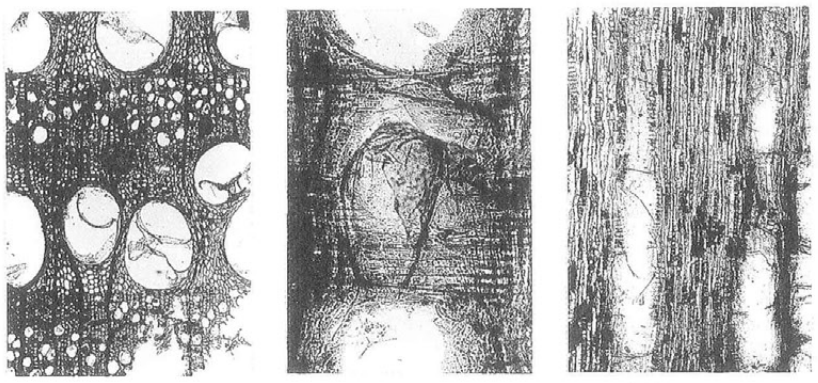
木口×40　柾目×100　板目×40

No. 7　ブナ科ブナ属アカガシ亜属



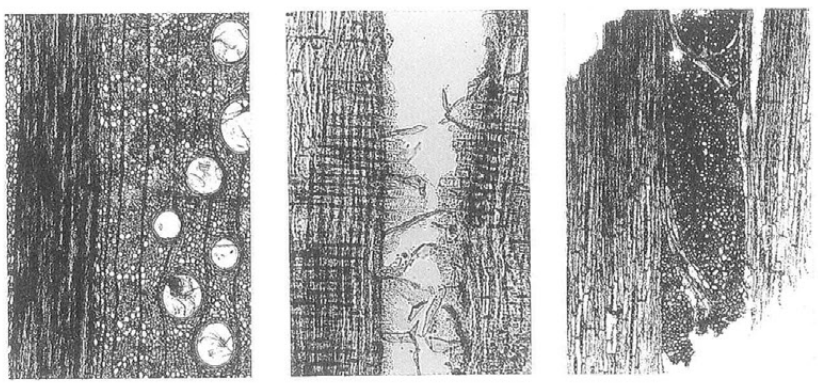
木口×40　柾目×100　板目×40

No. 8　ブナ科クリ属クリ



木口×40　柾目×100　板目×40

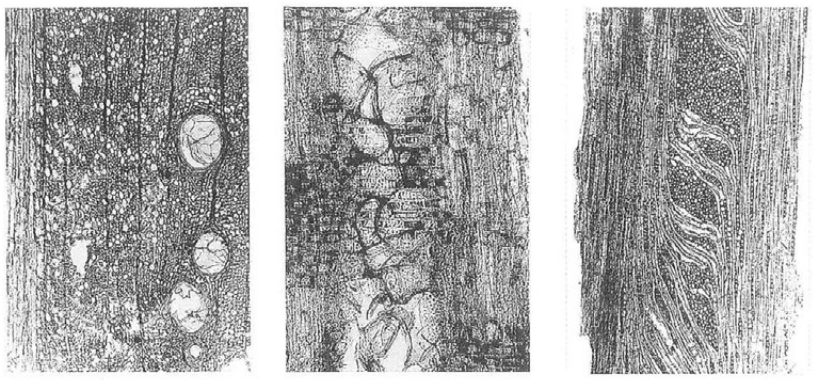
No. 9　ブナ科クリ属クリ



木口×40　柾目×100　板目×40

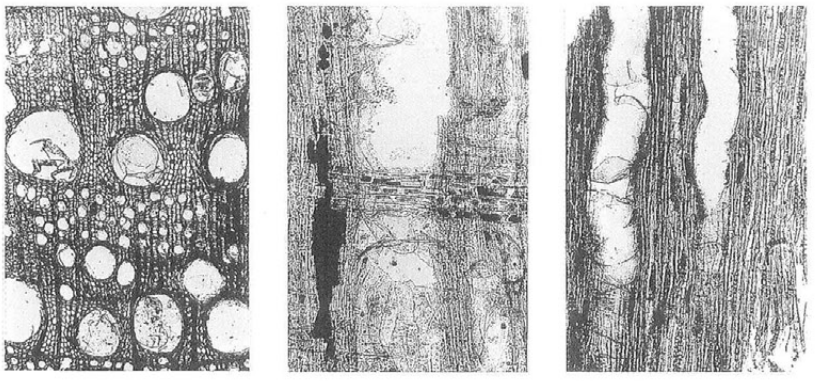
No.10　ブナ科ブナ属アカガシ亜属

写真２　木製品顕微鏡写真（1）



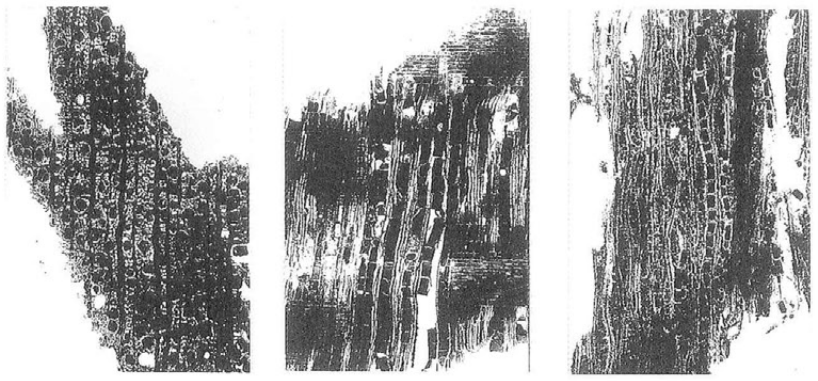
木口×40　柾目×100　板目×40

No.11　ブナ科ブナ属アカガシ亜属



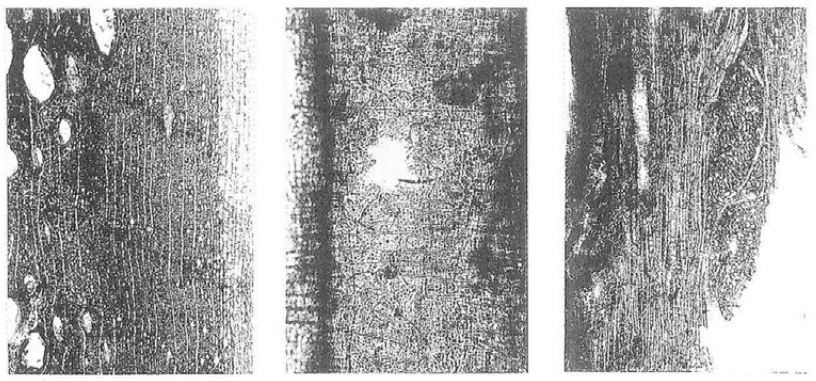
木口×40　柾目×100　板目×40

No.12　ブナ科クリ属クリ



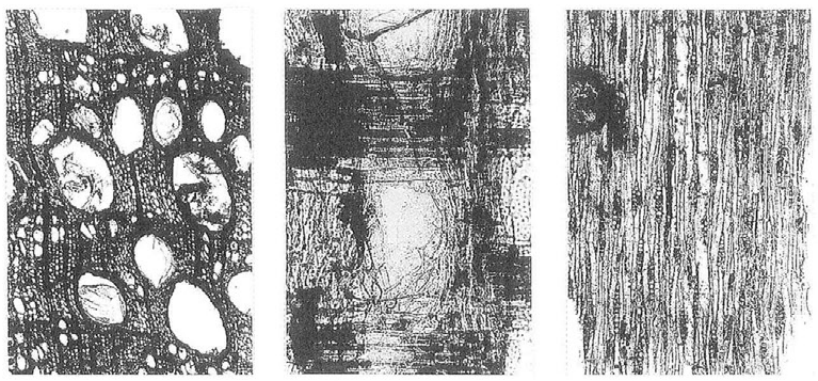
木口×40　柾目×40　板目×40

No.13大　マンサク科イスノキ属イスノキ



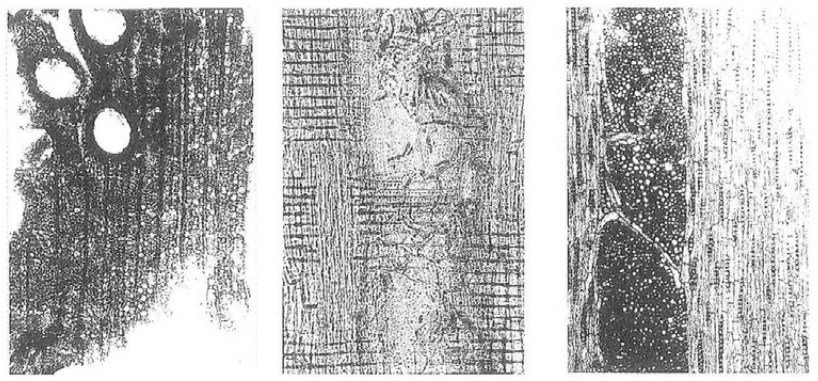
木口×40　柾目×100　板目×40

No.13小　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



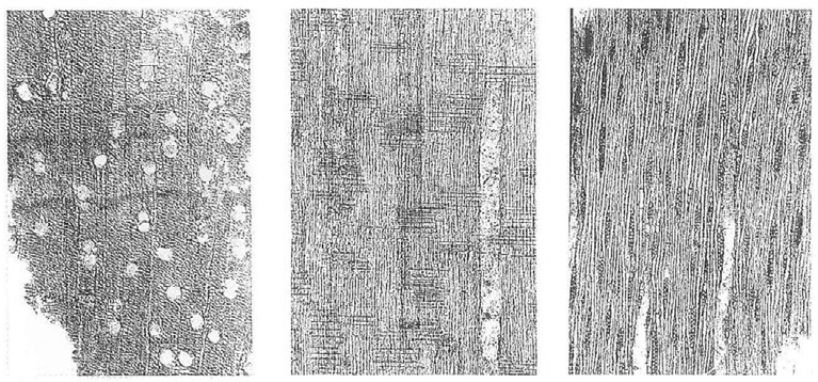
木口×40　柾目×100　板目×40

No.14大　ブナ科クリ属クリ



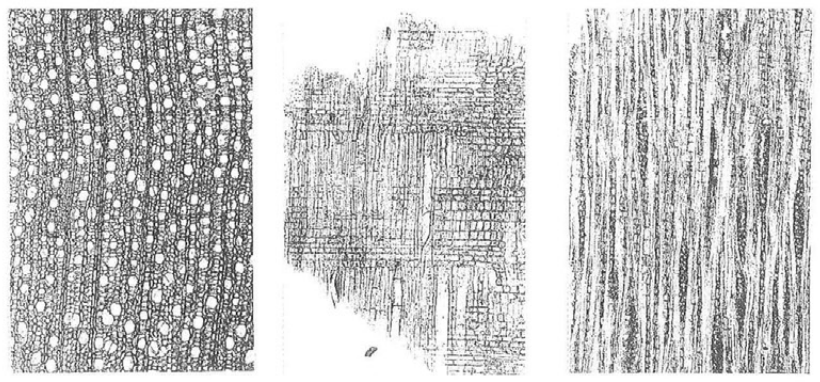
木口×40　柾目×100　板目×40

No.14小　ブナ科ブナ属アカガシ亜属



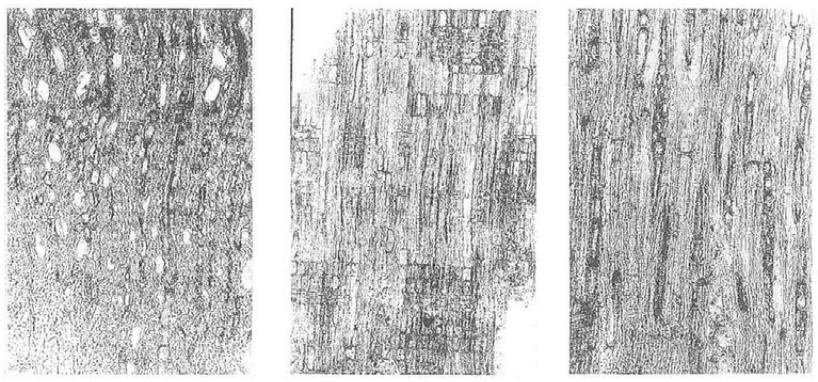
木口×40　柾目×40　板目×40

No.14棒　クスノキ科タブノキ属タブノキ



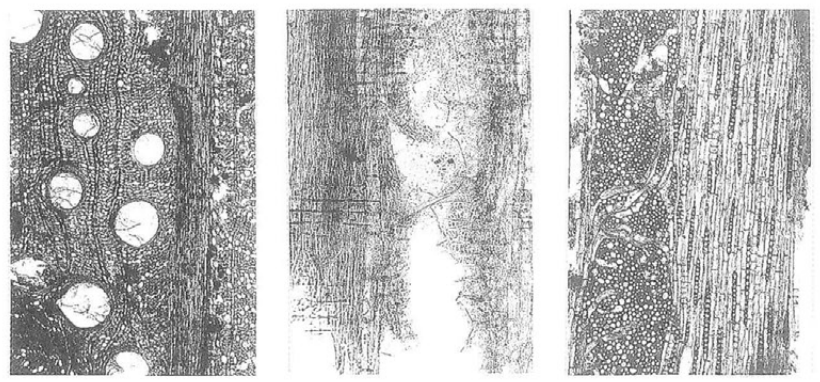
木口×40　柾目×40　板目×40

No.15　ツバキ科ヒサカキ属



木口×100　柾目×40　板目×100

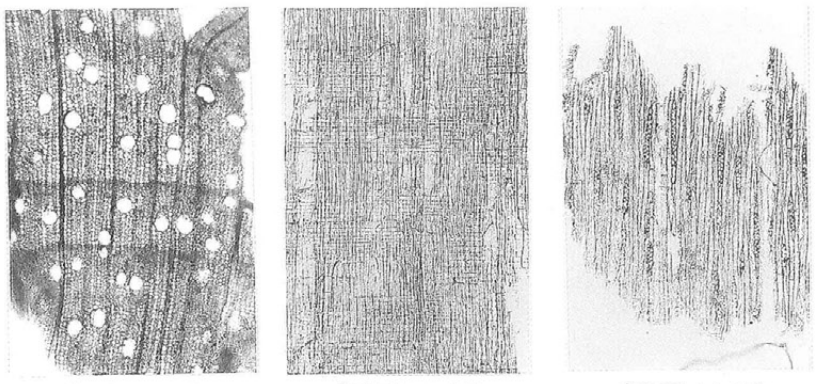
No.16　ツバキ科ツバキ属



木口×40　柾目×100　板目×40

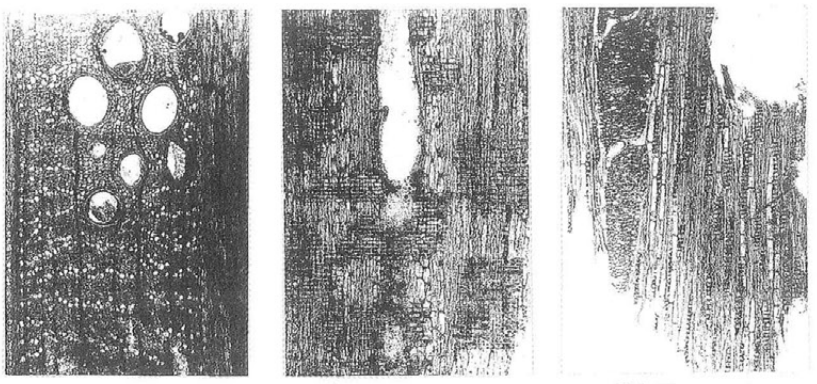
No.17　ブナ科コナラ属アカガシ亜属

写真３　木製品顕微鏡写真（2）



木口×40　　柾目×40　　板目×40

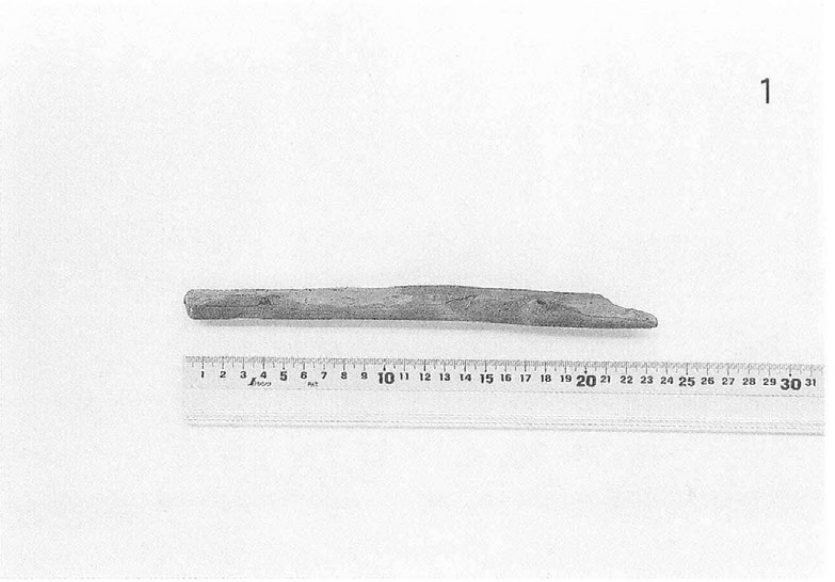
No.18　クスノキ科タブノキ属

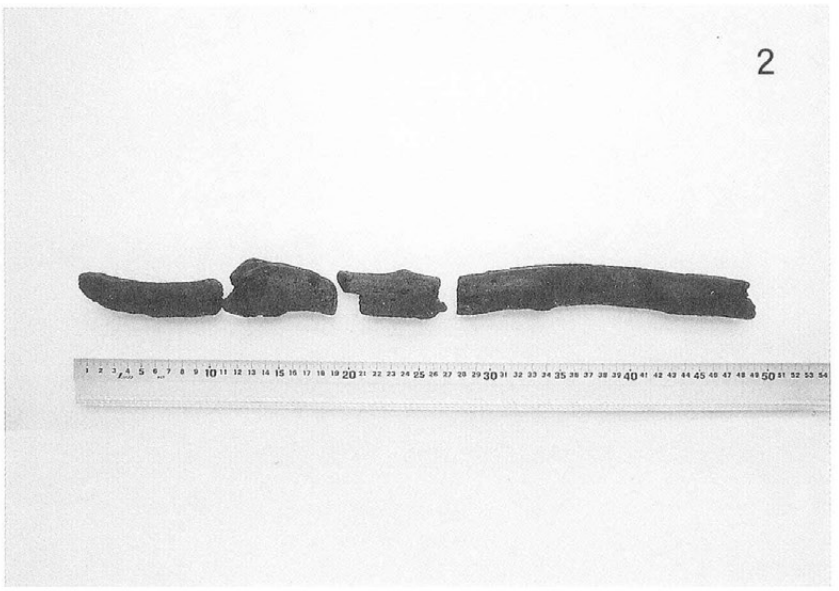


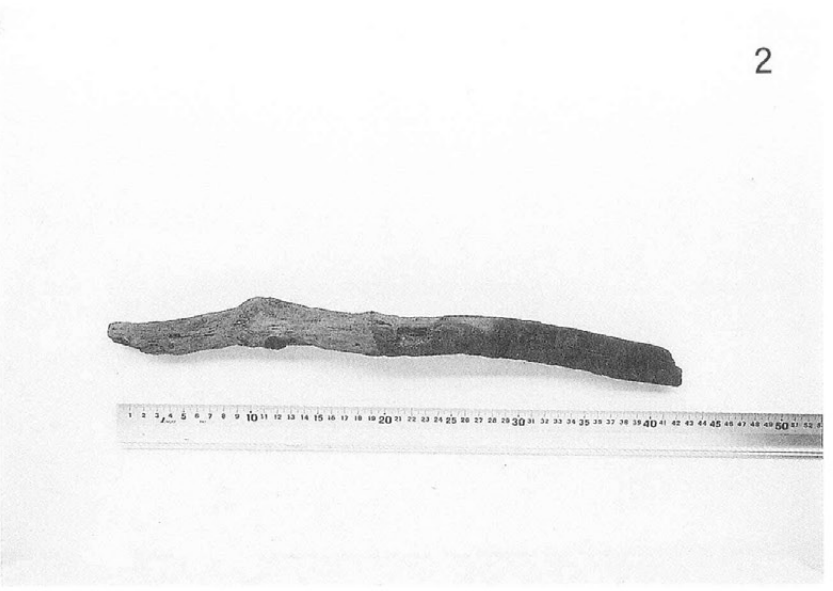
木口×40　　柾目×40　　板目×40

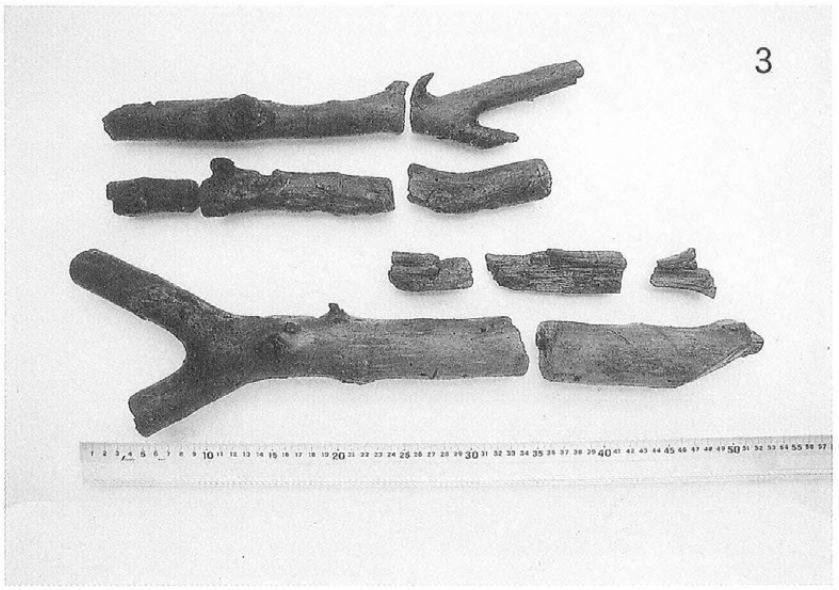
No.19　ブナ科コナラ属アカガシ亜属

写真４　木製品顕微鏡写真（3）









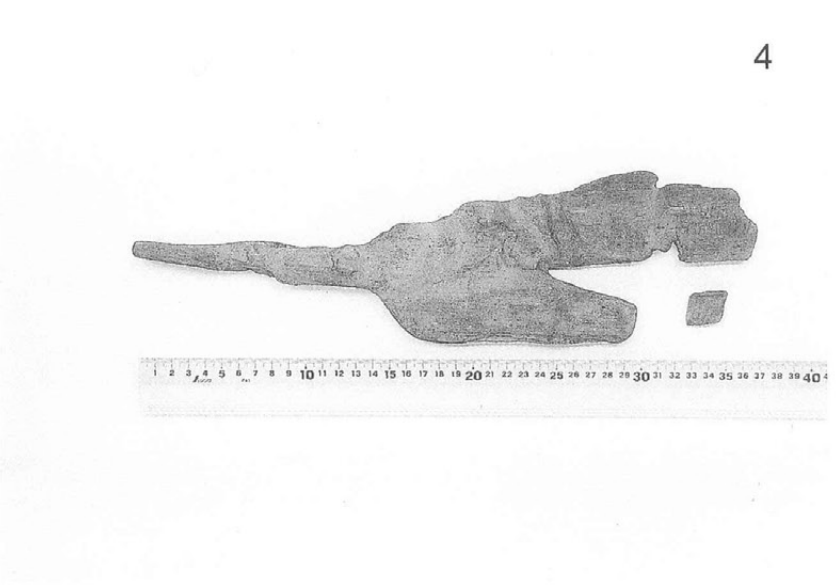
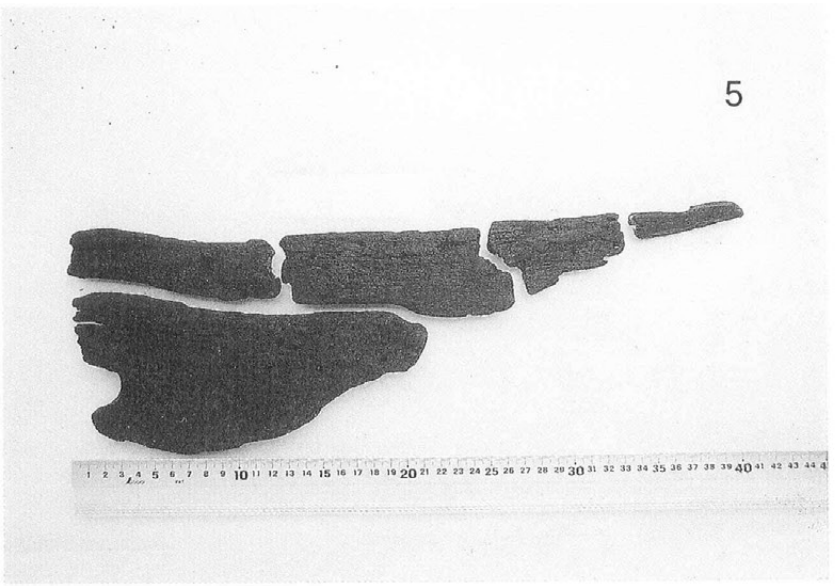
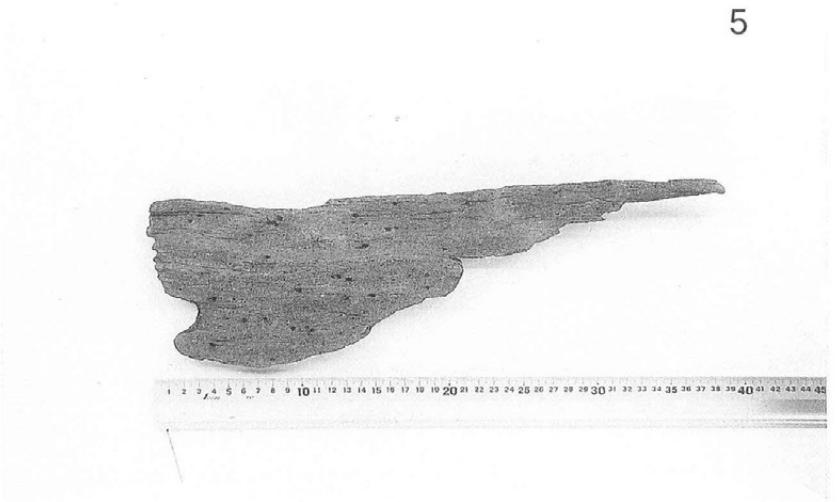
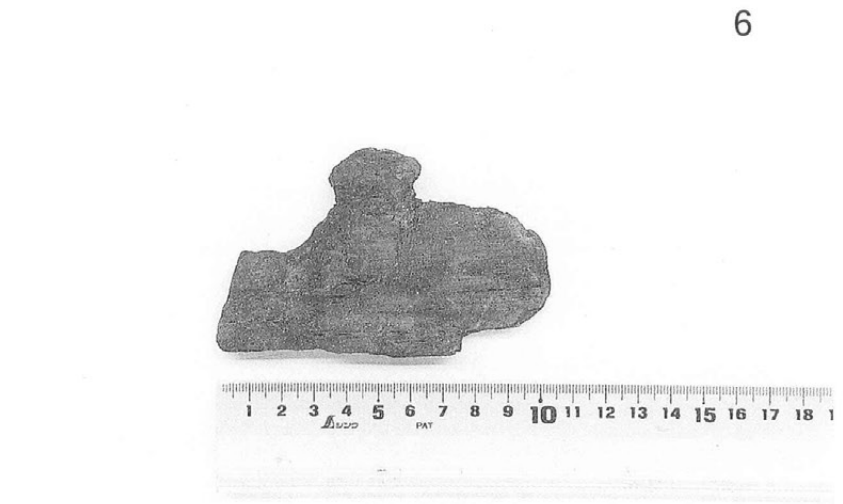


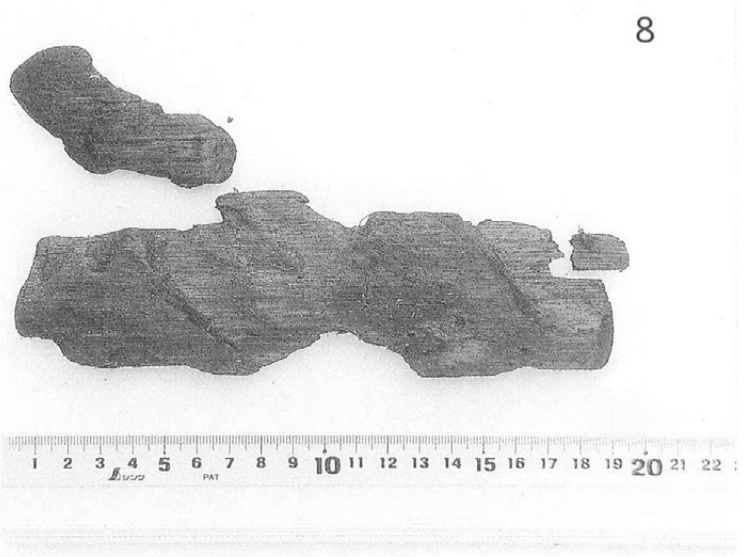
写真５　保存処理前後写真（1）

写真は左が処理前、右が処理後である。









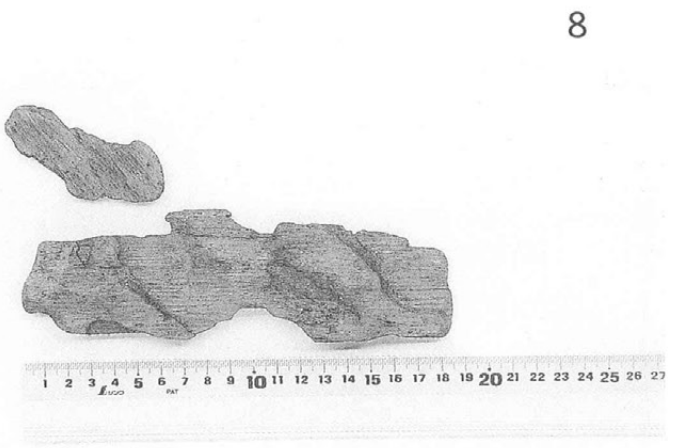


写真６　保存処理前後写真（2）

写真は左が処理前、右が処理後である。

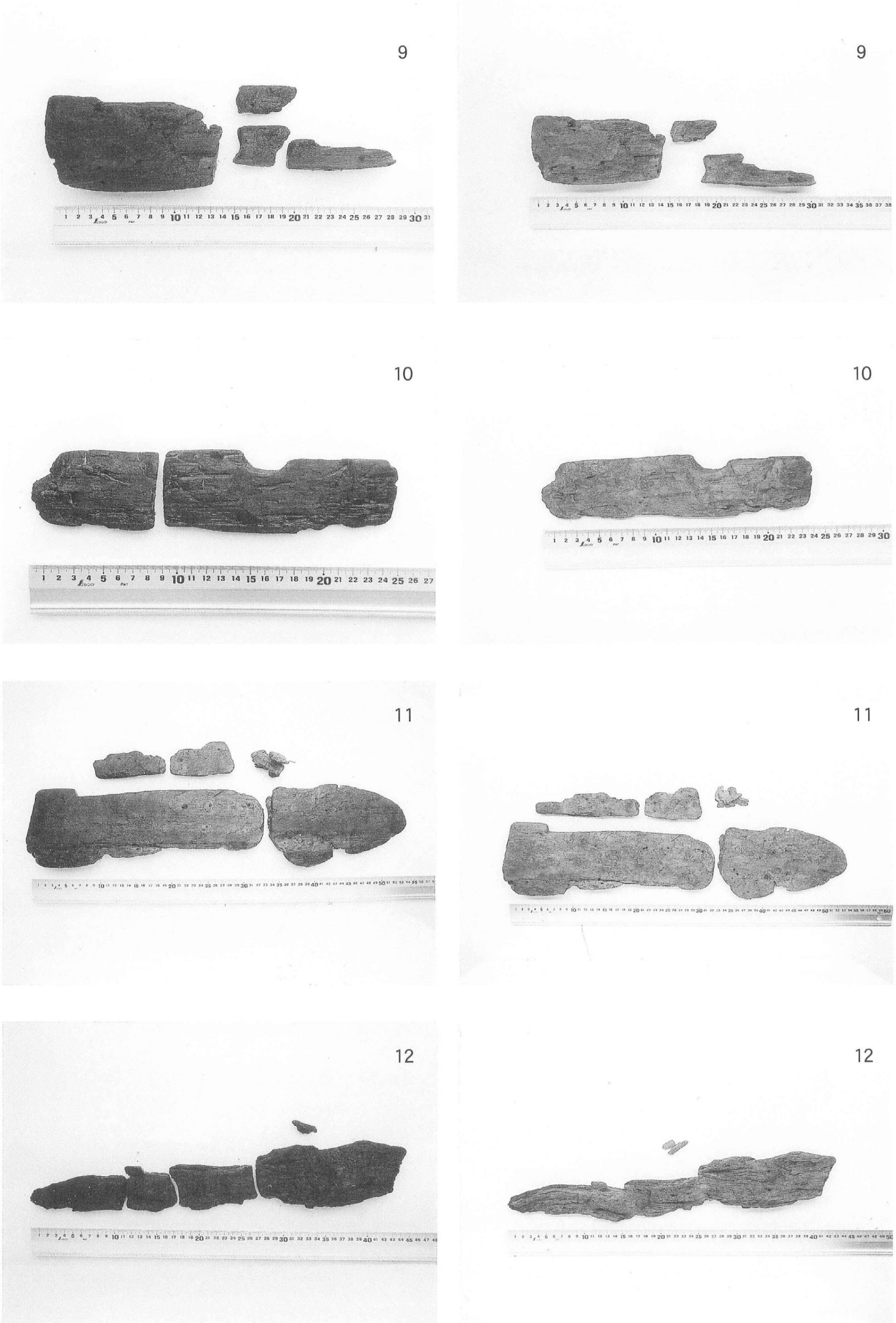
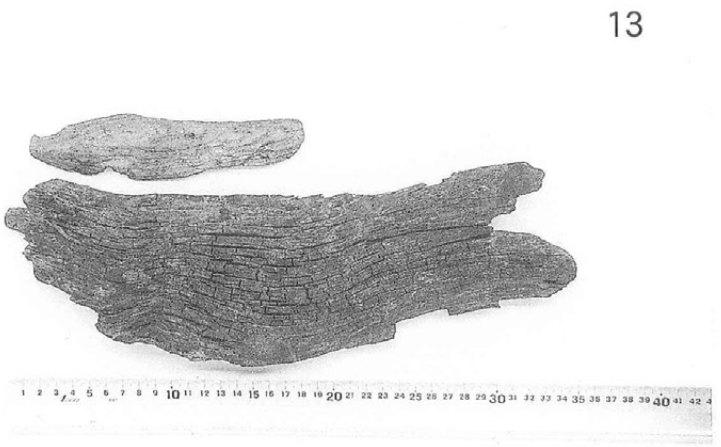
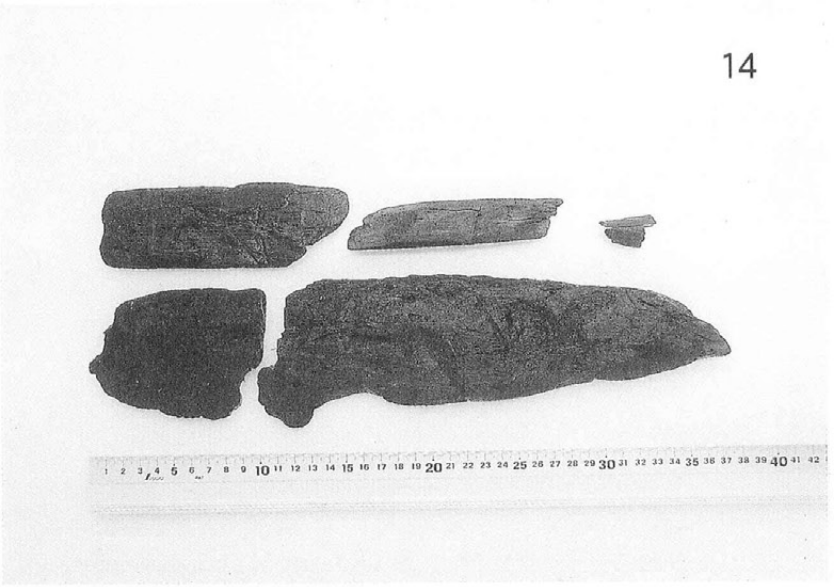
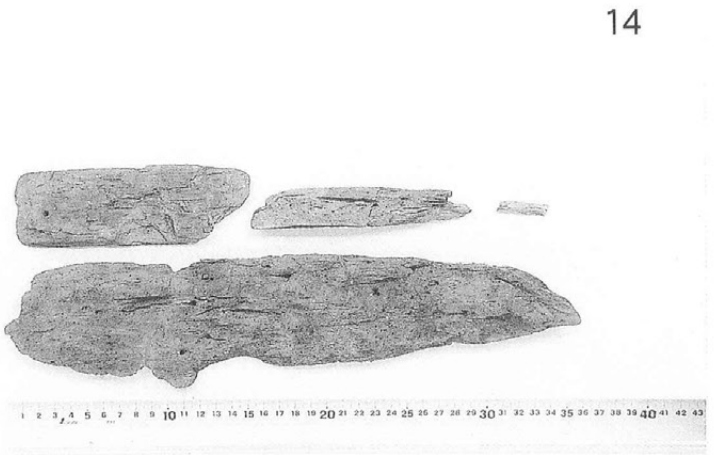


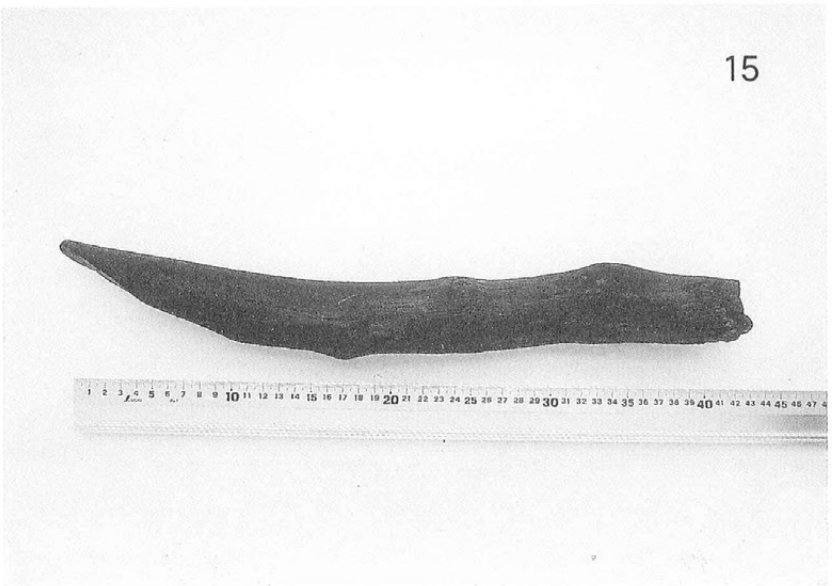
写真７　保存処理前後写真（3）

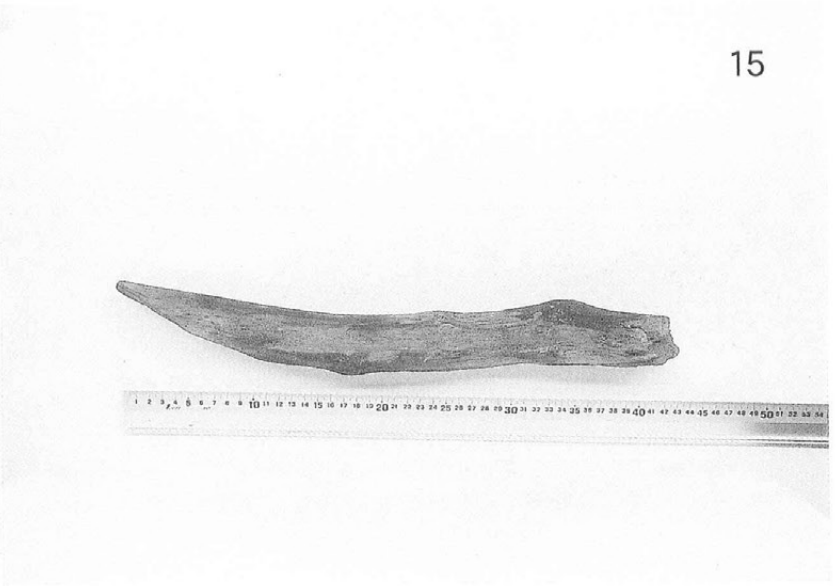
写真は左が処理前、右が処理後である。

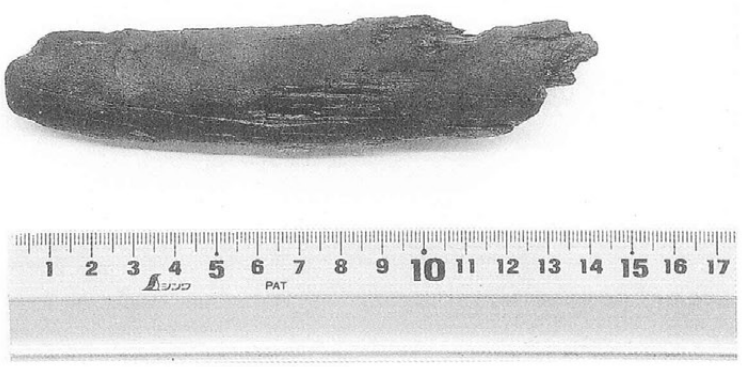












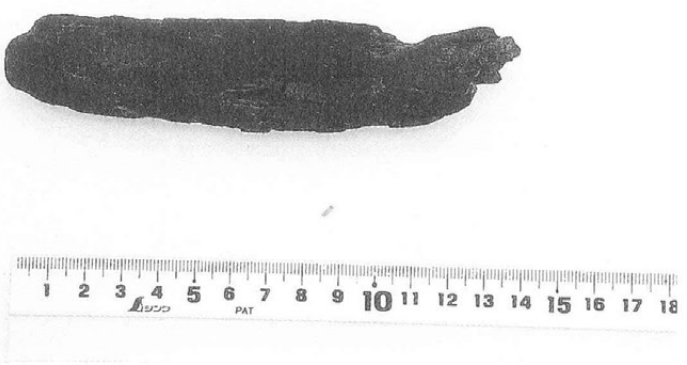
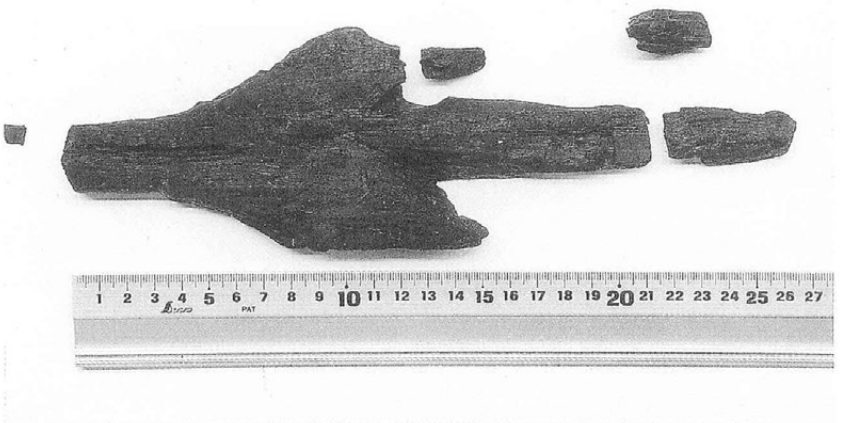


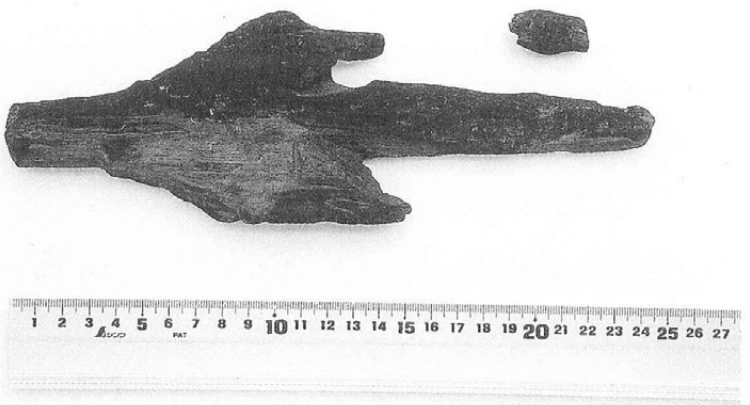
写真８　保存処理前後写真（4）

写真は左が処理前、右が処理後である。

17

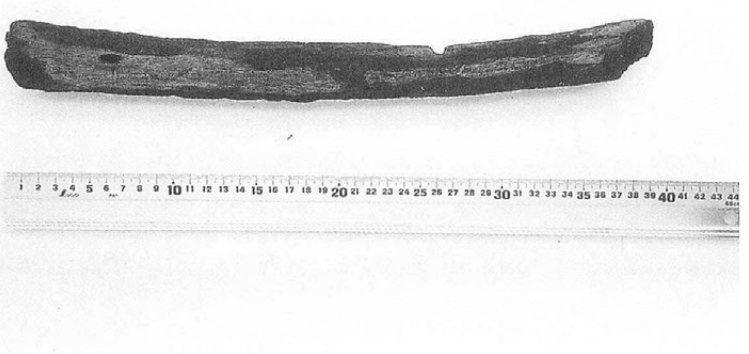


17

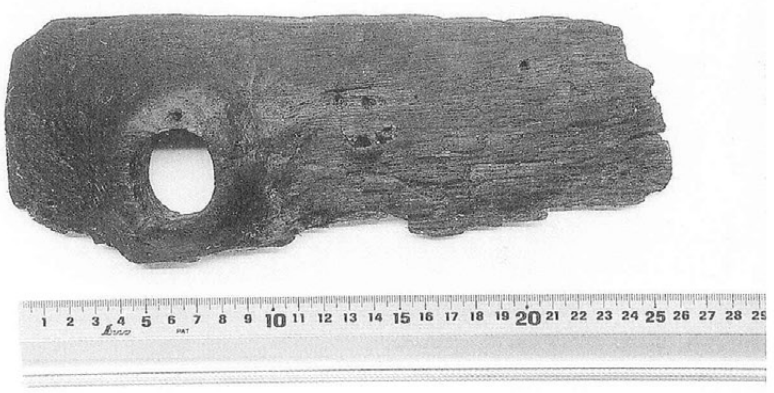


18

18



19



19

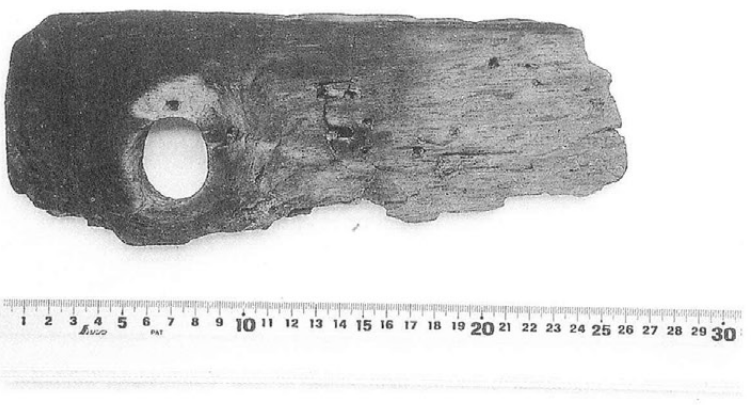


写真９　保存処理前後写真（5）

写真は左が処理前、右が処理後である。

Ⅵ　まとめ

都城盆地のほぼ中央域に立地する本遺跡では、弥生・中世の遺構・遺物を確認することができた。当市での弥生・中世遺跡の調査は比較的事例が多いが、弥生に関しては土器の構成に特徴がみられ、また中世水田は15世紀段階の広範な分布状況を考古学的に示す好例となった。ここでは、各々について若干の整理をしておきたい。

1　弥生時代・古代の遺構・遺物について

本遺跡に特徴的な遺構について触れ、遺物との関わりを整理しておきたい。

竪穴住居跡の傾向としては、10～17㎡ほどの比較的小型なものが目に付く（SA04・06・07・08・14・15・16)。また、形態としては、方形やそれに近似する楕円状のものが主流（SA02・06・07・08・09・11・12・14？・15？）といえるが、なかには間仕切り的要素を取り込むなど、地域的特徴を含んだ住居もみられる。

SD08は、a・bの2条が存在し、b→aの時期差がある。この08は、第１トレンチでの検出において、SD01との関連をうかがうことができる。また、東側では第３トレンチで溝状遺構を検出していることから、08a・bのいずれかがこれに相当すると考えられる。なお、このＳＤ08は、住居群をほぼ取り囲むように立地しており、その走向からＳＤ01や第１・３トレンチとのつながりも考えられる。

プラントオパール分析結果は弥生期に水田が存在していた可能性を示唆している。これは該地が盆地底域に相当しており、元来湿地的環境にあった可能性も高いことから十分に想定できることであり、鍬などの木製農具が出土していることからも、集落の周囲に生産域としての水田がひろがっていたと考えられる。

Ⅶにおいて加覧氏は、本遺跡の土器群は入来Ⅱ～山ノ口Ⅰ式に該当するものが相当数を占めており、かつ中溝式の混在がみられないことから、中溝式が登場する以前の時期（中期中葉）に相当し、それほどの時期的な差異がみられないと指摘している。こうした土器の様相から大隅半島の影響を多分に受けていることが垣間見える。

２棟検出した掘立柱建物については、その埋土が第Ⅳ層であること、住居との層位関係でいけば明らかに掘立柱建物が後続すること、試掘調査時のデータによれば第Ⅳ層相当位から、砕片ながら古代の遺物が出土しており、包含層から須恵片が確認されていることなどから、古代の所産と考えたい。

2　中世水田跡について

まず、本遺跡で確認した水田跡について整理しておきたい。今回検出した水田は全部で36面である。全ての水田面は15世紀後半に桜島から噴出した火山灰、いわゆる白ボラが覆っており、C区のみではあったが、白ボラを除去した田面の様態は凹凸の激しいものであった。各水田の径や田積を、これまで市内で確認されている文明パック水田を含めて第26表に示した。大略的には、南北方向に長く、これまで確認されている水田に比して田積が大きいものが多い。また、西側より東側のほうが田積が大きくなっている傾向がみられる。凹凸は人と牛馬の足跡や農耕具痕が考えられるが、明確には分けられない。水口についても明確な痕跡を見出すことはできなかったが、SW26と27の間にある畦畔は南側部分が開いており、その可能性を示唆するものとして想定できるかもしれない。

次に、市内における近年の水田調査を確認しておきたい。

鶴喰遺跡には、14世紀代と想定される集落が所在した遺跡中央の島状になった台地部分をめぐるように水田が展開していたと考えられ、そしてその後集落は消滅し水田化された。計17面確認した水田面の凹凸痕は激しかったが、１面だけ凹凸痕がない田もあった。科学分析結果でイネ苗も確認され、軽石降下・堆積の時期を想定させる結果を導出した。

鶴喰遺跡の西方に位置する畑田遺跡・母智丘谷遺跡は、自然地形を利用して形成された、一連の水田帯

であったと考えられている。畑田遺跡は中世城郭である新宮城に西接する、台地際に深く入り組んだ谷間部分に展開した水田である。計13面が確認されており、各田面は凹凸痕が激しい様子がみられた。母智丘谷遺跡は谷間をわずかに出た中河川である横市川にほど近い氾濫原に立地する。プラントオパールの分析結果からは、水田稲作が古墳期に行われていたことをうかがわせる結果が得られ、またイネ苗が確認されている。

嫁坂遺跡は、盆地南部金御岳からのびる丘陵に東西を挟まれた、比較的開けた谷間部分に立地する。谷間を蛇行する小河川（旧河道）際に水田が展開しており、９面確認されている。ここでもイネ苗がみられる。

鴇尾遺跡は、西側を除く三方を台地裾部に囲まれた湾入地形である。中河川（梅北川）沿いの奥まった部分に位置する水田遺跡であるが、その湾入地形は、この中河川の蛇行の所産であり、それによって形成された湿地（低地面）を利用して水田が営まれたのであろう。ここでは5面を検出しており、凹凸痕のあるものとないもの双方が確認されている。

このように、これまでの水田は台地裾部の湾入地形や河川沿いの沖積段丘における事例が主体となってきた。本遺跡の水田は、大淀川の支流である中小河川に挟まれた地点とはいえ、広大な都城盆地の基底部に相当しており、中世後期段階における水田域の実態が看取できる。また応永32年（1425）に作成された「中郷西方内検取帳」には姫木（都城市役所南側一帯か）、坂元（上長飯町）など本遺跡に近接する地名がみられ、該期水田域の広範な展開を裏づけている。

以上、水田に関して若干の総括を試みたが、水田面に残る凹凸痕の性格や初夏とも秋とも想定される復旧時期など、検討すべき課題は依然として山積しており、事例の増加が待たれる。また、火山災害への対応もさることながら、開発史的側面や農業史的側面からのアプローチや、地名の検証などといった文献的な検討も含めて、中世水田の様態を考えていく必要もあろう。

【参考文献】

石川悦雄　1983「日向における外葉系の土器の伝播とその地域性（1）
－瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開－」
（『宮崎県総合博物館研究紀要』9）

石川悦雄　1984「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描（Mk.Ⅱ）」（『宮崎考古』9）

能登　健　1989「農耕集落論研究の現段階」（『歴史評論』466）

中園　聡　1997「九州南部地域弥生土器編年」（『人類史研究』9）

都城市教育委員会　1997『大浦遺跡』　都城市文化財調査報告書第37集

都城市教育委員会　1997『鬼束家文書』　都城市文化財調査報告書第40集

都城市教育委員会　1998『鶴喰遺跡』　都城市文化財調査報告書第44集

宮崎県　1997『宮崎県史　通史編　原始古代』

宮崎県　1998『宮崎県史　通史編　中世』

都城市教育委員会　1999『肱穴遺跡』　都城市文化財調査報告書第47集

乗畑光博　2000「中溝式系土器の検討－宮崎県における弥生時代中期後半から後期前半に
かけての土器編年にむけて－」（『古文化談叢』45）

都城市教育委員会　2001『横市地区遺跡群　馬渡遺跡（第２次）　坂元A遺跡』
都城市文化財調査報告書第55集

宮崎市教育委員会　2002『宮崎小学校遺跡』　宮崎市文化財調査報告書第53集

宮崎県埋蔵文化財センター　2002『母智丘谷遺跡　畑田遺跡　嫁坂遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第63集

宮崎県埋蔵文化財センター　2002　『鴇尾遺跡　坂ノ下遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第65集
新名一仁　2003「文安元年日向国南部国人一揆の意義－守護島津氏・庄内国人による
山東進出とその挫折－」（『都城地域史研究』9）

高田遺跡

水田番号	径（m）		面積（㎡）
	N－S	E－W	
SW01	－	－	－
SW02	－	7	－
SW03	－	7	－
SW04	－	15	－
SW05	4.4	－	－
SW06	2.2	－	－
SW07	－	－	－
SW08	4.2	7.5	31.5
SW09	8.2	11.7	95.94
SW10	－	－	－
SW11	33.5	10.3	345.05
SW12	41.6	10	416
SW13	53.3	19	1,012.70
SW14	－	14.8	－
SW15	－	－	－
SW16	10	－	－
SW17	－	4.6	－
SW18	－	3.8	－
SW19	－	－	－
SW20	－	8.8	－
SW21	26.5	6.2	164.3
SW22	－	16	－
SW23	25.5	9.7	247.35
SW24	25.1	3.5	87.85
SW25	32.8	12.3	403.44
SW26	23.3	8.9	207.37
SW27	22	－	－
SW28	－	6.4	－
SW29	－	8.5	－
SW30	－	10.5	－
SW31	－	－	－
SW32	16.5	－	－
SW33	－	13.3	－
SW34	－	10.9	－
SW35	22	6.9	151.8
SW36	－	8.7	－

鴇尾遺跡

水田番号	径（m）		面積（㎡）
	N－S	E－W	
SW01	－	－	110.32
SW02	－	－	256.14
SW03	－	－	57.32
SW04	－	－	58.47
SW05	－	－	73.64

畑田遺跡

水田番号	径（m）		面積（㎡）
	長径	短径	
SW01	17.9	4.5	－
SW02	22.6	10.8	－
SW03	3.1	1	－
SW04	14.6	12.1	－
SW05	13.8	6.8	－
SW06	14.2	11.8	－
SW07	6.3	3.1	－
SW08	4.1	2	31.5
SW09	16	4.2	95.94
SW10	4.5	3.2	－
SW11	11.4	8.3	345.05
SW12	7.1	2.1	416
SW13	5.4	4.1	－

母智丘谷遺跡

水田番号	径（m）		面積（㎡）
	長径	短径	
SW01	15.4	5.3	81.62
SW02	5.9	2.7	15.93
SW03	7.7	3.4	26.18
SW04	10.9	6.1	66.49
SW05	10.8	8.5	91.8
SW06	31.1	9.1	283.01
SW07	4.1	2.7	11.07
SW08	5	3.3	16.5

鶴喰遺跡

水田番号	径（m）		面積（㎡）
	長径	短径	
SW01	22	11	242
SW02	10	10	100
SW03	14.2	7.5	106.5
SW04	－	－	－
SW05	11	10.7	117.7
SW06	19.6	13	254.8
SW07	12.2	10.1	123.22
SW08	15	13	195
SW09	－	－	－
SW10	15.4	15	231
SW11	21.4	8.4	179.76
SW12	－	－	－
SW13	－	－	－
SW14	－	15	225
SW15	－	15.9	252.81
SW16	21	2.5	52.5
SW17	24	3.3	79.2

第26表　中世水田跡（桜島軽石直下）一覧表

Ⅶ　高田遺跡出土弥生土器について　－中期を中心として－

加　覧　淳　一

はじめに

高田遺跡からは弥生時代に該当する土器資料が多数検出されている。これらは当地域の編年体系を構築してゆく上での貴重な事例として認識することができる。また、土器以外にも石器、石製品、木製品も出土しており、特に木製品については南部九州全体においても出土事例が乏しいだけにその資料的有用性は注目されよう。

土器について見てみると、およその資料が中期に該当するものであるが、一部には前期に該当しうる資料も極少量であるが見られ、宮崎平野部と大隈半島地域、またえびの加久藤地域との結節地ともなっている都城盆地地域における弥生土器研究の基礎資料としても重要である。

本稿では本遺跡において相当量出土している中期土器群について考察し、編年的位置の検討を行なう。その上で、同時期の宮崎平野部の資料とも比較しながら土器相の特徴を抽出してみたい(注1)。なお溝からは弥生時代後期から古墳時代該当の土器も検出されているが、ここでは検討しない。

検討

まず、土器群の時間的位置についてである。遺構内出土資料に限って見てみると、前期に該当しうる資料が極少量見られる。ＳＣ５７からは肩部に明瞭な段を形成した中型壷（421）が検出されている。口縁部など欠落している部分もあるが前期段階の資料とみてよさそうである。ただし、胴部片のみの出土であり、前期のどの段階に位置づけけることができるかは不明である。ＳＤ０９からは前期甕と捉えうる資料（692）も検出されている。

次に本遺跡において最も出土量の多い中期土器群について検討してみたい。甕について見れば、中園編年の「入来Ⅱ式」～「山ノ口Ⅰ式」に該当するものが最も多く、本遺跡出土資料の主体をなしている。これらはSA04、SA08、SA10などでまとまって出土している。

また、壷形土器（以下、壷）について見ても、入来式系と思われる下垂口縁や多条三角突帯をもつ壷が出土しており、甕との時間的齟齬は見当たらない。中園編年の入来Ⅱ式～山ノ口Ⅰ式の良好なセットが保たれているといえる。

中期後半段階から登場してくる中溝式の甕（柔畑2000ａ）やそれに併行するとされる中園編年の山ノ口Ⅱ式と思われるような資料は本遺跡の住居・土坑内からは出土していない。

従って、本遺跡の中期土器群は、中園氏の入来Ⅱ～山ノ口Ⅰ式主体、併行とみなすことができる。具体的な相対年代としては中期中葉の年代を与えておくことが現段階では無難であろう。

中期土器群の時間位置については上述のごとく捉えることができる。しかし全体の土器相を把握するにあたって注意しておかなければならないのは下城式甕など、入来式系統以外の他系統が一定量見られることである。遺構内での共伴資料を見てみても、中園編年で提示されたセット関係を維持しつつも、その中に他系統土器が少量ながらも普遍性をもって存在している様子が看取される。

具体的にはまず、ＳＡ０３の資料が挙げられる。ＳＡ０３では甕の中に下城式甕（16・17・21～24）が見られ、同遺構の甕組成の約３割を占めている。ＳＡ０３出土資料の内、確実に入来Ⅱ式と認められるものは（27）のみでかなり客体的なあり方でしかない。さらに注意すべきは入来式系統、下城式系統どちらにも属さないと見られるくの字口縁の無文甕（34）も出土していることである。他にも口縁部は入来Ⅱ式のような貼付のものであっても胴部に三角突帯を施さないもの（18、20、25など）や口縁部を先細りにさせるもの（29・30）も見られ、バリエーションに富んでいる。

これらのうち下城式甕は他の遺構（ＳＡ04、ＳＡ12など）においても入来Ⅱ式甕と共伴しており、また胎土も在地系のものが多く、ある程度普遍性を持って使用されていたことは間違いないようである。

このような入来Ⅱ式甕、下城式甕、くの字口縁無文甕の三者が共存している事例としては宮崎平野部の宮崎小学校遺跡（宇田川2002）、市位遺跡（東・久木田1998）などが挙げられ、これらの遺跡では確実に遺構内共伴と認められるものは少ないものの、三者がそれぞれ同程度の割合で出土しており、本遺跡の資料と同時期と思われる(注2)。ＳＡ０３における甕の出土状況はこれら平野部の遺跡の組成と同様であることは注目すべきである。

宮崎小学校、市位の両遺跡においては、くの字口縁無文甕が相当量出土しており、主体的な使用があったことは間違いないと思われる。ただし、本遺跡においては、ＳＡ０３で検出された（34）以外くの字口縁無文甕と認めうる資料はなく、これは搬入された可能性もある。本遺跡においては入来Ⅱ式甕、下城式甕の二者が主体的に用いられていたようである。

他に特徴的なものとして、大甕の口縁部下に刻目突帯を施すもの（61、376など）が出土している。このタイプのものは先の宮崎小学校遺跡、市位遺跡でも検出されている。鹿児島県地方における大甕には多条三角突帯やタガ状突帯が付されるものが多く、刻目を施すものは宮崎県地方にみられる特徴として理解できる。

壷の中にも頸部や胴部に刻目突帯を施すものが見られ（119、214、270、330など）、これもやはり宮崎小学校、市位で出土している。尚且つ、管見では鹿児島県地域での出土事例を知らない。これも宮崎県地方においてのみ見られる特徴として理解してよいと思われる。

宮崎平野部の資料と本遺跡においては下城式甕が一定量出土していることは先に述べた。中期前半段階の下城式甕に伴うとされる器種として重弧文壷が挙げられる（坪根・服部2004）が、このタイプは高田遺跡からは出土していない。宮崎小学校、市位など宮崎平野部では下垂口縁壷主体の中、破片ではあるが一定量出土が見られる(注3)。

また重弧文壷同様、下城式系統と思われる鋤先口縁壷（坪根・服部　前掲）も本遺跡からは出土していない。このタイプも少数ではあるが宮崎小学校、市位の両遺跡で出土している。

高田遺跡から出土している壷は入来式系統の下垂口縁をもつ壷が主体を占め、圧倒的である。宮崎平野部における壷とは異なった組成を示しているといえる。本遺跡資料に後続すると思われる池ノ友遺跡（乗畑2000）、や向原第１遺跡（乗畑1990）の資料も山ノ口式系の壷が卓越しており（乗畑2000a）、都城盆地では中期に一貫して南部九州系の壷主体であったことも想定できる。

ＳＣ63からは頸部直下に刻目突帯を施す甕（430）が検出されている。一見すると中溝式甕（乗畑2000ａ）のように見ることもできるが、典型的な中溝式甕とは口縁部のつくりに違いが見られ、貼付口縁を施している。現在のところ、同じ都城盆地内の大浦遺跡（米澤1997）に類例がみられ、同遺跡からは山ノ口Ⅱ式甕も出土している。乗畑光博氏はこの大浦遺跡資料を中溝式と山ノ口Ⅱ式との折衷資料として捉えている（乗畑2000ｂ）。ＳＣ６３の資料も同じ脈絡で考えることもできるが、共伴している資料が他の遺構で検出されているものと大差ないことを考慮すると、時期差はあまり想定できない。

なお、ＳＣ６３からは口縁部直下に刻目突帯をめぐらす鉢(？)形土器も出土している。これについては管見で類例を知らず、位置付けが困難である。

また、SA05からは凹線文壷（80）が検出されている。他の土器との共伴が乏しく確言はできないが、SA05が花弁状を呈する住居であることを考慮しておくと、これまで検討してきたものよりも時間的に後出するものと考えている。

乗畑氏の編年では、都城盆地における中溝式甕の成立は本池遺跡B区（重山・東1996）資料に求められるとしており、それに続くものとして池ノ友遺跡SA6、中大五郎第１遺跡（重山・東1996）SL1の資料を挙げている（乗畑2000a）。少なくとも、本遺跡出土資料は大半が中溝式甕出現以前のものであることは間違いなく、これまで不明であった該期の様相を補完するものである。そしてこれらは宮崎小学校、市位などの資料と時間的に併行している可能性が濃厚である。

また、中園氏は編年の中で宮崎地方における入来式土器様式から中溝式土器様式への交代現象を指摘し

ており、中期後半段階には入来式様式圏は縮小するとする（中園1997）。その背景には下城式土器群の動きを考慮しており、筆者も念頭に置いている。ただし、本県から出土する下城式は前期段階からも見られるものであり、中期段階においても一貫して見られる。これらは大分地方における実態との比較が必要なことなど課題も多い。

とにかく入来式に伴う下城式やその系統と思われる土器、またくの字口縁無文甕は宮崎県内において無視できない量が出土しており、中期前葉の様相が曖昧ではあるが中溝式甕出現前のある時期に複数系統の甕が共存していたことが想定できる。ただ、入来Ⅱ式自体は宮崎平野部において前原北遺跡（北郷1988）などのように他系統土器を伴わず、単純出土している遺跡もある。他系統土器と供出する段階と時間的に分離できるかどうか、もしくは複数系統の入り具合に地域差があるのか、今後の検討課題といえる。

これまで検討してきたように、高田遺跡と宮崎平野部の資料との間には甕・壷の組成において若干違いもみられた。都城盆地における宮崎平野部と鹿児島県地方（大隅半島）との土器相を混交したような在り方は両地域のクロスデーティングにも寄与するものと考えられ、今後とも注意しておくべきであろう。

注釈

1. 本稿では中園聡氏による南部九州地域の弥生土器編年（中園1997、本文中では「中園編年」とする）を基軸として論を進めており、氏の編年観に立脚した上での言及が多いことを予め断っておく。
2. 乗畑光博氏は中溝式の整理・編年を行なう中で、中溝式以前の資料にも言及している。それによれば、堂地東遺跡（長津1985）ＳＡ２に先行するものとして塚原遺跡Ｆ地点（新名1997）や市位遺跡ＳＡ7の資料を挙げている（乗畑2000ａｐ,97）。
3. 完形に近い資料として宮崎市茶園遺跡採集例（石川1985）が知られている。

【引用・参考文献】

石川悦雄　1984「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描－（Mk.Ⅱ）」『宮崎考古』9　宮崎考古学会

石川悦雄　1985「日向考古資料Ⅰ」『宮崎県総合博物館研究紀要』10　宮崎県総合博物館

宇田川美和　2002『宮崎小学校遺跡』宮崎市文化財調査報告書第53集　宮崎市教育委員会

乗畑光博　2000ａ「中溝式系土器の検討－宮崎県における弥生時代中期後半から後期前半にかけての土器編年にむけて－」『古文化談叢』45　九州古文化研究会

乗畑光博　2000ｂ「折衷土器二例」『大河』7　大河同人

重山郁子・東憲章　1996『中大五郎第一遺跡』都城市文化財調査報告書第34集　都城市教育委員会

坪根伸也・服部真和　2004「東南部九州の弥生中期中葉から後期前葉」『弥生中期土器の併行関係　第53回埋蔵文化財研究集会発表要旨集』　埋蔵文化財研究会

中園聡　1986「弥生土器について」『鹿児島大学郡元団地遺跡（J・7地点）』鹿児島大学理学部　鹿児島大学法文学部考古学研究室

中園聡　1996「弥生時代中期土器様式の併行関係－須玖Ⅱ式期の九州・瀬戸内－」『史淵』133　九州大学文学部

中園聡　1997「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』9　人類史研究会

長津宗重　1985『堂地東遺跡』宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集　宮崎県教育委員会

新名祐史　1997『塚原遺跡　東原E・F地点』国富町文化財資料第７集　宮崎県東諸県郡国富町教育委員会

東憲章・久木田浩子　1998『市位遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第10集　宮崎県埋蔵文化財センター

北郷泰道　1988『前原北遺跡』宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第４集　宮崎県教育委員会

米澤英昭　1997『大浦遺跡』　都城市文化財調査報告書第37集　都城市教育委員会

図　　版

図版１

遺　跡　遠　景（南より）

遺　跡　遠　景（北西より）

SA01完掘状況（南から）

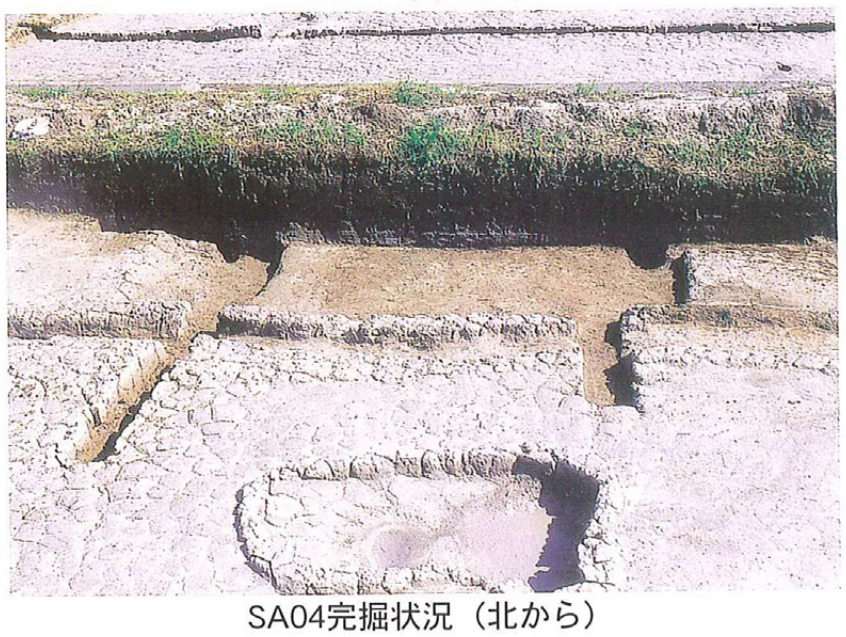
SA02完掘状況（南から）

SA03完掘状況（北から）

SA03遺物出土状況

SA03内出土遺物

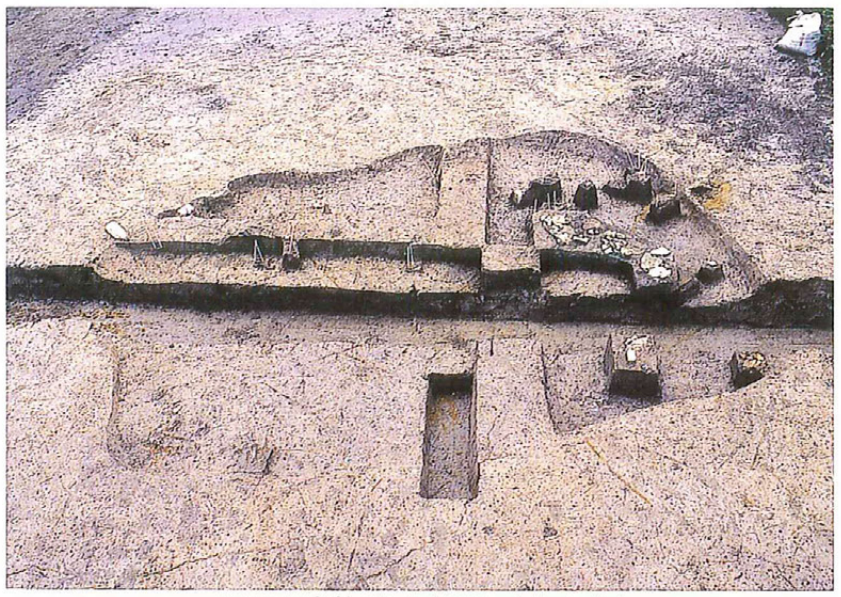
SA03内出土遺物



SA04完掘状況（北から）

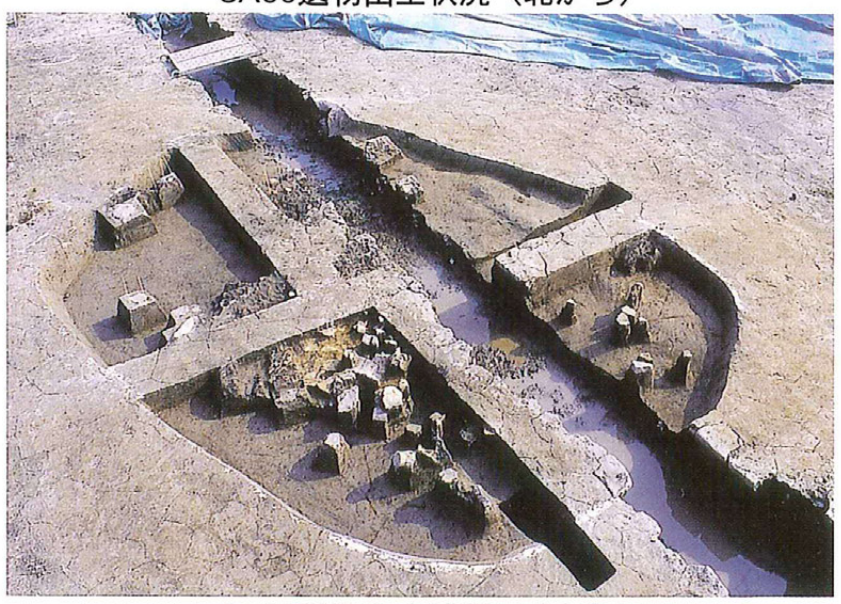
SA05完掘状況（北西から）

図版３



SA06遺物出土状況（北から）

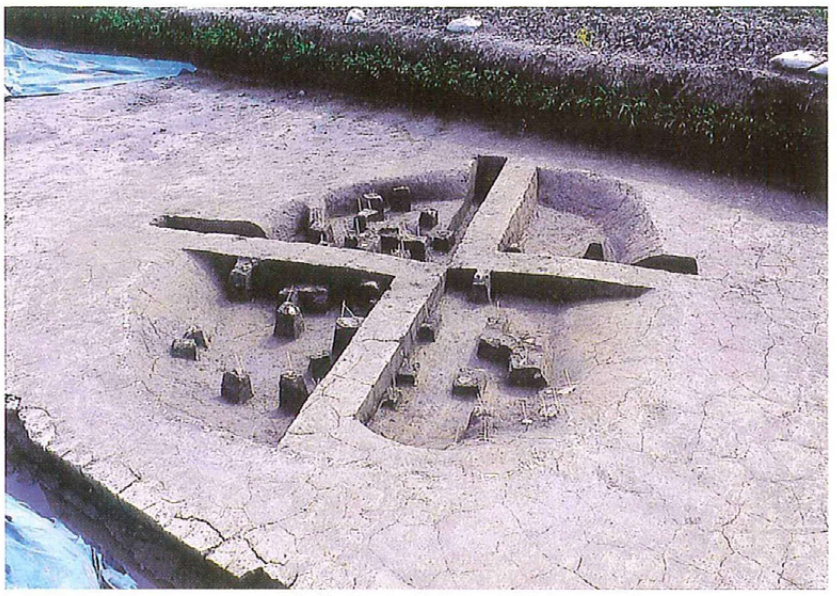
SA06内出土遺物



SA07遺物出土状況（北から）

SA07完掘状況（北から）

SA07内出土遺物



SA08遺物出土状況（北東から）

SA08内出土状況

SA08内出土遺物

SA09完掘状況（北から）

SA10完掘状況（西から）

SA11遺物出土状況（南から）

SA11完掘状況（南から）

SA12完掘状況（北から）

SA12遺物出土状況

SA12内出土遺物

SA14完掘状況（西から）